カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

御降誕と新年にあたり

福岡教区の愛する聖職者、信者、求道者のみなさまに、わが主の御降誕と新年のおよろこびを申し上げます。

過ぎ去ったこの一年間、みなさまがそれぞれの地位と境遇において、教区のため、そしてカトリック教会のため、物質的にも霊的にも多大の貢献をして下さったことに対し、またとくに私の公会議出席に際し心からのお祈とぎせいをおささげ下さいましたことを、あつく御礼申し上げます。

「神には光栄、地には善意の人びとに平安」

この一年間、教会には実に多くの特筆さるべき出来事がつぎつぎと起って参りました。キリストの代理者、教会の頭であられる教皇さまの御身辺のことだけをとり上げましても、パレスチナ聖地御巡礼、回勅エックレジアム・スアムの発布、バチカン公会議第三会期の開催、三つの教令の発布、そしてまた記憶に新しいボンベイ聖体大会御出席など、世界中の耳目をそばだたせるものばかりであります。

これらは教会がいかに世界の歩みと密接にかかわり合い、これに働きかけ、その永遠の救いをはかっているか、その一端を明らかに示すものであります。

しかし教会に属するすべての信者も、教皇さまのすばらしい模範を自分の生活のうちに生かさねばなりません。

思いみますに、今日ほど教会の頭と信者とが親しく一致している時代は、めずらしいのではないでしょうか。慈父なる教皇のお心が敏感にわれら子供の心につたわり、ふかい信頼をよび起し、強いはげましとなっております。キリストさまが「私があなたたちを愛したように、あなたたちも相愛しなさい」と仰せられたおことばが、文字通りに実現しているかのようであります。

教会の権威に対する愛にみちた従順、これが私達のキリスト教的生活の支えであり、自分の周りの人びとにキリストを与えるための第一条件であり、この従順がなければ私達の信仰は死んだも同様であります。

新たに迎えるこの一年間、私達は公会議によって刷新されゆく教会の指導に協力、公会議の決議を忠実に遵守し、ふかい信仰と愛を養うように努めましょう。

新たに「教会の母」とよばれ給うマリアさまが、慈母の心からみなさまと御家族の上にゆたかなおめぐみを下し給うようお祈り申し上げ、私の祝福をおくります。

一九六五年元日
ドミニコ深堀　仙石衛門

世の光

計算違い

私は数学が苦手である。にも拘らず、最近みようなことを考えるようになった。1＋1＝2になるという原理を否定するわけではないが、1＋1＝3にも5にもなるように思えたり、それかといえば反対に、3＋1も5＋1も結局は1になるように思えたりする。たし算、引き算すらろくにできない自分が何たることぞと叱ってはみても、何か起るたびにこの確信が強くなっていくようで、まことにもってみようである。

私はこんな話を聞いている。

ある所にある人がいた。かれは一つの大きな計画をたてた。計画は大きかったが実行にあたってはひと目にもつかぬほどの少さなことをした。かれは自分の最も親しい友に、まずその協力を求めた。秘密をうちあけられた友はびっくりした。自分のようなものでもそんな大きな仕事に役立つのだろうかと気にはなったが、かれは「善意さえあればなんでもできる」といってくれたし、「いや奇跡さえもむずかしいものではない」ともいってくれたので、ともかくみ摂理に信頼しようと心に決め、素直に承知した。かれはこうして第一の協力者をえるとともに、うまずたゆまず第二、第三の協力者を求め回った。「ご用心なさい、あなたは反抗のしるしにたてられるかもしれない」とその身を案じながらも協力を約したものもいた。たとえ反抗のしるしに立てられたにしても、それが何であろう。かれは乞食のように人々の善意を求めてさまよった。予想通り善意は善意を生んでいった。数にすればわずかだったかも知れない。しかもかれらのほとんどが教育のない人間的に欠点だらけのものだった。

私には不思議でならない。大きなことをするとはいえ、自分ひとりの力で充分できるはずのかれがなぜ他人の協力を求めなければならなかったのか？しかも協力者のほとんどがえりもえって弱い人たちだったとは？彼は全能の神であり、その独り子であったのに。

救世の大事業を完成するため、まずマリアの承諾を願われ、十二人の弟子達を召され、その素直さと善意だけをたよりにかれらの協力を求められたのだ。そして世の終りまで続くべき教会を創立して、すべてをかれらの手に託しながら大事業の完成をはかろうとなさったのである。

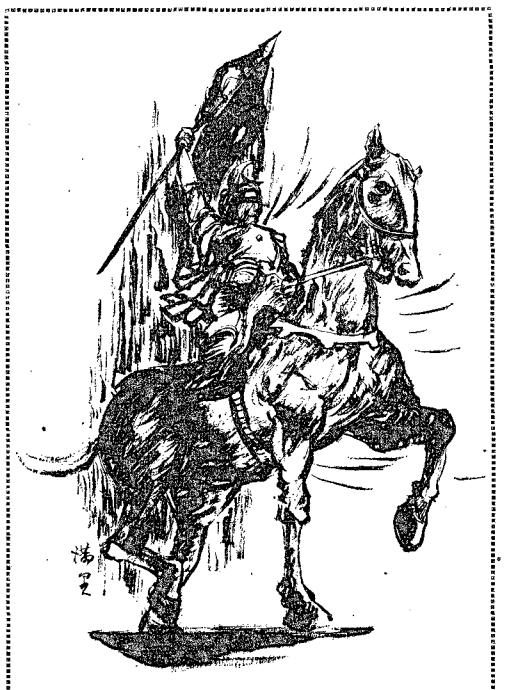
どうして？何故？神はご自分ひとりで救世がおできになったはずなのに。ひとりですれば、気にいらぬならやめようとどうしようと勝手ではあるし、さしで口をはさむ者もいまい。だが、共同でということになれば、人それぞれに違った意見も出るだろうし、反対者が出ることも当然予想される。そうなればどうしても人の生活や環境を理解し、その心をまとめていかねばならない。なにかと気苦労が多い。いずれは犠牲と自己放棄を背負いこまねばならないのに、なぜ最愛のおん独り子を手ばなしてまでこのように面倒な協力という形でそれを望まれたのだろう。それだけならまだしも、わずか三十年のご生涯だけで逃げるようにご自分の姿をかくしてしまわれ、あとは弱さと欠点の人々に、もて余すほどの重大使命を託されたのだ。信仰の目をもってみればなる程、ご聖体の中に生き、聖霊によって教会に命を支え続けて下さるとはいえ、不死身の姿で世の終りまで私達と一緒に生きて下さってもよかったではないか。

あれこれ考えていると、結局私は最初にのべたような数学の定理にもどってしまうのである。考え方はいろいろあろう。イエズス様のみ心を、私のようにいたずらにせんさくしてはいけないのかも知れない。でもペトロを忍耐されたイエズス様は、今も私の考えを頬笑みながらきいて下さっていると信頼しながら、私は自分の頭にちらほらするとてつもない数学を解こうとしているのである。

一人でやればさやしくできることでも、協力者を求めて共同でするなら、たとえ困難な道であっても、二倍にも三倍にも仕事が出来るということを教えられたのではなかろうか。ちっぽけなものしかもたないにしても、五つのパンが奇跡を生んだように、十二人の弟子が全世界の人々の飢えをみたしたという事実をみても5＋2が五千になり一万にもなり得たではないか。反対に五千は一になり、世界が協力すれば、また一つになりうる。

私はイエズス様のご生涯をこのような定理で解こうとしているのである。そしてまた、おこがましくも、この定理を、日常の生活のできごとのうちにも応用しようとさえ思っているのである。

（鵜野泰年）



希望と前進の年　1965—

三教令の発布
ボンベイへ平和の巡礼

九月一四日聖ペトロ大聖堂で再開された第二バチカン公会議の第三会期は、一一月二一日、教会の性質、東方教会、キリスト教一致に関する三議案の決定、パウロ六世教皇によるこれら決定の承認宣言、教皇演説をもって幕をとじた。

教皇はこの演説のなかで教父たちの苦労多い働きに感謝し、聖マリアを「教会の母」と宣言され、この称号を通して「神の御母」が全キリスト信者から一そう尊敬され、祈願されるよう希望すると述べられた。

なおつぎの第四会期で公会議は最後的に終結するが、その時期は発表されていない。

○　○　○　○

教皇は一二月四日第三八回聖体大会に出席のためインドのボンベイにお着きになり、四日間の滞在中、非キリスト教の代表者たちと会見されたほか低開発国の貧困援助、世界平和の訴えをなされ、五日午後ローマにお帰りになった。

教皇は往路レバノンのベイルート空港に立ちより、同国大統領ら政府高官、諸宗教の重立った代表者、民衆一万をこえる人びとの出迎と歓迎をうけられた。

ボンベイのサンタ・クルス空港では、出迎えの人びとに「私は平和、喜び、静けさ、愛の巡礼者としてここに来た。インド国民とアジアのすべての国、また全世界の国々にあいさつを送る」とのメッセージを発表された。

翌三日はヒンズー、回教、仏教、シーク、ジャイナ、ゾロアスターなど非キリスト教徒の代表者とお会いになり、種々の民族、文化、信仰をもつ全人類の一致をよびかけられた。

四日金曜日聖体大会々場で四大陸の六人の司教を叙階し、また記者会見で後進諸国の貧困者を援助するため、軍事費の一部を割くように世界の国々に訴えられた。

謹賀新年

福岡司教　深堀　仙右衛門

福岡邦人司祭地区
司教館　深堀　敏
浦口　均
鵜野泰年
大名町教会　平田正喜
牧山　聡
浦　俊雄
浄水通教会　平田惣五郎
地行町教会　黒川　博
簾島教会　堤　敏雄
西新町教会　平田　勇
大楠教会　青木　功
牧山軍光
棚町正刀
ソラノ
シーギスベルト
山東龍雄
吉塚教会　ショーツ
マクドナルド
ウィリアムズ
ケレン
箱崎教会　ベリボー
東田島教会　グリフィン
二日市教会　堤　要吉
古賀教会　ホフマン
ロビタイ
今村教会　糸永　一
糸永武男
小郡教会　岩永義人
本郷教会　山田成章
久留米教会　牧山藤房
平田　敬
牧山田一
大牟田教会　畠山七郎
吉野教会　山川辰幸
呼子教会　畑田富雄
馬渡島教会　田川清美
大神学校　ラブラント
ツルデル
ラベル
イエル
岩村清太
三村邦明
高木善行
山内清海
川口康頼
岩永　薫
村岡隆義
パウロ会　プラッサ
永谷　計
広石教会　ベルトラン
門司教会　モーゼ
小倉教会　青木　保

北九州パリ外国宣教会地区
小神学校　キニュー
平山高明
ガイヤール
バスチ
ラバルタ
ボネ
ペンクレッシュ
デシャンブー
バイヨ
トクブフ
ベルトラン
八王寺教会　ドルエ
ヴェイヨン
ルリエ
パスカレル
ドレル
ベニエ
ボンカズ
デュノワイエ
伊東誠二
三木義明
ラグレヴ
ボア
湯川教会
戸畑教会

佐賀ミラノ外国宣教会地区
佐賀教会　ガッザルディ
多久教会　アックワビバ
唐津教会　サルヴィ
鳥栖教会　テンペリニ
伊万里教会　サルデイ
鹿島教会　ルッチ
武雄教会　マグリン

熊本コロンバン外国宣教会地区
手取教会　ブレンチフィルド
マッグワイル
コーネリー
健軍教会　シーヒー
ユーカンフー
島崎教会　ギャラハ
帯山教会　ドイル
カーレー
八代教会　グリフィン
人吉教会　ドヴァイン
玉名教会　マッコネル
隈府教会　ドノフー
荒尾教会　オマーラー
水俣教会　ゴールマン
本渡教会　ライル
大江教会　スカルリー
崎津教会　ブレスリン
コール
琵琶崎修院付　ブルク
少年の町付　ノーリス

一月

一日（金）ご降誕後の八日目　元日

ご誕生から八日目、幼きイエズスはユデヤの宗教戒律により割礼をうけられた。割礼は、ユデヤ人と神との契約のしるしで、イエズスはまさにこの契約を完成して、神への形式的従属でなく、心をつくし精神をつくしての従順を教えるためにこられたのである。

三日（日）イエズスのみ名の祝日

イエズスとは「神救い給う」という意味。今日イエズスのみ名をあがめるのは、救い主としてのイエズスを賛美することである。

六日（水）わが主ご公現の祝日

ユデヤ以外の国から王たちがイエズスを礼拝にきたことは、二つの教（天啓）をふくんでいる。救いは旧約の選民であったユデヤ人にかぎらず、これらは全人類が神によって救われるということ（救いの普遍性）、またキリストは全人類の王であられるということである。「みよ、いと高き主は来る。その手中に王権と主催あり」。

七日（木）教区司祭月例集会

一〇日（日）聖家族の祝日

ナザレトの聖家族は神の家、人となられた神がそこに住っておられる。キリスト信者の家庭も神の家、神の愛がそこに留まっている。天国は神の永遠の家、いつかわれわれがこの神のまわりに相集るであろう。

一三日（水）わが主の洗礼の記念

キリストが外面でわれわれとひとしいものになり給うたから、いまからはわれわれが内面的に主に似たものとなり、御父から「あなたは私がよろこびとする愛子である」といわれるようになりたい。

一五日（金）　成人の日

福岡カリタス修道院と園舎祝別式

一七日（日）ご公現第二の主日

主はカナではじめて奇跡を行なわれた。イエズスの奇跡は、ご自分が神であることを「公けに現わす」ことであり、さらには旧約の預言者が告げた「救いの時」がついに到来したことを公布するものである。

一八日（月）—二五日（月）教会一致のための祈禱週間

今年のモットーは「互いに重荷を負い合いなさい」である。キリストの教会の分裂は悲しむべき事実であり、真の信仰者の心の傷であり、重荷である。われわれは神よりの信仰に従って生活し、愛をもって祈り扶け合わなければならない。

二四日（日）ご公現第三の主日

キリストはユデヤのらい病人をいやし、ローマ人である百夫長のしもべをいやされた。まことに主はすべての人の救い主であられる。われわれも相手を差別せず、苦しんでいる者を力のかぎり助けねばならない。

二五日（月）使徒聖パウロ改心の記念日

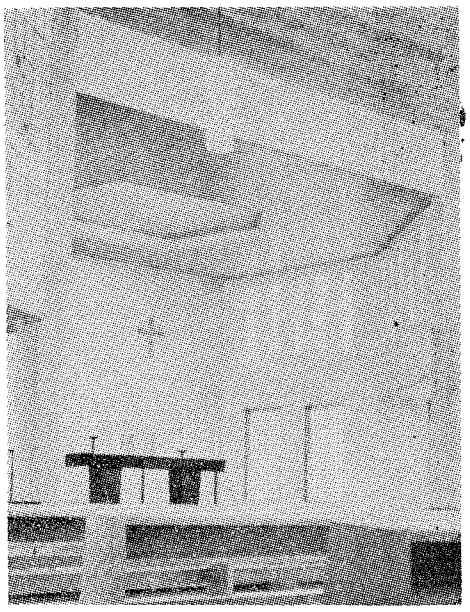
二九日（金）サレジオの聖フランシスコ司教博士証聖者

三一日（日）ご公現第四の主日

人が集って生活する所あらしが起るのはまれでない。感情のたかぶり、言葉の投げ合い、無気味な暗、これをしずめる唯一の手段は愛の反省である。

高宮教会聖別

海外からの援助に感謝



一二月一三日福岡市高宮宮下町の新築教会が深堀司教の手によっておごそかに聖別され、聖ボナヴェンツーラに奉献された。

九時一〇分シュナイダー師（フランシスコ会日本総代理）、エンマヌエル師（日本フルダ管区長）ソラノ師（教会主任）の先導で玄関入口前に進んだ司教は、外部にグレゴリオ聖水をそそぎ十字架を先頭に入堂、内部と祭壇を浄めたあと荘厳な感謝の祈のうちに建物を神の宮居として奉献した。

つづいて式は第二部にうつり、司教は聖職者、信者と共に行列して安置所から聖遺骨（使徒聖トマと日本二六聖人のひとり聖ヨハネ後藤の遺骨）を奉迎、撒香してこれを祭壇上の墳墓におさめた。

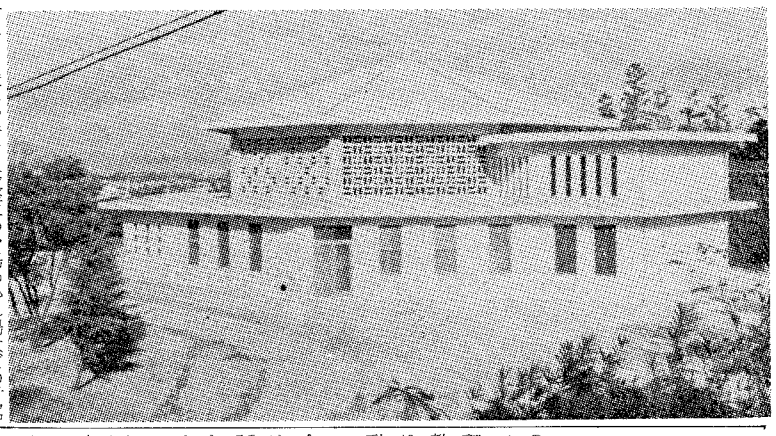
このあといよいよ第三部で聖堂と祭壇の聖別が行なわれたが、司教は福音側から、壁にはめこまれている一二箇の十字架おのおのに聖香油をぬり、聖別の言葉をとなえ、三度づつ撒香して聖堂を一巡した。ついで大理石の祭壇上面の五カ所を同じく聖香油をもって聖別、さらに五カ所に香の粒を入れて火をともし、一〇時三〇分聖別の式を終えた。

すぐこのあと献堂の荘厳ミサが立てられたが、山東師の指揮で全信者がデ・アンゼリスを斉唱、信者の代表が奉献の祈をとなえた。ミサ後聖堂内で落成式を行ない深堀司教がお祝いのことばを述べソラノ師が教会建設のため長いあいだ協力した信者たち、援助の手をさしのべたドイツの多くの信者たちに感謝の意をひれきし、設計に当った菅種雄氏、施工の松尾組に感謝状がおくられた。

新高宮教会は正八角形の建物（聖所と信者席＝八九坪）を中心に小聖堂（ここに聖体を安置）事務室二つ、湯わかし場などの付属建物（七四坪）があり、十字架の道行の浮き彫り像は米国シンシナチの修道院よりの寄贈。

フランシスコ会がこの地の司牧を委託されたのは昭和二六年、信者数は三四五名（昨年六月現在）

（写真上は高宮教会内部下は全景）



聖体拝領前の断食に関する規則変更

教皇パウロ六世聖下は一九六四年一一月二一日付をもって、聖体拝領前の断食をこれまでの「固い食物は三時間前まで食することができる」となっていたものを「一時間前まで」に短縮されました。なお、新しい規則は、ただちに効力を効することになっています。

一九六四年一二月二日

福岡司教

ドミニコ　深堀仙石衛門

司祭異動

【熊本地区】コロンバン会熊本地区長ダイモンド師は休暇で帰国、熊本手取主任ブレンチフィールド師が留守中代理をつとめる。なお手取教会助任にマツグワイル師とコーネリー師が着任。

祈禱の使徒会

（一月）

【一般意向】信仰一致に対する障害の克服

【布教意向】布教地における信仰一致への努力

聖体礼拝（一月）

第一日曜　サンモール会

第二日曜　大名町教会

第三日曜　門司教会

第四日曜　大牟田教会

大楠・ルルドの聖母教会誕生

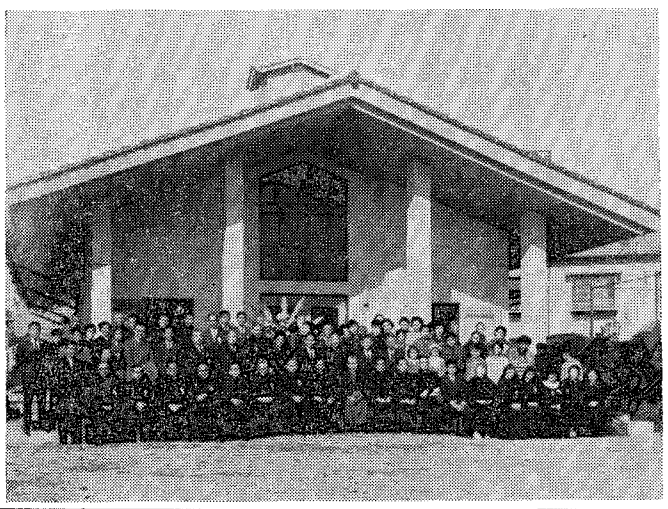
神の家は自分らの手で

高宮教会の聖別式から一週間後の一二月二〇日、同教会にもっとも近い大楠教会（福岡市下大楠町一一）の新聖堂の祝別式が、午前一〇時から深堀司教司式で挙行された。

菅種雄氏の設計をもとに昨年九月はじめから青木功師が、同教会所属の大工さん、左官さんと協力して三カ月半、降誕祭までを目標に建設を急ぎ遂に完成に至ったもの。昭和三三年八教区として独立したときから、信者が日曜日ミサにあずかる場所がなくて聖クララ幼稚園の教室を借りる有様であっただけに、この度の建築にそそいだ信者一同の熱意には並々ならぬものがあり、祝別のミサはぎせいを完ったした感激と喜びにつつまれた。なお幼稚園と合同してバザーも行なわれたが好天にめぐまれて終日にぎわった。

新聖堂は五六坪ルルドの聖母にささげられている。

（写真は大楠教会）



暖い思いやりで

各地でクリスマス運動

「貧しい人々のため、みなさまのご援助をお願いします」。一二月三日から二四日まで福岡や久留米の諸教会の信者たちが（黒崎教会には一二月二〇日に）例年通りクリスマスと歳末たすけ合い運動を行なった。

数名づつ一団となって、ビルの合間を吹きぬける師走の寒風にもめげず、気忙しく行き交う人々に訴えた。差し出す金額はわずかでも暖かく思いやりにあふれ、受ける方もありがたさが身にしみる。こうして集められた二八万七三五四円は、すでに調査ずみの被救済家庭に年越しの一助にと、聖ヴィンセンチオ・ア・パウロ会を通じて分配された。

一方教区内のカトリック諸学校でも生徒たちが率先して愛の運動を実践した。

熊本マリスト学園では、募金の一部で貧困者に衣類を「手から手へ」と届け、一部を社会福祉施設に寄付。

久留米信愛女学院では、校内と街頭で募金、津福寮や田主丸療養所の患者を慰問。

福岡海星女子学院では、衣類を持ちよって市内の貧しい施設や病人に分配。

熊本信愛女学院では、宗教部が中心になって古着集め、献金運動をなし（市に寄贈）福祉施設や病人を訪問した。

福岡双葉学園の生徒たちは、古処学園、しいのみ学園、本渡の被災家庭に衣類や菓子を送った。

八代白百合学園では、お金や衣類ま日用品を鏡町養老院など八カ所の施設におくり、各地で慰安の学芸会をひらいた。

米軍板付ベースのVFWクラブも、マキャリー師と一二月二〇日人吉の聖心愛児園の子供たち五四人をベースに招き、クリスマス・パーティをひらいた。

キリスト教文化展

歳末の大売出でにぎわう一二月一八日から二四日まで、北九州市黒崎教会主任のキリスト教文化展が黒崎井筒屋デパート八階でひらかれた。

会場には横尾龍彦氏（戸畑明治学園教諭）作の木彫の最後の晩さんを中心に、祭服、カリス、聖像、ルネッサンス期の宗教画、ゴチック建築聖堂の写真などが陳列された。

例会500回を迎えた

聖ヴインセンチオ・ア・パウロ会

（大名町協議会）

聖ヴィンセンチオ・ア・パウロ大名町協議会（以上簡単にS・V・Pと称す）の会合は五百回目を迎えた。会合が五〇〇回となったというのはS・V・Pの会員が五〇〇〇回集まったというのではない。毎週一回金曜日に例会（協議会）を開くが、その例会数五〇〇回になったということである。つまり、議事録に正式に〝第五〇〇回協議会二月一八日〟と出たのである。創立以来年数にして一一年を越すこととなる。

単なる運とか根気とかで一つの会が一〇年以上も続くものではない。実際、会が永続してゆく根拠は種々ある。しかし、ここでは、ただ、S・V・Pを継続させ、S・V・Pを維持させた力は、これを主から頂いてきた、ということと、更に、主のもとにあり教会に属する極小のこのS・V・Pはこれ迄常に母なる教会より祝福を頂いてきている、という究極の根拠だけを簡単に述べるに留める。そして五〇〇回のことどもを寸描するのは、主に対する感謝は別として、主の代理者たる会の指導者方、過去より現在まで去来した数多の先輩兄弟会員達、会を強力に援助してきた恩人方、そして最後に会員達を徳に於いて進ましめ、より堅固なキリスト者へと向わしめたS・V・Pの対象者（貧しき不幸な人々）以上の方々に対する感謝の微衷にすぎない。

一九五四年一〇月一日、大名町教会に於いてS・V・Pは呱呱の声を挙げた。深堀司教さま、平田、伊東両指導司祭御出席のもとに真に範たるキリスト者である先輩会員数名がそこに出席せられた。祈りに始まり、S・V・P創設が決議され、聖体降福式で以って終ったと略記載されている。一年三カ月前のことであった。そして確固たる礎がこの時樹立された。ノアの箱船が小さいとして、そこに収容される程の少数の信者しかいない布教国日本ではS・V・P会則の精神は生がし難い。それにも拘らず隠れた細々とした存在ではあるが存続し得た現在のS・V・Pを回顧することから、このことは断言し得る。事を始める前に主の御加護を求めて祈り、それによる主よりの祝福をお受けしようとするS・V・Pの精神を創設のこの第一回協議会は示してくれた。

S・V・Pを単に貧困者を援助するキリスト信者の奉仕の場である、とする見解は誤謬である。会員の霊的充実、向上を目的とし豊かな祝福を与えられたS・V・Pは霊的教場でもあった。内面的救済を受けた者は対象者よりも多くは会員であった。現に活動している少数会員は活動に従事中改宗し受洗のお恵を得た。過去に於いては数十名の多数志願会員が同様に神秘体のメンバーとなっていた。S・V・Pは霊的憩いの場でもある。真のキリスト教社会とは懸離れ、まだ息苦しい異教の世界を織なす日本の社会に於いては免角信者の霊魂は渇きがちである。S・V・Pは渇きを癒す鹿が求め憩う泉の中の一つの小泉であった。

直接、間接の主との関係を縦のものとするなら、横の関係も述べねばならぬ。横のものがなければS・V・Pは真の特徴を発揮できなかった。S・V・Pは更に横の貧困者と密接な関係をもつからである。福岡市の隼薬学園の毎年の沢山の衣類援助である。カトリック救済奉仕団のメリケン粉援助が途絶えて以来特に目立つ。更に歳末毎に餅の援助を数千円の金額を添えてなされ続けた。他のカトリック団体からも様々の援助があった。その中でも海を越えたオハイオ州アロイジオ協議会の金銭の送りは楽しく忘れ難い。信者の寄贈者も無論多数おられる。近年は布教委員会の働きである街頭募金の浄財も委託せられるに至った。機動力として平田指導神父さまがご自分の自動車を何時も貸与してくださる。これらの横の関係にも拘らずS・V・Pの活動は華々しくなく隠れた忘れられた存在であった。それはS・V・Pは主のもとにあり、教会に属した会だからであり、世間の、人間の前でする慈善団体ではないからである。

以上、協議会五百会を期して概略した。主が私達に代りましてS・V・Pのすべての恩人を豊かに恵み給わらんことを。

（S・V・P一会員記）

聖心の使徒

（昭和四十年一・二月合併号）

表紙　湯崎夫沙子画

新年を迎えて……小林　純一

一月の意向　教会一致を妨げるもの…粕谷　甲一

教会の統一（一月の布教の意向）……粕谷　源蔵

病める友へ　聖性……十字架のイエズス修道女会

創造主への賛歌（詩篇一〇四）……三末　次郎

写真特集　万物の賛美……黒滝　竜彦

二月の意向　努力と勇気を……粕谷　源蔵

信者の社会的責任（二月の布教の意向）……H・ブライテンアイヒナー

泥棒と時間……典礼と聖書……吉田　淳

典礼の刷新（四）典礼と聖書……吉田　淳

青少年の父聖ヨハネ・ボスコ……塩谷　政徳

人間は何に向かって生活しているのか……青山　政徳

東京六教会散歩（一）……

ポスト……

新本めぐり……

購読会員費一部　一カ月　五七円　一カ年　五七〇円

日本祈禱の使徒会発行

東京都千代田区紀尾町七

長崎純心短大教授

片岡弥吉著

長崎のキリシタン

——信者発見物語——

新書版　一六四頁

定価　一〇〇円　〒二〇円

信者発見百周年行事委員会発行

高山右近

高山右近列福運動本部刊行

新書版　一〇〇頁

定価　九〇円　〒二〇円

御注文は

福岡市浄水通三九

司教館

カトリック編集部

振替福岡四二九八一

真理のおしえ

(4) 悔悛の秘跡

I 神のもとにかえる

1 父からはなれゆく子

真理のおしえ

(1) 悔悛の秘跡はなぜ必要か

洗礼と堅信の秘跡は、われわれをまっすぐに聖なる食事の席（聖体）につれてゆく。この食事は主イエズスが自分の友のために準備し、御父の家まで帰りゆく長い旅路に必要な糧として、ご自分をお与えになるものである。

しかしその聖体のいけにえであるミサのはじめに、教会はわれわれに罪を告白するようすすめる。まず司祭が、つぎに信者たちが「これわが過ちなり、これわが大いなる過ちなり」といいながら、自分が罪びとであることを告白する。七旬節に入ってから、とくに四旬節中に母なる教会は、われわれが罪をおかした人間であり、神に立ちもどるべきものであることを思い出させる。

また教会は、神からゆるしをうけるように、洗礼と堅信でいただいためぐみを十分活用できるように、ひんぱんに告白にくることをすすめている。

神のお与えになる助け（聖寵）は全能である。われわれは信仰を洗礼によって、キリストの証人として生きる力を堅信によってうけ、御父の愛子とされたことに感激しキリストの模範に従うことを決意したものである。

ところが今、この決心はどうなっているか。

(2) 御父から遠ざかる

われわれの意志はいいものを望み、それに向って突進してゆくが、まことにもろいものである。悪魔は、われわれを誘惑しようとそのもろさのあらわれるときを、つけ狙っている。

堅信のめぐみは、天の御父に忠実に仕えるのを助けてくれるが、決してわれわれを強いることはない。神は子供が愛をもっと自発的に仕えることを望んでおられる。

洗礼のときわれわれは悪魔をすて、心をすっかり神にささげることを約束した。しかし悪魔の甘言によろめいて、神から遠ざかることがまれでない。

イエズスが教えられたあの放蕩息子と同じである。

ルカ聖福音書一五章11—17の朗読（たとえの第一部、息子の家出の場面）

この息子ははじめから不良少年でなく、家でたのしく暮し、なに一つ不自由していなかった。ではなぜ家をとび出したのか、父親の指図をうけず、気ままになんでもできる場所にゆこうと思ったからである。

罪と手をにぎる信者も、これと同じことを考え同じことをしている。天の御父をはなれ、その命令に背をむけ、いいことであろうと悪いことであろうと、自分の好きなままに行動したいのである。要するに神に従いたくなくて神からはなれ、そのおいつくしみに心を閉ちるのである。

(3) 神よりも罪をえらんだ

放蕩息子はたちまち財産を使いはたしてしまった。みじめな境遇に転落してからはどうもがいても泥沼からはい出るすべもなく、その日の食にもこと欠く有様、けがらわしい豚舎小屋で餓死をまつばかりであった。そのときかれは我にかえり、楽しかった父の家を思い出したのである。

神よりも罪をえらんだ神の子もこれと同じである。洗礼と堅信で御父から分配された豊い財産を、長くしないうちに浪費して罪に罪をかさね、あわれな日々をすごしている。神の愛子たちの住む家を捨て、ひとり罪のみにくさのうちに呻吟し、大罪の危険にさらされて霊的死の一歩前にきているのである。

もうよろこびも安らぎもなく、とめどなく放浪をつづける。自分の力ではどうにもならず、手をさしのべてくれるものもいない。このときかれは自分がとび出てきた家族と父親のやさしいまなざしを思いうかべるのである。

われらの答え

たとえわれわれが大罪をおかして、天の御父からはなれる不幸にあわなかったとしても、誰もが罪をおかしていることは事実である。われわれはみな罪びとであり、罪の子であり、泥沼に生きている。放蕩息子こそはわれわれの姿でもある。

自分の罪をふり返りみよう、罪のために心の不安と悲哀を経験したことはないか。罪をおかしたらすぐに神のもとに立返ろうとしたか。

決心＝罪の状態からぬけ出るのをおくらせないようにしよう。

2 子をゆるす父

真理のおしえ

(1) 悔い改める者をいつくしむ神

主イエズスは、放蕩息子のたとえのつづきで、罪の生活からもどってくる者を、神がどれほど愛ふかく迎えられるかを、教えておられる。

ルカ聖福音書一五章17—24の朗読

このたとえの内容をよく観察してみよう。

息子は餓死寸前になにを考えたか、息子がいないあいだ父親はなにをしていたか。遠くから息子の姿をみたときどうしたか、息子のおわびに父はどう答えたか。息子がもしも自分の過ちをみとめなかったら、父はそれでもよろこんでくれただろうか。

放蕩息子それはわれわれである。父は子が罪にさまよっているときでも、子を愛することを止めない。子のあわれさを一時も忘れず、かれがもどってくるのを待ち、その日を準備する。

(2) 神は罪人をさがしにゆかれる

主は、失った羊のたとえのなかで、神が罪びとの立返りを待ち給うばかりか、さがしにゆかれると教えられた。

ルカ聖福音書一五章3—7の朗読

いまわれわれが罪の道に迷っていたら、神はどのようにさがしにこられるであろうか。ダヴィド王が罪をおかしたときに預言者ナタンをつかわして、かれを正道にもどされたように、われわれの良心を通じてその罪を教え、長上や司祭に忠告させ、痛悔をすすめて下さる。

(3) 神は御子をつかわしになった

主は「人の子は見失ったものをたずねて救うために来た」（ルカ一九の10）また「義人でなく罪人を招くために私は来た」（マルコ二の17）とおおせられた。

イエズスは散らされた羊を集め失った羊をさがして救い、羊にいのちを与えるよい牧者である。

また主は羊小屋の門であって、そこを通って入るものは救われるのである（ヨハネ一〇の9—16）

罪びとの不従順をつぐなうため、主は御父に対する従順と人々への愛を極までおし進め、十字架の上に罪びとの身代りとなられた。

ご死去とご復活をもって人類の罪をほろぼし給うたが、そのご復活の夜、主は罪をゆるし、罪びとを神の子のいのちに復活させる特別の権能を、使徒たちにさずけられた。

「聖霊をうけよ、あなたたちが罪をゆるす人にはその罪がゆるされ、あなたたちが罪をゆるさない人はゆるされない」（ヨハネ二〇の23）。これが悔悛の秘跡の制定である。

われらの答え

神は聖そのもの、正義そのものであられるが、罪を悔い改めるものに対してはあわれみふかい父であられる。われわれは限りない愛のお心に感謝しつつ、信頼をもって神のもとにかえってゆくことができる。そのためには罪からはなれ、きっぱりと悪魔をすてねばならない。告白場という門をくぐって羊小屋に入ろう、そうすればよい牧者は進みよって、われわれをその腕にかかえ上げられるであろう。

決心＝罪をおかしたらすぐ信頼心をもって告白場に入ろう。

3 神への復帰

真理のおしえ

(1) 神にもどる経過

これまでにわれわれは放蕩息子のたとえを通じて、神からはなれていったものが、再び神のもとに立返ってくるいきさつをみたのであるが、このたとえはまた、罪で失った神との愛のつながりをとりもどすには、どのように心を入れ変えねばならないかを教えている。

ルカ聖福音書一五章11—25の朗読

放蕩息子の心がどのように変っていったかを、順にたどってみよう。

12節—父と一緒にいたくなくて（いざない）家出の計画。父に対する背反。

13—15節—家出の実行、放蕩による生活の乱れ、罪のなかにはまりこむ。

17節—改心のきざし（改心または回心＝心のむきを変えること）

金もなく食もなくなって（神の聖寵のよび）、自分の過ちを反省。心は父親の方にむいてゆく

18—19節—自分の行動を悔み、それをつぐない、父にわびて一切をもとの秩序にもどそう、二度と同じことをくり返えすまいと決心。心の完全な方向転換。

20節—決心を立てるだけに満足せず、家出の罪をつぐなうため、下男のひとりになる覚悟で家にかえってゆく。

21節—おわび（告白）。家出前の思い上った要求とは正反対の態度。

従って罪をつぐない、父親の愛をとりもどすために放蕩息子は、

1、自分の罪をありのままにみとめ

2、その過ちを悔み

3、もう二度とおかすまいと決心

4、それをつぐなう手段を考え

5、罪を白状した

(2) 神にもどるためにもっとも重要なこと

放蕩息子がようやく家にかえりついて、おわびをいってゆるしを願おうとするまえに、すでに父親は両手をひろげてかれをかかえ上げ、なにもかもゆるしたという態度を示した。

一体どうしてだろう。

かれが自分から立返ってきたことが、すでにおわびの証拠であり罪を悔んでいることのしるしだったからである。

もし放蕩息子が、出かけたときと同じ思い上った態度でかえってきたのならば、父はもちろん息子を家に入れるはずはなく、ゆるすことがかえって悪結果を生じたであろう。

罪のゆるしをつけるためにもっとも重要なこと、それは過ちから心をひるがえすことである（ファリザイ人と税吏のたとえ、ルカ一八の9—14参照）。

(3) 放蕩息子の改心にみならう

神に背をむけて出ていったわれわれ神の子は、まじめな告白によって平和な家にもどってくることができる。

罪のゆるしをつけるにはどうしなければならないか。まずおかした罪をそっちょくにみとめて、それを心から悔むこと、つぎに自分の悪いところを直し、罪をつぐなうよう全力をつくすと決意すること、司祭に罪を告白することである。

放蕩息子の改心でもっとも主要であった点はどれであるか。それはかれが心から罪を悔んだこと、すなわち心を入れ変えたことである。

だから告白場に近づく信者も、まず心から罪を痛悔しなければならない。痛悔とは悪魔からはなれて、神のもとにかえるという決意である。

われらの答え

われわれが告白にゆくとき放蕩息子のことを思い出そう。罪からはなれ告白で天の御父のもとにかえってゆけるために、毎日、夕の祈で罪を痛悔する習慣をつけよう

罪をおかしたときは、すぐ天の御父にむかって、「私はあなたに背いて罪をおかしました。もう二度といたしません。おゆるし下さい」と祈ろう。

決心＝たびたび痛悔の祈を心からとなえる習慣をつけよう。

キリスト教的象徴とその意味

キリストの組合せ文字

唯一の神に対する信仰とキリストが神であるとの信仰が、キリスト信者たることの最大の特徴である。「主イエズスにおいて」とか「神なるキリストにおいて」などの墓碑銘はごく初期のカタコンブに見られる。

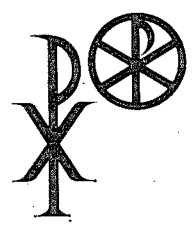
救い主の御名は組合せ文字によって示され、ギリシャ語のイエズスとキリストの二語の最初の字、即ちIとXとからなるものは非常に古くからある。

同じく古いものにIHCがあるが、これはギリシャ語のイエズスの最初の三文字からできたもの、IHCはあとでIHSと間違って書かれるようになったが、これはラテン語のIesus Hominum Salvator（人類の救い主イエズス・キリスト）の略字であると、うまく解釈された。

この解釈は、一二世紀に聖ベルナルドがイエズスの御名の信心をひろめて以来、ひろく知られるようになったが、聖イグナチオはこれを自分の創立したイエズス会の紋章に採用した。

X（キ）とP（ロ）

この二つはギリシャ語のキリストの最初の二文字である。図のような組合せは、救い主の聖名を示す。この文字のデザインが一般に用いられるようになったのは、ローマの大迫害が終った三一三年以後である。



この年の前年、ガリアの将コンスタンチヌス（のちの大帝）はローマ近郊チベル河畔での戦争の前、光りかがやく十字架を見、その下に「汝、この旗印をもって勝つべし」としるしてあった。かれはXとPの組合せ文字を軍旗にぬいつけさせて戦に臨み、決定的な勝利をえたのであった。キリスト教が公認の宗教となり、カタコンブの隠れ家から解放されたのは、それから間もなくのことである。

文字をかこむ円は世界を示す。

アルファとオメガ

ギリシャ文字のA（アルファ）とΩ（オメガ）のシンボルも、教会で非常に古くから使用されている。これはギリシャ語アルファベットの最初の字である。

象徴としての起原は、黙示録のつぎの句である「今在り、かって在り、のちに来られる主なる全能の神は、私はアルファでありオメガである、とおおせられる」（一の8）

キリストのシンボルと組合せられたアルファとオメガは、キリストが生命の源であり、最高の裁き主であり、われらの幸福の始めであると共に終りであられることを意味する。

時として、Ωだけが小文字になってAWの形になることもある。

図中のXとPは十字架形に組合わされている。

AとΩが円のなかに描かれる場合は、キリストが始めであり終りであること、最後には決定的に世に勝ち給うことを意味する。

新刊紹介

つつしんで新年のおよろこびを申し上げます

人間そのキリスト教的意義
ジャン・ムールー著　三雲夏生訳　¥六八〇
（中央出版社）

神は人々とともに
A・コルベジエ著　倉田清訳　¥三〇〇
（中央出版社）

行きて福音を述べ伝えよ
J・L・スーネンス枢機卿著　山下房三郎訳　¥六〇〇
（中央出版社）

再合同のためのキリスト教革新
ハンス・キュンク著　国嶋一則　中村友太郎共訳　¥七六〇
（エンデルレ書店）

公会議と教会一致
聖心女子大カトリック文化研究所編　¥六五〇
（理想社）

聖パウロ書院とともに
岩田屋六階の**セント・ポール・コーナー**のご利用をお願い申し上げます。

大名町　**聖パウロ書院**
岩田屋六階
セント・ポール・コーナー

典礼シリーズ

祝福と終りの福音（完）

ラプラント

イテ・ミサ・エスにつづくいくつかの祈りはすべて、司祭や信者の私的な信心からはじまったものであり、比較的に新しくミサに加えられたものです。その理由から、現在新典礼運動を推進している第二バチカン公会議は、これらの祈ほとんど全部をとり除くことに決定したので、一九六五年三月七日からは、ミサは司祭の祝福をもって終ることになります。

〝聖なる三位一体よ〟の祈

中世期はじめ以来、司祭は祝福のあと、香部屋にもどる前に、祭壇に接吻をする規定がありましたが、それは教会を退去する前の主への最後のあいさつと考えられます。しかしただ接吻するだけでなく、司祭が祈をつけ加えるようになり、第九世紀よりガリアのアミアンでとなえられていた祈が、現在使っている「聖なる三位一体よ」の祈の原形です。

この祈が第一一世紀に今の形になって、祝福のあとにとなえられ、さらに一五七〇年のローマ典書からは、祝福前にとなえることに決定されました。

祈の意味ははっきりしています。いま立てたミサが三位の神に嘉納され、人々に益するようにと、いま一度願うものです。至聖なる三位に対する尊敬から、司祭はしもべのように身をかがめて「下僕なる私の聖役をよみし給え」と祈ります。

祝福

現在ではミサの終りに長い言葉をつけて祝福を与えますが、これはガリアからはじまり、互いに影響し合った二つの定式から由来しています。

第一は、聖体拝領しない者に主禱文のあとで与えた祝福と民の上にする祈の原形である痛悔者の祝福（これについては前項参照）の祈です。中世期には拝領者の数がへり、公けの痛悔が廃止されたので、この二つの祝福は共に存在理由を失いました。

しかし信者たちは祝福をほしがったので、ミサのどこかに祝福を入れざるを得なくなり、ここに第二の定式である司教による祝福が影響してきました。

司教は、すでに第五、六世紀からミサ後教会から退去するときに「主がわれらを祝し給わんことを」と言いながら、参列者に祝福を与えたことが、典礼資料にのっています。だから聖体を拝領しない者や痛悔者に祝福を与える習慣が身についていたガリアのあちこちの司祭たちは、司教にまねてミサ後に二回を一回にして、信者を祝福するようになったのです。

この新儀式がローマ典礼中に一般化するまでには、時間がかかりました。第一五世紀に英国のサーリスブーリーや、第一七世紀のフランスのいくつかの司教座聖堂でも、ミサ後の祝福は実行されておりません。

今日でもシャルトルー修道会のミサにはなく、また祝福は、信者退出と結びついているので、イテ・ミサ・エスをとなえないミサ、例えば死者のミサでは省略されます。

祝福は義務的でなかったので、そのときとなえる文句も非常にまちまちで、第八世紀のローマの最初のオルドではごく短く「主がわれらを祝し給わんことを」となっています。

現在使用の文句はデュラン（第一二世紀の典礼学者）の著書にのっており、一方、司教祝福の長い文句は第一三世紀以後のもの。

祝福の仕方も一定しておらず、一六〇四年までは、司祭も司教同様、十字架を三つ記しながら与えることができ、それは三位一体への賛美である、と中世の典礼学者は言っています。

北欧のある地方では、四つの枢要徳をあらわして、十字架を四つ記し、方々の教会たとえばパリではカリスを両手にもって、ブールジュではパテナで、またある所では聖体布や有名な聖遺骨をもって与えておりました。

フランスのナルボンヌでは、今日の東方典礼と同じく手に十字架をもってしておりました。

御昇天のとき最後の祝福を与え給ったキリストにならい、司祭は目と手を天の方にあげます（ルカ二四の50）。

来る三月七日からはこの祝福が二四の50）。

終りの福音

終りの福音がドミニコ会のミサの一部になったのは一二五六年からで、それから徐々に他のラテン典礼にもうつってゆき、司祭は香部屋にもどる途中か、祭服をぬいだあと香部屋でとなえるようになりました。

しかし多くの教会では終りの福音は採用されずシャルトルー会や、アルメニア典礼を除くすべての東方典礼もそうです。

統一性がないのと、古くからの定式でないことのため、今度の四旬節の第一主日から終りの福音は私たちのミサから姿を消します。

終りの福音にヨハネ福音書の序文が選ばれたのは、その内容価値が非常にすぐれているからです。これが全福音の完全な要約、祝福の手段とみなされたわけです。

病人を力づけるためこれを読みきかせることがあり、ローマ定式書は今も病人のためにこれを使っています（第六節第四章二四番）

一九六〇年までは終りの福音に同時記念のミサの福音をよんでいましたが、これは聖変化を伴なわないミサ（ミサ・シッカ）の影響で中世期に起った習慣です。しかしこれは低い声で荘厳さをつけずにとなえられたので、神のことばの宣布という性格をもちません。幸い典礼の再興によりこれも廃止されました。

ミサ後の祈

ミサ後の祈には為政者のための祈があり、例えば英国では主日と祝日に、司祭は立ってミサ後に女王または王のために公けの祈を大声でとなえます。

もっとよく知られているのは教会のためのレオ一三世教皇制定の祈です。それより先の一八五八年ピオ九世教皇は教皇領のために祈をすることを命じ、一八八四年レオ一三世教皇は教会の自由を嘆願するため、教会全体にこの祈を義務づけました。一九〇四年ピオ一〇世教皇はこれに聖心に対する三つの呼禱を加え、一九三〇年教皇領は独立できたのでピオ一一世教皇はこの祈の目的を変更して、ロシアのための祈としました。

この祈はミサとなんの関係もないので、これまた来る三月から廃止されます。

種々の祝福

信者たちは、ミサでうけた聖寵のなかに外的な記しを家にもち帰ることを望んでいたので、この願望に応じて色々の習慣が生まれました。もっとも有名なのはエウロジアまたはアンチドラとよばれる祝福のパンの習慣です。

そのパンは東方典礼では、ミサに使う分をとり除いた残りのパンで聖別されてないもの、ラテン典礼ではミサのものとは別に祝福したパンのことで、これは第六世紀フランスにはじまり、中世期の教会に非常に広まり、第一三、一四世紀から徐々に消えてゆきました。余りにこれを大事にしすぎて、迷信的行為がまじってきたからです。

なおこの外に田畑の祝福がありドイツには聖水での灌水、エデッサには求道者への按手、ベルギーには真正の十字架の遺物または聖体による「季節の祝福」、またあちこちには聖体降福式もあります。

退出と感謝

中世期には、副助祭がカリスを侍者がパテナ（当時は非常に大きなもの）を香部屋に運ぶ所がありました。一五七〇年以後、読誦ミサではカリスとパテナをヴェールでおおって司祭が自分で運び、歌ミサでは司祭はなにももってゆきません。

多くの司祭は香部屋にもどる間に感謝の祈「ペネヂチテ…」をとなえはじめます。この祈は義務ではありませんが、一九六〇年以後でもミサ後の感謝と賛美の祈として教会から推奨されています。司祭はミサをささげた幸福を神に感謝します。聖心の使徒マテオ神父は感謝として別のミサに終りまで与っていました。

聖体拝領への感謝は信者の義務です。ですから聖体拝領での項であげた色々の手段を講じつつ、真心から感謝をいたしましょう。

……＋……

これをもってミサ説明の長いシリーズを終ることにします。読者のうち誰か、この信仰の妙なる玄義についてふかい認識と愛をうることができたとすれば、私の労苦は十分に報いられたと思います。

―筆者―

聖書の国 ⑲

平山高明

サマリア人（一）

私達は聖書をひらくとき、しばしばユデヤ人とサマリア人のはげしい反目対立の感情にぶつかり、驚きもし、いぶかしくさえ思うのである。

同じ血を分けた兄弟ともいえるこの二つの血族集団が、どうしてこれほどまでに、はげしい憎悪を抱き合っているのだろうか。

事実「サマリア人」という呼び名はユデヤ人にとっては、盗賊、税吏、悪魔つきとひとしく侮辱の言葉であり、異邦人よりも悪くとりあつかわれていた。

パレスチナの中部に住むこの人種的な一つのグループ、サマリア人はアブラハムの子孫、イスラエルの一二族の末裔ではないか、少くともユデヤ人と同じく唯一の神ヤーウェを拝んでいたし、聖なる律法のなかのモイゼの五書を尊びモイゼを最高の立法者とみなしていたのではないか。

それなのにかれらは神の民の一部でなく、ヤーウェを裏切る者、異端者の集団とみなされていたのである。

△　△　△

このユデヤ人とサマリア人の反感は歴史的には遠くにさか上るもので、紀元前九三五年サロモンの死後、その凡庸な後継者ロボアムの苛政に反抗して、北部の一〇部族はエロボアムのもとに結束し、イスラエル王国を建て、ユダとベンヤミンの二族に支えられたユダ王国のロボアムに対抗した。

そしてエロボアムはレビの子孫でない人を祭司の階級にあげ、シケムに首都を築き、神の掟に反して黄金の子牛を造って人民に拝ませた（列王記一二の28）。これは純粋一神教をけがす偶像崇拝であり、ヤーウェの神への甚しい冒瀆と映ったのである。これはユデヤ人にとって政治的離反よりも大きな反目の理由となった。

△　△　△

さらにサマリアのイザベラ女王はバールの神を保護し、唯一神ヤーウェを人民のあいだから駆逐しようと努めたので、ユダの預言者エリアはこれに反抗して闘った。

実にユデヤ人のサマリア人に対する不信、軽蔑の念は、人種的政治的なものというより、サマリア人のとった宗教的態度が、ユデヤ人にとっては耐えがたいヤーウェへの背信と映ったからであり、ヤーウェから選まれた民の裏切りは身近なものであるだけに、はげしい憎悪に変ったのである。

そんな訳でユデヤの人々は、アッシリアによってサマリアが滅ぼされたときにも、大して悲しみもなげきもしなかったし、むしろ内心快哉を叫んでいたのである。

それがユデヤ人のバビロン流滴後になると、相互の嫉妬は嫌悪にまでいった。

△　△　△

アッシリア王サルゴン二世は紀元前七二一年イスラエル王国を滅ぼし、そこの住民を捕りょとしてアッシリアに連れてゆき、代りに帝国の各地からかき集めた雑多な民を強制的に送りこんだ。それはさまざまな種族をかきまぜることによって、民族的な意識とその底にひそむ反抗への意志を打ちくだくためであった。

これらの移民は自分の国々の偶像も一緒にもってきたのであり、サマリアに残存したイエスラエル人はこれらの民と次第に交り合いその宗教も受け入れるようになったが、この雑種混合の民がサマリア人とよばれるようになった。

かれらはイスラエルの民独特の一神教を奉じてはいたが、一方において異民族の偶像崇拝をも合せ行なう混合宗教的傾向をおびるものとなっていた。

△　△　△

このことはバビロン帝国内に同じように捕りょとなってはいたが純粋に唯一なる神ヤーウェの契約を遵守し、多くの困難と迫害のなかに、律法を無傷に保って帰国したユダ王国の人々の目には、まことになげかわしい、軽蔑すべき出来ごととして見えたのである。

△　△　△

さらにユダの人々がペルシャ王からエルザレムの神殿再興の許可をうけて帰国したとき、サマリア人は「われわれも再建工事に協力したい。われわれはあなた達と同じくあなたたちの神を拝み、この地方にわれわれを移住させたアッスル王アッサルハッドンの時代からずっといけにえを捧げて来たからです」（エズラ四の2）と、神殿への寄付と協力を申し出たが、ゾロバベルやヨズエラは異教徒の混在するサマリアの民の参加を好まず、これを手きびしく拒絶してしまった。

このことが両者の反目を抜きさしならぬものへと追いこんだ。

（続）

新年の黙想

（一）人生は空とぶ鳥ににている。とくに新年を迎えようとするときその感を強くする。古い年は、地平線のかなた、遠い世界に姿をけした鳥のようであり、そのあとに新しい年が時間という天空にはばたいて現れてくる。

人生の飛翔を説明しうるのは、われわれの宗教のみであり、時の経過に意味を与えるのは、ただカトリックの信仰であり、これのみが新しい年を真によろこばしいものにする。

新しい一九六五年の出発点に立って、われらの目は大きく開き、精神はつよく緊張する。新しい年はこの私を一体どこにひっぱってゆこうとするのであるか。

時間はわれらにおくられた神のめぐみであり、一刻一秒がわれらの手中に託されている。今われらは年のはじめを見ているが、その終りをも見うるかは知らない。

（二）しかしこの新しい年も、神のご計画にそった生活がない限り意味をもたず、祝福されたものにならないことをわれらはよく知っている。神のご計画にそった生活とはなにか、それをわられ知っているはずであるが、忘れがち怠りがちのものである。

われらはこれから神を思い神に祈るように努めよう。朝晩の祈は申すに及ばず、その他の小さな祈できれば一日十数分の黙想、個人または団体での静修、十字架の道行の信心など。

日曜日にはただミサに与るだけでなく、熱心に意味をよく考え、積極的に愛をこめて。

度々熱心に心のうちに神を拝領しよう。この新しい三六五日も神のめぐみであり、これを神に祝せられたものとしたいからである。

ひんぱんに告白の秘跡に近づき痛悔と愛と感謝の念を高めよう。

われらはいたずらに歳を重ねるだけでなく、聖寵と信仰の知識をも増してゆくようにしたい。そのために聖書のことばを味読し、その他の霊的な書き物にも親しむように努めたい。

われらは隣人のしあわせをはかるときに、自分をもしあわせにするのである。愛のこもった言葉や行ないをもって、家庭でも仕事場でも人と交わり、物質的に霊的に援助することを心掛けたい。

霊的しあわせを人に与えるときわれらの喜びは最上のものとなる。人のために祈り、かくれたせいを積み、教会の仕事に協力し、真の信仰を伝えることを自分の最大の義務と考えよう。

（三）年頭に当り、人生とはどこからきて、どこにゆくべきものであるかをしっくりと反省しよう。

すぎゆくものと、現われくるものにふかい意味のあることを悟らせるものは、われらの信仰以外にない、主イエズスが与え給うた信仰の知識と実践によってあなたたちの日々が、真にめぐまれたものとなりますように。（カール）

古い歴史。新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　七三〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六五〇円　六八〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　三〇〇円　四三〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　D版　大型版　五五〇円　六二〇円　八五〇円
ジェム英和・和英辞典　一〇〇〇円
最新明解英和辞典　三八〇円
初級クラウン英和辞典　二五〇円
初級コンサイス英和辞典　二〇〇円
初級コンサイス和英辞典　二〇〇円
三省堂独和新辞典　七〇〇円
コンサイス独和辞典　六〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革　特装版　一、三〇〇円　二、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂　福岡出張所
住所名変更
福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

信者発見百周年と右近三五〇年祭に

教皇、マレラ枢機卿を特派

福岡では司祭叙階式

今年日本のカトリック教会は二つの意義ふかい歴史的事件を記念するが、この機会にパウロ六世教皇は、パウロ・マレラ枢機卿をご自分の特使として派遣される。

長崎での信徒発見百周年は、長い迫害のあいだ母なる教会の庇護をはなれて、孤立無援のうちに辛じて信仰を守り通してきた信者たちが、聖母マリアのお取りなしにより再び教会と邂逅した驚異的事件の記念で、式典は三月一六日から三日間長崎で行なわれる。

もう一つは戦国時代にキリスト教の信仰を守ってよく迫害に耐え信徒使徒職の手本を示し、マニラで客死したキリシタン大名ユスト高山右近の逝去三五〇年祭で、これは五月一日、二日大阪で行なわれる。

これら二大行事は、全日本カトリック教会の行事として挙行されるが、パウロ六世教皇は日本のこの祝祭のためにパウロ・マレラ枢機卿を教皇特使に任命された。

マレラ枢機卿は、現在、聖ペトロ大聖堂管理聖省長官、同大聖堂司祭長の任にあり、昨年バチカンに設置された非カトリック教徒関係事務局の局長も兼任、また第二バチカン公会議の司教と教区行政委員会長の要職にあるが、昭和八年から二四年まで駐日教皇使節として情勢困難な日本のカトリック教会のために貢献し、その後豪州駐在教皇使節、駐仏教皇庁大使をもつとめた。

マレラ特使は三月一三日羽田着来日、長崎と大阪の記念祭を司式（大阪の記念祭は五月のものとは別）、三一日離日されるが、福岡教区では一八日に司祭叙階式を司式されることになっている。

教皇特使の御日程

（一部変更もありうる）

三月一一日（木）ローマ出発コペンハーゲンへ
一二日（金）北極廻り東京へ
一三日（土）一六時三〇分羽田着
一四日（日）東京滞在
一五日（月）長崎着
一六日（火）－一七日（水）
信者発見百周年記念式典（次頁別項参照）
一八日（木）九時五〇分特急かもめで長崎駅発
一二時一二分博多駅着
一五時三〇分福岡大神学院聖堂で司祭叙階式司式－参列者にお話し
同院にお泊り
一九日（金）八時四五分特急つばめで博多駅発
一三時一九分広島駅着原爆記念堂で花束献呈、お祈り。プロテスタント、仏教、神道代表者と非公式会見
司教座聖堂で夕方のミサ－参列者にお話し
二三時五〇分広島駅発
二〇日（土）五時四二分大阪駅着ホテルで小憩、食事
一四時司教座聖堂で司祭叙階式司式
一九時信者代表らと夕食
ホテルにお泊り
二一日（日）高山右近逝去三五〇年祭（別項参照）
二三日（月）大阪星光学園でミサ
天王寺訪問
一二時明星学園で中食
一四時英知大学、百合学院訪問
学生にお話し
大阪聖ヨゼフ布教修道女会本部訪問
一六時園田から自動車で京都へ
一七時京都着－京都にお泊り
二三日（火）ノートル・ダム女子大学またはヴィアトール学園訪問、または京都遊覧
一二時中食
一五時奈良へ出発
一七時名古屋着－同市にお泊り
二四日（水）九時司教座聖堂でミサ－参列者にお話し
一二時中食
一五時名古屋発
一六時三〇分東京着
二五日（木）東京大司教区、横浜浦和両教区での日程は未定
三一日（水）離日

公会議第四会期 九月一四日開く

パウロ六世教皇は、第二バチカン公会議第四会期を、今年九月一四日（聖十字架称賛の祝日）に開会する旨決定された。

高山右近三五〇年祭

三月二一日、大阪と高槻で

大阪司教区は、教皇特使マレラ枢機卿を迎えての高山右近逝去三五〇周年記念祭プログラムを次のように発表した。

行事一　三月二一日（日）
大阪カテドラル聖マリア大聖堂にて
一、説教　田口大阪司教　午前九時三〇分
一、堂本印象画伯筆「高山右近」および「細川ガラシア夫人」の絵の除幕式　マレラ枢機卿司式　午前一〇時
一、高山右近遺髪荘厳ミサ　マレラ枢機卿司式　午前一〇時一〇分
一、マレラ枢機卿歓迎会　午前一一時三〇分
一、祝賀会　於大阪小神学校　午後一二時三〇分

行事二　同日　高槻カトリック教会、高槻市民会館にて
一、高槻市民音楽会　午後二時
一、講演「高山右近」について　松田毅一先生　午後三時
一、高山右近劇「長崎の月」午後四時
一、茶会　裏千家奉仕　午後五時
一、マレラ枢機卿の挨拶　午後五時一五分
一、記念植樹および高山右近像除幕式　マレラ枢機卿司式　午後五時三〇分
一、高槻市長主催祝賀会　マレラ枢機卿御出席　午後六時。

試煉に忍えた証人

「日本仏教徒」あてに書簡

教皇、中山理々氏に託す

昨年一一月二九日からインドで開かれた第七回世界仏教徒会議に日本主席代表として出席した中山理々全日仏国際局長は、同会議終了後ただちにローマに飛び、一二月二八日パウロ六世教皇に会見、教皇は中山氏に「日本仏教徒」あての書簡を託した。

教皇と中山理々氏との会見は、世界仏教徒会議で決議された、諸宗教との提携を具体的に推進するため、南ベトナムでのカトリック教徒と仏教徒の拡争を、お互いの力で共に手和裡に解決しようということを訴えるためであった。

教皇との会談は、正午から二〇分にわたり、教皇書斎で、アノウジュ師同伴のもとに開かれ、たえず友好的に行なわれ、大きな成果を上げた。その後教皇は「日本仏教徒」にと名ざしで次のような書簡を同氏に託された。

パウロ六世教皇書簡

偉大なる日本の国民、ことに仏陀の教えに従い、色々な形で、道徳的な正しさを実践しようともとめている日本仏教徒の一人一人に私は挨拶するものである。

その正しさによって、人々は、行ないを誠実にかつ善良にし、情欲から起る無秩序を除き、忍耐によって苦痛に堪え、エゴイズムを押さえ、すべての人々と協調し、困窮者を助け、長く、かつ厳しい修行によって、より高き真理と、内なる光明を求めているのである。

ゆえに真心と、善意とを持って実践される時、仏教において、顕著なこれら人間的・倫理的・社会的な面に対し、私は敬意を表する。

私は仏教徒各位が、仏教の持つ道徳的、かつ心霊的な価値を保たれるようにとの念願を表明する。

また私は、仏教徒各位が、キリスト教徒、とくに、カトリック教徒にも常に思いやりを持ち、親切であるようにと願う。

そしてまた仏教徒が自らの思想と生活をますます豊かにしうると思われる多くの良き教えを、キリスト教の中からもとめることを願うようにと希望します。

私は、仏教徒とカトリック教徒とがいつまでもお互いに尊敬し合い市民的な協和を保つことができるものと信じます。かくて、両教徒は友好に有益なる社会的活動において、また国家のための忠誠なる奉仕において、共同活動がなされるでしょう。私は全能なる神とわれらの救主"神の子キリスト"が私のこの祈りを照覧することをこい願うものであります。

世の光

「いざとなったら…」

「世の中に苦しみがあるということは、ほんとに神さまのおめぐみですよ」。これにはおどろいた。腹痛にのたうつ私に医者はなぐさめるように、「もし痛みや苦しみがなければ人類は亡んでしまうでしょうよ。痛みがあればこそ人は自分の病気に気がつくんですからね。痛みはいわば神さまから送られる赤信号のようなものですよ」というのだ。そのくらい平素から旨も承知のはずなのに、ときがときだけにまるではじめてきかされたように深い感銘をうけた。

医学の発達した時代だから手術も大したことはない。これで自分もよくなるのだから、少々の痛みぐらいと、すっかりたかをくくって風呂にでも入るような気分で手術室に向った私も、術後にあんなとんでもない苦しみが待ちうけていようとは夢にも思っていなかった。健康なときには笑ってすませる日常茶飯事が、そのときにはいかに苦しく困難なものであるか、経験ある人ならわかるだろう。しかもそれが人の生死にかかわるほど重大であると聞かされては、今さらながら神の創造の英知を感ぜずにはいられない。

天井をにらみつけながら歯をくいしばる時間の長さ。親切に訪れてくれる隣室の患者たちさえものうくかんじられ、ただ看護婦と医者の姿だけを求めるせっぱつまった心のうごきにわれしらずおどろきながら、信者たちが司祭の姿をもとめ、話しかけれただけで魂の傷をいやされたように思う心もかくあらんとしみじみ感じたものだった。

いよいよ冗談もほとばしるようになったころ、看護婦のシスターに、「寛貴さま、甘くみすぎました。こんなに苦しいとは思ってもいませんでした。白状しますがね、ほんとに苦しいときに祈りはできませんね」というと「まあ、神父さまでもそうですか。それで安心しましたわ。私だけかと思っていたんですもの」という。おやおやこれはいけない。あまり安心してもらってもこまるとおもったので「ウーン、祈りをしたにしても〝助けて下さい〟というのが精一杯ですね。正直なところ、神の光栄のためとか、ゲッセマニのおん苦しみに合わせてささげるとかいうような祈りは出てきませんでしたよ。それにしても殉教者たちはさすがに偉いですね。ほまえみながら生命までささげたのですから。でも私のような凡人には、とてもそんな偉大なことはできないとわかったから、せめて苦しみの少ないころに、おささげの祈りをしておき、いよいよその場になったら、かんべんしていただいて大をすっぱくしてキリスト教一致をよびかけても、カトリック内部における一致がないかぎり、とうてい望みえようはずはない。「小さなことに忠実なものだけが大きなことにも忠実である」

「私は今は信仰を守っていませんが、決して忘れているわけじゃないんですから。いざとなったら……」と大丈夫をほのめかすようなはずはない。教会がいくら口ばをよくきく。「いざとなったら……むづかしい」というのであれば眞理に近いと思うのだが「いざとなったら……大丈夫だ」というのはどうもうなずけない。兄弟げんかばかりしている家庭が突然に一致できようとは思えないし、両親が権力争をするようでは、子供の教育もできっこあるまい。つねひごろから命をささげる気構があってもいざとなるとむづかしいのだから、まして自分の家庭さえ治めえないで社会の平和をつくりえようはずはない。教会がいくら口ばをよくきくとかいうことは、ほんとに神さまのおめぐみですよ」というのだ。そのくらい平素から旨も承知のはずなのに、ときがときだけにまるではじめてきかされたように深い感銘をうけた。

医学の発達した時代だから手術

（鵜野　泰年）

一月

一日（月）　アンチオキアの聖イグナチオ司教殉教者
アンチオキアで信仰のため捕えられ、ローマのコリゼウムで殉教したが、ローマへの道すがら各地の教会（七カ所）に牧者としての忠告を書送った。そのなかで教会内の一致を強調し、従順をもって司教と同心になることをすすめている。

二日（火）　聖母マリアのお清めの祝日
マリアとヨゼフは幼いイエズスを伴って神殿に上る。シメオン老人はその神殿で人となられた神の御子とめぐり合う。われらも神を見、知る機会は度々あるのに、その神と真にめぐり合うことの少いのはなぜだろう。信仰の悟りにまで達していないからではないか。

五日（金）　日本二六聖殉教者
かれら二六名の殉教は為政者の予想に反して当時の教会に大きなはげましを与えた。「キリシタンたちはますます信仰を固め、教会を離れていた信者たちを教会に引きもどした。み教えの偉大さに打たれた多くの未信者たちが、進んで洗礼をうけるようになった。」

七日（日）　ご公現第五の主日
自分の欠点や悪への傾き、見聞きする他人の罪（霊魂の存在）はわれらをなやます。しかしこの世から悪が一掃されることはありえない。われらはつよい信仰と愛があれば、このマイナス面を克服することができる。

九日（火）　アレキサンドリアの聖チリロ司教博士証聖者
マリアを神の御母と宣言したエフェゾの公会議（四三一年）の立役者。
教区司祭月例集会

一一日（木）　ルルドにおける無原罪の聖母ご出現記念日
聖母はベルナデットを通して多くの人がこの地に来ることを望まれたが、それ以来、すべての生ける者の母、教会の母として、あわれみと救いの働きが発揮されている。

一四日（日）　七旬節の主日
今日の福音に出てくるぶどう畑は、人祖の楽園を思い出させる。罪のために楽園を追放された人類を、再びもとの楽園に入らせることが救主キリストの使命である。楽園に入れてもらった者は、懸命の努力を重ねて約束された報をうけねばならない。

二一日（日）　六旬節の主日
今日の福音は種まきのたとえ。地にまかれた種が芽生えの準備を怠らないように、神のお働きも人の心のなかで地味な成長をつづける。ある人にとってはそれは悪戦苦闘の時期である。パウロは神の言葉の種をまくために血みどろの日々を送った。人の力の弱さをなげかず神の力に信頼しよう。

二三日（月）　使徒聖ペトロが教座を定めた祝日

二四日（水）　使徒聖マチアの祝日

二七日（土）　お悲しみの聖母の聖ガブリエル証聖者
アッシジに生れ、御受難修道会に入り、二四才で帰天。その霊的生活は幼きイエズスの聖テレジアによく似ているといわれる。

二八日（日）　五旬節の主日
われらは神のぶどう畑にやとわれそこで仕事に精出すのであるが、その働きが神のお気に召すために、愛徳によって生かされねばならない。

教皇特使　マレラ枢機卿を迎えて

信者発見百周年祝う

感謝と布教を祈願

二五〇年にわたる徳川幕府の徹底したキリシタン弾圧によって、完全にそのあとを絶ったと思われていたキリシタンが、新装なった大浦天主堂で信仰をプチジャン神父に表明して、その健在であることを世に示したのは、一〇〇年前の一八六五年三月一七日のことであった。長崎大司教区では、日本司教団の協賛のもとに、あの歴史的事件の百周年を有意義に記念するため、鋭意準備を進めて来たが、一月一四日その最終予定が準備委員会より発表された。

まず記念式典は、三月一六日から一八日までの三日間長崎市で行われる。この式典にはパウロ六世教皇の特使としてパウロ・マレラ枢機卿をお迎えすることになっており、また駐日教皇庁公使カーニャ大司教はじめ、日本の多数の司教、パリ外国宣教会総長代理アントワヌ・ジャック師、日本の各修道会管区長多数、そして、地元の信者はもとより、教区内外および遠くメキシコからの多数の巡礼団が参加する見込みである。三日間の諸行事は次の通りである。

三月一六日（火）
第一日

(1) 感謝と布教のための司教荘厳ミサ

教皇特使マレラ枢機卿の司式により、午前一〇時から浦上天主堂で捧げられる。このミサでは、邦語のミサ曲〝やまとのさざげうた〟が全員で歌われる。

(2) 記念碑除幕式

午後三時半から大浦天主堂前庭園で。この記念碑は準備委員会が地元の信者中田秀和氏（カトリック美術協会々員）に製作を依頼しているもので、信者発見の感動的場面をえがいたブロンズ浮彫（たて二メートル、よこ三メートル）をはめこんだものである。

(3) 祝賀会

四時半からグランド・ホテルで催され、高位聖者はじめ、各修道会管区長、教区の聖職者、県市等官庁関係者、元張代表、各小教区信者代表が招かれる。

一七日（水）
第二日

(1) 連続祈願ミサ

信者発見の記念日に当るこの日は、大浦天主堂内ゆかりの聖母祭壇で、午前六時から午後五時まで毎時ミサが捧げられ「感謝と布教」を祈願する。ミサを捧げるのは巡礼引率の司祭を優先する予定で希望者は事務局に申込むこと。なお大浦天主堂参詣者には同天主堂規定の条件のもとに全免償が得られる。

(2) 記念ミサ

プチジャン師の属したパリ外国宣教会の総長代理アントワヌ・ジャック師の司式で、午後五時半、大浦天主堂で捧げられ、長崎カトリック勤労者連盟が聖歌を奉仕する。

(3) 記念講演会

一般市民を対象として午後七時から長崎市公会堂で催される。講師は片岡弥吉氏と田中澄江女史。

(4) 聖クララ像除幕式

午後時間未定、浦上大橋町で。

一八日（木）
第三日

(1) 追悼ミサ

浦上出身の松岡名古屋司教の司式で午後九時から浦上天主堂で捧げられる。このミサは諸種の困難の中に勇敢にかつ賢明に信仰を伝えてくれた祖先一般の永福を祈る為である。

(2) 夜の聖体行列

記念祭の最後を飾る聖体行列は午後六時大浦天主堂を出発、市中心部を縫って西坂殉教地まで約二粁の道程で行われる。参列者は各自ローソクを持ち、市内の信者は各小教区別に、県内巡礼者は地区別に、そして県外巡礼者は各教区別に行列を組むが、八千人の参加が見込まれるので、大半は松ケ枝町と県庁前広場の二カ所に集合して待機し、大浦天主堂からの行列に途中から合流する。整理は信徒使徒職協議会が担当し、西坂では説教、聖体降福式を行い、午後八時半前後に解散の予定である。

巡礼者特設案内所

百年祭準備委員では行事期間中長崎駅前に案内所を設け、行事スケジュールや市内案内図等を用意して、巡礼者の便宜をはかる計画をしている。

なお巡礼に関する問合わせは、長崎市南山手町乙一、長崎大司教館内、百年祭事務局あて。

園ホールと修院祝別

福岡クララ幼稚園

福岡市下大楠町の聖クララ幼稚園（園長ヴェネランダ童貞＝カリタス修道女会）ではこのほど修道院と園ホールをふくむ二階建八六坪の増築、旧園舎の改装を終え、去る一月一五日午前一〇時半から深堀司教を迎えて祝別式を挙行した。祝別につづいて隣りの大楠カトリック教会で聖体降福式を行ない、落成式では司教がお祝いのことばを、また同修道会々長テレジア岩永松代童貞が感謝をのべ、園児、父兄代表がそれぞれお礼のことばをのべ、園児の劇が披露された。

カリタス修道女会本部は東京都杉並区、三七年五月に福岡修院が創立された。

（写真はシスターと園児たち）

カノッサ会総長

カノッサ修道女会総長アントニエッタ・ノヴェロ童貞と副総長アダ・ナルディ童貞は、一二月二六日から大牟田市倉永と鹿児島県大口市里の同修道院、両明光学園を公式訪問した。

教会で成人式

八幡市黒崎教会（主任ドクブク師）では一月一五日八幡教会と共同で、成人に達した人たちのために午後四時からミサを捧げ、山東龍雄師が講演を行いかれらの前途を祝した。

聖体礼拝（二月）

第一日曜　古賀教会
第二日曜　浄水通教会
第三日曜　小倉教会
第四日曜　健軍教会
大濠訪問会

祈禱の使徒会（二月）

【一般意向】公会議決議による信仰生活の刷新
【布教意向】公的地位に立つキリスト信者

邦人司祭養成のための献金（一二月六日）

大名町	五、五一〇
浄水通	三、四〇〇
地行町	二、五〇〇
鎮西町	一、〇三四
茶山	四、〇〇〇
大楠町	八五〇
高宮	二、〇〇〇
那珂町	二、五〇〇
古塚	四、一四〇
箱崎	三、〇〇〇
田島	一、三七一
古賀	七〇〇
二日市	一、三〇〇
小郡	一、二八〇
今村	五四六
本郷	一〇、〇〇〇
久留米	三、五〇〇
大牟田	二、〇〇〇
吉野	七一〇
呼子	三、九二〇
馬渡島	二、〇〇〇
佐賀	二、五〇〇
唐津	一、〇〇〇
鳥栖	六六〇
伊万里	二、〇〇〇
武雄	五〇〇
鹿島	三〇〇
多久	五〇〇
広石	一、一〇〇
門司	三、三〇〇
小倉	二、〇〇〇
湯川	二、三〇〇
戸畑	一四、〇四五
若松	二、〇〇〇
八幡	三、〇〇〇
黒崎	八、五〇〇
八王寺	一、五〇〇
本城	一、五〇〇
水巻	一、三七〇
直方	五〇〇
飯塚	一、三〇〇
田川	五〇〇
行橋	三、七〇〇
新田原	六、〇〇〇
手取	八、八〇〇
健軍	五、〇〇〇
島崎	一五、八〇〇
八代	五、〇〇〇
人吉	一一、〇〇〇
水俣	一、三〇〇
玉名	七九五
隈府	六、六七〇
荒尾	三〇〇
本渡	六〇〇
大江	二、〇〇〇
崎津	三、〇〇〇
帯山	一、六〇〇
計	一九四、七五一

殉教の時代

一六一四年一月三一日（慶長一八年一二月二三日）徳川家康が発布したキリシタン禁令によって教会はこわされ、聖職者は日本から追放された。役人の目を盗んで日本に隠れ、信者たちを指導していた神父たちや修道者、それに神父たちを隠まった信者たちは次々に捕えられて殉教した。それに一般信者の殉教がつづいた。

家康が宣教師追放令を出したとき、八九名の神父が日本にいたが、そのうち三八名が、ひそかに日本に隠れていたし、また追放された神父のうち、またひそかに日本に帰った神父や、迫害下の日本にはじめて潜入してくる神父もあった。

それは迫害、信者の信仰を秘跡によって特に強めねばならない迫害の中で、信者を指導し、秘跡を授けるためであった。

神父たちは山や、地下に堀った穴にかくれたりしながら、働いていたが、次々に殉教したり、病死したりして一六四三年、小西、式見両神父の殉教後は、秘跡をさずける神父は一人もいなくなってしまった。

神父がいなくなってしまったときの信者たちの落胆と、神父がまたやって来るのを待ちこがれる心は、どれほど強かったことであるか。一八六五年信者たちが、大浦天主堂で神父を見つけ出した時の喜びは、当時の信者のこの心がわからなければ理解できないであろう。

潜伏の時代

神父が一人も居られなくなり、キリシタンの調べはいよいよ厳しくなったのに、なお何万人という多くの人々が子孫代々信仰をもちつづけることができたわけを、どう考えたらよいであろうか。もちろんこれは、神さまの不思議なご摂理と、お恵みのお賜だと思わねばなるまい。けれどもこのお恵みをいただけるようにキリシタンが励んでいたことを忘れてはなるまいと思う。

それは潜伏組織があって洗礼の秘跡、教理、祈を伝えたこと。掟を守り、キリシタンの愛の伝統を失わないようにつとめたことである。

そのためには教理を知り、神と教会の掟を守ること。オラショ（祈り）をすることが必要であったが、帳方、水方、聞役という指導系統をもつ秘密の組織があったことが、それが行われる力になったと思われる。

浦上の水方岩永又市がプチジャン神父と一本木で始めて会ったとき「私たちは一週間交替で充あげをしながらオラショは家内そろってとなえます」と神父に言ったことばは注目すべきであろう。まことにキリシタンたちが信仰を失わなかったのは、このオラショをし掟を守ることによって神さまや、サンタ・マリアと結ばれつづけたことによるのではなかろうか。

今日の隠れキリシタンたち（はなれ）が、指導者以外の人々がほとんどオラショも知らないこと（従って神さまやサンタ・マリアとの結ばれがうすい）、ローマのパーパ（教皇）を慕う心が失われていることが、先祖たちの教えに帰ることのできない大きな原因になっているのではなかろうか。

信者発見

徳川幕府の長い、ひどい迫害の間、日本の信者たちが、ローマ教皇と、教会とを忘れなかったように、母なる教会でもまた、東洋の孤児となった日本の信者を忘れなかった。

一八五八年日本はアメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと修好通商条約を結び、ついに鎖国は破れた。一八五九年日本教区長ジラール神父は江戸に入り六二年フューレ神父とプチジャン神父とが横浜に上陸。六三年両師相前後して長崎に来て、天主堂の建築を始めた。その年の一二月天主堂は完成し、翌年の二月一九日献堂式が行われた。

それから一月のちの三月一七日金曜日の昼下り、男女十数名の男女が天主堂の門前に立っていた。ただの好奇心で来たものとはどうやら態度が違っている様子。プチジャン神父は急いで門を開き一同を中に入れた。神父は救い主のみ前にひざまずいて礼拝し、祈った。ほんの一瞬祈ったと思うころ、中年の婦人がそばに近づいてきた。

「ここにおります私たちは皆あなたさまと同じ心でございます」

「ほんとうですか。どこのお方ですか」

「私たちは皆、浦上の者でございます。浦上ではほとんどみな私たちと同じ心をもっております」

と言ってから、婦人はさらに尋ねた

「サンタ・マリアのご像はどこ？」

プチジャン神父は、信者発見の感激をパリ・ミッション本部に知らせた報告書で、さらに次のように記している。

「サンタ・マリア！　このめでたい御名を耳にして、もう私は、少しも疑いません。いま私の前にいる人たちは、日本の昔のキリシタンの子孫に違いない。私はこの慰めと悦びをデウス（神）に感謝しました。そして愛する人びとに取り囲まれて、サンタ・マリアの祭壇の前に彼らを案内しました」

このあと彼らは、自分たちが降誕祭の祝いをすること、悲しみの節（四旬節）を守ることなどを神父に告げた。

プチジャン神父の報告書はパリローマの教会首脳者たちを驚喜させた。しかもキリシタンがいたのは浦上だけではなかった。長崎地方、福岡県今村、熊本県天草その他のところにもいたのである。

信者発見の意義

信者発見といっても、正確には大浦天主堂で信者たちがサンタ・マリアのご像を見つけたことからここの異人さんが七代もの間待ちわびた神父さまだと知って、信者だということを打ちあけたのである。すなわち「サンタ・マリアを通じて」「神父さまを見つけた」のであった。それは二五〇年もの間、母なる教会を、また神が人類に下さった最大のお恵みである司祭職を、忘れず慕いつづけた心がみたされてきたことであった。そしてまた「天主堂のご聖体のイエズスさまに会えた」のであった。

神父にまた会えるという、この日を、七代二五〇年にわたって信者たちは待ちこがれていたのであったが、その待ちこがれた神父を見つけ出す条件を三つ知っていた。

1、サンタ・マリアを尊敬する。

大浦天主堂にサンタ・マリアのご像があったことが、神父発見のきっかけになった。

2、ローマのおかしらさま（ローマ教皇）に従う。

これはカトリック信者たることの条件でもある。

3、一生童貞を守る。

二五〇年も、神父さまなしでそれをよくわきまえつづけたほどに迫害前に、日本キリシタンたちがしっかりした教育をうけていたこと、その後の二五〇年を信者たちが自分たちだけでその教えを守り子孫に伝えつづけたすぐれた心に私たちは感動を禁じ得ない。

信者発見は、司祭と信者との出会を実現したことであった。それは教理を学び、秘跡を授かり、ミサに与る、というように司祭を通じてキリストさまとそして教会との生きた結びつきが復活したことを意味する。それが行われるところに、信者発見の意義があったのである。

（片岡弥吉著、「長崎のキリシタン」から抜粋）

信者だけで250年

教理と祈りで信仰を持続

聖心の使徒

（昭和四十年一・二月合併号）

表紙　新年を迎えて……湯崎夫沙子画
一月の意向　教会一致を妨げるもの……小林　純一
教会の統一（一月の布教の意向）……粕谷　甲一
病める友へ　聖性……十字架のイエズス修道女会
創造主への賛歌（詩篇一〇四）……三木　次郎
写真特集　万物の賛美……黒滝　竜彦
二月の意向　努力と勇気を……粕谷　源蔵
信者の社会的責任（二月の布教の意向）……粕谷　源蔵
泥棒と時間……H・ブライテンアイヒナー
典礼の刷新（四）典礼と聖書……土尾　吉正
青少年の父聖ヨハネ・ボスコ……吉田　淳
人間は何に向かって生活しているのか……塩谷　淳子
東京六教会散歩（一）……青山　政徳
ポスト……
新本めぐり……

購読会員費一部一カ月　五七円
一カ年　五七〇円

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾町七

真理のおしえ

(4) 悔悛の秘跡

Ⅱ 神との再会

4 愛の心で罪を悔む

真理のおしえ

(1) 神の限りない愛

われわれは自分の周囲をながめるだけで神の愛の深さを感じることができる。神の愛に対してわれわれの方からも愛をもっと応じるように努めるべきである。罪をおかすということは神の愛をふみにじり、愛の代りに憎しみを返えしたのである。

たしかにわれわれは罪をおかしている。しかし神の愛を忘れてしまったわけでなく、従って良心のとがめに心がうずくのを感じる。これが真の痛悔への第一歩である

(2) 御受難のイエズスをながめる

子供が両親の愛情になれっこになるように、われわれも神のいつくしみに無感覚になっているのではなかろうか。注意が足りない、感謝の心が足りないというだけであればまだしも、神に対して罪をおかしたのであるということもふかく考えなくなるほどに罪になれっこになっているとすれば、これは重大なことである。

このような無感覚をいやすために、十字架の上に苦しみをしのび給うキリストに目をそそぐようにしよう。

ルカ聖福音書二三章33－34、39－43の朗読

ひとりの盗賊は責苦を逃れることしか考えず、イエズスをあざけった。もうひとりは自分が罪びとであることを認め、悪事のつぐのいとして責苦を甘受し、イエズスにゆるしを願った。

イエズスはわれわれにもこう申される。「私はお前のために苦しみ身代りとして死ぬ。最後の一瞬まで御父に従うことによって、お前の不従順をあがなうつもりである。お前が命令に頭を下げないから私の頭にいばらの冠がかぶせられたのである」。

(3) 真の痛悔によって罪がゆるされる

十字架上のイエズスのお姿こそは、神の愛の究極の表現である。主は盗賊が悔い改めの一言を発しただけで、死後直ちに楽園に迎えることを約束された。われわれが愛の心によって罪をくやむならば（完全な痛悔）天の御父は直ちに神の生命（聖寵）を返えして下さる。告白をしにゆく意志があれば、完全な痛悔によってすでに罪からきよめられ、大罪さえもゆるされる。

われらの答え

ただ口先でなく全生活をもって神への愛を証明しよう。罪をおかさないということはできないが、罪をおかさないように全力をつくしたい。

決心＝神に対する愛の心から罪を痛悔する。

5 良心の糾明

真理のおしえ

(1) 罪びとであることを認める

ルカ聖福音書一八章9－14の朗読

税吏が義とされたのはなぜか。かれは神の前にどんな態度をとったか。けんそんとはなにか。ファリザイ人の態度はどうであったか。かれが自分についていったことは本当であるか。

われわれも罪のゆるしをうけるには、自分が罪びとであることを自覚するのが先決である。こう慢心が最大のさまたげとなる。

(2) 自分の罪を知るために

自分が何をいい、何を考えたかを正確に思い出すことは非常にむつかしい。だから告白前におかした罪を念入りに糾明する。そのために聖霊の照しと導きを祈り、神の前にしばらく沈黙する。

(3) 天の御父と向き合って

良心の糾明とは、勉強で習ったことを試験場で思い出そうとするのとは全く別のことである。それはむしろ天の御父との親密な信頼にみちた語り合いのようなものである。

思い、言葉、行ない、怠りに関して良心のとがめを感じることについて「なぜ私はこれをしたか、その原因はなにか、どの点まで私に責任があるか、その重さはどれほどか、何回ぐらいか」を探る。そうすればどれが他の多くの罪の根になっているか、どれが悪習慣になりつつあるか、近頃新しく入りこんできた罪はどれかが、明確につかめる。こうして自分の霊魂の状態も知ることができる。

われらの答え

自分をよく知る者は自分が聖人でないことも知っている。良心の糾明は自分を知り、どの程度まで自分が神に向っているかを解らせる。規則的にしておれば、糾明はずっとやさしくなる。一日一回必ず良心の反省をするよう心掛けるべきである。

決心＝夕の祈のとき必ず良心の糾明をする。

6 生活を改める決心

真理のおしえ

(1) 神への愛が決心を生む

良心の糾明によって自分が天の御父に罪をおかし、主イエズスを十字架につけたことを知る。われわれは罪をおかしていても御父とイエズスを愛しているので、糾明をすればするほど自分の罪をくやむのである。

この痛悔が真剣であれば、過去におかした罪をもう二度とくり返えすまいと望む。これから先のことを考えて後悔は決心となる。

(2) どんな決心を立てるか

どんな決心を立てるべきか、どの点に努力を集中すべきかは良心の糾明からおのずと結論されることである。

まず重大な罪をおさえること、つぎに多くの罪の根になっているような罪に対して戦うこと。そして罪にみちびく機会をさけるという決心を立てるべきである。

その決心は、具体的なはっきりしたものであること。自分の力に釣合っていること、罪によって生じた乱れを直すもの、即ち罪のつぐのいとなるものでなければならない。さらにその決心がどのように守られているか、度々反省して経過を次の告白で知らせるとよい。最後に忘れてならないのは、決心は毎日の祈、ひんぱんな聖体拝領によって持続され、効果をあげるということである。神の助けなしにはわれわれは何もすることができない。

(3) 直ちに実行にうつす

痛悔の心がまじめであれば、決心をすぐに実行にうつすはずである。きっぱりと悪をすて神に向っていることはこれによって証される。

そのためまず、できる限りおかした罪のつぐのいをする。例えば他人に与えた損害を弁償する。司祭から命じられた「つぐのい」をすぐに果す。このような努力がわれわれの誠意と従順のしるしであり、キリストに従う第一歩である。

最後に罪のゆるしをうけ、神と仲直りさせて頂いたしあわせを神に感謝申し上げよう。

われわれの答え

痛悔の真意は行為によって証明される。決心はいわば痛悔の心の一面である。痛悔が過去を消し、決心が将来を準備する。あまりむつかしい決心、あれもこれもたくさん決心を立てないようにしよう。ただ一つの決心とじっくり取組む方がよい。決心を忠実に遵守する努力をもって、神への愛と痛悔の情の真剣さを証明しよう。

決心＝決心を忠実に守ること。

7 司祭に罪の告白

真理のおしえ

(1) 罪を申述べること

罪を知り、これを愛の心をもって痛悔し、生活を改める決心を立て、罪を司祭に告白すると心にきめたとき、罪はゆるされたのである。もしこのままで死ぬことがあっても、神からすてられる心配はない。もう神に向って歩みはじめていたからである。

罪を司祭に告白するという決意は、きわめて重大であり、機会が与えられたら必ず実行せねばならない。この決意は重大な罪であるほど必要である。

神はわれわれの心のなかを見通しすべてをご存じであるが、しかし神はわれわれが自分の方から率直に罪を打明けにくることを望んでおられるのである。

(2) どのように告白するか

すべての大罪とその数、そして罪の重大性を増す事情をいい表わすこと。一つの大罪でもわざとかくせば告白そのものを無効にし、しかもどん聖の罪をおかすことになる。

告白のとき忘れていわなかった大罪は、告白した罪とともにゆるされる。かくすつもりはなかったのだから、次の告白でいい表わせばよい。

大罪以外の罪、即ち小罪は必ずしも告白しなくてもよい。しかし霊的進歩のためそれをいうのは有益で、より確実、より豊かに聖寵をうけることができる。

(3) どのように告白するか

ありのままに単純に、何もかくさず、しかし無益なことをくどくどといわないようにする。

われわれは何もおそれてはならない。司祭はイエズスの代理者である。父、友、医者としてわれわれを助けるために告白を聞いている。告白の秘密がもれる心配は少しもない。司祭は秘密をもらすよりも死ぬことを選ぶのである。

告白をきく司祭（聴罪司祭）は自分で選ばねばならない。自分の聴罪師をよく選び、自分をよく理解しよく忠告してくれるように聴罪師のために祈ることは大切である。同じ司祭に告白するのは大きな利益がある。聴罪師が自分について悪く思うかも知れないなどと心配してはならない。

われわれの答え

放蕩息子が父親に身を投げ出したように、われわれも告白で天の御父の代理者である司祭に全く信頼しなければならない。司祭は神と教会の名において罪の告白を聞くのである。

罪を口に出していうことははずかしい。しかし罪から解放されるために罪の告白ができることは、大きな慰めであろう。熱心な信者は規則的に告白に近づき、そのために時間をさくように努める。

決心＝きちょうめんに告白をすること。

キリスト教的象徴とその意味

神の御手

図に示したような手は、聖三位一体の神の第一のペルソナであられる聖父の唯一のシンボルで、カタコンブによく見られる。これは聖父を象徴する最古のものであり旧約時代にまでさかのぼる。旧約聖書では手は神が被造物を創造保護される力を意味することが多い。「正しい人の霊魂は神の御手の中にある」（智書三の1）「あなたは私に御手を加え、私を造られた」（ヨブ一〇の8）

雲のなかから光と祝福をもたらしつつ差し伸ばされる神の右手は第一〇世紀頃まで聖父の唯一のシンボルであった。時として手は祝福を与えるため上に挙げられている。その場合手は円光につつまれそのなかに三本の光の矢が画かれる。これは生ける神が三位一体であり、真に神であることを強調する。

刺し貫かれた心臓

心臓は人間同志の愛と神的な愛のシンボルである。心臓、十字架錨の組合せは信望愛を表わす。

図のように剣に貫かれた心臓は悲しみの御母を表わす。このシンボルは、神殿における御子イエズスの御奉献のときマリアになされた言葉に由来する。

「この子は、イスラエルのたくさんの人が、あるいはたおれ、あるいは立ち上るために、さからいの印しとして立つ人です。そして多くの人のひそかな思いが明らかにされるのです。あなたの心も剣で貫かれるでしょう」（ルカ二の34－25）

マリアのお心は聖性の泉、神と魂に対する愛の宝庫である。われらはマリアを母と呼ぶが、実はマリアはイエズス・キリストの聖なる血によってあがなわれたすべての魂の母、全人類の愛ふかき母であられる。

オルフェウス

ギリシャ神話の人物オルフェスは、七弦琴の美しい楽の音で野獣さえもうっとりさせて手馴づけてしまう魔法の力をもっていたといわれる。ローマのカタコンブに行くと、初期キリスト信者がオルフェウスの優雅な姿をキリストのシンボルに使っていたことがわかる。キリストは完全な調和の源にましまし、その崇高な教によって人の心の乱調をしずめ治めになる七弦琴の楽の音は神と隣人への愛を意味する。それはまた、野望と敵対する利害関係の衝突を和らげ、全人類の共通の父たる神の家に全国民を一つの家族として結合させ、かれらに友愛と和平をもたらす知恵と愛のシンボルとも考えられる。

8 罪のゆるしのよろこび

真理のおしえ

(1) ご復活のキリストとの再会

ヨハネ聖福音書二〇章19－23の朗読

イエズスは罪びとの不従順をつぐなうため十字架の苦をうけ、罪にうち勝ち、御父から罪のゆるしを得られた。

ご復活の夜、自分の名で罪をゆるす権能を使徒たちにさずけられた。使徒たちはこの使命を後継者である司教らに伝達し、司教らはこれを司祭にも委任する。

罪のゆるしは司祭の働きでなくキリストのみわざである。だからゆるしをうける毎にご復活の夜のキリストのご命令が成就する。告白の場はご復活のキリストとわれわれとの再会の場である。

(2) 心の傷のいやし

ルカ聖福音書一五章21－24の朗読

罪を告白し痛悔する放蕩息子に父親は晴着をきせ、祝宴を開いた。過ぎたことは水に流し、息子の座がもどされたのである。

司祭がゆるしを与えるとき、イエズスは罪びとの傷をいやし洗礼のときの白衣（純潔と神の生命）を返えして下さる。そして兄弟たちと生命のパンを食する聖卓につくことを許される。

(3) 教会の生命によみがえる

ルカ聖福音書七章12－17の朗読

イエズスが若者をよみがえらせて母親に返えされたように、今も罪びとをよみがえらせて母なる教会に返して下さる。

われわれは罪のため教会内で衰弱した、あるいは死んだメンバーとなり、教会の活動をにぶらせていた。だからイエズスは教会の司祭に罪を告白するよう命じ、司祭は教会の名において神よりのゆるしを与え、生々としたメンバーにするのである。

「安らかにゆきなさい」。今やわれわれは神と和睦し、神の子のよろこびにひたるのである。

われわれの答え

告白場で司祭は主イエスの名において語り行動し、はっきり「われ汝の罪をゆるす」といってくれる。なんという慰め、よろこびであろうか。

決心＝ていねいに悔悛の秘跡をうけること。

今年は
「キリスト信者発見百周年記念」
です

殉教による信仰宣言のうちに、信仰生活の力を汲みましょう。

☆★☆★☆★　☆★☆★☆★

日本キリシタン物語
中央出版社
片岡　弥吉　著
永井　隆　絵　¥一五〇
四百年前のキリスト教伝来に始まる少年少女のための歴史物語。小学五・六年から中学生向き。

キリシタンの信仰生活
中央出版社
助野健太郎　著　¥二三〇
キリシタンの殉教をあらしめたその信仰生活―その時代の信心会、聖書、公教要理、祈祷書、迫害下の教理の伝承―について書かれた本。

長崎のキリシタン
長崎大司教区信者発見百周年行事委員会
片岡　弥吉　著　¥一〇〇
二五〇年にわたる信仰弾圧のもとで教会の保護もなく、牧者なき羊のような信者たちが、その弾圧を忍びながら、幾代もの間、親から子に信仰を守り伝えた幾多の殉教者たちの偉大さを思いおこさせる。

日本二十六聖殉教者
中央出版社
小沢　謙一　著　¥八〇
長崎における二十六聖殉教者の略伝と歴史的背景。

大名町　聖パウロ書院
岩田屋六階　セント・ポール・コーナー

二月の黙想

「世に勝つ勝利は、すなわち私たちの信仰である」（ヨハネ一書五の5）。

（一）　信仰は、キリストに従おうとする者が持つべき第一の心構えであり、人となられた神の御言のみまえにおける霊魂の主要な態度でなければならない。

われわれの生活のすべてを包む信仰の行ないなくしては、キリスト信者であることにどれほどの意味があろうか。

もしキリストの神性を受入れるならば、当然その御意志、みことば、その教会と秘跡、神秘体の現実を受入れるはずである。

では信仰とはなんであるか。信仰とは、われわれの理性が余す所なく神的真理に対してささげる尊崇と承諾である。

キリストは神の御独子であられるのでその教えに寸分の誤りもない。イエズスの証言を受入れ、その教えのすべてに理性の承諾を与えるとき、信仰にふみ切ったのである。

しかし信仰は完全でなければならない。完き信仰は全キリストを包含すべきである。もし自分の考えや興味よりもキリストの御意志の方を尊重しないならば、その信仰は不徹底なものである。

「義人は信仰によって生きる」この言葉を心のうちに吟味しよう。信仰によってという言葉の正確な意味は、信仰こそはわれわれの全生活の根底でなければならないということである。

義人は信仰によって生く

（二）　信仰を持って生きている人はいる。かれは確かに信仰を持っていて、それをある程度まで実行している。しかしそれはある場合に限られているのではないか。

例えばミサ、聖体拝領、祈などに信心の業においてだけ信仰を思い出し、役立て、それに自分を閉じ込めている。

信心業が終るとすぐに別世界に入り、自然な生活にひたる。信仰生活の義務が面倒であったりすると呟く。呟くだけでなく、商売上で、結婚生活上で誘惑に出合ったり、世俗的感覚的な楽しみにひかれたりすると、いとも簡単に神の掟をふみにじる。なにか気にさわることでも起るとすぐに苛立つ。

（三）　このような信者でも信仰によって生きていると、いえるのであろうか。かれらは自然的精神に支配されているのである。

もしわれわれの信仰が強く熱烈に生きておれば、内外の困難や不安定な将来、反対や誘惑のなかにあっても信仰の原理によって行動し、不動の信者生活を営むことができるはずである。

われわれは次のキストのみことばを熟読しよう。

「私の言葉をきいてそれを実行する人は（信仰に生きる人は）、岩の上に家を建てた賢い人にたとえてよい。雨が降り、流れができ風が吹いて打ち当るが、その家はたおれない。岩の上に土台をおいているからである」（マテオ七の24—25）。

（カール）

聖書の国 ⑳

平山高明

サマリア人（二）

サマリア人はエルザレムの神殿再興の協力をはねつけられたので神殿建立を妨害するために、ペルシャの高官をそそのかし、また工事を中止させるためにいろいろと策動し、地方総督サンバラッテと共にエルザレムを攻撃しようとするなど、しつこく妨害を続けた。

その上大司祭エリアシブの息子マナッセは、司祭が異邦人の娘をめとってはならないという律法に反し、総督サンバラッテの娘と結婚し、サマリアのガリジム山上に一つの神殿を建ててエルザレムと対抗し、かれ自ら大司祭となり、犠牲をささげ、レビ人を呼びよせかれらを異邦人の女と結婚させるなどの反対を、わざとさせたのである。

このためにユデヤ人はサマリア人を異端の徒とみなし、絶縁したのである。

▽　▽　▽

このサマリアの首都は、紀元前一二八年にユダのヨハネ・ヒルカンによって打ちこわされてしまった。しかしイエズス様の時代にヘロデ王がこれを再建して、セバスト、すなわちアウグストと名づけたが、このことはユデヤ人の大きな不満を買うこととなった。

▽　▽　▽

これらのサマリア人はエルザレムの宗主権を認めることを拒否しエルザレムに行かず、ガリジム山で礼拝する習慣を次第に身につけやがては自分たちこそ真のイスラエルの正統信仰を護持する者だとの自負をいだくにいたった。サマリアの女がイエズス様にむかって「私たちの先祖はこの山の上で礼拝しました。それなのにエルザレムで礼拝すべきだとあなたたちはいっています」（ヨハネ四の19）と抗議しているのは、このような背景があったからである。

この女が水汲みにきた井戸に近いサマリアの町は、昔はシケムと呼ばれていたが、イエズス様の時代のユデヤ人は軽蔑をこめてシカル、すなわち「酔っぱらい」と呼んでいたのを見ても、反感の程度がわかるであろう。

またユデヤ人のあいだには「サマリアの水は豚の血よりもさらに汚れている」という言葉があった位で、イエズス様がサマリアの女にむかって「のませてください」と仰せられたとき、女がいぶかったのも、またサマリアの女と話しておられる主を前にして、弟子たちが当惑していたのも納得がいくのである。

▽　▽　▽

侮蔑されていたサマリア人はサマリア人で、精一杯の仕返しをしていた。例えばユデヤの過越祭の前日、神殿に人間の骨を投げこんだのもかれらの仕業で、ユデヤ人にしてみれば聖なる神の寮が汚され、過越の大祝日に使用に耐えないとなると子供らしいいたずらと笑ってすまされない由々しき事件であった。

また北辺のガリラヤからエルザレムに巡礼に行く人びとへの嫉視から、種々の妨害がなされたのでユデヤ人はサマリアを避けて通ったことも、聖書には散見される。なお紀元五二年にはサマリア人がユデヤ人巡礼を攻撃するという悲劇が生じ、事件はさらにユデヤ人の血なまぐさい反攻を誘発し、遂にシリアの総督が介入して、ユデヤの一団が十字架刑に処せられて結末をつけたのである。

▽　▽　▽

実にユデヤ人にとってサマリア人とは辱しめの言葉であり、嫌悪の情を表わす言葉であり「ユデヤ人はサマリア人と交際していなかったのである」（ヨハネ四の9）だがイエズス様はよいサマリア人のたとえ（ルカ一〇の25—37）のなかで、この軽蔑されていた名前にキリスト教的隣人愛の模範として名前を与え、かれらもまた神の国に招かれたアブラハムの子であることを教えられた（ルカ一七の11—19）

主の教えは、主をとりかこむ聴衆の心に自分の心の頑なさと忘恩とを感じさせ、真の隣人愛への道をひらいた。キリスト様のお言葉のみがこのようなふかい憎悪をこえて、二つの民を和解へと導くことができたのであり、実際にキリスト様の弟子たちは聖霊降臨後、主の命令通りサマリア人の許に教えをのべ、多くの改宗者を教会に迎えたのである。（使八参照）

モーレン夫人のこと

マグダレナ　水波純子

ベルギーですごした一年間、私たち夫婦はルーヴアン市郊外のメゾン・サン＝ジャン（聖ヨハネ館）という学生寮に住んでいた。

それは、十六世紀に建てられたお城の庭園の中に位置し、寮外には、お伽話のような赤れんがの古城と、数十本の百年樹、朝夕にさえずる小鳥の声、そして折々には、芝生を散歩するきじやりすの姿がみえるのであった。メゾン・サン＝ジャンはモダンな、二階建の建物である。日本の寮という概念からはあまりにもかけはなれ、すべてが清潔であり快適であった。そして、節度のある暖い雰囲気にみち、それは一つの「家庭」なのであった。私たちはこの寮の一員となるとき、この寮の管理者であり責任者であるモーレン夫人の子供となった。

この寮はルーヴアン大学の所属であるが、実は六年前に、ルーヴアン大学理学部教授モーレン氏夫妻が私費を投じて建設されたものであり、二階の一隅を居間として二人はここに住み、こうしてマダムは、朝から晩まで学生との共同生活のうちにすごして居られる。マダムはメゾンの一切の責任者であり、ここに住む二十人の学生—二人の若い神父と私たち夫婦を含む、十二カ国にわたる異った国籍をもつ学生たちの精神的支柱なのである。

マダムの一日は実に多忙をきわめている。メゾン管理上の事務、雑用の他に、大学や婦人団体の多くの役職を兼務され、たえまない電話、手紙、訪問、外出。そのために、私たち一人一人が、自分の喜びと困難とをかかえてマダムの部屋をノックするからである。

彼女は、かなり乱雑に書類のちらばった大きな事務机にむかって、タイプを打っているか、受話器をもっているのが常だ。キビキビと、まるで怒っているかのような声。やわらかにまとめられた栗色の髪。きれいに弧を描いたまゆ。そしてはっきり見開かれた目が私をみつめる。その目はまばたきもせず私の目を見、うなづき、そして笑い出す。私はどんなにマダムをわずらわせたことだろう。彼女に私のすべての週末の計画を話し、旅行するといえば宿をマダムに、パリのカトリック高等哲学研究所の夏季講座にゆくといえば奨学金の申請をマダムにたのみ、外国への電話はマダムに、修繕の布、ボール箱がいるといえばマダムに、という具合であった。それは私だけではないのである。すべての学生が、その心配をマダムに分つのを当然としているのであった。彼女は、すべてのものに、母性的な配慮を惜しまなかった。その細かい配慮は、しばしば、おせっかいとも受けとれるほどのものとなった。

しかし彼女を、口やかましい世話好きなだけの、日本のお母さんと同列にはしないで欲しい。彼女は、数年前まで、短大に相当する学校で哲学を講じていた。その知性は、男性的な論理的厳密さを具え、哲学、神学、社会、政治上の一切の論議に耐えるものであった。マダムは一かどの見識家であり論客である。「私はあなたの意見に全く賛成です。然し……」それから鉄砲玉のようなことばが続くのがつねである。マダムは論争の相手には事かかない。メゾンの霊的顧問である聖書学教授のシャノワン・ジブレをはじめ、神父、教授をふくむ数人の客が、食事のたびに姿をみせるからである。

マダムは、プロテスタントからの改宗者でそれゆえに教会一致運動には深い関心をもって居られる。このメゾンも、エキュメニスム運動の一拠点であり、マダムの組織による集会、講演会が広間でしばしば行なわれるのであった。学生のなかには、ギリシャ正教信者や英国国教会の牧師もいた。夕べには、メゾンの中にある小さな礼拝堂で、キリストのうちで一つとなるよろこびのうちに、夕の祈りが、宗派をこえて共同にとなえられるのであった。

この活動的なマダムの献身の精神は、毎朝のミサにその源泉を汲まれたものであった。ジブレ師と他の二人の神父によって日毎に捧げられる三つのミサ、少くともその一つのなかに、持病の神経痛に耐えて首すじを押え乍ら祈っているマダムの姿が見出された。

マダムはよく叱った。しかしマダムが叱るときには、きまってはっきりした道徳的理由が立っていた。一人の学生が、スチームのまだ入らぬうすら寒い日に電気ストーブをこっそりつけたとき、隠してつけた事のゆえにカンカンに怒り、それを貸した他の学生まで頭ごなしに叱ったのを私たちは見た。ところが他のもう一人の友人が、自分の部屋でつけたアルコールランプの火の不始末から過ってカーテンを焦がし、キナ臭い匂いがただよいはじめたときに、わたしたちは肝を冷していたにもかかわらず、マダムはこの悪意のない過失は叱らなかった。

昼食と夕食は、食堂で、一つの長い食卓を囲んでとられる。正面の中央は、いつもマダムの席である。夕食にはムッシューも交えたにぎやかな楽しい一ときだ。一番よくしゃべり、そして早く食べるのがマダムである。彼女は、すべての話題に全力を投ずる。「布教地における司教の権限」も、「ねずみが出るので猫を飼おうか」という問題も、同じ重味をもっているかのようであった。彼女は、現実主義者であると共に理想主義者である。細心の節約家であると共に寛大である。一片のパンも捨てることを許さず、窓外に群る小鳥に与える彼女は、学生たちの便利のために、二台目の自動車を購入することをためらわない。寮経営という、家庭の主婦にとっては途方もないこの仕事も、子供のない淋しさから、一人、二人の外国人学生を自分の家に住わせることからはじめられたのである。その規模は自然の勢におされて拡大し、今では彼女はこの寮の二十人の学生の母、年々に巣立った百数十人の学生の母親となり、そればかりか、毎日曜日、ミサのあと一日をこのメゾンでにぎやかにすごすのを常とする、二、三十人のラテン・アメリカの陽気な夫婦学生たちの保護者であり、またかれらの愛らしい赤ん坊たちの洗礼親なのだ。

日曜のひる下り、暖かい日ざしをうけて、この子供たちに囲まれて、芝生で毛糸の小さな靴下を、赤ん坊のために編んでいるマダムの姿、礼拝堂で祈りにしずむ姿、階段を勇ましくかけ下りる音、声高に人を呼ぶ声。そのすべては私の脳裏に、いまも生き生きとよみがえる。すべての愛、喜び、苦しみ、祭りを他人と共にわかち、そして自己のすべてを傾けて他人のためにつくすマダムとの出逢いは、私のヨーロッパにおける最大の収獲の一つであった。この完き献身と愛の生活は、深くキリスト教によってつちかわれ、恩寵にはぐくまれたヨーロッパの精神的土壌の中からこそ、花開いているのである。

（福岡カトリック学生会誌第五号より転載）

（筆者は八幡大学仏文学助教授）

猫のみせてくれるみ諭し

フランシスカ

猫が五匹子を生みました。とてもかわいい三毛の子四匹とトラ一匹

目のあかない間は母親を離れず必死でしがみついているようでした。少しづつ目があくとチョロチョロ親のそばを離れますが、足がしっかりしないのであまり遠くへは行きません。

足がしっかりして目もハッキリして来るとあちこち歩きまわって、閉口します。でもまだ親が一声呼ぶと、すぐに親のもとへかけもどりました。それが一ケ月半もすると母親がゴロニャアゴロニャアと呼んでも平気、畳はガリガリやぶるし障子に穴をあけるしまう。

母親は小さい時からごはんの時は必ず茶の間から出す習慣にしましたので、食事が始るとすぐ自分が廊下に出て、子ねこを呼びますが、それでも子猫はお膳の上のにおいが気になって私の膝の上迄上ったりします。母猫は私の膝の上から子猫をくわえて出て、廊下で恐ろしいこえを出し乍ら、押えつけています。中々はなしません。子猫がかわいい声で一声返事らしいものをするとやっと放してやって、今度は一生懸命に愛撫しています。

「人間もあんして暮をしろという事だろう」と主人も感心して見て居ります。

毎日、毎日猫の成長を見て居ると自分の力を過信して天の御父から、段々離れて行く浅間しいわれわれの姿を見せられているようで、毎日いましめられて居る心地が致します。

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　七三〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円　六五〇円
デイリーコンサイス英和辞典　三〇〇円　四三〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　D版　大型版　一〇〇〇円
ジェム英和・和英辞典　五五〇円　六三〇円　八五〇円
最新明解英和辞典　三八〇円
初級クラウン英和辞典　二五〇円
初級コンサイス英和辞典　二〇〇円
初級コンサイス和英辞典　二〇〇円
三省堂　独和新辞典　七〇〇円
コンサイス独和辞典　六〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　三、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

SSD
三省堂　福岡出張所
住所名変更　福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

昭和30年7月14日第3種郵便物認可 毎月1日発行 第114号

カトリック

深堀司教認可
発行所 福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏
定価 一部 十五円

司祭叙階式と歓迎会

特皇特使、三月一八日福岡に

既報の通り、パウロ六世教皇の特使として来日されるパウロ・マレラ枢機卿は、三月一六日、一七日の両日長崎での信者発見百周年記念式典に御臨席のあと、一八日(木)駐日バチカン公使カーニャ大司教、随員二名を伴って特急かもめで午後一二時二二分博多駅着福岡入りされる。特使は、戦前駐日教皇使節時代に一度来福されたことがあるので、この度は約三〇年振りの御訪問である。

博多駅からすぐに福岡司教館にむかわれ、ご小憩ののち午後二時から約一時間、福岡双葉学園講堂での教区主催歓迎会に臨まれ、日本語で一同にごあいさつされることになっている。このとき全教区からの記念品を特使に献上する。

歓迎会のあと福岡大神学院をご訪問、午後三時半より同神学院付属聖堂で、福岡・広島両教区のために司祭二名、副助祭三名、下級聖品と剃髪一二名の叙階式を司式なさる。

聖式後、同院食堂で晩餐会がひらかれ、同夜は神学院にお泊り。一九日(金)は早朝ミサのあと午前八時四五分発の特急つばめで広島にむかわれる。

教区としては、歓迎会に司祭・修道者・信者が多数参加するよう呼びかけており、また特使への記念品のため全教会・修道院に応分の寄付を願っている。

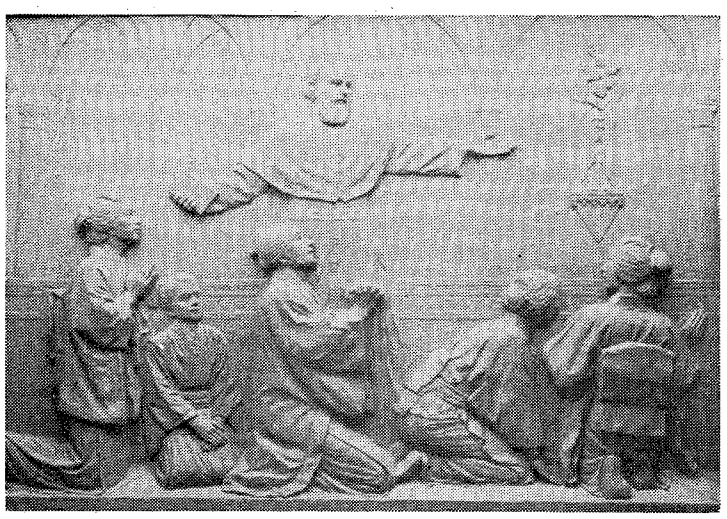
× ×

キリシタン発見記念碑のブロンズ・レリーフ(2m×3m)

中田秀和作

等身大六人の浮彫像で、彫りの深さ約一〇センチ。浦上の信者数名がプチジャン神父にキリシタンであることを打ち明け、感動した神父はかれらをサンタ・マリア像のもとに案内した。一同は二五〇年間待ちわびた聖母像を仰いで感無量でひざまづく。神父の顔には、感激と勇気、えい智と熱心がみなぎり、信者たちの全身にはふかい信仰と、聖母への根強い信心が表われている。来る三月一六日午後三時半から大浦天主堂前庭で除幕される。製作者中田秀和氏はカトリック美術協会会員。

× ×



教区典礼委員会設置

深堀司教は、このたび典礼霊章第四五条にもとずいて福岡教区典礼委員会を設置し、左の八師を委員に任命した。

ラブラント師(福岡大神学院長)
平田惣五郎師(浄水通主任)
糸永一師(今村主任)
伊東誠二師(新田原主任)
ブレンチフィルド師(手取主任)
深堀敏師(司教館付)
テンペリニ師(鳥栖主任)
ボネ師(戸畑助任)

同委員会は第一回会合を二月二日司教館でひらいて、刷新されたミサ聖祭の挙式法について検討した。定期会合は月一回ひらかれる

新枢機卿27名

東方式典礼から3名

パウロ六世教皇は一月二五日二七名の新しい枢機卿を任命されたこの増員によって枢機卿会のメンバー数は一〇三名になり、国別では四二カ国が教会の最高機関に加わることになった。今回の任命に東方式典礼の総大司教三名がふくまれているのが、特に目をひくことである。

枢機期会は、教皇が全教会を治める仕事と責任を果されるのに助力を与えるものであり、教会の拡大にともない大使のメンバーの数がふやされた。なお新枢機卿の親任式は二月二二日に挙行された。

小川大使、教皇に深い感謝表明

新たに駐バチカン日本大使として着任した小川清一郎氏は、二月四日、パウロ六世教皇に天皇陛下からの信任状を提出し、日本政府が聖座に対して抱いている感謝の意を伝えた。

小川大使はつぎのように述べた

「あの痛ましい困難な時代に、教皇庁は日本に直接、間接にきわめて貴重な援助の手をさしのべ、デリケートな諸問題を解決するために協力して下さった。こうした教皇庁の活動を熱心に立案し実行に移していったのは、当時バチカン国務省で重要な地位にあったパウロ六世教皇でした。日本政府はこうした貴重な活動に、今も心から感謝の念を抱いています。」

教皇はこの挨拶に感謝されたあと次のように述べられた。

「教皇庁は日本政府が、とくに青少年の教育と社会道徳の面でささげている努力を評価します。日本のカトリック信者もこの点で努力し、よろこんで協力しています。

私は、日本の地位のある人々が日本のカトリック教会の活動、とくに教育と社会事業の面での活動を高く評価していることを知っています。

今年日本で行なわれる記念祭のために、私は特使を日本に送ることにし、日本をよく知り、愛しているマレラ枢機卿をその特使に選びました。私はマレラ枢機卿に天皇陛下あてのメッセージを託したいと思っています。私は心からあなたの上に、天皇家の方々、日本政府と国民の皆さんの上に、神のお恵みが豊かにあるようにお祈りします。」

聖体礼拝(三月)

第一日曜 地行町
第二日曜 茶山
第三日曜 大楠町
第四日曜 男子パウロ修院

祈禱の使徒会(三月)

【一般意向】小教区における使徒的精神
【布教意向】布教地における迫害下の教会

児童福祉献金

一月三一日

大名町	五、八四一円
浄水通	四、九〇〇
簑島	三、五〇〇
西新町	一、八〇五
茶山	二、〇八〇
大楠町	二、九〇〇
高宮	三、三五三
那珂町	四、三七六
吉塚	四、三九〇
箱崎	二、〇〇〇
田島	一、三〇四
古賀	一、〇七二
二日市	
小郡	一、八七八
今村	六、〇〇〇
本郷	三、二五七
久留米	五、四〇〇
大牟田	二、〇〇〇
吉野	一、三四四
呼子	二、九〇〇
馬渡島	一、八〇〇
佐賀	二、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
鳥栖	六五〇
伊万里	二、〇〇〇
武雄	八〇〇
鹿島	九七〇
多久	一、〇〇〇
広石	一、一〇〇
門司	二、九五〇
小倉	二、〇〇〇
湯川	
戸畑	一三、七〇〇
若松	三、〇〇〇
八幡	四、五〇〇
八王寺	二、五〇〇
黒崎	七、〇〇〇
本城	一、〇〇〇
水巻	二、八〇〇
直方	三、〇〇〇
飯塚	三、二〇〇
田川	六〇〇
行橋	
新田原	五、五〇〇
手取	八、七〇〇
健軍	四、〇〇〇
帯山	一、五〇〇
八代	六、〇〇〇
人吉	八、〇八四
水俣	一、三〇〇
玉名	一、〇〇〇
隈府	七、七七〇
荒尾	五〇〇
本渡	二、二〇〇
大江	二、三〇〇
崎津	二、二〇〇
双葉学園	九八、四四二
海星女子学院	一一、一九〇
明光学園	一四、〇〇〇
明治学園	八五、〇〇〇
熊本信愛女学院	二〇、〇〇〇
マリスト学園	一〇、〇〇〇
白百合学園	一五、二〇〇
大濠幼稚園	二、三五〇
西新幼稚園	一四、八五〇
高宮幼稚園	四、四三九
二日市幼稚園	一〇、八四五
戸畑天使園	六、一五〇
若松天使園	五、〇〇〇
人吉幼稚園	七、〇〇〇
聖ヨゼフ幼稚園	五、四〇〇
合計	五〇五、二九〇円
昨年度	四八五、八七七

世の光

夕食

「仲よくなるには、いっしょにたべたりするのがいちばんいい」というのは、よくきくことです。

まだうちとけていない同僚であっても「一ぱいいこう」ということでもなれば、急に親しみがわき、はては招いたり招かれたり、友情はますます深まって、やがては兄弟にでもなったように思えてくるものです。

大げさないいかたかも知れませんが、私は、ともにたべることほど人の気持をほぐし、心を結びつけるものはほかにはあるまいと思っています。「ともに祈る家庭はともにとどまる」といわれていいなら「ともに食べる家庭はともにとどまる」といっても決して過言ではないと思うのです。夫婦むつまじく兄弟仲よく円満な家庭生活を営んでいると聞けば、それはきっと食事を大切にしているからだろうとさえ考える位です。

所が最近のように、世の中が忙がしく複雑になってきますと、それもなかなか思うようにはいかないようです。子供たちは、やれ補習だの、やれ塾だの、入試のための勉強においまわされるし、大人も残業、夜勤、日曜出勤など、仕事にふりまわされて、一家そろって云々というようなことはできそうにもありません。いやできたにしても、今さらそんなのんきなことをいってはおられない、「生きていくためには働かにゃならんのですからね」といいたくもなるくらいに、世の中はおちつかなくなっているようです。

そんなわけで、近頃、一家そろって食事をする家庭も、だんだん少なくなってきたのではないかと心配になるのは、私のひがみですかね。

たまに「一ぱいやろう」というだけで、人を兄弟のように仲よくさせる術をもっている食事だとすれば、毎日の家庭の食事は、なおさらではないでしょうか。

私はある日、熱心な信者の家庭の夕食によばれたことがありましたが、その時のあたたかいふんいきを、今でも忘れることができません。父さん母さんはいうまでもなく、兄さんから末の弟まで、みんなが一日の最も楽しい時間を今、食事の前ですごしているという風でした。

私もこんなふんいきをどこかでみたことがあるようだが、と考えているうちに、ふとミサのことを思い出しました。そういえばこのときの父さんの姿は、いかにもやさしい、しかもおかしがたい威厳にみちていて、イエズスさまの風格でも思わせるようなものがありました。こどもたちの姿に目を細めて、ごはんをよそってやる母さんは、まるで聖体拝領をさせる神父さまのようにみえました。子どもたちはたのしそうにしきりとおしゃべりしたり、笑ったりしていましたが、あれはきっと子供たちの祈りであり聖歌だったのでしょう。父さんが静かに語る言葉は説教として日々子供たちの心をうるおしたことでしょう。

きくところによると、この家庭では夕食を「わが家のミサ」とよんで大切にしているそうです。なんと幸せな家庭でしょう。なるほどその気持が自然に私に伝わったのかもしれませんね、「私の心はもえ立ったではないか」。

カルワリオの救いの犠牲を、世の終りまでくり返させるために、イエズスさまが、全能の知恵をしぼって おつくりになったミサは、実は食事の形でささげられています。

毎日の家庭生活においても、食事は人の心を結びつける大切なものですから、ごミサはましてのこと私たちの心を聖なる美しいものにして、神さまのお心に結びつけるのではないでしょうか、食事がごミサのシンボルならば、そのごミサは天国でのだんらんの前味です。

教会も最近、ごミサの精神について、もう一度よく考えなおすように、私たちにつよくよびかけています。

でも日頃から、毎日の食事を大切にしている人なら、きっとごミサの本当の精神もわかるでしょうし、また、ごミサをよくわかる人なら、自分の家庭における食事をもっと大切にすると思います。

私はごミサについて考えるたびに、ある日のたのしい家庭の食卓を思い出します。イエズスさまを思わせるようなあのときの父さんの姿が、まぶたにきざまれて忘れることができません。

(鵜野泰年)

× ×
× ×

三月

三日(水) 灰の水曜日

今日から四旬節がはじまる。われらは頭に灰をうけて、人間のいのちのむなしさ、この世の楽しみのはかなさを黙想する。われらが求める幸福は、肉体とともに灰になるようなものであってはならない。

(七日(日) 四旬節第一の主日

「人はパンだけでなく、神の口から出るすべての言葉によって生きる」。

荒れ野で神がイスラエル人にマンナをふらせ給うたのは、ただいのちをながらえさせるためでなく、ご自分の全能の力を示して、神にのみ信頼させるためであった。真の幸福を与え給うのは、神おひとりであることを悟らねばならない。

一〇日(水) 四季の水曜日

ニニベの人たちは、ヨナのすすめに従って改心し、全住民が灰のなかにすわって罪のつぐのいの業をした。われらは、キリストと教会の切なるすすめをどのように実行にうつしているだろうか。

一四日(日) 四旬節第二の主日

改心とは、罪をすてて神に立返ることと。立返って神の美しい衣服をきせていただくことである。「神の聖旨は、あなたたちの成聖にある」。その理想のお姿を、われらはタボル山上の主イエズスに見る。

多久教会で堅信

一六日(火) 長崎で信者発見百周年記念祭はじまる。

(深堀司教御臨席)

一七日(水) 同記念祭第二日

長く孤児として苦しんできた日本の信者と、母なる教会との再会の日。聖母のおいつくしみに感謝をささげよう。

一八日(木) 教皇特使福岡へ。

福岡大神学院で叙階式

一九日(金) 聖母マリアの浄配および全教会の保護者聖ヨゼフ証聖者

「かれは、神からも人間からも愛せられ、その思い出は祝福されている。主は聖人と同じ光栄をかれに与え、かれを偉大なもの、敵にとっておそるべき者とし給うた」(今日の朗読より。)

教皇特使広島へ

二一日(日) 四旬節第三の主日

正しい道を進もうとすると、必ずこれをさまたげる者が出てくる。神の道を歩もうとすると、必ず悪魔がこれを阻止する。悪と戦うあいだ、われらは神から目をはなしてはいけない。

大阪で高山右近逝去三五〇年祭

二五日(木) 聖母マリアのお告げの祝日

中世期に「聖母マリアの四季の祝日」とよばれていたものの一つを、今日お祝いする。四季の祝日とは、春の聖母(三月二五日)、夏の聖母(八月一五日)、秋の聖母(九月八日)、冬の聖母(二月二日)である。

二八日(日) 四旬節第四の主日

場所と条件はまったく同じ、イスラエル人が荒れ野で飢えていた。モイゼは神にねがってマンナを得た。キリストは、自分の力をもってパンをふやし給った。

いずれも聖体の前徴である。

田川教会で堅信

第二バチカン公会議が決定、公布した典礼憲章は、つぎのように述べている。「母なる教会は、キリストを信ずる民が、聖なる典礼において、ゆたかな恩恵をより確実に得るように、典礼そのものの全般的な刷新をはかることを真剣に望んでいる」

ここにあげられた典礼の全般的な刷新の第一段階として、具体的にどのようにすべきかを規定したのが、昨年九月二六日付で発布された「典礼憲章の実施に関する訓令」である。

この訓令は、来る三月七日四旬節第一主日から発効する。

福岡教区でも日本司教団と全国典礼委員会の指針にもとずいて、典礼刷新を進めてゆくが、本教区の現状にかなう適切な指示を与えるために、教区典礼委員会が深堀司教によって結成され、すでにその働きをはじめている。

改革でなく刷新

典礼とはミサ聖祭、七つの秘跡、準秘跡、聖務日課をもってなされる神への公げの礼拝である。

いま教会はこの典礼の挙式法を改訂して、典礼全般を刷新としようとしている。われわれは刷新という言葉を理解しなければならない。

刷新とは改革ではない。これまでのものが全部なくなって、全く新しいものが生れでるのではない。教会の典礼、とくにミサ、秘跡について改革は考えられない。刷新はまた世間的な考え方や好みへの迎合ではない。

刷新とは、まず典礼のうち時代の変化に伴い変更した方がよいと思われる部分を、取り去りあるいは改善することである。典礼には、神が制定されたので決して人間が変えていけない部分と、変えてよい部分がある。この変りうる部分にメスを入れて、典礼にふくまれた聖なるものがもっとはっきり表われるようにする。これによって信者はこの聖なるものを一層やさしく理解し、もっと積極的に無駄なく典礼に参加することができる。

根本の理由

教会が典礼の刷新に真剣に取組む理由を、掘りさげて考えてみよう。

カトリック教会の典礼は、世間一般が考えるような単なる儀式ではなく、「信者が真のキリスト教精神をくみとる、欠けることのできない第一の源泉」である（憲章第14条）

もっと平たくいえば、典礼は信者が神の子として生きるために必要なめぐみと力をほどこし、キリストを通じて教会全体が天の御父に光栄をささげ、霊魂を聖化する。

だから教会は典礼をもっとも貴重な宝、重大な義務とみなす。と同時に信者をこのめぐみの泉に引きつけるとともに、信者がさらに進んで、積極的に、理解をもって近づきやすいように、配慮しなければならない。

では典礼の刷新から、どのような効果が生れるであろうか。

キリスト教生活が信者のあいだにますます成長し、生々と、充実したものになるであろう。それに伴って祈りや信心業の熱が高まり聖書や教理に対する理解がふかまる。

また信者の一致のきずなが強くなる。共同体のひとりとして共に祈り、ささげることにより、神の民の連帯意識がしみこみ、教会の内外の活動に協力して、布教への熱意がわく。信徒使徒職の力がここにゆたかに汲みとられる。

なお教会は厳格な一律の形式でしばられず、諸国と諸民族の特質が生かされ、多くの人に親しみのもてるものになるであろう。

どれが刷新されたか

典礼の刷新の進み具合は、各国各地方によって、いまは可成りの差がある。教会はさきの訓令によって基本的な規定と方向を打ち出しているが、非常に広範囲な幅と自由を与えており、例えば日本についていえば、全日本の司教団がローマ聖座の意向に従って種々の指針を示すことができる。各地の司教も自分の教区のためにある種の決定をすることが許されている。

日本の司教団は、最近「ミサ典礼に関する司牧指針」を発表している。同指針はかなり細部にわたってミサ挙式上の刷新を述べているが、その主なるものを二、三とり上げてみよう。

1、日本語の使用

三月七日からミサにあずかってすぐに気付くのは、ミサの祈のなかに日本語が多くとり入れられたことである。

これまでミサのあいだに司祭の口から日本語がきけるのは、説教のときだけであったが、これからは祭壇上の司祭から日本語の祈がきける。キリエ・グロリアだけでなく、書簡や福音の朗読、ある所では入祭唱なども日本語でとなえられる。これらの祈は司教団が作成してローマの承認を得たもの。

2、信者の方をむいて聖書朗読

聖書は日本語でとなえるばかりでなく、信者の方をむいてなされる。神の救いのみことばが、真に神の民に語りかけられるという感が強く出てくる。

なおこれはすべての教会ですぐに実施するというわけにはゆかないであろうが、司祭はミサを信者の方をむいて立てることもできることになった。（対面ミサ）。このミサでは祭壇の上のことが一同によく見えて、いけにえへの心の集中がもっとやさしくなる。

3、典礼文を信者も一緒に

キリエなどの賛歌、クレド（信仰宣言）主の祈などは司祭と信者が口をそろえて一緒にとなえ、またはうたわれることになる。ミサは共同体の祈であるという趣旨が具体化する。

4、信者も典礼に奉仕

典礼文を司祭と一緒にとなえることは、全信者が（侍者だけでなく）典礼に奉仕することである。

しかも男子信者は書簡とそれにつづく祈を、説教台や内陣から朗読することができ、解説の役も果すことができる。

典礼の刷新は日を追ってつづけられる。儀式は美しく簡素化され、日本語の使用がもっと多くなり、すぐれた日本的伝統も加味されてくるであろう。

× × ×

心と声をあわせて神を賛美

典礼の刷新と促進をめざす教会

刷新上の困難

主よ、われらは、たすかりのカスリを御身にささげ、御慈悲を願い奉る。

以上のような刷新には、予想された困難がいくつもあり、予期しないことも起ってくるであろう。

いまさし当っての困難は、パウロ六世教皇も指摘しておられるように、人間の心理面から生じる。長く親しんできた習慣をすてて、新しいものをとり入れようとするときに感じる抵抗感であり、形にならない不安である。

これはもっとも感情であるが、典礼刷新への動きはごく最近急に起ったものでなく、公会議にとり上げられるずっと以前から、徐々に賢明に準備されてきたものである。われわれは聖霊のお助けのもと全世界の司教によって決定されたことに信頼し、個人的な感情をのり越えて、進んで刷新に協力してゆくべきであろう。

もう一つの主な困難は、典礼文を各国の生きた、わかり易い言葉に移すことである。とくに日本語については、言葉の乱れがはげしいだけに飜訳に当る責任者の苦労は小さくない。しかしたとい不完全なものでも、経験と実行と時間を重ねてゆけば必ず立派なものが生れてくるはずである。

無理な日本語を使うよりも、ラテン語がよいという主張は、今の段階ではもういい出すべきではない。教会は言葉の不備から起るある種の損失よりも、さらに大きな効果をめざしているからである。それは典礼とくにミサへの信者の積極的参加である。

信者の積極的参加

すでに述べたように、典礼とくにミサ聖祭は神へ栄光をささげ人間の聖化のめぐみを求める教会のもっとも聖なる行為である。

この天よりの効果にゆたかに浴するためには、信者ひとりひとり神の民全員は具体的にどうしたらよいのであろうか。典礼刷新の意図にそうために信者のとるべき最良の手段はなんであろうか。

答えはすでに明白に与えられている。熱心と理解をもって積極的にこれに参加することである。

ミサにはただ列席するだけでは足りない。ミサのあいだ黙ったまま、見物人のような態度でいてはならない（憲章48条）。ミサのふかい意味を悟るように努め、神のみことばに耳をかたむけ、皆と一緒に祈をとなえ、聖歌をうたって、司祭と一つの心になって自分をキリストと共にささげ、聖体を拝領しなければならない（憲章11条）。

ミサの主役であられるキリストの聖心のなかに入り、キリストを通じて御父に栄光をささげる心構をもたねばならない。司祭が全教会の名において祈願をとなえると全員で「アーメン」ととなえなければならない。アーメンとは「全くそうです。そうでありますように」という意味で、心からの同意と承諾を表わすことばである。

信者のためのミサ通常式

教区典礼委員会は、教区内の信者のために、日曜また大祝日のミサのあずかり方の標準を決定して次のように発表した。日本語典礼文は全国共通のものを使う。

一、神のみことばの祭儀

1司祭入堂のとき
当日のミサにふさわしい聖歌をうたいはじめる（司祭が祭壇に上るときまで）。
司祭が祭壇の下でとなえる祈はラテン語、侍者がこれに答える。

2入祭唱
日本語でもよい。

3あわれみの賛歌（キリエ）
日本語で司祭と信者が交互にとなえる。
日本語またはラテン語でうたうのが非常に望ましい。

4栄光の賛歌（グロリア）
日本語で、第一節を司祭が先唱し、司祭と信者であとをつづける。
第一節が終ったあとを、信者が二つに分れて交互にうたい、またはとなえることができる。

5入祭祈願（集禱文）
司祭は、日本語で信者にあいさつし、信者が答える。
ミサ典書の前で、司祭がオーレムスととなえ、つづいて司祭か男子信者が小さな解説をし、一同はしばらく黙禱、それから司祭がラテン語で祈願文をとなえる。
終りに信者がアーメンととなえる。

6書簡の朗読
信者は着座、司祭は一同の方をむいて日本語で朗読。
朗読を祭壇上からするか、説教台、または内陣からするかは自由。
終りに、侍者だけが「神に、感謝」ととなえる。
書簡は、男子信者が朗読することもできる。この場合、説教台か内陣から行なう。

7昇階誦、アレルヤ誦など
書簡を朗読した場所で、日本語かラテン語で。
祭壇上でとなえるなら、祭壇の方をむいて。祭壇以外でとなえるならば、信者の方をむいて。

8福音の朗読
司祭が日本語でとなえる。一同起立。
場所は、書簡の場合と同じ。
最初に二つの対語の祈があるが信者一同でこれに答える。
朗読が終ると、侍者だけが「キリストに賛美」ととなえる。

9説教
信者が列席する日曜日、大祝日のミサでは必ず行なわれる。

10信仰宣言（クレド）
日本語で、司祭が第一節を先唱し、司祭と信者であとをつづける。

二、聖体祭儀

11奉納（これまでは奉献とよばれていた）
司祭のあいさつに信者が答え着座。当日にふさわしい聖歌をうたう。
奏納唱はラテン語か日本語。
このあと司祭はいくつかの祈をラテン語でとなえる。

12奉納祈願（密誦）
これは小さな声でとなえられていたが、これから司祭はラテン語で大きな声でとなえる。
終りに信者はアーメンととなえる。
しばらく沈黙。

13叙唱（これまでは序誦となっていた）
最初の三つの対話句は、司祭と信者が交互に日本語でとなえる。
叙唱本文はラテン語。
感謝の賛歌（サンクツス）は、日本語で、司祭が第一句をとなえこの祈をラテン語か日本語でうたうのが望ましい。

14典文の終りに
典文はこれまで通り、司祭がラテン語で、小声でとなえるが、典文の最後の部分、すなわちペル・イプスムではじまる栄誉たけは、司祭が大きな声でとなえ終りに信者がアーメンととなえる。

三、聖体拝領の祭儀

15主の祈（主禱文）
この祈りの前文も本文も後文も日本語でとなえる。
前文をまず司祭がとなえ、「天にまします…」以下の本文を司祭、信者全員でとなえ、後文はまた司祭だけが大きな声でとなえる。最後に信者がアーメンととなえる。
主の平和を求める対話句も日本語。

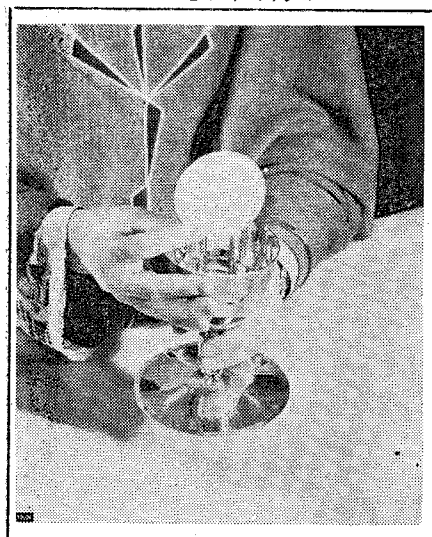
16平和の賛歌（アニュス・デイ）
日本語で、司祭が第一節をとなえ、司祭、信者があとをつづける。
これをラテン語または日本語でうたうのが望ましい。

17信者の聖体拝領
信者に聖体を示しながらとなえる祈は、最初の部分を日本語で司祭が先唱し、あとの部分を三回、司祭、信者がくり返しとなえる。
各拝領者の前で、司祭は聖体を示しながら「コルプス・キリスチ」ととなえ、信者は「アーメン」と答え、信仰を表明する。
そのとき司祭は十字架のしるしをしない。
聖体拝領がつづくあいだ、これにふさわしい聖歌をうたうとよい。

18聖体拝領唱
司祭がラテン語または日本語でとなえる。

19聖体拝領祈願
入祭祈願の場合と同じ。
祈願文はラテン語
終りに信者がアーメンととなえる。

20閉祭
司祭は信者にあいさつのあと、「ミサ聖祭を終ります」といい信者は「神に、感謝」と答える最後の祝福は日本語。



かれによって
かれとともに
かれにおいて
全能の父なる神よ
聖霊との一致において
御身はすべてのほまれと
光栄とをうけたもう・
世々に至るまで
アーメン

聖心の使徒

（昭和四十年三月号）

四旬節……荻原　晃
三月の意向　現実と夢と……今田　健美
今も布教国に迫害が行なわれている（三月の布教の意向）……粕谷　源蔵
黙想　イエズスの聖心の連禱……河野　義裕
信者の発見……
写真特集　信者発見―百年……
受難の記……守山　寛一
二つの十字架……片岡　弥吉
病める友へ　奮発心…十字架のイエズス修道女会
読書について……シュエネンス枢機卿
聖書の時間　ヨゼフの法律上の子、神の子……イエズス・キリスト
……J・モンステルレ
ポスト……
新本めぐり……
購読会員費（〒共）
一カ月　五七円
一年　五七〇円

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾町七

真理のおしえ

(5) 聖体の秘跡

Ⅰ霊魂の食べもの

1、いのちのパン

真理のおしえ

(1) マンナをもって民を養い給う

神は、エジプトから約束の地にイスラエル人をみちびく長い旅路のあいだ、荒れ野でマンナというふしぎなパンをかれらにめぐまれた。

出エジプトの書一六章1―16、6、11―15、31、35の朗読

神の民とよばれるかれらは、せっかく奴れいの状態から救い出されたのに、パンを好きなだけ口にすることができないというだけで神に不平をもらしはじめた。

神はモイゼの願いをききいれ、毎日の食として天からマンナを降らせ給うた。これを食べてかれらは、約束の地まで歩きつづけることができた。

この歴史的事実を頭にいれておいて、神の御子イエズスのつぎのおことばに耳をかたむけよう。

「私はいのちのパンである。あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが、死んだ。しかし天からくだるパン、それを食べる人は死なない」（ヨハネ六の48―50）

(2) 勇気を失ったエリア預言者をはげまし給う

エリア預言者は、カルメル山上で行なった奇跡のゆえに、イエザベル女王からいのちをねらわれた列王の書上一九章1―8の朗読

エリアは逃亡につかれはてて、もう死んだ方がましだと思った。しかし神は天使をつかわしてパンを食べさせられたので、かれはこれに力をえて聖なるホレブの山までたどりつき、そこで神にお会いすることができた。

キリスト信者もエリアと同じように、神をめざして旅をつづける者である。しかし旅の途中で落伍しないためには、すでに与えられている神のいのちを新たにし、イエズスのあとについて進む力を与えるパンを必要とする。

イエズスは申される。「天からのパンをあなたたちに与えたのはモイゼではない。私の父があなたたちに下さるのである。神のパンは、天から下って世にいのちを与えるものである」（ヨハネ六の32―33）

(3) イエズスは五千人に食を与え給うた

イエズスはガリラヤを廻って教えをのべ、数々の奇跡を行なっておられた。

マルコ聖福音書六章34―44の朗読

このとき五千人に対して五つのパンと二匹の魚しかなかった。イエズスはこれをもってみなが満腹できるようにふやしになった。しかも残りを集めると、一二のかごに一杯になった。人々はこの奇跡をみて、イエズスが神のお力をなそえた方であることを知り、信仰をふかめた。

イエズスはおおせられる。「私は天から下ったいのちのパンである。このパンを食べる人は、永遠に生きるであろう」（ヨハネ六の51）

われらの答え

人は食べものなしで生きることはできない。信者が神の子として生きるため、またキリストのあとに従って御父のもとにまで歩みつづけるために、特別の食べものをとらねばならない。神が与え給うパンを口にしなければならない。

神はいまもいのちのパンである聖体をもって、われわれを養って下さる。これがなければ、洗礼と堅信によって与えられた新しい神のいのちを保ちつづけることは不可能である。神のパンに生かされない者は、長くしないうちに力がおとろえ、罪の荒れ野に屍をさらすことになるだろう。

決心＝いのちのパンの神秘的教えを理解するよう努めたい。

2、いのちのパンのお約束

真理のおしえ

(1) いのちのパンについての説教の前日のこと

その頃イエズスは使徒たちとカファルナウムの町をはなれ、チベリアデ湖の向う岸の丘にゆかれたしかし群衆が遠い道のりをいとわずに押しよせてきた。かれらは食べものをたずさえることも考えなかったので、主は奇跡をもって人々の飢をいやされた（上述のパンの増加の奇跡）。かれらはふしぎなお力に感嘆し、主を王にしようとした。イエズスはかれらの手を逃れてひとり山にかくれ給った（ヨハネ六の1―15）。

夕方になって群衆が散ったあと使徒たちは、主をあとに残したまま舟にのり湖を渡ってカファルナウムにもどろうとしていた。もう暗くなって強風が吹き、大波が立ちはじめた。力の限り舟をこいでやっと二、三キロ沖に出たときかれらはイエズスが水の上を歩いて近づいてこられるのをみた。かれらはただぼうぜんとしたが、主が舟におのりになると、舟はすぐ目的地に着くことができた。

使徒たちは、目撃したふしぎな出来事をその夜いつまでも思いかえしていたことだろう。しかしその翌日にはさらに驚くべきことが待っていた。

(2) ふかしぎな説教

夜が明けると群衆はまたカファルナウムに集ってきた。主は長い説教のなかで、終りのないいのちを与えるために、ご自分を食べさせようといい出された。

ヨハネ聖福音書六章48―58の朗読

イエズスのお話は、かれらの目には余りに常識外れな、突飛なものにうつった。生きている人の体を食べ、その血を飲ませるとは一体なんということだ。

人々はイエズスのおことばにすっかりつまずいてしまって、イエズスをはなれ、あとについてこなくなった（ヨハネ六の66）。奇跡をみたときのあの感激は、あとかたもなかった。

(3) 使徒たちの確信

所が使徒たちは、前日の奇跡やその他イエズスが自分らの前でなされた多くの奇跡を思い出していた。かれらにしてもイエズスがご自分の体を食べさせ、血を飲ませるというのが、どうしてありうることなのか解決できていたのではない。

けれどもイエズスがすべてをおできになること、神のお力をそなえた方であることを、実際に見て知っていたので、主の教を全部すなおにうけ入れたのである。だからイエズスが「あなたたちも去ってゆきたいか」とおおせられるとペトロが一同を代表して「主よ、私たちは誰のところに行きましょう。あなたは永遠の生命のことばを有しておられます。また私たちは、あなたが、神の聖なるお方であることを知っていますし、信じています」と答えた。

かれらはイエズスの教の意味を理解できなかったが、神からつかわされたキリストがそれをおおせられたのであるから、信じたのである。

これから数か月のち、最後の晩さんの席上でかれらははじめてこのときのお話の意味をわかることができるのである。

われらの答え

聖体は、神がわれわれに示された大きな秘密である。数学を理解するような具合に神の秘密をつかむことはできない。

しかしわれわれは、天の御父がその御子イエズスを通じて教えられたことを、いくらか知ることができる。

主は、洗礼と堅信の秘跡の聖寵によって、われわれの知恵を準備し、照らし、神の子として生きるに必要なことを、理解できるようにして下さったのである。

使徒たちと同じようにわれわれも、信仰をもって「あなたは永遠の生命のことばを有しておられます」ということができ、聖体のうちにイエズスを礼拝するのである

決心＝聖体の秘跡を知らせ給うたことを主に感謝しよう。

3、主のご命令

真理のおしえ

(1) 聖木曜日の夜

死去の前日（聖木曜日）イエズスは、エルザレムに使徒たちをお集めになった。ユデヤに古くから伝わる宗教的な習慣に従って、過越（すぎこし）のお祝いをなさるためである。

過越の祭とは、小羊の肉を食べながらモイゼの時代にイスラエル人がエジプトの地から、約束の地に出発したことを記念するものである。

そのとき使徒たちは、イエズスが敵であるファリザイ人の手に捕えられる危険にさらされておられるのを知っていた。しかしかれらは、主が神以外に誰ももたない偉大な能力をもって多くの病人をいやし、死者をよみがえらせ給うたことを、知っていた。

ある日三人の使徒たちの前で光りかがやくお姿に変り、天の御父から最愛の御子とよばれ給うたことも憶えていた。

また悪魔の力をも封じることも、自然を支配する力ももっておられることも知っていた。

(2) 主のご命令

過越の食事のあいだ、主は最初のミサをささげ、はじめてご自分を食べものとして使徒たちにさずけられた。

ルカ聖福音書二二章19―20の朗読

使徒たちは、イエズスが神としてのお力をおもちであり、決してうそをいわれないと知っていたので、主が「これは私の体である」とおおせられると、ただのパンとしかみえないものがイエズスのお体に変り、また「これは私の血である」とおおせられると、杯のなかのぶどう酒がイエズスのおん血に変っているということを、信じることができた。

今こそかれらは、主が「私の肉を食べ、私の血をのむ者は永遠の生命を有する」（ヨハネ六の54）とおおせられたふしぎなおことばの意味を悟ることができたのである。

そしてかれらは、主がこの晩さんで「私の記念としてこれをおこなえ」と、つよくご命令されたことに、特別の注意をはらった。

(3) 教会は主のご命令に従った

主のご復活のあと、使徒たちがまず、つぎに司祭たち（使徒から主のご命令を実行にうつす権能をさずけられた者）は、イエズスが最後の晩さんのときになされた通りを、忠実にくり かえしていった。

今日でも教会の司祭は、主のご命令に従い、主が最後の晩さんでとなえ、行なわれた通りをくりかえしている。

ではイエズスはなにをなされたのであろうか、

主は食卓の上にパンとぶどう酒をおき「これは私の体である。これは私の血の杯である」といわれご自分のお体とおん血を使徒たちに拝領させられた。

今日教会でミサ聖祭が行なわれる度に、司祭はパンとぶどう酒を祭壇の上におき、これは私の体である。これは私の血の杯であるとなえる。そしてこれを信者に拝領させる。

こうして教会は主のご命令を果しているのである。

われらの答え

イエズスは神であられるから、人間の想像もおよばないことがおできになる。

われわれは、司祭がミサでとなえる主のおことばを信仰とよろこびをもって聞き、聖体のうちにまします主キリストを礼拝せねばならない。

決心＝司祭に心をあわせてミサにあずかるように努めよう。

キリスト教的象徴とその意味

星

聖ヨハネは黙示録にこう記している。「それから壮大なしるしが天にあらわれた。太陽に包まれた婦人があり、その足の下に月があり、その頭に十二の星の冠をいただいていた」（一二の1）。

万民の救主の母となるべき、光栄をまとった婦人のかがやかしい示現のなかに、神の教会のシンボルが見られる。

この示現は、われらの共償者・神の母マリアにもあてはめられる。アルマ・レデンプトーリス・マーテルの聖歌のなかで、マリアは、ステラ・マリス（海の星）とよばれておられる。われらは天のふるさと、安全な港にたどりつくまでは、危険な誘惑の波間から海の星なるマリアに嘆願をくりかえすのである。

暁の星、われらのために祈り給え。（聖マリアの連禱）

星はキリストの御来臨とも関係をもっている。御降誕と御公現の際に星があらわれている。

聖母マリアの絵でもっとも古いのは、二世紀初頭にさか上るカタコンブのフレスコであるが、マリアと御子イエズスのお姿の上の星は、旧約のこの預言が成就したことを示すものである。

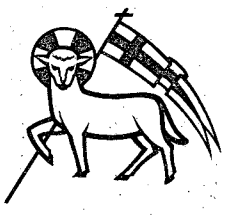
「私は眺める。ヤコブから一つの星がのぼり、イスラエルから一つの王笏が立つのを」（民数の書二四の17）。

神の小羊

これは救主のシンボルとしてはもっともすばらしく、もっとも親まれているものの一つである。その起原は非常に古い。

小羊は、旧約時代にいけにえのささげ物であった。預言者たちは救主キリストが、全人類の罪のゆるしのために殺される小羊であると、預言していた。

新約の時代がはじまると、洗者ヨハネは、人々が待ち望んでいたメシアの到来を知らせて、イエズスを指さし、「世の罪をとりのぞく神の小羊を見よ」（ヨハネ一の29）といった。



教会はミサ中にこれを記念して聖体拝領のまえに「神の小羊、世の罪を除き給う主よ、われらをあわれみたまえ」と祈る。

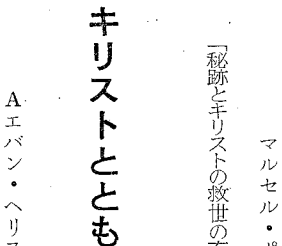
初期のキリスト教絵画には、小羊だけが描かれてあるが、後には岡の上に小羊が立ち、そこから四福音書を意味する四つの川が流れ出ている絵もあらわれる。また小羊が黙示録にある通り、七つの封印のある本の上に立っている図もある。なお傷ついた小羊の血がカリスに流れ入る図も見られる。

本図のように、十字架の勝利の旗をもつ小羊は、罪と死にうち勝って復活された救主の象徴である。

教皇の紋章

三重冠は、教皇が特別に壮厳な儀式や行列のときにかぶる冠である。それはこの世における権力を意味する。今の形になるまでには幾世紀もの歴史をへている。

教皇三重冠が初めて文献にあらわれるのは、コンスタンチヌス教皇（七一五年逝去）の伝記のなかである。今日のものように、二つの垂れ下りのついた三重冠で、もっとも古いものは、ベネヂクト一二世教皇（一三四二年逝去）の彫像にみられる。



交叉した二つの鍵は、主が聖ペトロを全教会の最高牧者に任命されたときに、さずけられた権能を象徴する。

「私はあなたにいう。あなたはペトロである。私はこの岩の上に私の教会をたてよう。地獄の門もこれに勝てないだろう。私は天の国の鍵をあなたに与えよう。あなたが地上でつなぐものはみな天でもつながれ、あなたが地上でとくものはみな、天でもとかれるであろう」（マテオ一六の18―19）。

黙想は救霊のための貴重な手段である。なぜならば、忠実に黙想をするものは、決して罪の中にとどまることができないからである。

ベトレヘムより カルヴァリオへ
アベル・ラム著　中央出版社　¥三二〇
誰にでもわかる主イエズスのご生涯の黙想の書

神との親しさ
聖マリア、マグダレナの著　ドン・ボスコ社　¥五五〇
七旬節から聖土曜日までの典礼にしたがって書かれた内的生活の黙想集

主語り給えなんじのしもべ聴く
マルセル・エルッサン著　中央出版社　¥六〇〇

十字架生活
「秘跡とキリストの救世の玄義との関係」
マルセル・ポリ著　中央出版社　¥一五〇

キリストとともに―ご受難―
Aエバン・ヘリスタ著　ドン・ボスコ社　¥四〇〇
信仰生活のつきない泉である救い主の十字架を多方面から黙想することを教える。

大名町聖パウロ書院
岩田屋六階 セント・ポールコーナー

聖書の国 ㉑

平山高明

ガリラヤ人

新約聖書には、サマリア人の他にガリラヤ人という名が出てくるが、かれらはどんな人々なのだろうか。ヨズエに率いられてカナアンに侵入したイスラエル人のうち、アゼル、イスサカル、ネフタリ、ザブロンの四氏族がこの北辺の肥沃な地に住みついた。

東西二〇粁、南北四〇粁のこの小さな地域は、ガリラヤの丘、チベリアデ湖、エスドラエロン平野と変化に富み、オリーブ、小麦ぶどうなどの農作物もゆたかで、住民の生活は安定していた。

しかし東西交通点でもあったのでいつも強力な他民族の侵入口になっており、アッシリア、バロビニアの強国はここを征服して、多くの異邦人を送りこんだ。この移民らは残っていたイスラエル人と交わり、土着して次第にユデヤ化し、紀元前二世紀マカベ兄弟の熱心な運動の結果、キリストの時代には全くユダヤ化していた。

△　△　△

ガリラヤという名の起原は「寄り集り」という意味であった。かれらは羊と羊毛、ぶどう酒、ろばなどの発音を区別できなかったので、すぐにお里が知れた。ペトロがカイファの館で人々から見とがめれたのもそのためだった（マテオ二六の74）。

ユダヤ人らはかれらを無学の田舎者扱いしているが、実際は素朴な農夫や実直な漁夫たちで、勤勉な働き手であり、生活はゆたかでさえあった。ユダヤには「財を作るには北にゆけ、学問するには南にゆけ」という諺があるが、これには軽蔑と妬みと憧れが隣り合わせになっているのが感じられる。

ガリラヤ人はマカベ書にも見られる通り、子供の時から勇気があり、信仰の敵に対しては恐れを知らぬ人々であったが、そうかといって偏狭でなく心の広い人々であった。ユダヤ人はかれらが異邦人と接触するので軽蔑はしていたが、イエズスが福音をのべるためにお選びになったのは、ガリラヤの農夫やチベリアデ湖畔の漁夫らだったのである。

ただしかれらが霊的な神の国に地上的、現世的利益を期待する傾きがあるのをみられて、慎重に神の国の福音を説き明かしながら、その思いを霊的なものへと高めてゆかれた。

ユダヤ人

この選みの民がヘブライ人とかイスラエル人とよばれ、その名にそれぞれ特有の歴史的起原とふかい意味があることを、私達は前に見たが、しかし一般にはこの民をユダヤ人の名でよんでいる。この名が聖書のなかに出てくるのは旧約聖書のなかでもずっと後代になってからである。

人々はユダヤ人というと「ヴェニスの商人」の戯曲から、残忍な金貸し、商売人を想像するが、その名の起りはユダの子孫ということで、元来それは「律法に忠実な人々」との響きを言外に含んでいたのである。それはかれらがバビロニアの虜囚生活から帰国して以来である。

ユダヤの住民はナブコドノゾル王によって王国を滅ぼされ、バビロニアに捕われていった間、パレスチナに残留した北部の十部族が多かれ少なかれ異教の影響をうけたのに、ユダヤ人だけは異国の地で信仰と掟を無きずに守り通したのである。しかも帰国後エルザレムを中心として信仰の純化に努め侵入した迷信と戦い、異邦人のユダヤ化に献身した。

△　△　△

ユダという名は元来その名からすれば、ヤダ、即ち私は神をほめたたえましょうという意味である（創世紀二九の35）。夫ヤコブからいつもうとまれ、妹ラケルの風下に立たされていたレアが三番目の男子をめぐまれたとき、神に感謝して「私は神をほめたたえます―ユダ」と名づけたのに由来する。そのユダの子孫から、唯一の真の神を拝む信実な「ユダの民」が出たことは、なにかふしぎなはからいを見るような気がする。

△　△　△

私達が聖書をよむとき、度々そのなかでユダヤ人の異邦人に対する敵対心や憎悪のはげしさに面して、驚かされることがある。しかしそれをもって直ちにこの人々が根っから排他的な偏狭な民だと、きめつけてはならない。

かれらが安息日毎に会堂で耳にする聖書は「他国人を困らせたりしいたげたりしてはならない。あなたたちもエジプトの国で他国人であった」（出エジプト二二の20）ことを思い出させて、異邦人への愛徳を命じている。

事実異邦人であるモアブの嫁ルトとユダヤ人の姑との美しい愛の物語、ベトレヘムの人ボウズがこの異邦人の女に示した寛容さ、あるいはかれらの祝福された結婚とこの異邦人の女の子孫からダビドが生れることを述べたこの物語を、ユダヤ人はくり返えし喜んで聞いていたのである。またヨブ記には、神からもっとも愛されていた義人ヨブが異邦の地フスの出身者であったと述べられており、また聖書には、ニニブ人の堕落した生活を改心させるために、神から召されたヨナが異邦人の改心を心よく思わないで、途中から逃げ出すくだりがある。所が暴風雨にあい海に投げこまれて怪魚に呑まれる事件があって、結局はニニブ人の改心に終るヨナの物語のなかには、偏狭な人種的差別や偏見とかは全く見当らない。むしろユーモアを交えてすべての人間が神の子であるとの普遍主義が見出されるであろう。

かれらが異邦人をきらったのは血を異にするからでなく、それらの民が惨酷な人身御供を捧げたり不道徳な宗教行事をしていたからである。迷信や偶像崇拝を誘惑として恐れていたのである。

△　△　△

ユダヤ人達はある異邦人が唯一の神ヤーウェへの信仰を抱き、モイゼの律法を守るなら「神を畏れる者」として遇し、神殿にはかれらのために特別の庭をもうけた。とくに割礼をうけた者は、全く兄弟としてうけいれるべきであると律法は命じていた。

ユダヤ人の歴史のなかには、この周囲の民との戦い、偶像崇拝の誘惑との戦いが、神における兄弟としての普遍主義と微妙にまじりあって、綾をなしていたが、実際かれらにとって隣人愛を自分の同胞、少くとも割礼をうけた人々の枠の外にまでひろげることは、むつかしかったのである。

主イエズスは、よきサマリア人の喩をもって、愛すべき隣人とは誰までを指すのであるか教えられ自分の敵をも愛するようにとの手本を、身をもって十字架上で示しユダヤ人と異邦人という垣根をとり除かれたのである。

三月の黙想

四旬節は、特別の苦業と断食、犠牲と祈のときである。救主キリストが公生活開始にあたり、荒れ野で四〇日間を断食と祈に過されたことの記念であり、またご復活の大祝日への準備期間である。

（一）　特別の苦業と犠牲。これには二つの道がある。

一つは、神の掟に反する事柄に対する犠牲。たとえば過度の好奇心、危険な想像の動き、飲食の度をすごすこと、不きげん、ゆきすぎた自己愛や快楽をおさえることである。

この種の犠牲はいつ、どこでも実行せねばならない。毎日これに心掛けなかったら、霊魂の最後のたすかりは、大いに危険となる。信者生活が活気を失い、枯れしぼむ。善に対する習慣が姿を消す。われわれに必要なこの種の犠牲の砦がくずれると、はげしい誘惑にさらされ、悪魔がわがもの顔に霊魂のなかを横行して、罪をさけるのがほとんどできなくなる。経験から誰にも明らかである。

犠牲のもう一つの道は、それ自体いいものを、もっとねうちのあるもののために捨てること。

心のしっかりした父母は、家庭の幸福や子供の教育を考えて、いつも色々のことを進んでひかえ慎しむ。受験生やスポーツ選手はいい成績をおさめるために、欲しいものもとならない。

自分に死ぬとは、この第二の道を指している。キリストになって神のために生きようと、堕落した人間本性の勝手な欲望に、致命的なパンチを加えるのである。

もちろん犠牲が目指すのは、殺すこと、捨てることでなく、生きること、得ること、うけることである。よりすぐれたもの、キリストとともに生きる聖なる熱心な生活を手に入れるために、他のものを犠牲にする。

「キリストと共によみがえったのなら、上のことを求めよ…」（コロサイ書三の1―2）

（二）　生活は戦いである。われわれは一人残らず、男女、老若の別なくキリストの兵士として第一線に立つ。いま教会は全軍の指揮者として、この四旬節のあいだわれわれの訓練に当る。めざす敵は世俗と肉欲と悪魔である。

新約聖書を手にして、コリント前書第九章の24節―27節を読んでいただきたい。

（三）　日本ではきびしい大斉や小斉は免除されている。しかし深堀司教様は、四旬節中に苦業と犠牲と祈の精神まで免除しておられない。超自然的な意向をもって、この精神を生かすようつよく促しておられる。

具体的な実際的な方法をもってこの精神を身につけるよう努めたい。ある種の飲食への欲、ぜいたく、自己愛、悪しき好奇心を思い切って追放しよう。つぎに、平日にもミサにあずかり、仕事の帰りに聖体を訪問し、教会での黙想会を欠かさず、十字架の道行などの信心業を果し、主の御受難を黙想し、できるだけ家庭でもロザリオをとなえるなどによって、四旬節の精神を深めてゆこう。

犠牲の二つの道

弟子はその師に勝る

―コント―

勝ってよろこぶというのが世の常でありますが、負けてよろこぶ人だってあるのですから世の中はまことに面白いものだといわなければなりません。

音楽すきな私は先日マイフェア・レディーというミュージカル映画をみにゆきました。

内容については知らないまま、ミュージカルとは何ぞやという音楽本位の興味だけで行った私も、やがてそこに表わされていた考えに全く魅惑されてしまいました。ある男がおそまつな女を面白半分に貴婦人に仕立てあげようとした。ところが男の予想に反して身も心も立派な貴婦人になってしまって、かえって男の方が思わぬ結果に目をみはるというすじのものでした。私はギクッとなりました。まるで自分が指摘されたように思えたのです。自分が必死になって（?）ほうとうむすこを改心させようとしているうちに、いつのまにか自分よりはるかにすぐれて立派になっているのに気がつき、はずかしさのあまりいそいで自分の姿をかくそうとしたことの何度あったかを今になって思いあたるからです。まけはまけでも何と快よい敗北でしょう。

ああ幸せなる敗北よと叫びたくなるのは私だけでしょうか。

ある年老いた司祭がいました。タバコがすきで、まずミサの時と食事の時以外はパイプを手からはずしたことがないくらいで、人がポパイ神父様とからかっても「わしゃ信仰とタバコだけはやめられんのじゃ」といっていました。ところで自分の受けもちに一人の、それはそれは人のよい男がおりました。が残念なことに、この男は信仰はやめても酒だけはやめられんという方で、司祭にとっては仕末におえぬ大敵でした。おまけに調子をはずせばあたりかまわずどなりちらし、イエズスさまにまでからみついてくるという、ごく小さな欠点があったため、知人、友人、親戚はいうにおよばず、子供達からもけいえんされていました。

迷える羊を探すべく使命を常に忘れなかったこの老司祭は「不孝な子ほど可愛いい」のたとえにあるように、男のさびしそうな心境が目に浮ぶようで、ついあわれをもよおしがぜん男の改心のために戦おうというファイトに燃えあがりました。かれはまず祈りのうちにその作戦をねりました。いつのまにか司祭の手からパイプの姿がこうぜんと消えてしまったのに果して何人の人が気づいたでしょうか。しかしその悲痛な顔をみていかに苦しんでいるか心ある人であればすぐにその理由がわかったにちがいありません。

ところが以心伝心というか、誰よりも先にこの老司祭の苦しみがわかったのが実はその男だったのです。かれの身辺からもいつのまにかアルコールの匂が消えていました。二人で戦ったのです。どなり合い愛し合い、つかみ合い助け合い、ののしり合い祈り合い、それはそれはすざましい戦いでした。悪戦苦闘の結果、勝敗は決まりました。司祭の方が負けたのです。

「やっぱり信仰とタバコだけは死んでもやめられんわい」と老司祭がいえば、男は「酒はやめても信仰だけはやめません」とけなげな決意。

「しかしな、わしが今までやろうとして一度も果せなかったことをおまえのおかげでしばらくでもやりおおせたのだと思えば、わしのほうこそ感謝せにやならん、おもしろいもんぢやな、ひとを助けようとして実は自分が助けられていたとは……ウワッハッハ」。

「神父さま……ありがとうございました……」あとは聞くも涙、語るも涙。

その後のかれが人もうらやむほどの熱心な信者になったことはもとより、子供を二人も聖職に捧げるようになったことも、あるいは当然のなりゆきだったかもしれません。

戦い敗れた老司祭のいかにも満足そうな顔から、ふたたびほのぼのとした煙がたちのぼりはじめました。

きりぎりす

四方山話し

なでしこ

いろりを囲んで、または火鉢に手をかざし乍ら、何ということなしに語り合う四方山話し、そんな物にとんと御縁のうすくなった昨今、

朝から晩までビジネス、ビジネス、ビジネスオンリーのわびしさをかこっていた矢先、ふとした事から遠来のお客様をおむかえすることになった。

玄関先へその方をお出むかして、目と目がふれ合ったとたん、何かがピーンと通じ合う気持がして、この方なら、お座敷でなく、応接間でなく、そうだ火鉢のある茶の間へお通ししようと、赤ん坊の行李ベッドのある部屋へ御案内した。「あら、ここがいいわ、赤ちゃんもいらっしゃって」と始めての御挨拶もそこそこに、何となく語り出した四方山話し、語り合っている中に時代といい環境といいあまりにも一致しているのに驚き且よろこび合った。果ては親同士が陸軍士官学校第十一期生で同時に日露戦争に出征し少尉で行って中尉でかえり、凱旋後大尉になった昔話しにまで延長してお互様に父が生きていたらどんなにどんなによろこぶでしょう、と、丸一日たのしく心ゆくまでかたり合った。何ということない語り合いの中に何十年も鬱積していた妻の座のなやみもどこかに四散して行ってしまった様で、三日目博多駅でお別れする時お互にいい休日でございましたねとよろこびあった。

決してカトリック信者さんでないその方は神様は目に見えない糸で結んでいらっしゃるのね只めぐり合う時期ね、人間には選べないけど、神様のおはからいで、こうしてお目にかかれたのね、とよろこんで下さった。

私は、何か大きな天主様の御力に引きよせられた思いが背後に迫った。

娘とあちらのお嬢様とは同じ大学の先輩後輩の間柄で、同じ寮で起居して以来、四、五年の深いおつき合いなのに、親同志は遂ぞお目に掛る機会もなかったのに。

古い歴史・新しい内容

コンサイス英和辞典（改訂版）　革　五五〇円　七三〇円
コンサイス和英辞典（改訂版）　革　五〇〇円　六八〇円
コンサイス英英辞典（改訂版）　革　六五〇円
デイリーコンサイス英和辞典　革　三〇〇円　四三〇円
新クラウン英和辞典　縮刷版　五五〇円　六二〇円
ジェム英和・和英辞典　D版　八五〇円
最新明解英和辞典　大型版　一〇〇〇円
初級クラウン英和辞典　三八〇円
初級コンサイス英和辞典　二五〇円
初級コンサイス和英辞典　二〇〇円
三省堂　独和新辞典　七〇〇円
コンサイス独和辞典　六〇〇円
コンサイス仏和辞典　六〇〇円
コンサイス露和辞典　八五〇円
日西辞典　三、〇〇〇円
商業英語活用辞典（増補版）　七五〇円
新英文法辞典　一、六〇〇円
英語慣用法辞典　一、八〇〇円

辞書は三省堂

辞海　縮刷版　背革特装版　一、三〇〇円　三、〇〇〇円
新版広辞林　一、四〇〇円
明解古語辞典（新訂版）　六〇〇円
明解国語辞典　四八〇円
三省堂国語辞典　四五〇円
三省堂小学国語辞典（改訂版）　三五〇円
大明解漢和辞典　九〇〇円
明解漢和辞典　四五〇円
模範六法全書　六七〇円
明解六法　二〇〇円
学習百科事典（新版）　一、二〇〇円
明解日本語アクセント辞典　八〇〇円
書道六体大字典　一〇、〇〇〇円

三省堂　福岡出張所
住所名変更　福岡市白金一丁目三街区一号
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

1965年福岡司教四旬節教書

典礼の刷新について

神と聖座のお恵により立てられた、福岡司教深堀仙石衛門は、四旬節にあたり、本教区の司祭、修道者、信者のみなさまに挨拶と祝福を送ります。

祈りと犠牲の模範

四旬節は祈りと犠牲の時であることは、みなさまよくご存じの通りであります。祈りとは神のお心とふれることであり、犠牲とは私達のもっている何か大切なものを神にささげることであります。自分をささげながら神のお心のうちに入ろうと努めることは、神への礼拝と愛の表われであります。

四旬節を迎える私達の目の前に救主キリスト様が立っておられます。ご自分も祈りと犠牲をもって御父を礼拝し、御父の思召しに死ぬまで愛の従順を実行なさいました。今年の四旬節にはまた別の模範も与えられています。長い試練のなかに信仰を守り通した長崎の古い信者達、神のために地位と名誉と祖国を捨てた高山右近であります。いずれも私達の信仰の祖先であり、日本の教会が世界に誇りうるまことの英雄であります。

みなさんがこれら生きた模範に勇気づけられてこの四旬節をすごし、救主キリスト様と母なる教会に対する信仰の精神がみなさんのうちに力づよくよみがえることを希望してやみません。

典礼の刷新

新しい生活にむかって第一歩をふみ出す今日、四旬節第一の日曜日に、実はもう一つ私達に目新しい出来事が起っています。それは今までとは違った挙式法によってミサ聖祭がささげられることであります。第二バチカン公会議が最初に決議し発布した典礼憲章が、具体的に実施に移されたのであります。これからはさらにミサ聖祭だけでなく、七つの秘跡をふくめて典礼全般が改正されてまいります。

この度のミサの変更は、確かに前例のないほどに大きなものであります。司祭が信者の方をむいてミサをささげたり、ミサのある祈りを日本語でとなえたり、司祭と信者が一緒にとなえたりすることは、多くの人にとって全く予想もしなかったことでありましょう。しかしみなさんは、ミサ聖祭の形の変化に気をとられて、ミサ本来の意味までも変ったと思ってはなりません。

教会がこのような変更を行なったのは、信者の好奇心をそそるためではなく、ミサのまことの姿をもっとふかく悟らせるためであります。ですからみなさんは、教会がミサの多くの部分を思い切って改訂した本当の目的をよく考え、理解することが大切であります。

教会が公会議のはじめから明らかにしているのは、典礼というもっとも聖なる行為を刷新することでありました。そして典礼の刷新と申しますのは、典礼そのものを全部とり代えるのではなく、典礼の祈りの文や儀式を現代の信者に近づきやすいものにして、それにふくまれている超自然的めぐみにもっと効果的にあずかりうるようにすることであります。ですから典礼の刷新とは、教会の方からの努力であると同時に信者の方からの積極的な協力を要求します。どんなに教会が典礼の姿を改めても、信者が典礼の精神を理解して行動しなければ、何の効果もあげることはできないのであります。

ミサ聖祭への協力

では教会が典礼の刷新をもって信者に求めている協力とはどういうことでありましょうか。

それはまずミサにあずかる信者全員が、司祭と一致してキリスト様のいけにえをささげることであります。ミサはみなさんが毎日なさっている朝夕の祈り、あるいはロザリオのように個人的な信心の祈りではなく、信者一同が教会の定めた祈りと式をもって、全人類のために、司祭およびキリストと共に礼拝と感謝のいけにえを天の御父に捧げるものであります。

ここでみなさんは、みなさん自身、洗礼のときに司祭とは異る方法で司祭職をうけたことを思い出して下さい。聖ペトロは信者たちにむかって「あなたたちは選ばれた民族、王の司祭職、聖なる民である」（ペトロ前書二の9）といっています。それでみなさんは司祭の手を通してばかりでなく、みなさん自身も司祭と共に祭壇の前に立っていることを忘れないで下さい。

つぎにミサをみなさんのミサにするために、キリスト様といういけにえに合せて捧げる、みなさんのいけにえを準備してミサに来て下さい。キリスト様がミサを制定し、捧げられたのは、すでに捧ぐべきいけにえを準備しておられたからです。そのいけにえとは、ご自分の聖なる生涯、とくに十字架の犠牲でありました。私達もミサにゆくときには必ず私達の生活、私達のすべてをいけにえとして準備し、たずさえてゆきましょう。そしてキリスト様がその御受難によってご自分をいけにえとして完成されたように、私達もとくに四旬節中の祈りと犠牲によって、私達の生活を神に捧げるにふさわしいものに仕上げることができるのです。

ミサのおめぐみ

もしもみなさんがこのように進んでミサに参加なさるならば、今までになく大きなおめぐみを、みなさんのうちに、また教会全体にこうむることができるでしょう。キリストと共に、キリストによって、キリストにおいて至聖なる三位一体の神に最高のほまれと光栄をささげる真の礼拝者となるでありましょう。

ですからみなさんはこれから刷新された典礼の精神に従い、新たな熱心と心構えでたびたびミサにあずかり、ひんぱんな告白と聖体拝領をもって霊魂を清め、力づけるようにして下さい。

最初不慣れのうちはとまどうことがあっても、少しづつ努力と経験をかさねるうちに、ミサの偉大な功力が心にしみこんで、信仰の生活はゆたかになるでありましょう。他方、信者相互いが愛によってつよく結ばれ、教会全体の生命をたかめ、私達自身と全世界に復活のめぐみをもたらすことができるでしょう。

教会が新しい生命によみがえろうとしている今年の四旬節中、信仰を刷新して、救主キリスト様の光栄あるご復活にあずかるものとなりますようお祈り申し上げ、祝福をおくります。

一九六五年三月七日

福岡司教　ドミニコ　深堀仙石衛門

（本文中の小見出しは編集部がつけたもの）

「日本教会が果す役割に期待」教皇特使

歓迎会　教会への服従と忠誠表明

長崎市での信者発見百周年記念祭の御日程を終えられた教皇特使パウロ・マレラ枢機卿は、三月一八日午後零時二二分特急かもめで博多駅にお着きになった。長崎からは深堀司教のほか駐日公使カーニャ大司教、平田大分司教、浜尾文郎師、ストッパ氏が同乗し、佐賀駅からミラノ会佐賀地区長アツクワビバ師が出迎えた。

司教館近くの沿道では聾唖学園の小、中学生、幼稚園児数百名が教皇旗と日章旗を振って盛んに特使を歓迎、特使も車中からニコニコ手を上げて応じられた。

司祭団の代表達との御中食のあと二時半から聾唖学園講堂での教区主催歓迎会に臨まれた特使は、緋色のスータンを召されて、深堀司教、公使、平田司教と一緒に教皇聖下のお写真が飾られたステージに着座された。まず教区信者を代表して八一才になる守山寛一氏（浦上四番崩れで津和野に流された守山甚三郎氏の二男、門司教会所属）が聖主ご自身の御入来にもひとしい教皇特使の御訪問を感謝する意をのべ、ついで深堀司教は全教区が母なる教会とその頭であられる教皇に忠誠を堅持していることを表明し、特使と公使に花束と記念品を贈呈、最後に特使ははっきりした日本語で左のようなあいさつを返され、全参列者の希望に答えて教皇掩視をお与えになった。

感謝のうたを斉唱するなかを会場から出られた特使は、約一五分間、修道女、信者、子供の差別なくにこやかに話しを交わし、慈父的愛情を示された。

会場からすぐサンスルピス大神学院にむかわれ、三時半から同院聖堂で二時間五〇分にわたる叙階式を司式された（詳細二面）。

同院に一泊された特使は、翌一九日朝、東公園の日蓮上人の銅像を見物され、司祭たちの見送りをうけて特急つばめで広島に出発された。

信者にことばをたまわる教皇特使

教皇特使のおことば

日本信者発見百周年と高山右近逝去三五〇年祭に当り、パウロ六世教皇の特使として日本を訪れ、今日は深堀司教様はじめ福岡教区の皆様から盛大な歓迎を頂きましたことを、非常にうれしく思います。

この度の二つの記念祭のために特使が派遣されましたことは、教皇さまが皆様の誇りにしておられる輝やかしい出来事を高く称賛なさるためばかりでなく、日本の教会が全カトリック教会の上に重大な役割を果すことを期待しておられるからであります。日本の教会にとっては、この上ない光栄でありましょう。

私個人としましても一六年間、教皇使節として日本に滞在し、教会の確立のためにお力添えをいたしました。日本の皆様への愛情は今も、そしていつまでも私の心から消え去ることはないのであります。そして今日はまた福岡大神学院でキリスト様の司祭を叙階し、カトリック教会への贈り物といたします。

皆様よく御存じの通り、長崎の古い信者たちは司祭を厚く尊敬しその司祭を通じてローマの教皇さまに服従の心をもち続けました。キリスト様の代理者へのこの服従と愛の心があったからこそ、真の信仰、二五〇年の長い迫害にも負けない強い信仰が保たれてきたのであります。

昔の信者たちのすばらしい信仰と、教会との一致の模範を、皆様がふかく学ばれるよう希望しますそして教皇さまへの愛によって、救主イエズス・キリスト様への愛と信仰をまず自分のうちに固め、これが日本に真の光、永遠の救いをもたらすようお祈りし、

最後に教皇掩視を掩贈りいたします。

各地から巡礼団

長崎の記念祭に

長崎での百周年記念式典は三月一六日朝一〇時、春雨けむる浦上天主堂に教皇特使を迎えて厳粛裡に開始された。

旧信者ゆかりの地には、この日の荘厳ミサめざして日本各地から数千名の巡礼者が押しよせ、定刻前さしもの大聖堂は、信者たちで埋めつくされた。内陣右側にはカーニャ大司教以下、深堀（福岡）荒井（横浜）古屋（京都）野口（広島）平田（大分）松岡（名古屋）田中（高松）各司教が居並び、メキシコからの巡礼団の顔もみられた。

ミサに先立ち山口大司教がマレラ枢機卿に託されたパウロ六世教皇の親書を読み上げた。美しい合唱の調べにまじって特使の朗々たるお祈りの声が堂の隅々にまでひびき渡り、参列者一同は信心ぶかい雰い気にひたった。福音のあと枢機卿は、信仰の祖先らの堅忍不抜の精神が現代にも生きつづけるように、と日本語で説教された。

午後三時半から大浦天主堂に通じる石段左側の中庭に完成した信者発見記念碑の除幕式がおこなわれ、プチジャン神父に信仰を打あけた杉本ゆりの子孫、森内美津朗君＝聖マリア学院小学部四年生＝と橋本美恵子ちゃん＝お告げの聖母保育園児＝のふたりが除幕

第二日は大浦天主堂の聖母祭壇で、今村教会の巡礼団のミサを皮切りに朝六時から夕方五時まで毎時ミサと説教がつづけられ、一方浦上大橋に建立された聖クララ像の除幕式が四時半から挙行された。

一八日は朝一〇時半から松岡司教が浦上天主堂で祖先の永福を祈って追悼ミサをささげた。この記念祭最後の行事である聖体行列は午後六時大浦天主堂を出発、約八千名の信者が手に手にろうそくをもって、県庁前を通り西坂殉教地にむかった、山口大司教が聖体を奉持し、夜の町を縫うように進む整然たる行列は、記念祭の掉尾を飾るにふさわしいものであった。

なお三月一〇日から二〇日まで長崎博物館と二六聖人記念館でキリシタン遺物展がひらかれ、一七日夜には片岡弥吉氏と田中澄江氏による講演会も行なわれた。

信徒発見百年祭記念
「一〇〇年　のあゆみ」
長崎大司教区編
一、〇〇〇円　〒九〇円

四月

四日（日）　ご受難第一の主日

ご自分を全人類のいけにえとしてささげ給うキリストのお覚悟が、今日からの二週間つよく打出される。「これは、あなたたちのために、わたされる私の体である」（聖体拝領唱）。われわれが今とくに黙想すべき点は、これである。

九日（金）　聖マリアの七つの悲しみの記念

われわれは聖母のお悲しみに同情するだけではいけない。むしろ御子イエズスと共に苦しむことを望まれたお心を仰ぐべきである。

一一日（日）　ご受難第二の主日（枝の主日）

今日ミサ聖祭のまえに「王たるキリストをたたえる荘厳なる行列」を行なう。これは聖都エルザレムへのキリストのがいせんである。聖週間のはじめに主のがいせんのお姿を見せるのは、御受難が御復活、御昇天の光栄と直結するものであることを教えるためである。エルザレムは天国のシンボルであり、われらもキリストのあとに従ってそこに進むのである。

福岡セナーツスのアチエス（深堀司教御臨席）

一五日（木）　聖木曜日

午前中の司教荘厳ミサで、病者の油、聖香油用の油、洗礼志願者の油が聖別される。

夕方には主の最後の晩さんの荘厳ミサが行なわれる。このミサは聖体の秘跡と叙階の秘跡という二つの偉大なおめぐみを思い出させ、同時に隣人愛の新しい掟を告げる。

一六日（金）　聖金曜日　主の御受難・御死去の典礼

聖式は午後に挙行される、式のはじめ司祭は祭壇のまえに平伏し黙して祈る。旧約聖書の一部とヨハネによる主の御受難が朗読される。十字架の功力にすがり教会の上におめぐみを嘆願する。十字架に特別の崇敬をささげる。最後に聖体を拝領する。

一七日（土）　聖土曜日

夜に御復活の徹夜の聖式が行なわれる。

（1）照明の儀式＝新しい火とろうそくの祝別、暗黒を照らす神の光の出現。

（2）旧約聖書からの四つの朗読＝神の救いのご計画の黙想。

（3）洗礼の儀式＝諸聖人の連祷、洗礼水の祝別、できれば洗礼の秘跡の授与、洗礼の約束の更新、

（4）主の御復活のミサ。

一八日（日）　わが主イエズス、キリストのご復活の大祝日

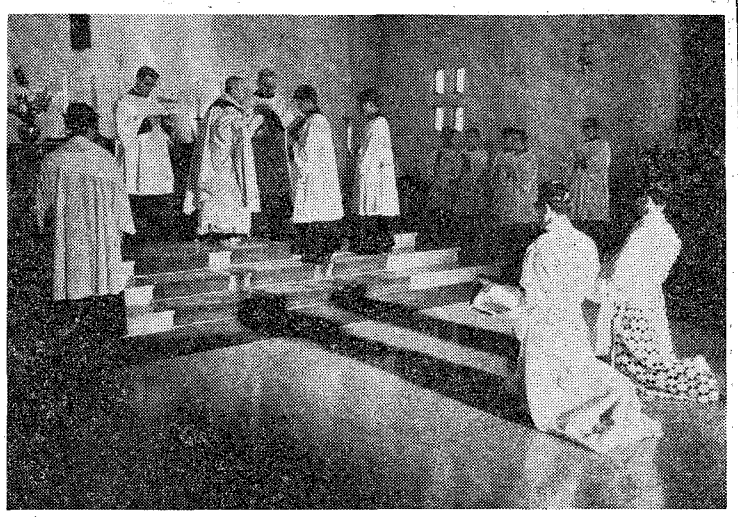
今日のミサは、キリストが真によみがえり給った歴史的事実を記念すると共に、死よりの復活が現在もわれわれのうちで実現しつつあることを教える。実際、われわれは世の終りの決定的復活にむかって少しづつ新しい生命に生れ変るべき者である。

大名町教会で司教荘厳ミサ

二五日（日）　白衣の日曜日

前の日、洗礼の白衣を脱いだ新信者は、今日、キリスト教的生活の土台である信仰について、あらためて教えられる、使徒トマの態度はふかい教訓をふくんでいる。

二九日（木）　天皇誕生日



中浜・長谷川両師司祭位に

教皇特使　大神学院で叙階式

三月一八日福岡サンスルピス大神学院で行なわれた叙階式で、中浜一男師（福岡教区）と長谷川儀師（広島教区）の二名が司祭に、鹿江正信、馬野国泰、豊田尚臣の三師（いずれも広島教区）が副助祭にあげられ、また七名（長崎四、福岡一、鹿児島二）が下級聖品を、五名（長崎三、福岡二）がトンスラをうけた。

綜合叙階式は午後三時半からマレラ枢機卿司式で挙行され、カーニャ大司教、深堀・平田両司教、約四〇名の司祭、信徒多数が出席して受階者の上に神の特別のお助けを祈った。

ラブラント・ツルデル両師を従えてミサをはじめた枢機卿はまず剃髪の式をもって五名を聖職にひき入れ、一名に守門と読師の位を四名に抜魔と侍者の位をさずけた。上級聖品をうける五名が祭壇の前に平伏して献身を示すあいだ、諸聖人の連祷がうたわれ、まず三名が聖器に手をふれて副助祭の聖位にあげられた。

司祭職に召された二人の頭上に枢機卿が按手したあと、列席の全司祭がつぎつぎと按手して聖霊のたまものを願し、聖別の荘重な祈のうちに新司祭が誕生した。ふたりは祭壇の両側に立って司式者と共同執行ミサをささげ、終りに両親に最初の祝福を与えた。

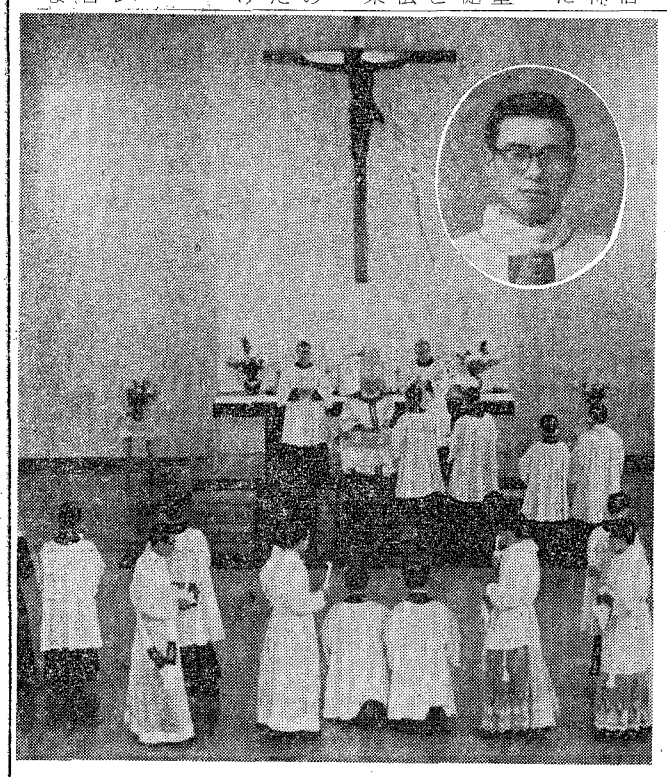
新司祭ミカエル中浜一男師は、長崎県五島の水の浦教会出身、昭和三三年福岡小神学校卒業、福岡大神学院で八年間研さん。なお初ミサは郷里の水の浦教会でささげた。

下級受階者は左の通り

待者・抜魔＝平田寛（福岡）片岡久司、古川武信、川上忠秋（長崎）美島春雄、成相明人（鹿児島）

守門・読師＝川口清（長崎）

トンスラ＝西田邦洋、牧山勝美（福岡）長谷功、浜崎靖彦（長崎）永山幸弘（鹿児島）



ろうそくを奉献する受階者円内は中浜一男師

特使歓迎会

深堀司教あいさつ

日本信者発見百周年と高山右近逝去三五〇年祭のため、教皇特使としてはるばる日本を御訪問下さったパウロ・マレラ枢機卿さまを今日、福岡の地にお迎えできましたことは、教区民一同にとって、まことに限りない光栄、言葉につくせないよろこびでございます。

この度の教皇特使御差遣は、教皇さまが、とくに日本に対して常にふかいご関心と父的な愛をいだいておられることを、明らかに物語るものであります。私共としましては、教皇さまは地理的には遠く離れておりますけれども、心はきわめて近い、愛と親しみを感じているのであります。

思い見ますと、閣下は、かって教皇使節の頃にも一度、福岡を御訪問下さいました。その当時の日本の教会といえば、実に多くの微妙な試練にもまれており、前途を憂慮されるほどでありました。しかし神の御摂理は、閣下の賢明な御指導を通じて働き、今日では世界でもめずらしいほどの信仰の自由と平和のおめぐみに浴している次第であります。

これ全く閣下の御功績に外なりません。日本の教会が常に感謝申し上げている所であります。

私共の福岡教区について申しますならば、現在邦人司祭三九名、外国からの宣教師六八名、男女修道者五〇〇名、信者二三、〇〇〇名が、各々与えられた場所において、神のみ国の発展のために使徒職にはげんでおります。

今日はまた今からサン・スルピス大神学院において閣下は、司祭叙階式を挙行して下さいます。これは閣下の福岡御訪問のもっと大きなよろこびの記念となることであろうと、推察申し上げながら、全教区をあげてよろこびをふかくしている所であります。

本教区の聖職者、修道者、全信者は教皇さまの御名代の前で、神の御子イエズス・キリストさまに対する確固不動の信仰を宣言し、聖ペトロの後継者であられる教皇パウロ六世聖下に対し、愛と服従をあらためてお誓い申します。この信仰と忠誠とを教皇さまにお伝え下さいますならば、私共の光栄これにすぎるものはありません。

最後に福岡教区民一同に、その使徒的活動の上に、教皇猊下をたまわりますよう、お願い申し上げます。

信者代表挨拶

教皇聖下の御名代パウロ・マレラ枢機卿さまに、福岡教区の信者を代表して、御挨拶を申し上げます。

二千年前、イエズス様はガリラヤ、ユダヤの国々を巡って救いの御教をたれ、愛のみわざをなされたとき、多くの人々がイエズス様のおんいつくしみにひかれて、おそばに集って参りました。私共も教皇様の御名代が今日わざわざ福岡を御訪問なさると承わりましてお言葉をたまわりたく、駆けつけてまいりました。

イエズス様が家にお入りになると、その家にはめぐみがあふれました。人々が子供をイエズス様のおそばに連れてくると、御手をのばして祝して下さいました。主の御足がのばされる所は、いつも平和と喜びに満たされました。それはイエズス様が神の御子であられたからであります。私共は教皇様がこの神の御子イエズス様の代理者、聖ペトロの後継者であられるとかたく信じております。

イエズス様のおめぐみは、教皇様を頭と頂く教会から、私達の上に降っております。私共は、イエズス様を信じると同じ様に、母なる教会にふかい信頼をいだいております。百年前にプチジャン司教様に信仰を打明けた信者達が「私共はあなた様と同じ心でございます」と申したように、今の私共も御名代の前で、同じ様に申し上げることができるのを、うれしく感じるのでございます。

ローマにお帰りの節は、福岡教区の信者ばかりでなく、日本中の信者が百年前の信者達と同じ様に聖なる教会に対してしっかりした信仰と愛とを抱いておりますことを、教皇様にお伝え下さいます。いのちを的に信仰を守り抜いた祖先の名を恥かしめない生活を送ることができますよう、私共をお祝し下さいませ。

M・プラッサ神父急逝

聖パウロ会福岡修道院長マテオ・アンセルモ・プラッサ神父は、三月一一日正午ごろ、同修道院で心臓まひのため急逝、四〇才、一三日同院で、同会バガニー二管区長司式により死者ミサ、深堀司教司式で赦祷式が行なわれ、福岡市の大橋カトリック墓地に埋葬された。

一九二四年一一月二八日、イタリア・アスティ・チェラレンゴに生まれ、一三才のとき聖パウロ会入会、四六年司祭叙階、五三年来日、五五年から五九年まで管区会計、五九年から福岡修道院長をつとめ、若い志願者の教育と修練に献身していた。

脇田司教永眠

前横浜司教トマ脇田浅五郎司教は、三月一六日急性肺炎のため永眠、八四才。一八日宇部聖教会で長江司教の司式で葬儀が行なわれた。

脇田司教は、明治四二年司祭にあげられ、長崎、熊本、鹿児島の各県で司牧に従事したが、大正七年から昭和三年までの一〇年間、人吉教会でとくに知識層と青年層を対象にめざましい布教活動を展開した。

要理教授法講座

四月二〇日から

第五回要理教授法講座（第三年目の第一回）は、来る四月二〇日から福岡双葉学園でひらかれる。同講座はこれまで土曜日に行なわれていたが、今後は火曜日午後一時一五分から二講義に変更された。講師はこれまで通りラベル師（福岡大神学院教授）と平山高明師（小倉教会助任）。閉講は六月中旬の予定。

講義内容は「私たちに対する神の愛に対して、私たちの側からの答え」と題して、十戒の説明がなされる。

NHK・TV「くるしみと復活」

三月二八日午前七時五分から八時までのNHK宗教の時間に、「くるしみと復活」と題して、長崎信者発見百周年記念行事における荘厳ミサ、記念碑除幕式、聖体行列の模様が紹介され、マレラ枢機卿とのインタビューのほか、片岡弥吉氏（長崎純心短大教授）がミサの意義と長崎キリシタン略史を、田中澄江氏（作家）が信仰におけるくるしみと復活についての個人的な経験を語り、最後に永島寛一氏（立教大学教授）が世界カトリック界の新しい動きについて解説した。

なお同番組は教育テレビ全国中継で福岡放送局から送られた。

ドリスラーゲル教授学士会員と歓談

外務省の招待で日本訪問中のドリスラーゲル教授＝ベルギー・ルーヴァン大学物理学＝夫妻は、水波朗九大教授の案内で三月一九日夜福岡司教館をおとずれ、福岡カトリック学士会員らと歓談した。

ドリスラーゲル教授は、ベルギーに留学する日本人学生に長い間多大の援助を与え、今回その功績を認められて日本に招かれ、長崎での信者発見百周年記念式典にも列席した。

司祭異動

（カッコ内は旧任地）

聖母献身会＝帰国ウイリアム師（那珂町教会主任）那珂町教会主任ハー師（徳島教会助任）徳島教会助任キャレン師（那珂町教会助任）

フランシスコ会＝熊本待労病院付パチフィコ・マルケジニ師（八王寺聖ヨハネ会修道院付）

田中澄江さん本渡で講演会

作家の田中澄江さんはお子さん同伴で長崎での記念式典列席のあと天草の本渡市カトリック教会で、四月二一日午後七時から一時間、講演を行なった。

田中さんは長崎の記念式の印象を述べたあとで、NHKテレビの「うず潮」の主人公林芙美子が宗教への深求心が強かったから、自分がNHKの依頼を承諾して脚本を書いたことなど語り、一七〇名の聴衆にふかく感銘を与えた。

ふたりのピアノ演奏会

福島治子さんと吉池淳子さんのふたりによるピアノ演奏会（北九州明治学園主催）が三月六日、小倉市民会館でひらかれた。

福島さん（明治学園高校卒）と吉池さん（東京雙葉学園高校卒）は、ともに昭和三五年武蔵音大入学、三七年からマックス・エッガー教授に師事、今春同大学専攻科修了。来月には吉池さんの出身地山形でも演奏会をひらくことになっている。

聖週間最後の三日間の聖式

聖木曜日

1 聖香油聖別の司教荘厳ミサ
浄水通教会で午前九時半より
2 最後の晩さんの司教荘厳ミサ
大名町教会で午後七時より

聖金曜日

主の御受難御死去の記念聖式
大名町教会で午後七時より

聖土曜日

御復活の徹夜の聖式とミサ
大名町教会で午後七時より

聖体礼拝（四月）

第一日曜　今村教会
第二日曜　黒崎教会
第三日曜　女子パウロ会
第四日曜　八代教会

祈禱の使徒会（四月）

【一般意向】布教修道会の使命に対する認識
【布教意向】アフリカにおける現地人聖職者

園舎増築

小郡カトリック幼稚園（福岡県三井郡）では、入園希望者の増加にともない二教室の増築（四五坪）をおこなった。

長崎キリシタンの精鋭
高木仙右衛門
守山甚三郎
—津和野・乙女峠の受難—
池田敏雄著
新書判　三四四ページ
六〇〇円　〒六五円

現代日本カトリックの柱石
ビリオン神父
—慶応・明治・大正・昭和史を背景に
池田敏雄著
B6判　五七六頁（写真八頁）
九八〇円　〒一二五円

東京都新宿区四谷一ノ二
中央出版社
振替　東京　六二二三三

聖心の使徒
昭和四十年四月号
復活と愛と喜び……三輪志郎
四月の意向　修道会について……小林純一
アフリカの現地人聖職者（四月の布教の意向）……粕谷源蔵
黙想　イエズスの聖心の連禱……河野義祐
病める友へ　バランス……十字架のイエズス修道女会
写真特集　神の幕屋……
ご復活の喜び……各国の復活祭の習慣をめぐって……辰野太郎
ご復活のローソク……L・トルストイ
友への手紙……インドの旅から……谷口幸紀
祈禱の使徒会の精神……聖心の信心とご聖体……A・マスカレンヤス
東京六教会散歩（二）……青山政徳
新本めぐり……
ポスト……
購読会員費（〒共）一カ月　五七円
一カ年五七〇円
日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾町井七

真理のおしえ

(5) 聖体の秘跡

Ⅱ 唯一最高のいけにえ

4、ミサは最後の晩さんのくりかえしである

真理のおしえ

(1) 祭壇をとりかこんで

ミサ聖祭は、食卓の形をした祭壇の上でとり行なわれる。祭壇は教会内のもっとも重要な位置を占め、みんなからよく見えるようにおかれている。

司祭は祭壇の上にパンとぶどう酒をそなえ、主のご命令に従い、「これは私の体である。これは私の血である」というイエスのお言葉をとなえる。すると、われわれの目にはただのパンとぶどう酒としか見えないものが、神人キリストのお体とおん血となり、キリストご自身がそこに実在なさる。

祭壇の前、またはその周囲を、かつての十二使徒と同じように信者たちがとりかこむ。

(2) ミサは最後の晩さんのキリストのお言葉と行為のくりかえしである

目に見える所に従って、ミサの有様と最後の晩さんの有様を比較してみると、この二つはたしかに違っている。もし教会の教えについてなんの予備知識ももたなければ、この二つが根本において、その見えない面において、全く同一のものであって、ミサはわれわれのためにあの最後の晩さんがくりかえされているものであることを知るうるはずがない。

われわれの目には、パンとぶどう酒しか見えない。しかし司祭が聖別の言葉をとなえてからは、これはもうキリストのお体でありおん血であることを、われわれは信じ、知っている。

また最後の晩さんにおけるイエススのお言葉をいま耳にし、なされた通りがここでくりかえされているのを見ている。しかし実際はイエススご自身がそれを口にし、行なっておられることも、われわれは信じ、知っている。

だから司祭が与えられた権能により、イエススの代理者として、そのご命令通り行なうことによってあの最後の晩さんで起ったことがそのまま、このミサの祭壇上でくりかえされる。外から見える所は違っているが、最後の晩さんとミサ聖祭は同じ神秘をふんだものである。

(3) われらは主の聖なる食卓に招かれている

ミサ聖祭にあずかるわれわれは使徒たちと同じように、キリストの神秘的な食卓にも招かれている。主はご自身を食物として与えるために、パンとぶどう酒をご自分のお体とおん血に変え給うたのである。

「私は生命のパンである…私の与えるパンは、世のいのちのためにわたされる私の肉である。私の肉はまことの食物である」（ヨハネ六の48、51、55）。

洗礼をうけたわれわれは、天の御父が御子を通じて準備なされたすばらしい食物をとるように招かれている。だからミサにあずかる度に、キリストを食する（聖体拝領）のが当然である。

イエススが最後の晩さんで、はじめてのミサをなさったとき、われわれはそこに居合せなかった。だから主は聖体を制定して、ご自分のした通りをくりかえすようお命じになったのである。

ミサは、最後の晩さんの神秘にわれわれが与かるための唯一最良の手段である。

われらの答え

主キリストは、ミサ聖祭のおどろくべき神秘をわれわれに示し、御死去の前晩、自分がなさったことを、毎日どこでもくりかえす権能を教会の司祭におさずけになった。

われわれはミサにあずるとき、信仰の目を働かせ、他の信者らと愛の心をもって出席し、司祭と共に祈り、聖体を拝領しなければならない。

決心＝司祭が祭壇で行なうことに注目しながら、ミサに積極的にあずかるように努めよう。

5、ミサはカルワリオのいけにえのくりかえしである

真理のおしえ

(1) 主は最後の晩さんでご自分の死を予告なされた

マルコ聖福音書一四章17―25の朗読

主イエススは、過越しの食事のとき、使徒たちのひとりユダがご自分を裏切って敵の手にわたし、預言者が述べている通りに死ぬであろうと、予告なされた。そしてご自分の血が多くの人々のために流されること、ご自分はもうこの地上でぶどう酒を飲まないであろうから、死が間近であると、はっきりお告げになった。

使徒たちは、前から幾度も主が予告しておられた、御死去が遠い先のことではないことを、よく知っていた。

イエススはご自分の十字架上での死、お体から流れるおん血を示すために、パンとぶどう酒をお用いになった。

最後の晩さんの神秘的食事は、翌日の十字架上での御死去の前ぶれであったのである。

(2) ミサはわれらにとってカルワリオのいけにえである

ミサ中、聖別のあと祭壇上には主のお体とおん血がはなしておかれるが、これは主の御死去を示すものである。

また司祭は聖別されたパンを二つに割ぐ。これはキリストのお体が十字架の上で苦しみのため「ひきさかれ」給うたことを示す（イザヤ五三の5参照）。

さらにミサの典文の終りに、司祭はお体とおん血を両手で少し高く上げて、御父へのささげをあらわす。

だからミサはカルワリオでのイエススのいけにえを示し、われわれのためにこれを新たにする。

復活されたキリストは今日、天国の光栄のうちに生きておられるので、今では苦しむことも死ぬこともありえない。しかしミサ聖祭は、かつて一度カルワリオで苦しみ、いけにえになられたそのささげを、われわれの眼前に再現するものである。

祭壇の上のいけにえと、カルワリオ山上のいけにえは、共に同じキリストである。そしてこのささげは世の終りまでつづけられる。だから聖パウロは「あなたたちはこのパンを食べ、このさかずきを飲むごとに、主が来られるまで、主のご死去を告げるのである」と教えている。

(3) われわれはイエススの救いのいけにえにあずかる

イスラエル人は旧約時代、エジプトから出発するとき、家族毎に小羊を食べて過越しの食事をし、その血を戸口のかもいに塗って、初子の殺害から免れた。

主イエススは、自らこの小羊の役を引きうけ、ご自分の血によって、人々が罪の罰である死から免れるようにして下さった、主はご自分の死とおん血をもって多くの人のあがないになられたのである。「すべての人のためにキリストは死なれた」（コリント後五の15）。

ミサのいけにえが行なわれるとき、とくに聖体拝領によってミサに加わるとき、われわれは罪のゆるしをうけ、天の御父と和睦させていただく、これは十字架上でのキリストの御死去の功徳によるものである。

この功徳をうけられるのは、現にミサにあずかる者だけではない誰か特定の人のために（生きている人でも、すでに亡くなった人でも）ミサがささげられるなら、その人もミサの功徳をうけられる。

われらの答え

主キリストは、十字架のいけにえをもって人間を罪から救い、永遠の生命を返えして下さった。このいけにえに今われわれがあずかる方法をもおさずけになった。

祭壇の上で挙行されるミサのいけにえの意味をよく知るならば、尊敬をこめて注意ぶかくミサにあずかるよう努めるであろう。

われわれのぎせい、人類全体の苦しみをキリストのぎせいと十字架のお苦しみに合せて、天の御父にささげ、聖体を拝領することを忘れまい。

決心＝日々のぎせいをキリストの十字架に合せてささげる。

6、賛美と感謝のいけにえ

真理のおしえ

(1) 完全ないけにえ

神ひとり聖であり、いと高く、全人類のかしらであられる。この世のものはみな神のもの、神のみが最高のほまれと賛美をうけるにふさわしい方である、（ミサの栄光の賛歌）。

どの時代でも神を信じている者は、自分のもっているものの一部をさいて、いけにえとして神にさげていた。

いけにえをもって人は神を賛美し、罪のゆるしとお助を願い、神に感謝する。いけにえをささげるとは、神が最高の主権者世界の創造主、恩人と認めることである。

創世記四章3―7、一四章18―20、二三章1―13の朗読

これら旧約の人々がささげたいけにえは、ミサ聖祭の前徴であるアベルのささげものは、誠実な心をもって、よろこんでなされたので、神のお気に入った。

メルキセデクは、感謝をあらわすためにはじめてパンとぶどう酒を神にささげた。

アラブハムは、最愛の独り子イザアクさえも神のお望みのままにささげようとしたので、神の特別の祝福をたまわった。

このように旧約時代にも、司祭がきまった祭壇で、きまった供え物を神にささげていた。

(2) 新約のすぐれたいけにえ

人間は天地万物の神にさまざまのものをいけにえとしてささげてきた。しかしどんなに立派な供え物であっても、ささげる人間が神の前には罪人であり、ささげられるものが最高の神にふさわしいものでありえなかったので、いけにえの目的が十分に達せられるはずがなかった。

旧約最後の預言者のひとりマラキアは、いつか新しい完全ないけにえがささげられるであろう、と告げた。

マラキア書一章10―11の朗読

ここに預言されたいけにえとはキリストのいけにえで、世の終りまで世界いたる所でくりかえされるミサ聖祭のことである。

キリストは神の御子でありながら、天の御父のご意志に完全に服従なさって、神にふさわしいほまれと光栄をささげて下さった。キリストのこのいけにえだけが神にふさわしいものであった（ヘブライ書一〇の5―10参照）。

(3) われわれもキリストのいけにえに加わる

ミサの典文の終りに、司祭はおん血の杯を左手に、聖なるパンを右手にして次のようにとなえる。

「キリストによって、キリストと共に、キリストによって、全能の父なる神よ、聖霊との一致において、おん身はすべてのほまれと光栄とをうけたもう。世々に至るまで」。

祭壇の前に列る信者は、心からこれに同意を示して「アーメン」と答えて、イエスス、キリストのささげを自分のささげとする。

われわれは洗礼によってキリストの神秘体の一部となっているのであるから、神に対するキリストの完全な礼拝と賛美は、同時にわれわれの礼拝であり賛美でもあるキリストの願いと祈りは、われわれの祈願であり、これは必ず天の御父からきき入れられるはずである。

このアーメンは、われわれの洗礼のときの約束の更新でもある。なぜならわれわれもぎせいを実行して、イエススの従順の模範に見ならうべきものであるから、

キリストと共に神にすべてを与えきった生活をもって、われわれは神に光栄を帰するのである。

われらの答え

天国の天使、聖人らは永久に神を賛美している。われわれもミサにあずかるとき、この天国の賛美に加わるのである。ミサは神へのもっとも完全な賛美と感謝のわざである。

日曜日に信者一同で教会に集りキリストと一致して、神をおがみ感謝し、罪のゆるしを願い、おめぐみを祈らねばならない。

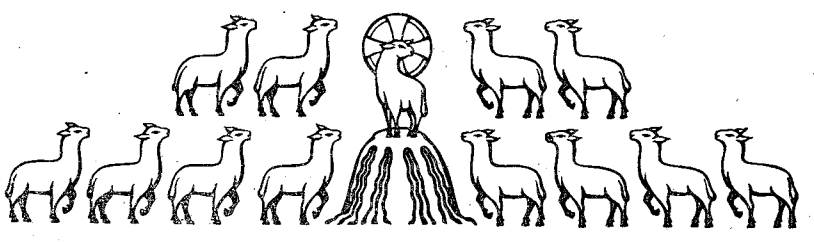
決心＝日曜日のミサを決して欠かさないこと。

キリスト教的象徴とその意味

一二匹の羊

一二使徒を示す。もっとも普通にみられるのは、よい牧者であるキリスト、または本図のように神の小羊（キリスト）を真中にして一二匹の羊を並べた図である。

小羊は後光をいただき、山の上に立ち、そこからエデンの園の四つの川が流れ出ている。脇の方にエルザレムとベトレヘムの町の門が画かれていることもある。いずれもローマにある聖コスマと聖ダミアノ教会、聖チェチリア教会、聖クレメンス教会、聖プラクセデス教会の後陣にあるモザイクがその例である。



百合の花

二世紀初頭にさかのぼる聖母マリアの絵では、御母は御子イエスをおひざの上に抱いて膝をかけておられる。これはもちろんシンボルでも肖像画でもない。紀元四〇〇年頃、聖アウグスチノはこういっている。「われわれは乙女マリアがどのような顔付の方であったか知らない」。それにもかかわらず、われわれは古い時代の絵のなかに、初期キリスト信者らの、神の御母に対する愛をうかがい知ることができる。

白百合は、その一点のしみもない美しさの故に、処女性の清浄さを示すもっとも大衆的なシンボルとなっている。これはとくに聖母マリアに適用される、一二世紀以来、白百合はとくにこの意味で使用され、御告げの絵にはほとんどといってよいほど、この花がそえられている。

ばら

一三世紀ゴチック建築を飾る装飾と象徴の主題は、多く花や野の草からとられている。その種類は数えきれないほどである。本図のようなおきまりの形をしたばらは、石や木の彫刻によくみられ、主キリストの御降誕の象徴である。「天よ、高くから水をしたたらせ、雲は、公正を降らせよ。地がひらかれて、救いがはえ、正義が、ともに、芽生えよ」（イザヤ四五の8）

しかしばらは、聖母マリアの象徴であることの方が多い。これは被昇天祭のミサのなかでマリアに適用される聖書の言葉にも合致する。「光栄にみちた民に、主の領土に、その所領地に私は根を張った。リバノンの杉のように…私は大きくなった」（集会書二四の12―14）

くすしきばらの花、われらのために祈り給え、（聖母マリアの連祷）

◇キリストを知るために　エンデルL書店
F J・シード著　小林珍雄訳　¥九六〇

◇すさまじき愛　中央出版社
M・Eボイラン著　佐伯わか子訳　¥五五〇

◇イエスス
―救い主に注ぐ単純なまなざし―
福岡カルメル会訳　中央出版社　¥三五〇

◇キリスト イエスス
カールアダム著　尾方寿恵訳　中央出版社　¥六〇〇

もし私たちが、キリストと
ともに死んだのなら
またかれとともに
生きることをも信じる
ロマ書6の8

大名町　聖パウロ書院
岩田屋六階　セント・ポール・コーナー

―グロリア文庫―　中央出版社
この文庫は宇宙の創造主である神に光栄を帰するために人びとのため、社会のため心身を捧げキリストの福音の道を歩んだ人びとの伝記を集録したものである。

聖パウロ　¥三五〇
聖アッグスチスス　¥三八〇
聖ヴイアンネー　¥三五〇
聖フランシスコ　¥三〇〇
グミアン神父　¥三八〇
聖フランシスコ・ザベリオ　¥四〇〇
コロンビエール神父の生涯　¥一八〇
聖女マルグリット・マリー　¥三二〇
ローズフィリッピン・デュシエーン　¥一八〇
マリア　ローザ　¥三二〇
カディヤック神父　¥三二〇
以下続刊

聖書の国 ㉒

平山高明

カナアン人

イスラエル人が、ヨズエにひきいられて約束の地にやってきたとき、カナアンにはどんな民族が住んでいたのであろうか。

地中海と荒野にはさまれ、東西五〇粁、南北二〇〇粁の細長い帯状のカナアンは、隊商の通路にあたり、幾多の民族がここを通過し住みつき、人種のるつぼとなっていた。

聖書にはカナアン人、アモル人、ジュブシ人、ヘテ人ら多くの名があげられているが、それらは混り合い、また滅ぼされ、次々と姿を消して行くのである。そのなかでもカナアン人が聖書読者には一番なじみぶかい名である。かれらはエスドロンの平野やサマリア地方に勢力をはり、地中海沿岸の諸都市を支配していた。その主なものがチロ、シドン、ガザ、ビブロスの町である。

かれらはセム族の一つで、古代地中海を縦横にかけめぐり、その貿易を一手に握り、方々に植民地をたて高度の文化を誇っていた民族で、フェニキア人ともよばれていた。

△　△　△

カナアンとは「紫の国」という意味で、この名は当時珍重がられていた紫の染料がこの国の特産だったことからきている。この地方に産する悪鬼貝の身からしぼった汁を染料とするもので、手に入れにくかったので、それだけ高価な品であった。紫の布は金持ちだけが買えるもので、紫の長い上衣といえば古代東方の国々では、いつも高位の人のしるしにさえなっていた。

ギリシャ人はかれらを「紫染料の職人」（ホエニキアン）とよんでいた。

△　△　△

イスラエル人はかれらを軽蔑してよぶが、実はカナアン人はエジプトやクレタ文明の影響をうけ、はるかに高度の文明を有していた。また武器の点からみても、はじめイスラエル人はかれらに太刀打ちできる状態ではなかった。

イスラエルがカナアンに侵入したとき、わずかに山地を占領したにすぎない。なぜなら「谷の住民たちを追い出すことは成功しなかった。かれらには戦車があったからである」（判事の書一の19）と聖書には見えている。

それどころかイスラエルのある者は逆にかれらに支配され、イスラエル人は滅亡の第一の危機に直面させられた。後になってバラクのひきいるイスラエルはタボル山のふもとでカナアン人の戦車を打ちやぶったが、そのときからカナアン人の支配は急速に衰えてゆき情勢は変ってきた。

カナアン人の武力による圧迫支配の危険は去ったが、より大きな危険がまだ残っていた。それはカナアン人の宗教のもつ魅力であった。この宗教は一方においてイスラエル人からきびしく排斥されながら、地方では強い魅力をもってかれらをひきつけていた。

△　△　△

カナアン人が拝んでいたバールの神は、豊穣と繁殖を司どる大地の主なる神で、さまざまの形で表わされていた。またアスタルテはバビロニアの女神イシュタルからきたもので、家畜の繁殖を司どる福の神であった。神殿の周囲ではおそろしく淫らな儀式が行なわれバールの巫女達は、娼婦として神殿に仕えていたが、この女達だけでなくカナアンの娘達がイスラエル人を堕落させていた。イスラエル人はカナアンに入る前にすでにモアブの女達からバールの礼拝にと誘われている。

「イスラエルはシッティムに泊った。み民はモアブの娘たちと姦通して身を汚した。すなわちかの女たちは自分の神々のいけにえ祭にみ民を招待し、み民はかの女たちの神々のまえで、飲食したり、ひれふしたりするのであった」（民数の書二五の1－3）。

イスラエル人が荒野から上ってきたとき、素朴な民が出会ったのはこのような肉感的な誘惑でありかれらを骨抜きにし、呑みつくす恐れがあったのである。

△　△　△

イスラエル人はカナアンに定着したとき、農業をかれらから学んだが、収穫やその他の農耕上の祝祭は、この農耕の神バールの祝祭や宴会につながっていたし、両民族が結婚によって結合することも少くなかった。だからお互いに祝宴に招待され、必然的にバールへの礼拝に近づき、不道徳な祭儀にも参与するという結果になった。

その上当時のイスラエル人はセム族に共通な「場所の神」という概念からまだ完全に抜け切っていなかった。自分らはシナイ山でヤーウェの神と契約を結び、忠実を誓った。しかし、ヤーウェはシナイ山の神であり、荒野で放浪の民を守ってくれたが、カナアンの地でも力があるだろうか。ここに定住して農民となった今日では、バールに収穫の恵みを祈ることは許されるのではなかろうか。

このようにイスラエル人は、一方ではヤーウェを自分らの神と認めながらも他方では、カナアンの神にも顔をむけるという、両天秤的なあいまいな態度に出るおそれがあった。これはイスラエルの使命を失なわせる程の重大な危機であった。

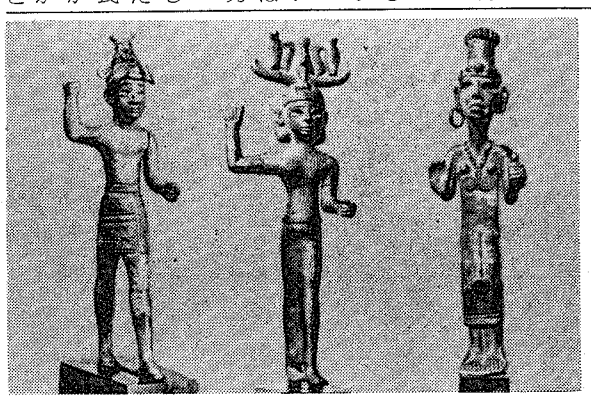
イスラエルの指導者達はこの重大さを見てとり、迅速に峻烈に叩いてこの危険を未然に防こうとした。

△　△　△

カナアンの神々のなかには「モロクの神」というのがある。この神は幼児を生きながら焼き殺しさげる犠牲を求めるもので、ビブロス島の神殿の廃墟には、さきけられた子供の記念に建てられたオベリスクが、母親の悲しみを秘めて幾柱も立っている。

口を大きくあけて子供が投げこまれるのを待っている奇怪なモロクの神の像は、今日ルーブル博物館に陳列されているが、紀元前千年のカナアンでは方々にこれを見ることができた。

エルザレムの町の南の谷ゲヘンナには、この神の祭壇があったので、イスラエル人は後にこれをこわし、そこをごみ捨場、動物の屍体捨場とし、悪臭とごみの燃える煙が絶えなかったので、人々には、ゲヘンナを地獄の代名詞として用いるようになった（イザヤ六六の24）。主イエズスも度々このゲヘンナという語を使っておられる「右の手がつまづきになるなら切りすてよ、全身がゲヘンナにいくよりは、体の一部をうしなう方がましである」（マテオ五の30）。（写真はバールの神）



四月の黙想

信仰生活には困難がつきものである。四旬節中、信者達は聖母と共に十字架の下に立ち、釘付けられ給うたイエズスをみつめながら苦しみの問題と、その本当の意味と解決を求めて静かに黙想すべきである。

(一) 苦しみと復活のあいだには相互関係がある。この大切なポイントをよく悟らなければ、四旬節中の自発的な制欲と犠牲の理由、神から与えられる苦しみの意味と価値を正しく評価することはできない。

誘惑は年をとるにつれもっと灘繁に、もっと激しくなる。問題はかさなり、誤解もふかまる。以前にはたやすく実行できていたことが、むずかしくなるのに気付く。このようなとき、主イエズスがわれわれと同じ人間であられたことを思いかえすことは、大きな慰めになる。

われわれはともすれば、イエズスの神性がその御人性を吸いとってしまっていたかのように考えたがる。

しかしわれわれ自身が経験している苦しみ、たとえば失敗、失望、疲労などで、主ご自身が経験なさらなかった苦しみというのはないのである。しかも主のお苦しみは、われわれが感じているものよりも、はるかに激しいものであった。

(二) 信仰生活においては、肉体的苦痛が主イエズスを襲ったようにわれわれをも苦しめることがある。しかし主のお苦しみとわれわれの苦しみのあいだには、もっと現実的な面で共通したものがある。これは病気よりももっと辛く、肉体的苦業よりももっとわれわれをいらだたせる、あの屈辱的な誘惑である。

くるしみと復活

われわれの自然の傾きに対して来る日も来る日も反対しつづけることは、生易しいことではない。われわれの心をつよく引きつけるものを退ける戦いを、一時でなく一生のあいだ休みなしにつづけ、その激しさに耐えてゆくには、並々ならぬ勇気と堅忍が必要である。

われわれはこの苦悩によって、ゲッセマニの主イエズスのお苦みを分ち合うことができる。「神はあらかじめ知っている人を、御子の姿にあやからせようと予定された」（ローマ八の29）。

誘惑と罪、激情と不忍耐、激慢と失望に対する激しい戦、これこそゲッセマニのイエズスの苦悩である」（ローマ八の17）。

にわれわれがあずかる道である。これらはどんな鞭よりもわれわれを傷つけ、どんな茨の冠よりもひどい痛みを感じさせる。

(三) イエズス・キリストの御苦難の果にどんなことが起ったか、われわれはよく知っている。血と汗にまみれたお顔はご復活の光栄に輝やき、敗北は勝利に席をゆずった。お苦しみは復活となり、苦悩の一つ一つがイエズスの人性にとって、また全人類にとってもっとも豊かな祝福の泉となった。

今日のわれわれの苦しみも同じ効果を生むはずである。ただその条件として誘惑を忍耐づよくしのび、生活の単調と失敗をがまんし痛悔の心をふかめて、キリストの苦悩のなかに一致せねばならぬ。「あなたがキリストと共に苦しみさえするならば、あなたは神の世嗣であって、キリストと共に世嗣である」（ローマ八の17）。

バランス

あの人は怠け者だといわれるより、働き者だといわれるほうがもちろんよろしい。労働は神聖であり ヨゼフさまが身をもって示されたように、仕事の貴賤をとわず働きはすべて尊いのだから。

然し過ぎたるは及ばざるが如しの格言通り、働きすぎるのは決してほめたものではないと、最近つくづく思うようになった。

朝から晩まで汗水たらし、すべてをぎせいにしてまでも、とにかく仕事にうちこむ人は、それだけでも立派であり、ほめられこそすれ、とがめられるところはなにもないと思っていたし、それが私の常識であった。

ある日青年たちが議論をしていた。それは残業についてであった。いつものように私は「働くことしたことはない。残業をしてまで働くとはまさに感心な……」位に思っていたのに、かれらは口をそろえて、残業をなくすためにどうしたらいいかなど話し合っているのだ。私にはさっぱりわからなかった。残業のどこがいけないのかあらためてたずねるのも品位にかかわるし、それとはなしに彼らのいい分に耳をとがらしていた。要するに残業は自分達の生活をおびやかすというのだ。

会社につとめたことのない私には、そういう所に問題があろうなどとは夢にも思っていなかったし、それかといって今更自分の無知をさらしたくもない。一応何もかもわかっているような顔をして、「あなたたちは、残業をすれば体はつかれる、レジャーを楽しむどころか、読書の時間もおけいこの時間すらもない。それでは人間らしい生活も出来はしないといっていますが、ではこうして教会に集って働いていることをどう考えますか？ 仕事のかえりに夕食もとらぬまま、二時間三時間を研究会や布教活動などにいやしているのをみれば、会社の残業よりももっと時間をとられるしつかれるのではないですか？」といってみた。

するとある青年がおこられたかと思って真赤になりながら「神父さま、私たちは人間らしい生活がしたいのです。それは神さまのおのぞみと思うのです。私たちは機械でもない、動物でもない。人間であり神の子なんでしょう。とすれば毎日の生活を霊的にも精神的にもまた肉体的にも、バランスのとれたものにしなければいけないわけでしょう。だのに毎日が、会社の仕事においまくられているような現状です。それでだまっていいものでしょうか？。うまくはいえないけど、要するに私たちは、こんな風に教会に集る時間がほしいから残業に反対するのです」

今度は私が真赤になった。そういういいわけが…いやそういう考え方があったのか。人間としてバランスのとれた生活、目の前にちらつく残業手当の魅惑を退ぞりながら、人間生活を守ろうと闘志をもやす青年たちの姿におどろきながらも、なおそしらぬ顔で、「そうです。その通りです。あなたたちがその確信をもってやっているのであれば安心です」といったら青年たちの顔が輝いた。私の背中に冷汗がたらりと流れた。

完全を望まないしあわせ

なでしこ

御聖体に遠ざかる状態におかれて、ずい分久しくなった。御聖体に遠ざかってよろこぶのは悪魔だろう。折にふれてチョッカイをかける。あれ程寛容になれた心に、波が立ち、角が出来、そしてトゲが生える。

十二月も暮近い或日、寒そうな顔して、知人のお嬢さんが玄関に立たれた。お正月用の煮物のニオイが流れて来た事だろう。上らないでかえるといわれる。そして30㎝近い四角な箱を、之おばさまへプレゼントといっておいてかえられた。

夕方の仕事がすんでその箱を開くまで、その方がその箱を渡される時の意味ありげな目がチラチラして、何とも気になってたまらなかった。あけて見ると、どうでしょう、ライオンの毛をかぶせてあるようなふかふかしたスリッパ、之からの寒い日を、足もとから温めて下さろうという暖かい心づかい、それであの時の意味ありげな目もとの謎がとけた。早速、夜なべの煮物仕事を、温かく、ポカポカし乍らなし得る事が出来た。

ところが私が急いで走ろうとすると、ライオンの毛のふさふさしたところを片足がふんで、ころびそうになる。その上急いで歩くと何分裏のスペースが広いのでバタンバタンと大きな音がする。孫のまどかな昼寝の夢を破って「オバアチャマ、静かに」と叱られる。今日も急いで台所を動きまわると、スリッパのはしがあっちこっちへつき当る。「エエ面倒だ、ぬいでしまえ」とぬいだとたんに足の裏はシンシン冷える、爪先はジンジンする。そんなわけで、ふと思い当ったのが「完全を望まないしあわせ」ということだった。

娘が手伝ってくれる。抜け目だらけ。六十年近くも生きていると、娘の倍も三倍もの経験保持者なんだ。その経験の尺度で娘を見るといつも腹を立てておかなくてはならない。いいんだ、之でいいんだ、私もこの娘の年に、何をしていたかしら。そうだ全能の天主様が完全を望まれて、完全でない者をどんどん罰せられたら、私達人間はどんな事になるだろう。

寛大な天主様の偉大な愛にならって人に完全を望むまい。人に完全を望まなければ、毎日がどんなに仕合せな事だろう。

ことばを刻んで84年
三省堂の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和辞典…二〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇
コンサイス英和辞典……革 五五〇
コンサイス和英辞典……革 七三〇
コンサイス和英辞典……五〇〇
コンサイス英英辞典……革 六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン
初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版 六八〇
縮刷版 五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…
…二、二〇〇
革 二、六五〇

明解三部作
明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！
広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD
三省堂 福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社 東京都千代田区神保町

昭和30年7月14日第3種郵便物認可　毎月1日発行　第116号

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

人口家族調査特別委員会を激励
パウロ教皇　既婚者に明確な指導を

パウロ六世教皇は、人口と家族調整の問題について助言するためにローマに会合した委員会のメンバーを謁見された。

同委員会は、倫理神学、司牧神学、医学、経済学、心理学、人口統計学、社会学の各分野のすぐれた専門家—聖職者ばかりでなく、六名の婦人をふくめた一般信徒によって構成されている。

教皇は謁見の席上、かれらが提出した報告の出来栄えを賞賛してつぎのように述べられた。

諸子は、責任の重い、極度にデリケートな問題と取組んでいるので、これを熟考する必要から当然十分な猶与を望まれるであろうが目下の緊迫した情勢は、最高権威にもとずく教会のきわめて明確な指導を要求していることを、忘れないでほしい。人々の良心が不確実に放置されているために、夫婦生活が神のご計画にそって進展することを妨げられている。

母たる教会は、人間が直面している大きな諸問題に適切な答えを与えてやらなければならない。教会はその答を決定するのに〝新しいこと古いこと〟も〝歓迎する。

諸子がいま取り上げる問題の焦点はこれである。即ち、夫婦は相互愛において、また自らが召されている生命への奉仕の遂行において、どんな形式をとり、どんな基準に従わねばならないか、ということである。

これに対するキリスト教的な答は常に「婚姻状態の義務と品位」という意識から出発すべきである。キリスト信者である夫婦の愛は、婚姻の秘跡の恵みと、子供に与えられる生命の贈物によって、崇高なものとなる。

神法の保管者である教会は、生命の価値が軽視されることも、愛の偉大な創造力が過小評価されることも許さない。しかし、夫婦が自分を与え合い、なおさらに新らしい生命のために各々が無私的に自己を与えるほどの愛があるならば、このような愛は、法の要求以上のことをすることができるのである。

諸子は、多くの霊魂の苦悩を理解し、批判や困難を意に介しないで勤勉に仕事をつづけねばならない。

世の光
真実

先日、朝日新聞に「日本人に多い偽証」という見出しで、日本人が欧米人に比べて、裁判所における偽証率が非常に高いことをとり上げていた。これは「平沢を救う会」が集団的な偽証をした事件によって、世人が考えさせられたことである。

最高裁の横井検事も「確かに日本人は法廷で簡単にうそをつく、追及されるとあっさりシャッポを脱ぎ、大して悪いことをしたとも思っていないようだ」とのべており、著名な法学教授、判事たちも「罰の工夫」とか「訴訟のルールを守れ」とか「公私混同の精神」「公共精神の欠如」とか色々の問題を提起している。最高裁の矢崎刑事局長は、欧米の裁判所を見学した経験から「宣誓の仕方に一つの原因がある」と指摘する。

わが国の法廷では、証人が証言するときには、裁判長全員起立、証人が「良心に従って真実を述べ…」と宣誓文をよむが、欧米の法廷の宣誓は、聖書、つまり神に誓を立てることに意味がある。もし法廷でうそをつけば神に対してうそをつくことになり、宗教上の罪にまで、ふかくつながる。その点「良心に従う」わが国の宣誓方式は、一見科学的だが精神的な支柱を欠いているので、訴える力が弱いのではないか、という。

この見方は正しい。宗教的な風土のなかで育った法廷尊重の伝統が、欧米人の生活態度にしっかり根をおろし、外面的には宗教の権威がうすらいだようにみえても、心の底ではなお神の権威が、人間の社会的義務を自覚させる。

神の十戒に「汝、偽証するなかれ」という簡単な言葉があるが、これは人間は生れたときから社会的動物であり、神に対し、人に対し、自己に対してもぜひ誠実でなければならないとの意味である。しかし真実、誠実な人間になるには、長いあいだの訓練が必要である。幼い時からのしつけがなければならない。

真実とは、表現を心または判断に一致させる徳であり、さらに表現や約束に行動を一致させることが誠実である。

神の十戒のうち、第四戒から第十戒までの七つは、はじめの三つの戒に関係がある。第七戒の「汝偽証するなかれ」は、第二戒と関係している。神を証人にたてていながらうそを述べるのは、神の名をけがすことだからである。

真実を語る義務は、一般的には割合堅い義務であるが、事これが隣人に重大な加害をなす場合や、聖書に手をおいて（神に誓って）という場合は、重大な義務を負わされる。すでに物をいう相手は、人間でなくて神だからである。

しかしわれわれは、いつでも真実をいわねばならないわけではない。心理留保の権利によって、自分や他人に重大な損害がかかる恐れのあるときには、黙していることができる。これは秘密を守る義務とも通じる。

秘密にはつぎのような種類があり、守るべき義務の軽重が違っている。

自然的秘密は、人間の常識で一般的に秘密にすべきことであり、これは重大な不都合を忍んでまで守る義務はない。

つぎは約束による秘密であるが人道上、黙していてはならない事柄についての約束は無効である。その他の場合、議務の軽重は、約束された事柄の軽重にかかる。

委託された秘密は、守るべき義務のある人々にとっては、厳重に秘密にしておくべき事柄である。例えば医師や法律顧問が職業上知りえたこと。

真実を語るということ、あるいは秘密を守るということは、われわれの日常生活にいろいろな問題をはらんでいる。普通の生活において、常識を無視して事実だけをのべるのが、必ずしもよいとは限らない。われわれが真実であり誠実であるためには、人生のふかい経験と、みがかれた良識と、神への恐れの心が必要とする。真実と誠実は、ながい努力を重ねてつくり上げてゆくべき徳であり、いつ、どこで、どのように実践につとめるかは、一生かかって学ぶべきものである。

「世紀の人・チャーチル伝」のなかに、かれの言葉があげられている。〝In wartime truth is so precious that she should always be attended by a bodyguard of lies.〟「戦時において真実というものは、うそによってさえ守られなければならない」。まことにチャーチルらしい表現であるが、真実そのもののなかに、われわれ人間にとって、ときには困難な、ときとしては悲しい、また神から頂いた賢徳のたまものが極度に要求される現実を、ふくんでいることを忘れてはならない。

「真実一路の旅なれども……真実悲しき花故に、一輪草と申すなり」（白秋）。

（山東龍雄）

—よい牧者—

教皇特使ローマに帰任
深堀司教にお手紙

長崎における信者発見百年祭、大阪における高山右近逝去三五〇年祭の、日本カトリック教会の二大祝典に教皇特使として出席したマレラ枢機卿は、二週間余にわたる多忙な日程を終了して、三月三一日夜、羽田から空路ローマに帰任された。

同枢機卿はローマから深堀司教あてに次のようなお手紙を寄せられた。

「ローマにもどった今、私の日本滞在は夢でなかったのかという気がいたします。夢にしても実にすばらしい、感激的な夢でした。本当にすべてのことがどこでも立派に運ばれました。私も疲れていましたが風邪ひとつ引かなかったことは天主様と聖母マリアの特別のご加護であると思います。

一言簡単に〝ありがとうございました〟と申し上げるだけでは物足りないと思いますが、今の所これ以上の言葉を見出せません。司教様はじめ聖職者、修道女、信者みなさん、ありがとうございました。スルピス会の司祭、大神学生、とくに私が叙階した方々によろしく。

司教様および教区全員のご親切に感謝致します。皆さまと過した日のことをいつまでも心に留めおきましょう。どうか私のためにもお祈り下さい。

一九六五年四月六日

× × ×

天皇陛下、教皇にお礼の返書

マレラ枢機卿は、三月二五日午前一〇時半皇居を訪問して天皇陛下にお会し、パウロ教皇からの親書と贈物（三個のメダルと第一五世紀出版の聖書一冊）を奉呈した陛下はこれに対し返書を送られ、感謝を表明された。

熊本地区長
ブレンチフィールド師専任

聖コロンバン外国宣教会熊本地区長は熊本市手取教会主任ブレンチフィールド師が兼任していたがこのほど兼任をとかれて、同教会主任にノーリス師（熊本少年の町付）が就任。

去る三月急逝した聖パウロ会福岡修道院長マテオ・プラッサ師の後任に前田俊郎師（東京若葉修道院付）が着任。

新司祭中浜一男師は福岡小神学校付

デイマット師来福

スカボロ外国宣教会総長ディマット師は、四月はじめ来日、一六日深堀司教と面談した。

〝平和のために祈れ〟
教皇が信者に要望

さき頃教皇は、聖ペトロ大聖堂前広場に集った群衆におかって、ベトナム戦争、アメリカにおける人種差別闘争の平和的解決のため祈るよう要望された。

教皇は戦争のため生活がずたずたに引きさかれ、人種差別廃止の闘争によって憎しみと犠牲者と無秩序を生じている国のためにカトリック信者が、聖母マリアに祈るように願われた。

無神論者との接触

バチカンからの非公式の報導によると、パウロ六世教皇は無神論者との関係を扱う事務局の設置を計画されている。

この新しい機関は、世界各地から不信仰と無神論のさまざまの情報を集め、これを分析し、無神論者たちとの接触の手段を準備するものと思われる。

「国連の指針」
故教皇の回勅

ウ・タント国連事務総長は、故ヨハネ二三世教皇の回勅「地上の平和」の道徳的影響について、次のように語った。

「国連に対する〝地上の平和〟の道徳的影響は非常に大きかったといえる。その回勅は、すべての加盟諸国に積極的で望ましい影響を与えた。私はあらゆる問題の解決に道徳原理を適用することを可と信じるから、その回勅は政治・経済・社会の諸分野でわれわれの考慮の指針として役立つべきものと信じる」

聖体礼拝（五月）

第一日曜　久留米教会
第二日曜　ウルスラ修院
第三日曜　八幡教会
第四日曜　カノッサ修院
第五日曜　熊本患楓園
熊本天使園

祈禱の使徒会（五月）

【一般意向】正義と愛の精神に基づく世界平和
【布教意向】アメリカにおける女子教育

五月
（聖母マリアの月）

一日（土）勤労者聖ヨゼフの祝日
教会は、人間の筋肉労働の上に神の祝福を願ってやまない。過去においては農業が勤労の主要なものとみなされていたので、四季の祈や祈願祭は農耕にかかわるものであった。現代ではもっと広く、あらゆる産業部門に従事する人びとと、その働きの上に神のお助けを求め、聖ヨゼフをその模範と仰がせる。

二日（日）ご復活後第二の主日
救主キリストは、愛ふかい牧者として羊のためにご自分のいのちを投げ出し給うた。教会もキリストにならい世の終りまで、信者の真の幸福のため至りつくせりの配慮をつくす。
教区主催聖体行列（福岡市で）
移住の日（今日の献金は移住事業援助のため）

三日（月）憲法発布記念日

五日（水）こどもの日
こどもを悪くから守ることは、社会全体の責任である。

九日（日）ご復活後第三の主日
今日の入祭祈願では「洗礼をうけた者、即ちキリストと共に復活した者に、その名にふさわしいことを励まし給え」と祈る。聖パウロはそれについての具体的な指示を与える。

一一日（火）聖フィリッポ・聖ヤコボ両使徒の祝日
一一日から一四日まで東京で全国司教会議がひらかれる。

一六日（日）ご復活後第四の主日
主のご復活からご昇天までの四〇日間、典礼ではキリストの歴史的なご事跡をたどらず、み教の中心的神秘をわれらに示す、ご復活のめぐみとは、神のご光栄がキリストのご人性をつつみ、そのキリストが全人類を神の方に方向転換させたことである。
鳥栖教会で堅信

一八日（火）教区司祭月例集会

二三日（日）ご復活後第五の主日
ご復活は世界と神との和睦を告げる。「父おんみずからあなたたちを愛しておられる」。神の愛を確信しているわれらは信頼をもって御父のおそばに近づく。「求めよ、そうすれば与えられる。そしてあなたたちの喜びはみたされるだろう」
八王寺教会で堅信

二七日（木）わが主ご昇天の大祝日
今日われらは次の二つの神秘をお祝いする。❶主キリストが神の右に坐り給うたこと。主は御父のご光栄とご権能に一致して、全人類を支配し給う。（主たるキリスト）❷キリストと一つになっているわれらは神の子としての光栄を与えられる。われらも天国に席をもっている。
福岡教区カトリック学校協議会（八代白百合学園で）

二八日（金）深堀司教の祝聖記念日
今日から聖霊降臨の九日間の祈りがはじまる。

三〇日（日）ご昇天後の主日
ご昇天のあと使徒たちは、祈りと兄弟的愛のうちに過していた。かれらの心は、愛する師を離れた悲哀と聖霊のご来臨の期待にみちていた。
二日市教会で堅信

三一日（月）天地の元后なる聖母の祝日

マリアの御旗のもと決意あらたに

福岡セナートス傘下でアチエス

毎年一回聖母マリアのお告げの祝日（三月二五日）に近い時期に行なわれるレジオ・マリエのアチエスの式が福岡セナートスとその傘下の熊本、久留米、北九州の各クリアでひらかれ、開会の祈り、ロザリオ、講話につづいて会員が聖母のご像の前にひざまずいてマリアの御旗のもとに働く誓いをあらたにした。

【福岡セナートス】は四月一一日枝の主日の午後二時半より、高宮教会に会員約一三〇名参加。ご臨席の深堀司教は「長崎の旧信者らは、聖体の前で祈っているプチジャン神父にまず信仰を打ちあけ、それから聖母のご像のもとに連れてゆかれたこの事実は、聖体と聖母への両信心が信者たちの信仰生活にいかに重大な意味をもつものであるかを示している」と述べた。

【久留米クリア】は三月二八日午後二時久留米教会に、七〇名の会員が集合、牧山藤房師が「聖母の勇敢な兵士として、悪と戦うために神の武具を身につけよ」と説教した。

【熊本クリア】では七〇名が三月一四日午後二時、熊本の帯山教会に集まり、ドイル師が説教、役員選挙で村田チエコさんと林田恵さんがそれぞれ新会長と書記に選出された。

【北九州クリア】のアチエスは四月四日二時四五分から八幡八王寺教会でひらかれ、約四〇名参加。青木保師が説教。（写真は福岡セナートスでの宣誓式）

マリアの宣教者フランシスコ会

邦人修女（五名）初の金祝

黙々と祈り働きつづけて五〇年

日本カトリック教会に教皇特使閣下を迎えて盛大な式典がくりひろげられ、九州地区にもその余韻（よいん）がわれわれの身近にひびいていた四月九日、マリアの宣教者フランシスコ修道会の熊本琵琶崎修道院では福岡から深堀司教ローマ本部から会長代理を迎えて家族的喜びと感謝のうちに五名の日本人修女初の修道生活五〇年（金祝）を祝賀した。このめぐみに浴したのはマリア被昇天（林京子）マリア操（出口ジュン）マリア十字架（下道キサ）マリア聖心（森山スエ）マリア善牧者（畑原ハツ）の各修女。いずれも「サンタマリアのご像はどこ」と一〇〇年後信仰宣言をした長崎旧信者の子孫である。

同会は一八九六年（明治二一年）コール神父の要望に答えて六名の修女を日本に派遣、第一の事業として熊本市琵琶崎に待労院を創立し、ライ者、病人、よるべない老人、幼児、貧者のために献身していたが、これらを目撃した信者たちは「うちには年頃の娘がおります。ぜひ神さまのご光栄のために一緒に働かせて下さい」と申し出て、娘たちをささげた。こうして同会に最初の日本人修道女の召命が生れ出た。

当時日本の教会は、旧信者発見五〇年祭を祝賀していた。今年百周年を祝う年に、同会は半世紀にわたり神と隣人のために黙々と献身してきた五修女に、心からの感謝をささげ、日本全土に散在している二二の修道院（四七〇名の修女）からの代表が金祝式典に集まった。

深堀司教は盛大な感謝のミサのあいだ、金祝の五名にむかい「あなたがたは、自分で現在のこの身分になろうとなさって、進まれたのではありません。知らない間にこうならられたのです。イエズス様があなたがたひとりを、お捕えになられたのです。即ちお召しになられたのです。そうしてあなたがたは、そのお召しに、おん主様への愛ゆえに、すべてをあとにしてお答えになられたのです」とのべ金祝者は聖体の前で修道誓願を更新し、聖体の拝礼者、いけにえ、宣教者としての生涯をあらためて神にささげた。

なお当日の式には、近親者多数も参列したが、金祝者のひとりは「この五〇年間、わたしは祈り、苦しみ、泣き、よろこびました。今日はよろこびのみが残りました」と語っていた。

（写真上は、深堀司教と五名の金祝者、下は、誓願の更新式）

明治学園 新校長

セント・メーリー童貞

北九州市戸畑区中原の明治学園（ノートル・ダム修道会経営）ではセント・シルヴェストロ童貞にかわり、セント・メーリー童貞が校長に就任した。新校長は一九五六年来日、これまで福島市の桜の聖母学院短大の副総長であった。

福岡小神学校 新入生九名

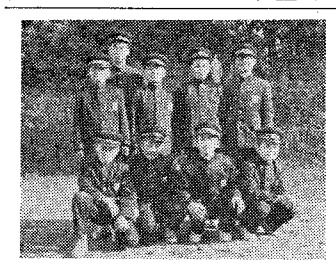
福岡小神学校への新入生は左の九名。

福岡教区＝平田幸彦、平田利雄、平田明、平田次男、平田孝康（以上今村教会）瀬戸信男（小倉教会）

大分教区＝徳留富弘（都城教会）

広島教区＝実井孝雄（尾ノ道教会）

アトムメント会＝吉永恭二（長崎県生月町山田教会）



「人類みな兄弟」

マレラ枢機卿を囲む会 日本の宗教家にメッセージ

マレラ枢機卿の来日歓迎をかね宗教人との交歓をはかるため、国際宗教研究所（理事長増谷文雄氏）オリエント宗教研究所（所長ヨゼフ・スパー神父）、日本宗教連盟（理事長御木徳近氏）が共催して、三月二五日「マレラ枢機卿を囲む会」が東京、麻生のアメリカン・クラブでひらかれた。この会には在京の神・仏・基・教派の主な宗教者約八〇名が出席して、なごやかな雰囲気のうちに、宗教協力などについて話し合ったが、同卿は増谷文雄氏の歓迎の辞につづいて、つぎのように挨拶した。

マレラ枢機卿の挨拶

みなさん、私は、キリスタン信徒発見百周年のために、教皇特使として来日したのでありますが、今日の集まりに出席しておりますのは、むしろ諸宗教との関係局長としてなのであります。きっと、みなさんはパウロ六世教皇がこの機関を創設された動機についてお知りになりたいと思っておいでしょう。

われわれみな兄弟

ご承知のように、キリストは、われわれの兄弟たるべく、また、すべてのひとの救いのために生命をささげるべく、ひととなられ、全人類の兄弟愛を説きつづけられました。現教皇聖下がキリスト教一致推進局をつくられたあとで、他の宗教との関係のために別な事務局の創設を命じられたのは、われわれが、みな兄弟だという、この考えにもとづいているのです。

われわれは、パウロ六世聖下がクリスマス・メッセージで全世界にむけて、語られたように、おたがいが兄弟であるという感情が、ますます明らかに、また同時に、ますます必要となる時代に生きております。教皇聖下は、つぎのように申されます。『人間同志の接触が、きわめて容易に、かつ頻繁になった今日、その接触は、愛にかわらなければならない。おたがいの距離は非常に短縮され、ほとんど問題にならなくなっている。そこで、愛はまさに全人類的なものとなることができよう。「隣人」という観念は、聖書においてはもともと国境をもたないものであり、全人類を包容するものである。いまこそ全世界は、われわれの隣人である。

不信でなく相互理解

現在、世界をみてみますと、大きなグループにわかれ、そうして争いがおこれば、たちまち全人類を破滅させてしまうような軍備をそなえて、対立しあっております。あなたがた日本人は、他のどんな国民よりも、原子爆弾による悲惨や恐怖を、よく御存知です。日本の青年たちは、このような大規模な大量殺人のくりかえしや増加を阻止しようと、ともに努力してきました。

ここにおいて必要なことは、このような不信と、おそろしい脅威にとってかわるに、相互理解や兄弟愛、親愛の情をもってするということです。そうして、これを実現させる道としては、諸宗教が一致し、おたがいに支えあいながら義務と善意をとうして、ひとびとの心を、しっかりと導くことが、もっとも有効であると思われます。これに関して、私は、最近バクトリアで発見されました敬虔なアショーカ王の碑文の一部を思いだします。それは「私がもっとも偉大だと思う勝利は、慈悲の法による勝利である」という言葉です。

諸宗教渉外局の活動

このように、われわれは、一致することが必要であります。具体的には、すべての偏見をすて、はやまった批判をせず、争いや誤解の種になりそうなことは、すべて排除して、いろいろな面から、おたがいに知り合うようにすることです。まさしく、こうしたことこそ、諸宗教渉外局がすべての善意の方がたに提唱するところのものであります。

その本部はローマにありますがよろこばしいことには、すでに日本からも、幾人かの人材やグループの訪問をえております。たとえば、仏教徒の方がたについては、故保坂玉泉氏をリーダーとする日本仏教徒のグループや、のちには全日本仏教会国際局長の中山理々師が、たずねてこられました。中山師については、私は、戦時中における師の平和への努力、現在アジア諸国においてつづけられている尽力を、よく存じております。

御承知のように、教皇聖下は、日本仏教徒に対するメッセージを、中山師におくられました。神道では、松原静師がおられます。師は織田信長をまつる京都の建勲神社の宮司で、信長は、カトリック司祭の友として、その布教活動を支持したので、そういうことから、松原師は、教皇聖下への挨拶におもむくことを、望まれたのであります。

ローマのわれわれの事務局は、各国のカトリック教会の代表者と緊密な連絡をとりながら、協力一致の活動が全世界におよび、そして、いままで申しのべてまいりましたことが実現されるよう、つとめることをもって、主たる仕事としております。

そういうわけで、今日、みなさんにお会いできましたことは、私にとって、この上なくよろこばしいことであります。みなさんがお出で下さいましたのは、私に対する理解のしるしだと存じます。

無神論の攻撃に対し

ところで、もう一種類の爆弾があって、われわれの一致と相互理解を、いよいよ必要かくべからざるものにしています。それは、無神論的唯物論という爆弾で、これは、人間の心のなかにある宗教心を抹殺し、その結果、偉大な仕事への崇高な意欲を破壊しさるものであり、各人の心に巣くう悪への傾きに対する抑制心を失わしめるものです。日本においても多くのひと、とりわけ若い世代のひとのなかに、家庭の宗教心伝統をこばみ、明らさまにしろないにしろ、自分を無信仰であるというものいることが、みうけられましょう。

このような共通した精神的危機に直面して、われわれは、おたがいに一致できるはずですし、また一致しなければなりません。世界における食糧難とか、富める国から貧しい国への援助とか、さしせまった紛争を武力行使においこまないための仲裁といった世界的な問題についても、まったく同様なことが申せましょう。

それらは、世界にとっての重大問題ですが、しかし、われわれにもっと身近かな、もっと小さい問題もあります。それぞれの国、それぞれの町、それぞれの村も、問題をもっております。それもまた相互理解によって解決することができるはずです。

聖心の使徒

（昭和四十年五月号）

さつき咲くころ……李山甫
五月の意向　典礼と生活……下山正義
インドのヒンズー教徒（五月の布教の意向）……粕谷源蔵
黙想　イエズスの聖心の連禱（七）……河野義祐
祈禱の使徒会と聖母マリア……N・アルメイダ
写真特集　ささげもの……三木次郎
神に捧げ物を……粕谷源蔵
五月の聖人　聖ボニファチオ……吉田淳
五月を期して流れる「偉大な社会」の理念……小堀杏奴
聖母の月……アナトール・フランス
聖母の軽業師……
病める友へ　忍耐…十字架のイエズス修道女会
友への手紙――インドの旅から…谷口幸紀
新本めぐり……
ポスト……

購読会員費（〒共）一カ月　五七円　一カ年五七〇円

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾町井七

長崎キリシタンの精鋭

高木仙右衛門 守山甚三郎

池田敏雄著

―津和野・乙女峠の受難―

新書判　三四四ページ
六〇〇円　〒六五円

現代日本カトリックの柱石 ビリオン神父

―慶応・明治・大正・昭和史を背景に

池田敏雄著

B6判　五七六頁（写真八頁）
九八〇円　〒一二五円

東京都新宿区四谷一ノ二
中央出版社
振替　東京　六二二三三

真理のおしえ

(5) 聖体の秘跡

Ⅲ ミサにあずかる

えをささげなければならない。（日曜日と守るべき大祝日にミサにあずかるのは、信者の重大な義務である）。

（2）入祭の儀（神にむかって語りかけること）

ミサのはじめ、司祭は祭壇の下に立って祈る。信者も十字架のしるしをし、神の祭壇に近づくようにとあらわす。

つぎに司祭も信者も、自分たちが罪びとであることをみとめて、告白の祈をとなえ、神に罪のゆるしを願う。

司祭は祭壇に上り、全員の祈をリードする。入祭唱、あわれみの賛歌、栄光の賛歌、入祭祈願、いずれも教会が神にむかってする祈である。

（3）ことばの祭儀（神のみことばをうかがうこと）

これまではわれわれの方から神に語りかけるが、これからは神がわれわれに語りかけて下さる。これが神のことばの祭儀で、聖書と福音の朗読、説教をふくみ、信仰宣言をもって終る。

ここで聖書というのは、新約聖書中のある使徒（聖ペトロとか聖パウロとか）の書簡の数節、時には使徒行録や旧約聖書からの引用で、神が使徒や預言者を通じて語られるのである。

このあと福音朗読に移る前に、小さな祈をとなえるが（昇階唱、アレルヤ唱など）、これはいま読まれたみことばを味わい、黙想するものである。

福音朗読とは、四つの福音書のなかの一部の朗読で、神が御子イエススを通じて語り給うのであるわれわれは尊敬を示すために起立する。

このあとに司祭が説教をする。いま聞いたばかりの神のみことばを、わかりやすく説明するものである。

信仰宣言（クレド）は、教会の信仰の要約で、神のみことばへの応答として、となえ（またはうたう）ものである。洗礼、堅信のときにしたようにここでも自分の信仰を公言し、それにふさわしい生き方をする意志を表わす。

われわれは神のみことばとその説明を注意ぶかく聞かねばならない。それがミサ聖祭と聖体拝領への最も適切な準備となる。

われらの答え

洗礼をうけた者にとって、ミサ聖祭は生活全体の中心であり、ゆるがせにできない重大な意味をもっている。

ミサはきわめて聖なる行為であるから、教会の指導のもと司祭と一緒に祈り、神のみことばを聞いて心をよく準備しよう。

われわれは洗礼によって神の民の一員になっている。ミサにあずかるのは私個人としてでなく、神の民としてである。

祭壇をとりかこむわれわれは、全員が声をそろえて祈り、うたい礼儀正しい態度をとり、ある部分ではふかい沈黙のうちに祈るようにしたい。

ミサの準備は直前だけでなく、もっと前から、たとえば前晩からミサ典書をひらいて聖書の朗読箇所に目を通しておくとよい。

決心＝司祭と心を合せて祈り、神のみことばにうやうやしく耳をかたむけること。

7、ミサにあずかる心の準備（入祭とことばの祭儀）

真理のおしえ

（1）洗礼をうけたわれらはミサにあずかる義務と権利がある

われわれは洗礼と堅信の秘跡をうけて、キリストとその教会の手足になっているので、ミサ聖祭に積極的にあずかる義務があるし、権利もある。最後の晩さんで主イエススは、ミサ聖祭を世の終りまでささげるよう教会にお命じになった。教会と一体になっているわれわれは、ミサをささげる共同責任をおわされているわけである。司祭は主のみことばと行為をくり返して聖祭を司式するが、われわれ信者は司祭を中心に集まり、きめられた役割を果しながらいけに

8、そなえものの準備（聖体祭儀の奉納の部）

真理のおしえ

（1）奉納＝そなえものの準備

ミサのこれまでの部分では、信者全員の祈が神に上り、神のみことばがさずけられて、われわれがいけにえをささげる心の準備をととのえた。これから聖体祭儀にうつってゆく。

まず司祭は、最後の晩さんで主がなされた通り、パンとぶどう酒を祭壇にそなえる。これはやがていけにえとして神にささげられ、霊的な食物として信者に与えられる。

ではパンとぶどう酒はなにを示しているのであるか。この二つは「人間の労働と土地の実り」である。昔からのいけにえでもそうであったように、われわれは自分のいのちを維持する食物と、労働から生産されるものの一部を、祭壇に

自分が所有している何かいいものを祭壇の上におくのは（奉納）神への感謝、尊敬、愛情の表現である。この場合、神への信仰と愛がふかければふかいだけ、それだけ奉納はすぐれた価値をもつことになる。

（2）教会の名において

司祭はミサ聖祭のために集った全信者の名においてパンとぶどう酒をささげ、信者は教会全体を代表し、教会と一致して行動する。

昔、奉納を行なうとき信者は行列して祭壇に進み、各自の供え物（家で作ったパンなど）をささげ一部をいけにえに供し、残りを聖職者と貧困者に寄進していた。だから奉納には他人と幸楽を共にするという思いやり、愛徳の精神が発揮されていた。

この習慣はだんだん実行しがたくなったので、品物の代りにお金をささげるようになった。お金もやはり労働の結果であり生活を支えるものである。

カリスにぶどう酒を入れるとき一滴の水をこれに加える。これは水がぶどう酒に混り合うように、イエススに一致したいという希望を表わしている。

信者は奉納の儀において、自分の思い、言葉、行ない、努力、勤労だけでなく、苦しいことも楽しみも、自分自身と全生活をも天の御父にささげることを忘れてはならない。

最後に、供え物の上に神の祝福を祈る奉納祈願がとなえられる。われわれの貧しいささげ物を天の御父がうけとって下さるように「われらの主キリストによって」お願いする。

われらの答え

われわれは司祭がパンとぶどう酒をそなえるとき、ただそれをながめているだけではいけない。みなで声を出して奉納の祈をとなえ（祈禱書四二―四三頁参照）あるいは聖歌をうたうべきである、パンとぶどう酒に合せて、毎日の仕事、きせいと楽しみ、従順と愛の努力を私のささげ物としてそなえよう。

われわれの生活そのものが神へのささげ物となるために、罪をさけ聖なる毎日を過さねばならぬ。そうするならば、手ぶらでミサにあずかることはないし、生活全体がミサの準備となる。

決心＝日々の生活がミサのささげものとなるよう、細心の注意をはらうこと。

9、主キリストをいけにえとして御父にささげる（聖体祭儀の奉献の部）

真理のおしえ

（1）荘厳な感謝の祈

ミサ聖祭は、神の偉大なる救いのみわざに対する感謝の式であって、これからはじまる奉献、すなわち聖変化がその中心部である。

まず司祭は、神に感謝をするために「心を高め、主を仰ぐ」ように信者にすすめる。

つぎにとなえられる荘重な祈は叙唱とよばれ、典文（カノン）にうつる序文のようなものである。この叙唱でわれわれが天の御父に感謝すべき理由を示して、神の限りないご光栄を天使らと共に賛美するようすすめる（光栄の賛歌）

叙唱には一五種類があって、聖節や大祝日に合った叙唱がとなえられる。たとえば御復活節中には御復活の叙唱、聖霊降臨節中には聖霊の叙唱をとなえる。

光栄の賛歌につづいて、司祭は小声で典文をとなえる。典文とは規範的な感謝の祈という意味である。

人間はあまりに小さいものであるので、神にふさわしく感謝する道を完全に知ることができない。だから神の御子がそれを教えにこられて「私の記念としてこれをせよ」と仰せられたのである。

この命令に従い、きめられた通りに祈り、行動して、御父を全能の神と認め、子としての感謝をささげるのがミサ聖祭の典文である。

（2）聖変化（聖体の奉献）

典文の真中で聖変化が行なわれる。会衆は沈黙してこの尊い瞬間に全身全霊を集中する。

司祭は、最後の晩さんのときイエススのなされたことと、そのみことばをくり返す。主のお体を礼拝するためにひざまずき、つぎに会衆に示すために高くあげる。

われわれは信仰の目をもっておん体をながめ、そしてふかく頭をたれて礼拝する。主のおん血についても同じようにする。

聖変化のとき司祭は主キリストになりきっているのである。だから「これは私の体である」と司祭がいうとき、キリストが仰せられたのと同じ結果を生じ、パンはキリストのおん体になる。

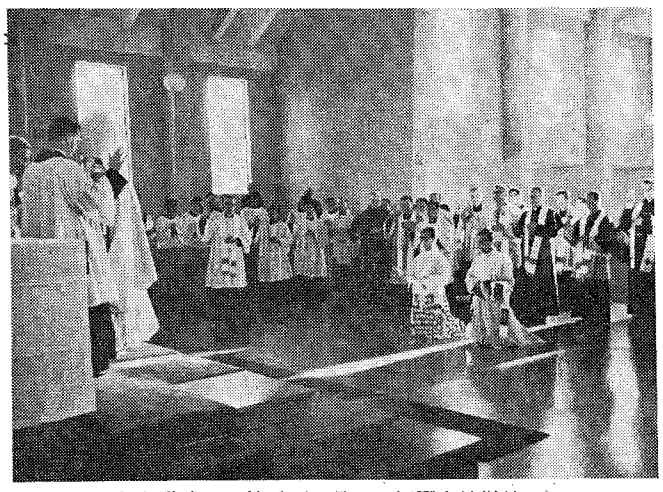
聖変化の直前まで祭壇上にあるのは、パンとぶどう酒である。聖変化のあとでは、目に見える所はパンとぶどう酒であるが、実際はキリストのお体とおん血である。信仰がその確信をあたえる。

イエススご自身がそっくりそのまま、聖別されたパンとぶどう酒のなかにおこもりになる。主は十字架上での御死去の姿を再現するために、すなわちお体からおん血が流れつくしたこと、実際にいのちを投げ出していけにえとなられたことを示すために、今ここの祭壇では聖別されたパン（お体）とぶどう酒（おん血）のおのおのにおもこりになるのである。

われらの答え

典文がとなえられるあいだ、信仰をふるい起し、礼拝の心をもって祭壇に注目し、いけにえとなられた主イエススを御父におささげしよう。おん自らいけにえとなって御父に最高のほまれと光栄をささげ給う主と一致しよう。キリストの模範に従い、自分も十字架をになって毎日神のご光栄のために働きますと、心のうちに宣言しよう。

決心＝毎日の努力をもって、日常生活とミサ聖祭を一致させること。



司祭叙階式での按手（3月18日福岡大神学校で）

10 いけにえを拝領する（聖体拝領の儀）

真理のおしえ

（1）聖体拝領の祈

ミサ聖祭の第三部は聖体拝領である。

聖体拝領の準備としてまず主祷文をとなえる。また「われらを悪より救い給え」という願いをさらにおし進めて「主よ、過去、現在未来のすべての悪より、われらを救い給え…」と祈り、つづけて聖別されたパンを三つに割き一片を御皿のカリスに入れる。これはいわばお体とおん血の合致で主のご復活を示す。

平和の賛歌は、罪のゆるしと心の平安をねがう祈である。

司祭はお体とおん血を拝領し、希望する信者にもお体をさずける感謝の祈をとなえ、祝福を与えてミサが終る。

（2）いけにえとの一致

聖体拝領によってわれわれはミサのいけにえと、全く一つのものになり、一方、神を家長といただく大家族の食事の席につらなり、霊的食物を分け与えられる。

われわれのために苦しみ、死し復活し給うたイエススと一致し、ご自分を御父にささげられたイエススと共に、神に光栄をあげることができる。

聖体拝領によって罪から守られ神の子として生きる力をうけ、神への愛が強まる。天の御父との親しさがまし、隣人愛が高まる。

聖体拝領は聖なる祝宴ともいうべきもので、キリストの愛によって人びとの心が兄弟的に結びつく。聖体拝領は兄弟的一致の秘跡である。ここに天国の姿がうかがわれる。

（3）できるだけミサの度に

聖体拝領は、ミサ聖祭に積極的に参加するためのもっともすぐれた方法である。だからミサにあずかる毎に、できるだけ聖体をうけるように努むべきである。（もちろん一日に一回しか拝領できない但し、御降誕祭の夜中のミサ、また聖十曜日の聖式で深夜すぎのミサで一度拝領した者も、日中のミサでもう一度することができる）

聖体をうけた者は、主と一致した聖なる生活を送らねばならない自分のまわりにキリストの愛をかがやかせ、わけへだてなく愛徳を実行すること、自分の心のうちに抱いている主イエススを他人にも与えるようにすべきである。

（4）聖体拝領の条件

霊魂の条件としては大罪をもたないこと。一つでも大罪があれば拝領前に必ず告白をする。なお正しい意向をもつこと、立派な信者として生きるためおめぐみをいただきたいと望む。

肉体の条件としては、拝領の一時間前から飲食をしないこと（水は飲んでもよい）。ふさわしい服装をすること。

われらの答え

ミサはわれわれにとって最後の晩さんであり、祭壇は主キリストをいただく食卓である。われわれは神の家族の一員としてこの食卓につらなり、天よりのパンを食べる。主のお招きにありがたく応じるようにしたい。

決心＝いつでも聖体拝領ができるように心を準備しておくこと。

ミサ聖祭の順序

(一) 入祭の儀
祭壇下の祈と入祭唱
あわれみの賛歌と栄光の賛歌
入祭祈願

(二) ことばの祭儀
聖書朗読、福音朗読
説教、信仰宣言

(三) 聖体の祭儀
1、奉納の部
そなえものの準備
奉納祈願
2、奉献の部
叙唱と栄光の賛歌
典文（聖変化がその中心）

(四) 聖体拝領の儀
主祷文
平和の賛歌
司祭と信者の聖体拝領
感謝の祈願
祝福

美しき愛の御母
ハインリヒ・デュモソン著　¥四二〇
じつに霊魂をみたし、これに満足をえさせるのは多く知ることではなく、そのことを内的に感じ味わうことである―聖イグナチオ。―マリアを味わうものは神を味わう
（エンデルレ書店）

これ汝の母なり
G・M・ガレ著　山下房三郎訳　¥五〇〇
多くの本がマリアを知らせる書であるならば、この本はマリアを愛させる書である。

たえまなきアヴェ・マリア
A・シュトルツ著　A・ローテル訳　¥三六〇
マリアを知らない人にマリアを紹介する好適の書。マリアを知る人にマリアの魅力を悟らせる書。

マリアを愛するものは
救われ、
マリアを深く愛するもの
のは聖となる。
アルベリオーネ神文

大名町 岩田屋 六階
聖パウロ書院
セントポール・コーナー

―戸塚文郷著作集―　中央出版社　小田部胤明編
1 カトリック読本　¥五八〇
2 神の思恵　未刊
（思恵の秘跡の解説）
3 天口はこの世から　未刊
（思恵の解説・黙想指導）
4 人生診断　未刊
（科学・信仰・布教の小論）
5 心の窓　未刊
（手紙・紀行文）
別刊・神に聴診器をあてた人　未刊
（伝記）

五月の黙想

聖母マリアの連祷のなかに、たくさんのマリアへの称号があげてあるが、マリアの生涯と使命、主イエズスとの関係を一番よくあらわしている称号は、悲しみの御母ではないだろうか。イエススのご託身の目的がご受難とご復活のときに、完全に果されたように、マリアのお悲しみと御子のご復活へのふかい信頼が、マリアの生涯の中心であった。

（一）悲しみの御母に対する信心と尊敬は、力の源泉である。マリアが悩める霊魂を慰める力をおもちであるのは、ご自身が誰よりも大きな悲しみと苦しみを味われたからである。大きな悲しみが小さなわれわれの悲しみを癒し、忘れさせるのである。聖母のお悲しみと自分のとを見比べて、こんなちっぽけなことにくよくよしているのが、恥かしくなり、あたらしい勇気をふるい起して御子と聖母の方にもどってくる。

たしかにわれわれは、マリアのうちに色々な問題の解決を見出し心の悩みを解決して頂く。マリアはすべてのキリスト信者の母だからである。マリアはどんな時にもわれわれを助け、弱さを支え、霊魂を高めたいと望んでおられる。

聖母マリアに対する信心

「子よ、汝の母を見よ、婦人よ、汝の子を見よ」（ヨハネ一九29）使徒聖ヨハネはわれわれ一人びとりを代表して「マリアを自分の家にひきとった」のである。

御母に対するイエズスの愛と尊敬にみならって、われわれも子としての愛をあらわしたい。これは御子イエズスに似たものになるための、最良の方法であろう。

（二）マリアが聖寵を分つ力をもっておられるということが、マリアへの信心の、もう一つの根拠である。われわれはマリアの足下に身を投げ出して「私は御子を心から愛したいと思っています。おんみの憐れみぶかいお目を私にお注ぎ下さい」と祈ることができる。マリアはわれわれのうちに御子をみておられるので、この願いをこばむことがおできにならないいまでもなく、マリアへの毎日の信心のあらわれは、ロザリオを信心ぶかくとなえ、その十五玄義を黙想することである。またマリアと一緒に御子のご受難とご復活を黙想しながら、個人的にでも十字架の道行をするのがよい。

（三）聖母がいつも味方について下さるよう願おう。とくに純潔に反する誘惑にあったとき、信仰がゆるぐとき、神のみせつりにつぶやく傾きにあったとき、マリアのことを思い出そう。

信仰生活にふさわしくない愛着を断ちきることができよう、マリアのお助けを願おう。例えば好奇心から目を慎しまないこと、危険な交際、寛大に自己を放棄しなこと、いかり、ねたみ、不従順、なまぬるさ、あいまいな心、霊的務めを果すときの無関心、朝夕の祈を規則正しくしないことなど。

丁度母親をふかく愛している子供がするように、マリアを自分のもとにひきとろう。自分の務め、困難や喜びを、マリアと共にしよう。聖母は、われわれが聖なる信者になり、神の思召しに忠実に従い具体的に信仰上の義務を果し、十字架をになうよう、助けを与えることを望んでおられるのである。

信者としての召命の尊厳

＝教会についての教義憲章第四章＝

世界を内部から聖化するもの

（一）

第二バチカン公会議は、キリストの「教会」について、明確な教えを示すことを、一つの大きな課題と考え、そのためにはじめから非常な努力をはらった。

そして昨年一一月二一日付で、遂にパウロ六世教皇は「教会についての教義憲章」を公布されたが、これは全司教たちのふかい洞察と長い討議の結晶ともいうべきものであった。

そこに盛られた教えは、教会の創立者であられる主キリストが、かくあるべしと望まれた教会の姿を、誰ははかる所なく堂々と打出しており、教会がみずからの内的刷新をはかるため、聖霊のおみちびきのもと決定したものである。

われわれが憲章を一読して感じるのは、教会が自分に課せられたキリストの尊い、しかもきびしい使命を、新しい時代に十分に果してゆくために、思い切った脱皮を勇気をもって決行したということである。

もちろん憲章が発布されたからただちに教会の姿が若返ったというのではないが、それにむかってすでに第一歩がふみ出されたことは、非常に意味のあることであり、これからの教会の内的充実と、外にむかっての拡張が、大いに約束されているのである。

同憲章は、八つの章に区分されている。そのいずれも重要なものばかりで、わが国の信者もこれを手にとって読めるように一日も早く公式の邦訳がまたれるのであるが、われわれはいまここで、全信者に直接関係のある第四章「信徒について」の部分を、要約的に述べてみよう。

（二）

これまでの公会議で、信徒について特別に審議し、その地位と使命と品位を、この度ほど明らかにしたことは、かつてなかった。それだけにこの章は、ゆたかな内容と積極的な指示をふくみ、信徒の霊的生活と使徒的活動の重要な指針となることは、うたがいをいれない。

これまでは教会における信徒の地位といえば、あまりにもうとんぜられていた感があり、どちらかといえば、聖職者または修道者の階級に、単に付属するもの、もっと極端になると、司祭か修道者にならない者が、聖徳への理想や使命から免除されてふみとどまる所と考えられていた。

これは一言でいえば、教会での信徒の境遇を聖職者や修道者と対立させて見ていたからである。

公会議は、まずこの的はずれの見解を、徹底的にうちはらおうと大いに努めている。そのためこの憲章では、まず「教会の神秘」について述べたあと、すぐに第二章で「神の民」をとり上げて、洗礼によってキリストと結ばれたものが、みな一様に神の民を形成することを述べ、この考えをさらに「信徒について」の章において強調している。

信徒は、教会という神の国において、いわゆる「差別待遇」をうけてはならない。聖職者、修道者と対立的な位置にあるのではない神の国とは、対立した二つのものが肩をならべて、無理に外見的な一致を保っているのでもない。

教会は見事な調和をもつ一つの神秘体であるから、頭と足とは対立もしなければ、ばらばらに引きはなされたものでもない。

（三）

憲章には、信徒の地位と品位を正しく理解させるために聖書の引用をあげて、われわれの熟考をうながしている。

「一つの体に多くの肢体があり すべての肢体が同じはたらきをしないように、われわれも数多くいがキリストにおける一つの体であって、各人は互いに肢体である」（ローマ一二の4―5）

聖職者、修道者、信徒はみな、ひとりの主、一つの信仰、同じ洗礼をうけた選びの民であり、同一の父をもっている（エフェゾ四の5）。

民の一員としての尊厳、永遠の救いに招かれていること、神の子としてのめぐみをうけられる点では、神の民のあいだになんの差別もなく、社会的地位、教育のあるなし、男女の別は神の国では云々されるべきではない（ガラツイア三の26―29）。

しかし神の子としてみな一様に平等であっても、すべてのものが一つの体において全く同じ役目を果すわけではない。

神の国が発展しつづけるためには、民の一人びとりがより完全になり、信仰の宣言と愛徳の実践をもって常に前進し、各自に与えられた働きをしなければならない。

そこで神は、ある者を神の民全体を教え、治め、聖化する司祭職に召し、またある者には福音的勧告の実践（修道生活）をさせ、また同時により多くの人びとに、世間にとどまりながら、いわば新しいパン種として世間をその内部から聖化する使命を与えられたのである。

（四）

この第三の召命をうけた人びとを、われわれは信徒とよんでいるが、憲章は信徒をつぎのように説明している。

「信徒とは、聖職および、教会が認めた修道生活以外にあるすべてのキリスト信者、即ち洗礼によってキリストに合体し、神の民の一員となり、個有の仕方でキリストの司祭職、預言的、王的任務に参与し、教会と世間において全キリスト信者におわされた使命を、おのおのの分に応じて果すものである。」

この定義を十分に理解するには多くの註解がいると思うが、今はこのままにしておいて憲章の本文をつづける。

「信徒にとって個有の、また特別の性格は、かれらが世間にあるということである。聖職にあるものは、時として世間にたずさわりまた世俗的な職業に従事することはあっても、かれら特有の召命によって、元来聖務に任じられたものである。

一方修道者は、福音の教えの真髄によらなければ世界は新しく変貌することも、神に奉献されることもありえないことを、自分たちの生活をもって強くはっきりと証明するものである。

信徒の独特の召命は、世俗の物事にたずさわり、それを神に秩序づけながら、神の国を求めることである。世間のさまざまのつとめや仕事につき、いわばかれらの生活を織りなす家庭および社会の普通の生活をいとなむものである。

かれらが神から召し出されたのは、ここである。各自のつとめを福音の精神をもって果すことによって、パン種として、いわば内部から世間を聖化するように尽力し信・望・愛にかがやく生活の証（あか）しをもって、他のものにキリストを示すということである。

自分たちと密接につながっている世俗的事柄が、常にキリストの精神によってなされ、発展し、創造主と贖い主の賛美となるよう、独特の自主性をもって、正しく導き、秩序づけること、これが信徒におわされた使命である。」

（おことわり＝本稿中の憲章引用訳は完全な逐字訳ではありません）。（つづく）

平山高明師の「聖書の国」は今月は休みました。　編集部

高校生の黙想会に与って

三月二十五日から二十七日まで三日間、行橋の青年の家で北九州のカトリック高校生が集って黙想会を開きました。

第一日目は夕方講堂で各教会ごとの自己紹介から始まり、指導司祭のボネ神父様から心構えなどを聞いて本格的な黙想会に入りました。講堂のステージに御聖体を安置し、いつでも聖体訪問が出来るようにしていました。ミサも講堂で毎朝行なわれました。また会場は市街地から遠く離れた海岸にあり、訪れる人もなく静かで黙想のためには最高の雰囲気でした。

二日目、新田原教会の三木神父様や小倉教会の平山神父様がいらっしゃり、三木神父様は私達カトリック高校生の使命について、また平山神父様はりっぱな信者であれば多くの人に良い影響を与えるということについて講演をして下さいました。また五十一名という予想通りの人数でしたので計画通り、**A**、**B**、**C**と三グループに分け、それぞれ、司会者を決めて「社会における信仰生活とカトリック高校生」と題し、前者を学校と家庭に分けて討論しました。

個人黙想の時間には、各自で黙想したり、霊的読書をしました。黙想会のうちにも運動の時間が設けられ、友交関係の面でも、とても意義のあるものでした。

この黙想会で、各教会の高校生は、ミサや祈り、話合い等のうちに一致し、皆同じカトリック教会の信者である、高校生の一つのグループであるという意識を強めました。そして私達はこれから力を合わせて何かをしようではないかと約束したのです。

このようなすばらしい黙想会に与ることが出来ても感謝しています。

昭和40年の年の黙想

なでしこ

年の黙想会のおしらせを受けて教会へ急いだ。定刻にまだ二十分という時間があるので祈った後、席について教会専用のノートをひらいて見る。

昭和三十八年七月で記録は絶えている。昭和三十八年七月。そうだ私が脳溢血で倒れる前だ。それから約一年半余り、私は聖体こそ訪問しているがミサに預ることさえ怠り勝だ。

ましてやお説教の書き抜きなぞする事さえ出来ていない。空白なノートを眺めながらその一年半の記憶の糸をたぐって行った。

祈りも出来ない只寝たままの日
眠れないで　転々として夜を明かした夜の長かったこと
何時床を離れられるか
いつから歩けるか
不随になった左手左足はいつ使えるようになるのか　ならないのか。
イライラ　イライラして檻の中を右往左往する獣のような心境で生きていた日々

そんな頃、ルルドのお水を恵んで頂いた。寝たまんまの私がルルドのお水を頂けるなんて、之が奇蹟でなくて何だろう。マリヤ様は、こんな私をも省て下さったんだ

それから右手でロザリオを握ってさぐりさぐり玄義を唱えロザリオの祈りをした。然しそれ以上の何事も出来ない私に、一年半の間いいつくせないお恵みを頂いた。天主様は愛のかたまりでいらせ給う。決して天主様にそむいた覚えはないが何一つ守っていない私に、心の怠りが出ると祈りの種子を下さり、感謝の実を下さる。

不随だった左手も左足もわが子でさえ気がつかない位快復した。吾乍らよくぞここまで快復した物だと感心する。ぶらりと下った手と足の重かったこと、取り外して捨ててしまいたい思いだった。取り外してかべに立てかけて寝ている夢さえ見た。

私が信者になった最初の頃F神父様からヨブの信仰のお話を伺った事がある。なぜヨブがそんなにまで天主様を信じ切るのか半信半疑でそのお話しを伺った。前にも増してヨブは仕合せになったと伺った時、そんな物かいなあ　とよそ事にさえ思えた。ところが私が倒れて半身不随になった一年半前から今日の黙想会までの間に、私の心はヨブの心境を幾分でも分らせて頂くまでの賜物を得た事を発見した。

私は前にも増して健康となり前にも増して堅い信仰に生かしめて頂くよう祈りつづけたい。

之が昭和四十年の黙想会の大きな収穫だった。

住所変更

（カッコ内は旧）

熊本カトリック教会
熊本市上通町三番の三四号（手取本町一六の六）
八代カトリック教会
八代市本町二丁目八の二（長町三五）
八代白百合学園
八代市通町一〇番三三号（長町八四）
イエズスの聖心病院
熊本市上林町三番五六号（六三の一の一）

ことばを刻んで84年

三省堂の辞書

コンサイス

初級コンサイス英和辞典…二〇〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇〇
コンサイス英和辞典……五五〇
革　七三〇
コンサイス和英辞典……五〇〇〇
革　六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン

初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版　六八〇
縮刷版　五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…
…二、二〇〇
革　二、六五〇

明解三部作

明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！

広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD

三省堂 福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

エクメニズム委員会設置
全国司教会議で決定

昭和四〇年度の日本全国司教会議は、五月一一日から一四日までカトリック中央協議会館でひらかれ、長江司教から次のように決議事項が発表された。

1、カトリック中央協議会広報部部長長江恵司教の辞任を承認し後任に小林有方司教を任命した。

2、従来、司教団典礼委員会のもとにあったキリスト教用語研究委員会を独立させた。同委員会の委員は平田三郎司教（委員長）と田中英吉司教で、この委員会は主として、専門的なキリスト教用語の研究を行なう。

3、日本におけるエクメニズムの動きの進展を考慮し、第二バチカン公会議決定のエクメニズム憲章の意向に従い、エクメニズムに関する司教委員会が設置された。同委員会の委員には、伊藤庄治郎司教（委員長）、古屋義之司教、里脇浅次郎司教、秘書にパウロ・フィステル神父が任命された。

4、カトリック中央協議会総務部秘書兼事務局長アーチバルド・ブライソン神父の辞任を承認し、後任に田村忠義神父（札幌教区）を任命、同副秘書兼事務局次長に塚本伊和男神父を再任した。なお修道会、宣教会会長会議から他の一名の副秘書を出すことになり、人選中である。

中央協議会の他の各部の秘書、（教学部ヘルヴェク神父、社会福祉部恵美神父、信徒使徒職部志村神父、広報部バガニーニ神父）は全員再任された。

5、懸案であった結婚に関する問題（内縁関係など）についてのいくつかの疑問があきらかにされた。

×　×　×

以上の決議の外、次のような発表もされた。

これまでの三会期にわたって客員として第二バチカン公会議に招待されていた上智大教授、全日本のプロテスタント派の代表）は、来会期には正式のオブザーバーとして出席する。

中央協議会内に典礼についての質問に答えるための事務室（担当者上智吉正神父、古谷功神父）をおく。

全国の信者用祈禱書は、改訂を加えず従来の版を印刷出版する。

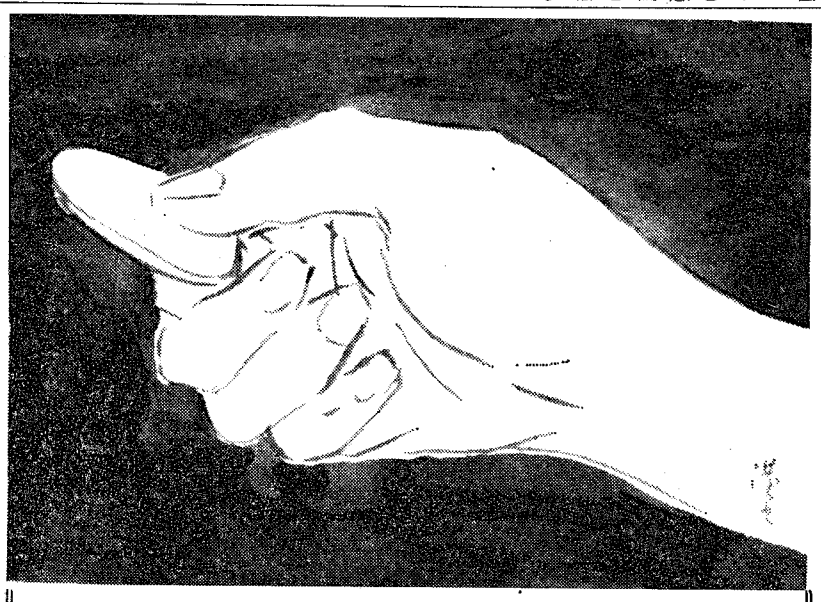
聖心の信心高めよ
祝日制定200周年

パウロ六世教皇は、イエズスの聖心の祝日制定二〇〇周年を記念して教皇書簡を発し、聖心への表敬と信心が高まるよう希望され、次のようにのべられた。

△聖主は、フランスの聖母訪問修道会のマルガリタ・マリアにおあらわれになり、罪によって傷つけられた聖心をあがめあらゆる手段で罪をつぐなうようお命じになった。この信心はユード神父らによりすでに始められていたが、一七六五年二月六日クレメンス一三世教皇は、ポーランドの司教に公けに聖心の祝日を行なうことを承認した。

△今年各地で記念祭が行なわれるであろうが、すべての信者にこの信心の教義的基礎がわかり易く教えられることが大切である。さらにミサ聖祭にもっと熱心にあずかって、聖心が崇敬されることを望む。聖体こそはイエズスの最大の贈物である。

△最近ある人はこの信心を軽視しているようであるが、これは教会のすぐれた正統な信心である。使徒座の指命によって勧められている信心はとくに大切になされねばならない。この信心の本質は、イエズス・キリストをふさわしく礼拝し、つぐのいをささげるものでその基礎は聖体の秘跡で、この秘跡からキリストにおける人間の聖化と神への光栄が流れ出る。



〝まことにまことに私はいう。命のパンは私である。あなたたちの先祖は、荒れ野でマンナを食べたが、死んだ。しかし天から下るパン、それを食べる人は死なない。天からくだった生きるパンは私であって、このパンを食べる人は永遠に生きる〟（ヨハネ6：47—51）

世の光
診断

福音書にイエズスがサマリアの女の麻痺した霊魂をいやされた出来事が記されている。

旅に疲れてイエズスはヤコブの井戸のかたわらに腰を下された。やがて水汲みにきた女に生ける水の奥義について語り始められたが突然女にむかって「あなたの夫をつれてきなさい」と仰せられる。女は「夫はいません」と答える。「夫がいないとはよくいった。あなたには五人の夫がいたが、今のは夫ではない。だからあなたのいうことは本当だ」。女は心の秘密をあばかれて自覚め、「主よ私はあなたが預言者だと見ます」といって町に走ってゆき、あそこにいるのはメシアだといいふらした。

この簡単な出来事のなかに霊魂の医者としての主イエズスの面目が躍如としてあらわれている。

A君は体格に恵まれ、見た所健康そうな青年であった。だが就職のため健康診断をうけた結果、肋膜炎にかかっていることが判明した。こういう事例はさして珍らしくもないことであるが、体の健康状態を知るにも、病気を効果的に治療するにも医者の診断がものをいう。診察を怠ったばかりに、あるいは診断を誤ったために命を失うことも稀ではない。

体の健康を保つための秘訣は無理をしないこと、疲れを蓄積しないこと、自分の体の限界を知ることである。

しかし健康に自信があり、医者の診断もOK、睡眠も十分とれるし、食欲も人並、仕事もバリバリできなんら非の打ち所のない健康の持ち主でありながら、はたから見ていて、少しおかしいなと思わざるを得ないような人がいるのである。

いまはやりの精神異常者のことをいっているのではない。平常は少しも変った所がなく、幾分内攻的でゆううつな傾きもあるが、当り前の言動をしていて、突発的に無軌道な事件を起すのが、この精神異常者の特徴である。しかしもっと恐ろしい、そしてもっと病根が深いのは、精神異常者でなくて霊魂異常者である。

霊魂異常者は、精神異常者とちがって、むしろ神経が太く、でっぷりとしており、愛想がよく、身だしなみも立派である。それでいてやはり当り前ではない。

紳士然とした男が汽車にのりこんでくる。座席にゆうゆう腰をおろすと、やおら週刊誌をひろげて読みふける。チラッと開いたページを見ると思わずこちらが赤面するような、低俗きわまる絵と記事である。当の本人は、他人がどう思うと平気でページをくっている。

この男は、法律上の罪を犯しているのではない。座席の前の人に迷惑をかけているのでもないだから至極さっぱりしておられるのかもしれないが、どう見ても、健康な人間とはいえない。

医者はこのような男に安静を命じるわけにはゆかない。

精神病院の鉄格子の部屋にとじこめもしない。

病気とは健康でないということである。健康であるためのいくつかの条件が欠けているから、体が異常になるのである。内外からの刺戦に対して余りに鋭敏すぎても病気になる。機能のバランスがくずれるからである。

霊魂の異常者でもっとも典型的な症状は、罪または悪に対する不感症である。健康な心の持ち主であれば、良心のとがめを感ぜずにおれないようなことに平然としておれる心の状態であって、われわれはこれを罪悪感の欠乏と診断せざるをえない。人間として恥ずかしいことを恥とも思わない羞恥心の欠除の結果である。

人間と動物とのちがいは、ずばり一言でいってこの罪悪感または羞恥心の有無である。悪いことをしていて平気でおれるのは、人前にはだかであらわれるよりも、もっと重態である。

現代社会は人間の心からこの罪悪感を抹殺するために、実に悪魔的な手段を弄しているように見える。罪悪感があるから精神異常者がふえるのだという理由のもとに罪の意識を麻痺させる注射を止めない。弱肉強食の現実社会に生き残るためには、このような注射がぜひとも必要だと思っているらしい。病める人間性といういい方は、もう可成り使い古した表現であろうが、人間性の奥ふかく喰いこんだ病菌をとりのぞいて、善悪に対して正しい反応ができる健康な心に回復できるには、外的な行為のみを規正するような道徳でなくて、真の神への信仰をもたなければならない。

サマリアの女は、主イエズスのするどい、しかし暖かいおとがめを耳にして、失なっていた罪悪感をとりもどしたのである。きわどい刺戦ばかりを見せつけられて自キリストのすがすがしいお姿の前で過労を医していただかねばならない。

（中浜一男）

司祭と信者数

最近発表された一九六三年現在の司祭とカトリック信者数は左の通り。

司祭数（大陸別）	
ヨーロッパ	264,775
ロリリカ	15,548
アフリカ	111,842
アメリカ	21,512
オセアニア	5,347
	419,024名
1960年度司祭総数	408,565名
÷	10,459名

カトリック信者総数
五億五千万人
司祭一人当り　一、三三名

司祭異動

熊本県隈府教会助任にG・グリーフィス師着任

教皇回勅
「聖母の月」
公会議と世界平和のため

教皇聖下は、五月聖母月を前にして「聖母の月」と題する回勅を全世界の司教あてに発布され、公会議の成功と世界平和のため、特別な祈りをするよう要請された。教皇はすでに信者にむかって「教会の現在の必要と、世界の平和のため」聖母マリアのおとりつぎを願うように、よびかけておられたが、この度回勅をもってこのことを改めて要望された、教皇は次のように申されている。

今は教会の生活の中の、また世界の歴史の中の、まさに神の偉大な時である。公会議の最後の会期には多くの重大な課題が残っており、またそれにつづく時期は会議の決議を実施にうつすときである。公会議中に蒔かれた種がりっぱに成長するために、聖職者と信者の一致した努力がいる。

なお現下の国際情勢の重大な危険に対し、私は心配と恐れを痛感している。それ故、公的社会生活の責任者に、暴力にたよる危険とそれの物的、精神的、倫理的な悲しむべき結果を喰い止めるため、対話と交渉がなされるよう願う。

われわれは初代教会のときからなされたように、祈りをもって、とくに平和の元后である聖母マリアの代願と保護をねがい求めよう。

聖体礼拝（六月）

第一日曜　馬渡島教会
第二日曜　戸畑教会
第三日曜　人吉教会
第四日曜　饗島教会
・　ノートルダム修院

祈禱の使徒会（六月）

【一般意向】信仰の純粋さによって促進されるローマ聖座との一致
【布教意向】公立学校におけるカトリック教師

六月　イエズスの聖心の月

一日（火）　教区典礼委員会
六日（日）　聖霊降臨の大祝日
聖霊は、救主キリストがこの世で、おはじめになった救世の業を世の終りまでつづけてゆかれるお方で、教会の魂ともよばれる。信者は、愛の火にもえるような信仰をもって生きるため、けんそんに聖霊のお助けを願わねばならない。
病者の祈願の日
東田島教会で司教ミサ
七日（月）　同八日間中の月曜日
信仰にはいくつもの段階がある。うける人の心によって純粋度がちがう。非常に人間臭い信仰もあれば、生死をかけての英雄的信仰もある。聖寵のお助けをかりて、高い信仰に進むことはわれらの義務である。
八日（火）　同八日間中の火曜日
神のご命令を制約としてでなく、神のいつくしみのしるしとしてよろこんでうけるため、愛の源であられる聖霊のお助けをねがいたい。
九日（水）　八日間中の水曜日
聖霊はわれらに対し決して無理じいをなさらない、だからわれらの方からも積極的に従う気持がなければ、いつまでも信仰のよろこびを味うことはできない。
一〇日（木）　同八日間中の木曜日
聖霊に動かされている者は、言葉で説得される前、神のお心を読みとることができる、これを超自然的本能とよぶべきか。
一一日（金）　同八日間中の金曜日
聖霊は人の心を聖とし給う。けんそんな痛悔者に罪のゆるしのよろこびを味あわせ給う。
一二日（土）　同八日間中の土曜日
聖霊のたまものを折ある毎に熱心におねがいしよう。公会議の成功のため、自分の欠点に打勝つために。
一三日（日）　三位一体の祝日
われわれは三位一体の玄義をきわめることはできない。しかし御父、御子、聖霊がわれわれになにをなされたかを考えて感謝と賛美をささげよう。
北九州地区司教の日（若松教会で）
一七日（木）　聖体の祝日
聖体はいけにえとしてささげられ、霊的食べものとして拝領される。われらは信者らしい生活をもってミサにあずかり、よりよい信者になるために聖体を拝領する。
二〇日（日）　聖霊降臨後第二の主日
人間にとって愛ほど強いかたむきはない。しかし正しく愛することができるまでには、どれほどの努力と工夫がいることだろう。
地行教会で堅信
二四日（木）　洗者ヨハネ誕生の祝日
二五日（金）　イエズスの至聖なるみ心の祝日
われらは正しい愛の実行によって心ゆたかな者になる、その最高のモデルはイエズス・キリストである、その聖心は「きわめがたい富」の泉であられる。
二七日（日）　聖霊降臨後第三の主日
神が罪人をあわれむのはかれが悪から立上って善にむかう力を与えることである。かわいそうと思うだけでは、まことのあわれみではない。
二九日（火）　聖ペトロ・聖パウロ両使徒の祝日
三〇日（水）　パウロ六世教皇戴冠記念日

"我らと共にいます神"
聖体を賛え二千名が行列

教区主催の聖体行列は、五月二日泰星高等学校から双葉学園まで約二キロ半のコースで挙行された。

雨ではじまった連休であったが行列当日は、暑気を感じないうすら日さす程度の絶好の天候にめぐまれた。泰星高校正面玄関前の広場は五分咲きのつづじ、したたるような新緑の木々におおわれ、自然界もこぞって至聖なる秘跡の賛美に参加した感があった。

二時五分すぎ聖体は深堀司教に奉持されてあらわれ、オサルタリスの賛歌に迎えられて仮祭壇に安置された。行列は十字架を先頭に双葉学園、海星女子学院の全生徒、司祭団、花まきの順でつづく。聖体のあとは修道女と各地から参集した信者たち、二千名をこえる長蛇の列が進んだ。

浄水通りを下って九電記念体育館前を左に折れて南選院電停にむかい、域南線にそって上る。はげしい車の行きかいをよそに行列は整然と進み、古小烏電停から双葉学園に入った。

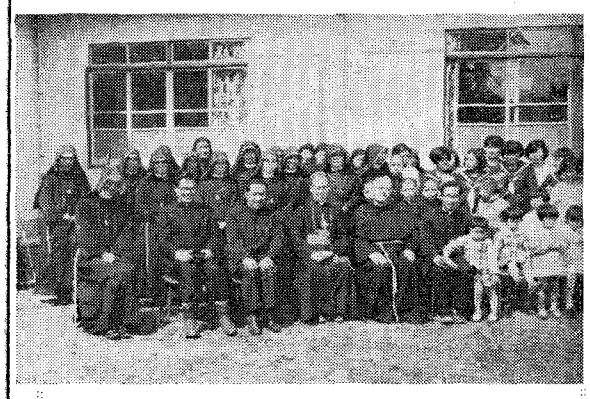
一部をのぞき参加者が講堂に着座した所で、岩村師が「聖体を中心に行列をしてきたように、聖体を心の無二の友として、共に人生の旅路を進もう」と説教、最後の祝福をもって三時半散会した。

馬渡島聖母園　全面改築なる
深堀司教が祝別

聖母の騎士修道女会の経営する養護施設、馬渡島（まだらじま）聖母園（佐賀県東松浦郡鎮西町）では、園舎の全面改築をおこないこのほど五四五平方メートル（一六六・五坪）のブロック造平屋建一棟が完成したので、四月二四日正午から深堀司教による祝別、つづいて落成式をおこなった。

式には同修道会々長フランシスカ童貞、カトリック中央協議会の社会福祉部から熊美漸吉師ら、また佐賀県知事代理、帰人児童課養護係長、鎮西町長、佐賀県下養護施設長ら約八〇名が出席して、ここに働く修道女らの献身をたたえ子供たちの幸福を祈り合った。

聖母園は昭和四年、当時の馬渡島教会主任故ブルトン神父が四、五名の子供を引きとって愛善会の人たちとはじめ、戦後子供の数が増加、五年前から聖母の騎士修道女会に委譲されたもので、現在ではシスター・ドロテア童貞ほか八名が、三五名の子供たちの世話に当っている。



司教さまをかこんで新園舎の前で

司祭・神学生に講演
来日中のエヘールン師

第二バチカン公会議の顧問、アメリカ聖書学会会長、最近パウロ六世教皇から聖書委員会の顧問に任命されたバルナバ・エヘールン師（御受難会司祭）＝写真＝は五月五日来日、大阪・京都地方での講演につづいて五月一七日福岡大神学院で神学生に（エクメニズムについて）、一八日は福岡司教館で司祭に（救いの歴史としての聖書）また福岡默想の家と熊本市上通町教会でも講演をおこなった。

SVP理事会と総会

聖ヴィンセンシオ・デ・パウロ会（SVP）の福岡中央理事会と第三八回総会が、去る四月二四日午前一一時半から熊本市の島崎教会でひらかれ、指導司祭三名、平田房刀会長以下会員一五名が出席した。

中央理事会では、役員が全体の水準向上と実体把握のため各協議会を訪問する件など五項目を審議し、総会では、クリスマス、歳末助け合い運動における各協議会の活動報告を行ない、今夏の長崎での九州ブロック総会、默想会実施の件などを話し合った。

なお新しく設立された門司協議会（三月七日承認、指導司祭モーゼ師、会長山中貞吉氏、会員男女一四名）を紹介して、五時前閉会した。なお次回は大名町教会で開かれる。

修道女八名到着
完成近い女子トラピスト大修道院

佐賀県伊万里市の南方、腰岳の中腹に修院を建設中の女子トラピスト大修道院は、完成に近づいたので、五月二二日第一陣として修道女八名と司祭一名が、兵庫県西宮から到着した。

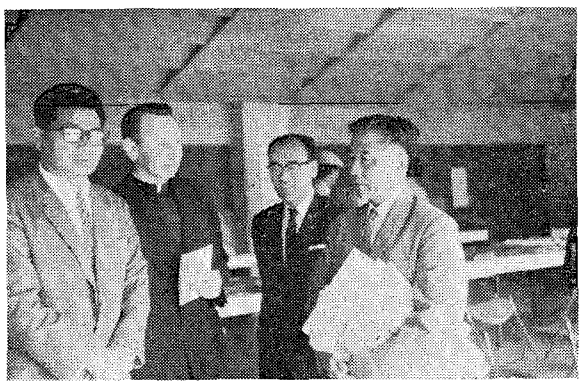
殿の浦愛児園も増築

佐賀県呼子教会所属の殿の浦愛児園（保育一園長畑原富雄師）でも、地元の要望により今春から定員を九〇名に増加するため、増築工事を行なった。

キリシタン展と講演会
佐賀県下七市を巡回

五月五日から六月四日まで佐賀県下で巡回キリシタン展と講演会が行なわれた。これは長崎信者発見百周年記念祭にちなんで、ミラノ外国宣教会が計画準備し、西日本新聞社主催、佐賀県教育委員会後援で実現したもの。展示品は姫路のM・ウァン・オベルワレ師の蒐集したもの約一五〇点で、長崎純心女子短大の片岡弥吉教授が各地で講演をおこなった。（巡回地の日程は左の通り）

五月五日―九日（佐賀市）、一一日―一三日（多久市）、一五日―一七日（唐津市）、一九日―二一日（伊万里市）、二三日―二五日（鹿島市）、二七日―三〇日（武雄市）、六月二日―四日（鳥栖市）



キリシタン墓17個
菊池市で発見

菊池市から約四キロ離れた同市木庭、標高二二〇メートルの小高い丘の雑木林の中から一七〇四年から一七一六年にかけて埋葬されたと思われるキリシタンの墓石がみつかった。同地区には普通の墓地があり、裏側は雑木林になっている。これまでだれも気づかなかったが、菊池市教委が四一年の菊池神社百年祭を前に、同市にある史跡調査をしているうち、林の中にある石をみつけ、裏返してみたところ十字架が刻まれており、近くに同じような石が一七個もみつかった。

たまたまほかの史跡調査にきていた郷土史家坂本経堯氏に調べてもらったところ、享保、宝永のころの墓地が近くにあり、石の材質が同一のため、同じころ建てられた石碑とわかった。

同教委津留次長の話では、島原天草あたりのキリスト信者が、弾圧のきびしさに耐えかね、島原から菊池川を船でのぼり、同地に住みついたものではないかといっている。同市教委は近く熊大教育学部杉本尚雄教授などに頼み、くわしく調査する。

（四月日本新聞五月二日朝刊より転載）

ルルド洞窟祝別

福岡市西新町教会ではルルドの洞窟を建立、信者、幼稚園関係者の参列のもと五月一六日深堀司教が祝別を行なった。

佐賀とキリシタン（上）
ワリニャーノ佐賀へ

天正四年（一五七六）有馬の有馬義貞が、そして翌年大分の大友宗麟が洗礼をうけた頃、佐賀には竜造寺隆信が君臨していた。この頃イエズス会の巡察使ワリニャーノ神父を招いたが、神父は来ることができなかった。隆信の死後、政家が領主になると、その弟は大村純忠の娘（信者）と縁を結び、また隆信の子家信が当時武雄を領していたが、同地に教会を設けることを許したので、多くの改宗者が出た。この頃九州の信者数はおよそ一五万人、神父六五名、教会堂は二〇〇を数えた、とワリニャーノ神父は伝えている。

天正一五年春、秀吉は九州に下り、島津を討ったのち博多に滞在し、ここで最初のキリシタン禁止令を発布した。

天正一八年（一五九〇）政家は領主を退き鍋島直茂が後をつぎ佐賀は鍋島時代に入った。その年ワリニャーノ神父は印度総督の特使として再度来日、長崎に上陸したが、京都に上る途中鍋島侯に招かれて佐賀に滞在し、二回の説教を行なった。一つは「偽りの神と真の神に対する信仰」一つは「霊魂の不滅」に関するものであった。この説教は、鍋島治下におけるカトリックの始めての公的な登場であった。直茂の子勝茂は説教をきいて、秀吉の嫌悪さえなければ洗礼をうけたいとの意向を明らかにしたと記録されるし、また直茂自身も文禄元年（一五九二）に受洗したともいわれるが、いずれも真否のほどはわからない。

ワリニャーノ出発後に嬉野と鹿島の武士達が佐賀をおとずれ、伝道士について教えをきき、およそ一〇〇名が洗礼をうけた。

佐賀に南蛮寺

鍋島直茂は長崎奉行をやめさせられ、新しく唐津城主になった寺沢広高が長崎奉行になった。かれは宣教師を追放し教会を破壊したが、宣教師やキリシタン達の慎みとそのけんそん、また愛徳の行為に感動し、のちに研究して文禄二年ゴメス神父から洗礼をうけ、信者たちの保護者となった。またかれの進言によって秀吉は宣教師が長崎に住むことを許し、教会堂と住院の再建を許した。

秀吉が朝鮮征伐のため名護屋城に滞在したとき、ロドリゲス神父も陣中にあって諸将の信仰を強めるだけでなく、布教も行なった。当時は禁教令下にもかかわらず、神父は全国に駐留し、一〇〇名以上を教えたと伝えられている。もちろん神父たちの布教活動は、秀吉の不満とする所であったが、政治的理由で默認する外なかった。

慶長二年（一五九七）スペイン船サン・フィリップ号の事件をきっかけに再度の迫害がはじまり、神父と信者二六人が京都から博多―唐津―名古屋―唐津―伊万里―武雄―嬉野―時津をへて長崎の西坂刑場に送られ、二月五日殉教の栄冠をうけた（日本二六聖人）。

家康は秀吉の出した禁教令を撤回しなかったが、鍋島侯はイエズス会の神父と伝道士各一人の布教を默認していたので、慶長六年には二〇〇以上の受洗者があったと記録されている。

所が慶長八年（一六〇三）フィリッピンからドミニコ会のアロンソ・デ・メナ神父が佐賀を訪れ、布教の自由と教会堂建築の許可をうけた。同一一年メナ神父は肥前浜町に「いと尊きロザリオの聖母」にささげた教会堂を（現在の若宮神社跡）、しばらくして鹿島にも聖ヴィンセンシオにささげた教会堂を建てた（現在の県立高校運動場跡）。

佐賀には慶長一二年、聖パウロにささげた教会堂が建てられた。佐賀県庁所蔵の古い地図（鍋島城下図といわれるもの）、現在の材木町付近に南蛮寺と記されているのでも明らかである。慶長一四年頃には佐賀に四人の神父と二人の伝道士が常駐し、布教に専念した

慶長年間に教会堂
鍋島侯　キリシタンを優遇

聖心の使徒（昭和四十年六月号）

六月の意向　父の家の倉は大きい……寺西英夫
カトリック教師（六月の布教の意向）……粕谷源蔵
黙想　イエズスの聖心の連禱（八）……河野義祐
病める友へ　イエズスの聖心……十字架のイエズス修道女会
朝の奉献……三木次郎
写真特集　主よ、わがすべてを・・・・……A・コレア
理想的な使徒……
聖書の時間　イエズスと羊たち――まことの牧者――……J・モンステルレ
復讐……R・ウッュ
友への手紙――インドの旅から…谷口幸紀
明治初年の東北紀行（一）……J・M・マラン
新本めぐり……
ポスト……

購読会員費（〒共）一カ月　五七円　一カ年五七〇円

日本祈禱の使徒会発行
東京都千代田区紀尾町井七

長崎キリシタンの精鋭
高木仙右衛門　守山甚三郎
―津和野・乙女峠の受難―
池田敏雄著
新書判　三四四ページ　六〇〇円　〒六五円

現代日本カトリックの柱石
ビリオン神父
―慶応・明治・大正・昭和史を背景に
池田敏雄著
B6判　五七六頁（写真八頁）　九八〇円　〒一二五円

東京都新宿区四谷一ノ二
中央出版社
振替　東京　六二二三三

真理のおしえ (6)
病者の塗油・叙階 婚姻の秘跡

罪と病気をひきはなすことはできない。人々に罪のゆるしを与え病人をいやされた主は、今日もわれわれを罪のきずなから解放し、病気でおとろえた力を回復して下さる。

マテオ聖福音書九章1―8の朗読

おん曰ら罪をゆるし、病人を助け給つたキリストは、今日では秘跡をつかさどる司祭たちに、同じことをおさせになる、病気にかかった信者を教会は見はなすことをしない。

1、病人を力づけ給うキリスト（病者の塗油の秘跡）

(2) キリストは病気にかかった信者を力づけ給う

教会は、われわれと共に生きておられるキリストである、教会の

真理のおしえ

(1) 教会は病気にかかった信者を力づける

病気にかかると体だけでなく、心もよわってくる。病気は源罪の結果の一つである。また自分の犯した罪の結果であることも少くない。病のつかれと苦しみにたえぬき、それを通して主キリストのご受難に一致するためには、神のお助けを必要とする。

病気がひどくなって、いのちの危険がせまっている人にとって、主イエズスがそばにおられることは、なににもまして心の大きな支えになる。

秘跡はすべて、キリストのみ業である。だから病気がひどくなると秘跡を行なってもらうよう、司祭をよぶのである。

もし病勢がさほど進んでいなくて、意識もあり口もきけるなら、まず司祭は病人に告白の秘跡をうけさせる。

つぎにふかい信仰と愛をもってキリストのお苦しみに一致させ、神の子としての生命を強めるため聖体を拝領させる。そのとき、「兄弟よ（姉妹よ）われらの主イエズス・キリストのおんからだを旅路のかてとしてお受けなさいそれは主があなたを悪しき敵より守り、永遠の生命に導き給わんためであります」ととなえる。

（教会は、どんな理由からであっても死の危険にさしかかっている信者が、聖体を拝領できるようとりはからう）

(3) 病者への塗油

秘跡にはよく聖油が使われる。信者になるため洗礼をうけるときキリストの兵士になるため堅信をうけるとき、キリストの司祭になるため叙階をうけるとき、そして重病人にも聖油をもって秘跡をさずける。これが病者の塗油の秘跡である。

この秘跡が求めるおめぐみは健康である。実際にこれは病人のための秘跡であって、臨終者だけにさずけられるのではない。

（この病者の秘跡は、病気や老令のために死の危険にある者にさずけられる。危篤の状態にある人のためだけではない、と典礼憲章―第七三条は述べている）

病者の塗油の秘跡は、堅信の秘跡と同じように、按手と塗油と祈りとからなっている。

聖式のはじめに、病人の家とそこに住むすべての人の上に、神の祝福をたまわり、見えない敵から守って下さるように祈る。

人間をなやます敵とは「死の君主」とよばれる悪魔である。司祭は按手しながら、三位一体の神と諸聖人の名において、この敵の働きを封じる祈りをとなえる。

つぎに病人の目、耳、鼻、唇、両手、両足に十字架のしるしをしながら、親指で聖油をぬる。

五官に塗油するのは、五官は罪がわれわれのうちに入りこむ門のようなものであり、五官を用いてわれわれは罪をおかしたからである。

例えば目に塗油するときこのようにとなえる。「この塗油と主のいともやさしきおんあわれみによって、汝が目をもっておかした罪を、主がゆるし給わんことを」。

（一刻をあらそう瀕死の病人にこの秘跡をさずけるときには、五官にいちいち塗油せず、ひたいにだけ塗油し、ゆるしの祈りをとなえる）

このあと、病人に身体の健康と霊魂の力が回復されるよう、そして再びもとのつとめにもどることができるよう祈る。

病気がよくなることは、神の子としての生命の充実に必ずしも必要でも有利でもない。病気、まして死を、神の愛のせつりとして寛大な心で引きうけることは、罪のつぐのいに役だち、愛をふかめることになる。

神が病人をご自分のおそばにおよびになるならば、聖体と塗油の秘跡は、キリストのご苦難に病人を一致させて、かれらの苦しみを聖なるものにする。即ち、病人にりっぱに死を迎え、キリストにおいて復活させ、臨終の苦しみにたえる力を与える。

病者の秘跡をうけると、イエズスは告白できない病人の罪をもゆるして下さる（もちろん痛悔の心があるとき）。

われらの答え

秘跡はすべて、キリストとの再会の場である。病者の秘跡では病人は肉体と霊魂の両方をいやすことのおできになる天来の医者、主キリストに再会する。

われわれは重い病気にかかったとき、ちゆうちょせずに司祭をよぶようにしよう。生と死とのかしらであられる主が、われわれをつよめるためにおいでになるのだから。

決心＝重い病気にかかったらすぐ司祭をよぶこと。

2、叙階の秘跡をもって教会の骨組みを固め給う

真理のおしえ

(1) 司祭の役割

キリスト信者の生活において司祭はどういう役割をはたしているだろうか。

司祭はミサをささげ、説教をし洗礼をさずけ、告白をきき、要理を教え、病人を見舞う。即ち司祭は信者を指導し、教え、聖なるものとする。司祭のつとめは、キリストのなさったことと根本的に同じである。もし司祭がいなくなったらどうなるだろう。ミサもないし罪のゆるしを与えてくれる人もいない。

司祭はキリストご自身であり、司祭のいる所、そこにキリストがまします。

司祭はみな同等の権限をもっているのではない。

各教会の最高責任者は主任司祭で、それを補佐するのが助任司祭である。

司教は教区全体の上に責任をもつ。全世界の教会の上に最高の責任をもつのは、ローマの教皇である。

(2) 司祭たちはキリストの司祭職に結ばれている

司祭は、神と人とのあいだをつなぐ橋のようなもの、仲介者である。司祭は人々のささげものと祈りを神にとりつぎ、人々には神のみことばと神的生命をつたえる。

キリストだけが、始めも終りもなく永遠の司祭であられる。

教会の司祭は、キリストによって司祭の位にあげられ、主に結ばれて聖なるつとめを果すものである。

司祭になるには叙階の秘跡をうけねばならない。これによってはじめて司祭としてはたらく権能が与えられる。

司祭は、ミサをささげ、秘跡をもって神の生命をつたえ、神のみことばをつたえ、祝別する権能をもっている。

司祭になるまえに、まずトンスラ（剃髪式）によって聖職者の列に加えられ、守門、読師、抜魔、侍者の位を順にうけ、副助祭から助祭にすすみ、最後に司祭になる。

司祭位の上には司教位がある。教皇は、ローマの司教であり、全司教団の首位を占め、この地上でのキリストの最高の代理者である。

(3) 司祭の権能の伝達

最後の晩さんで主イエズスは、聖体の秘跡の制定につづいて「私の記念としてこれをせよ」とのみことばをもって、使徒達を教会のはじめての司祭に任ぜられた。

従って司祭と聖体とは密接につながっている。

主のご昇天のあと、使徒達は主をうらぎったユダの代りに、マチアスを使徒の列に加えた（使一の15―26）。教会の仕事がふえてくると、使徒達は信者のうちから七人を選び、按手して助祭の位にあげた（使六の1―6）。

信者の数がさらに増加すると、使徒達は各地の教会をまわって、長老とよばれる人々に按手して司祭にした（使一四の23）。

今日では使徒の後継者である司教は、叙階のミサのあいだに、すでに助祭になっている人の頭に按手して司祭の位をさずける。

洗礼・堅信をつけた人が永遠に消えないしるしを霊魂にきざまれるように、司祭の位をうけた人は司祭としての消えないしるしを身におびることになる。

われらの答え

今キリストは司祭を通じて救いのみ業をおつづけになる、司祭はわれわれを教え、聖とし、御父のもとに導く者である。

司祭たちは、教会という大きな家の骨組である。われわれひとりひとりはその教会の血の通った石であり、キリストはその親石である。

一つの小教区や家庭から、神に召されて司祭になろうとする人がでることは、この上ない光栄である。われわれは司祭になろうとする人が、ひとりでも多くなるように、またこの人々が召命に忠実であるように祈ってあげたい。

決心＝司祭をキリストの代理者と考え、尊敬し、そのつとめを援助すること。

3、婚姻の秘跡をもって教会の子供をふやし給う

真理のおしえ

(1) 三位一体の神はもっとも完全な家族である

「神は愛であられる」と聖ヨハネはのべている。神はわれわれを愛し、幸福にしようと望んでおられる。愛するとは、ひとに幸福をわけ与えることである。しかしひとりいては愛することができない御父、御子、聖霊は、ご一体の愛の神であられる。これこそ最高の家族、もっとも完全で聖なる家族である。

一組の男女がある。この二人が互いに愛するよう神から愛をいただいたことを感じると、家庭をきずくため一切の持ちものを共有にすることをきめ、結婚にふみきる。結ばれた二人は幸福を与え合い、子供たちにもいのちを与えて、父母、子のあいだに二つの愛がよどみなく交流する。

かれら相互の愛は、三位一体の神の無限の愛の反映である。

(2) イエズスは婚姻を秘跡になされた

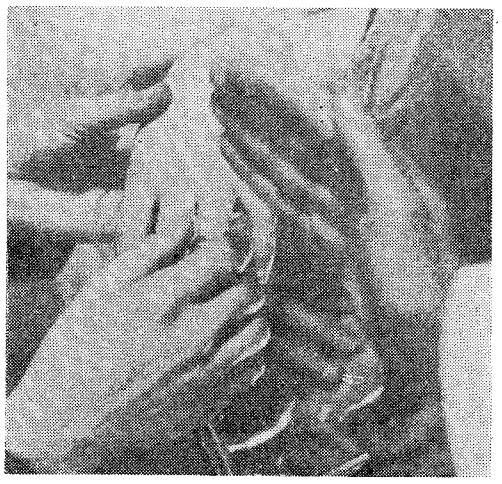
人間がこの地上に造られて以来婚姻があり家庭があった。神は人祖アダムとエワを楽園で結び給うた、と聖書は教えている。

主イエズスは、結婚する人についてこうおおせられる。

「人は、父母をはなれて妻と合い、二人は一体となるのであってもう二人ではなく、一体のものである。だから神がお合せになったものを、人間がはなすことはゆるされない」（マルコ一〇の6）。

イエズスは、むかしからあった婚姻にあたらしい力と品位を加えて秘跡とされた。この秘跡によって結ばれた男女は死ぬまではなれることができない。

夫は、キリストがその教会を愛してそのためにいのちを与えられたように、妻を愛さねばならないと聖パウロはのべている。実際一つに結ばれた家族だけが、愛と幸福を保ち、子供たちをしあわせにすることができる。



わたしの忠実の印しとしての指輪を受けて下さい

(3) 婚姻の聖式

婚姻は、それをうける信者にとって、また生れ出る子供にとって非常に重大なものである。

また教会にとっても重大な関心事である。なぜなら家族は、教会という有機体の細胞のようなものであるから、だから婚姻の式は普通に、祭壇の前でミサ中にとり行なわれる。

他の秘跡では司祭がその施行者であるが、婚姻では当事者二人が秘跡の施行者である。二人は死ぬまで忠実であることを誓い、自分を与え合うのである。

二人の結びつきが神の前で真の婚姻であるためには、自分らの約束を所属の主任司祭（または正式に委任された他の司祭）の前でとりかわし、しかもその約束は、強制されたものでなく、自由になされなければならない。

この秘跡をもって主イエズスは信者である新郎新婦の愛と、これからの生活を聖化し、夫婦の義務即ち相愛し、相助け、死ぬまで忠実をつくす義務を、りっぱに果す力をお与えになる。なお父母として子供を正しく愛し育てる聖寵もおめぐみになる。

われらの答え

愛は神のたまものである。愛によってわれわれは天の御父に似たものになる。婚姻の秘跡は、夫婦の愛と共同生活を聖なるものにする。

これはまた聖なる愛に生きるキリスト教的家庭を、教会に与える秘跡ともいえる。

だから結婚前の若い人たちは、愛とか婚約とか結婚についてまじめな態度、心構えをもたねばならない。また神は自分を家庭生活にお召しになっておられるのか、あるいは結婚の幸福をすてて修道者または司祭になることをお望みになっておられるのか、真剣に考えそれを知らせていただくよう祈らなければならない。

決心＝愛・結婚について慎重な心構えをもつこと。

準秘跡について

それぞれの秘跡の聖式をよく見ると、一番大切な部分（本質的な部分）をとりかこんで、色々な祈りや式が加えられているのがわかる。たとえば洗礼の秘跡では受洗者のひたいに水をそそぎながら、「われ父と子と聖霊とのみ名によりて汝を洗う」ととなえる。これが洗礼の本質的な部分であって、聖寵をほどこすためキリストが制定されたものである。

しかし洗礼をうけようとする人のためにとなえられる他の祈りや式は、教会が制定したもので、これは洗礼の聖寵をよくうける準備となるものである。あるいはうけた聖寵をよく利用できるように加えられたのである。このようなものをわれわれは準秘跡とよぶ。

また人や物や場所を祝別し、あるいは聖別するために教会が定めた祈りや式も準秘跡といわれる。

堅信のよろこび

【鳥栖教会】　五月一六日一九名受堅

【二日市教会】　五月二三日一〇名受堅

【八王寺教会】　五月三〇日二七名受堅

【本城教会】　五月三〇日二八名受堅

み心

渇く人は
私のもとに来て飲め
私を信じる者は
聖書にあるとおり
生命の川が
その脇腹から
流れ出るだろう
ヨハネ7の73

☆ パウロ六世
ラツツアニ著／小林珍雄訳

☆ 教会の奥義
ハツセヴエルト著／八巻頴男訳

☆ ミステチ・コルポリス
ピオ12世／回勅シリーズ　6

☆ みこころの信心
エバンヘリスタ監修

☆ イエズスのみ心に対する信心
デル・コール編

☆ 聖女マルグリット・マリー
田代安子著

教　会

岩田屋セントポールコーナー
大名町　聖パウロ書院

神の家とは
生きたもう神の
教会である
真理の種であり
かつ
基いである
チモテオ前3の15

聖書の国 ㉓

平山高明

フィリスチン人

イスラエル人をとりまく異邦人のなかで、われわれの耳に親しいものにフィリスチン人の名がある。愛人に裏切られ、敵の手にわたされながら自分の手で柱を引きぬき、敵を道づれにして家の下敷になって死んだサムソンの物語や、サウル王の悲劇的な最後はみなこのフィリスチン人との戦いを舞台としている。かれらはどこからきた民であろうか。

▽ ▽ ▽

紀元前一二世紀頃、地中海沿岸にアリアン人が姿をあらわした。かれらは寄せては返す波のように、先住民の建てた町を、それがたとえ同族のものであろうと一向おかまいなく、押しつぶし、互いに相戦いながらエーゲ海を制覇しクレタ島を征服し、エジプトへと殺到した。

一方他の波は地中海ぞいに、小アジアからパレスチナを通ってエジプトにむかい南下した。かれらの通過した跡には、掠奪され、破壊され、焼きつくされた街々の瓦礫がのこるのみであった。

なにびともかれらの行手を止めえなかった。さしも強大だったヒッタイト人（ヘテ人）の王国も倒され、カナアン人の街は焼きはらわれ、剣の下に亡びていった。山地に住むイスラエル人は、昨日まで自分らの敵であったカナアン人の街々が亡ぼされるのを見て、快哉の叫びと不安とのまじった気持だったことであろう。

▽ ▽ ▽

エジプトでは、ラムセス三世が総力を結集して辛うじて海陸からの侵入をくいとめるのに成功したそのときの戦勝記念碑には、エジプト人より頭一つだけ高く、鼻筋が通り、飾り帽子をつけた、皮膚の色白い捕りょたちの姿が画かれている。

打破られたかれらはパレスチナの南沿岸にとまり、以前クレタ島からこの地に植民していた他の一族とまじりながら、この地方の諸都市を支配した。その主なものはガザ、アシュケロン、エクロン、アシドドなどでこれらは互いに独立した町であったが、いざとなるとすぐ団結し行動した。これがかれらを非常に強くしていた。

このフィリスチン人の出現は、イスラエル人にとって大きな脅威であった。

△ △ △

かれらはただ海岸の町々を占領しただけでなく、次第にその勢力を内陸にむけ、ユダの高地を蚕食しはじめたのである。かれらは鉄の精練法をすでに知っていたが、その秘法は厳重に守られ、サムエル記には「当時フィリスチン人がヘブライ人に剣も槍も作ってはならないと命じていたので、イスラエルの全領土に鍛冶屋は一人もみあたらなかった」。それでミクマスでの戦いのときには、サウル王と息子のヨナタンだけしか剣を持っていなかったことが記されている（上一三19－22参照）。かれらは必要なときには、鋤や鎌、斧や鎌などの刃をつけるためには、フィリスチン人の許にゆき高い代価をはらって賈わねばならなかった。

△ △ △

フィリスチン人はするどい鉄の武器で武装されていたし、最新鋭の戦車さえも有していた。それに長い戦陣できたえられたすぐれた戦士達をもっていたので、どう見ても戦いはイスラエル人に不利であった。とくに平地での戦いでは分がなかった。士師の時代からサウル王の時代にわたって、幾度もイスラエル側は破れ、紀元前一一世紀の頃には、かれらはフィリスチン人のくびきの下にあえぎ、滅亡十前にまでおしこまれ、約束されたカナアン国に入って以来の二〇〇年にわたるイスラエルの努力も水泡に帰するかに見えた。

だが聖書にも「イスラエルはまた主の御前に悪を行なったので、主はかれらを四〇年間フィリスチン人の手にわたされた」（士師一三の1）とあるように、イスラエルのおそるべき危機は、実は内部にあったのである。

△ △ △

イスラエル人は、一方では戦いながら一方ではかれらと頻繁に交わり、その娘らをめとり、嫁にやったりしたようである。イスラエルはかれらを嫌悪して書いているが、フィリスチン人の方が文化的にはずっと秀いでていたし、その住居、家財、道具、衣服もうつくしく、上品であったし、女達もあでやかであった。

悪いことにその女達の道徳は相当軽薄で、イスラエルの男達は次第にかの女らによって異教の神々の前に跪くことになる。フィリスチン人の宗教は、カナアンの先住民のバールの神をうけついだもので、怪しげなアフロディアの女神を拝んでいた。

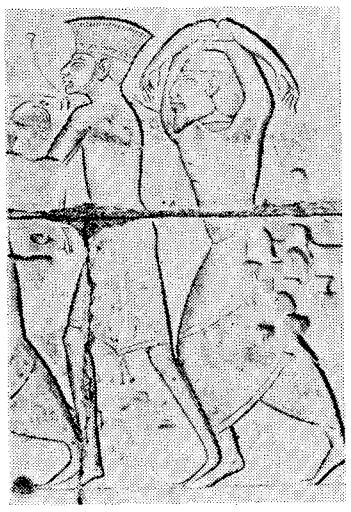
△ △ △

元来遊牧の民で、各部族が自由にふるまっていたイスラエルの民をかたく結びつけていたのは、唯一の神ヤーウェへの信仰のきずなであった。

契約のひつのおかれていたシロの町は、カナアン占領後におけるイスラエルの団結の中心をなしていた。だが今や偶像の前に跪きヤーウェへの信仰がうすれると、部族間の団結のきずなはゆるみだし遊牧民特有の無政府状態の危機がやってきたのである。まえのカナアン人の神々にふれたときと同じ精神的な危機がおとずれた。しかしこの誘惑のなかにおいてもイスラエル人はふしぎな力を発揮し、復活する。自分達はヤーウェの神から特別の使命をうけているとの自覚を忘れ去ることはなかった。

選ばれた王ダビドは、エルザレムに都をきずき、神殿をたて、契約のひつをそこに運ばせた。信仰のふかかったダビドは、誰よりもイスラエルの民の使命とその団結の中心を、またその力の泉をふかく悟っていたからである。

ダビド王以後になると、フィリスチン人の姿はうすれ、次第に歴史の表街道からは消え去ってゆくのである。（上図はフィリスチン人（左）と揃りょ）



六月の黙想

救いの使命を教会と共に

司祭・預言・王的活動をもつて

＝教会についての教義憲章第四章＝

(一)

世を救うために御父からこの世につかわされ給うたイエズス・キリストは、光栄あるこ昇天に先立ち、教会をこの世に送り給うた。これをわれわれは教会の使徒職とよぶのであるが、これを具体的に果すのは、司教的権能を公けにおびている聖職者だけでなく、教会に属している者全員である。

「全信徒が、洗礼と堅信の秘跡によって、教会のもつ救いの使命に召されている。」

〝私は教会に属しているから、教会の色々な行事に与る。それだけで十分だ〟とか〝教会の上に立つ人は職務柄、教会のため世のために働くのだ。自分たちはもう十分に悪魔をこうむったから、邪魔にならないようにうしろに引込んでいよう〟とか考えるのは、自分たちの召命を無視しているものである。

頭ばかりでなく手も足も働き、人の住むところどころにでも、家庭にも職場にも、政治、経済の分野にもキリストの救いの力がゆきわたるようにするのが、教会本来の姿であり、そのためには信徒一同のめざめた協力がぜひとも必要となってくる。

信徒はすでに述べた通り、世俗社会のなかに生活している。ここには信徒でなければ教会は地の塩として存在することも、活動することもできない。

(二)

キリストご自身は御父のご命令を果すために、三種類の任務を遂行された。司祭としてまことの礼拝を神にささげること、預言者として神のみことばをつたえ、教えること、王として人々に奉仕し、人々を御父に仕えさせることである。

この三つをわれわれは祭職、教職、牧職という言葉であらわすがこの働きはキリストから教会にうけつがれ、しかも司教、司祭だけでなく、全信徒もその地位と資格に応じて実践することをキリストは望まれたのである。

最高永遠の司祭キリストは、司祭職を叙階の秘跡をうけた者にはもちろん、洗礼をうけた者にもあずからせられる。

信徒の司祭職とは、神の光栄をあげ人を救うために霊的な礼拝をささげることである。かれらが祈りと使徒的活動、夫婦および家庭生活、日常のつとめと休息などをすべて神の御心にそってするならば、生活の煩いさえも快く耐えしのぶならば、これらは「イエズス・キリストによって神によみせられる霊的ささげもの」となり、ミサにおいて主のお体と共に御父に奉献されるのである。

キリストは預言者としてもこの世に働きかけられた。預言者とは一般に、神の示しをうけて将来起ることを人々に告げる人をさすと考えられているが、聖パウロは「預言する人は、人間に話して、徳を立て、すすめ、慰める」人であるとのべている（コリント前一四の3）。

「キリストは御父のみ国が実現するまで、聖職者を通じてばかりでなく信徒を通じても、全世界にみ言葉をのべつづけられる。キリストは信徒をご自分の証人となしかれらに信仰のセンスと言葉のめぐみをお与えになっている。」

信徒がキリストの預言的役目を果すには、教会の説教台に上ることはいらない「。毎日の家庭生活、社会生活において福音の光を放つよう」につとめて、キリスト者の信仰の偉大な力を人々に納得させて、かれらの目をキリストにむけさせ、永遠を希望して生きる者のよろこびを、人にも感じさせればよいのである（無神論者ニーチェの「もしキリスト信者が、もう少し救われた者のよろこばしい顔をしていたら、私も信者になろう」という皮肉は、一笑に付せられない。

信徒の預言的活動の好適の場として、憲章は、秘跡によって聖化された婚姻生活をあげている。キリストのみ教がすみずみまで浸透し、日毎に美しく変ってゆく家庭こそ、使徒的活動の修練所である。

「夫婦は互いに、また子供に対してキリストの信仰と愛の証人となるべき特別の召命をうけているキリスト教的家庭は、神の国の諸徳と将来の至福の希望を高らかに宣言するものである」。

貞潔な家庭生活をもって世間の快楽主義を黙せしめ、一方親が子供に祈りと教理を教えるのも、預言的活動のあらわれである。

(3)

キリストは王であられる。しかも仕えられる王でなくて万人に仕え、万人を御父に仕えさせる王であられる。

「そのためキリストは、謙遜と忍耐をもって他に仕えながら万人を神にみちびく権能を、弟子たちに与えられた。しかしキリストはまたすべての被造物を罪の腐敗から解放して、神の子らの自由にあずからせるご自分のみ国を、信徒を通じてひろめようと思召めされる」。

神は自然界の利用を人間に許し給うた。人間がこれを悪用しないためには被造物の本質、その価値その目的をよく認識し、政治、経済、文化、技術活動が「キリストの霊によって生かされ、正義と愛と平和のうちにその目的をとげるよう協力しなければならない。」

信徒はこの面で特別の使命をもっている。社会の種々の制度や生活条件が罪の原因とならないように努め、国家やその他の共同体のなかに正義と愛を支配させ、貧者や弱者の権利を擁護し、富の分配の公正をはかることである。

（終）

聖霊のおはたらき

六月の黙想

「私たちが霊によって生きているなら、また霊によって歩もう」（ガラツィア五の25）

「聖霊によらなければ、だれもイエズスは主である、ということができない」（コリント前一二の3）

人類のすくいの大事業において決定的瞬間は、キリストの十字架上でのご死去と、そのご復活、即ち神の御子キリストの聖なるご人性が完全ないけにえとしてささげられ、死と罪に打勝ち給うた時である。

(一)

救世の御計画が見事に完遂されたことを証拠立てるために聖霊は、父なる神と御子から送られてこの世にご降臨になった。

「私はあなたたちに真実をいう私が去るのはあなたたちにとってよいことである。私が去らないなら、あなたたちには弁護者は来ないからである。しかし去ればそれをおくる」（ヨハネ一六の7）。

キリストの弟子たちには実にふしぎと思われたが、キリストが去ってゆかれても、主の現存がうばわれたことにはならない。かれらの目から消えることによって、もっとすぐれた親密な仕方で、主はかれらの間にその現存をつづけられるのである。

主が見えるお体をもって存在されるなら、ある場所に限定されることになる。しかしこれからは時間にも空間にも限定されないで、いつでも弟子達の心に内在される主はこれから、弟子達のそばにおられない。しかし主の霊（聖霊）がかれらのうちにましますのである。今までよりもずっと親密な一致の状態を作りだす現存である。

(二)

人となられた神が果されるべき役割と、聖霊（聖書では度々イエズスの霊と呼ばれている）のそれをあきらかに区別することは、信仰と信心に大きな助けとなる。

キリストはわれらのために聖寵をかち得て下さった。聖霊はこの聖寵の型に霊魂をはめこめて下さる。

キリストは被造物に神を教えられた。聖霊は言葉をつかわずにその同じ神を示される。御子キリストはわれらを救い給い、聖霊はわれらを聖化なさる。

霊魂の聖化というお仕事は、三位一体の第三のペルソナであられる聖霊の特別の役割である。

聖霊は神の御子が人となられるときにも、特別の役割を果された「マリアは聖霊によってみごもった」（マテオ一の20）。キリスト

のご霊魂の聖化もそのあらわれである。

(三)

キリストのご人性に対してそうであったように、聖霊はキリストの神秘体、その一人ひとりの子らに対しても働きかけになる。

信者の心にキリストの神的生命をしみこませ、教え、すすめ、是正し、みちびき、刷新し給う。

現在教会の内外に脈打っている「若返えり」の精神は、ある意味で最初のペンテコステの日における使徒達の精神に似ていると見ることができる。

われわれもあの日、聖ペトロの教えをきいて改心した人々のように、聖霊の明らかなお働きに共鳴して、すなおな信仰にたちもどろう。七つの賜を祈りもとめ聖霊のお働きに積極的に協力してパウロが「霊の実」とよんでいる愛、喜び平和、寛容などの諸徳を生み出すように努めよう。（ガラツィア五の22参照）。

ことばを刻んで84年
三省堂の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和辞典…二〇〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇〇
コンサイス英和辞典……五五〇
革七三〇
コンサイス和英辞典……五〇〇
革六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン
初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版六八〇
縮刷版五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…
…二、二〇〇
革二、六五〇

明解三部作
明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！
広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所 福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人 深堀 敏

定価 一部 十五円

教皇 勤労者の使命を要約

〝教会の社会理論〟を生かせ

パウロ六世教皇は、ミラノ市の二つの産業会社の幹部と社員にむかい、教会は勤労者からカトリック社会理論をよろこんで生かすよう期待していると述べ、つぎのように語られた。

▽社会は、平和と秩序のうちにたえず進歩し真の安定が達成されるために、キリスト者たる勤労者から諸君でなければできない貢献を期待している。

△諸君は人間であり、キリスト者であり、勤労者である。諸君は神にかたどって造られた人間、不滅の精神に神的知性と力と意志の生々とした甘美なしるしをおびた人間である。生命なき物質の限りなく上位におかれ、自由で活動的で力をそなえている。この世界と家族と労働の上に神の創造の業を継続する使命を与えられている。

△諸君は神なる救主によってあがなわれ、新しく創造され、聖寵の生命によって生れ変ったキリスト者である。原罪によって心に傷手をうけているが、神の子、天国の世つぎとされ、愛徳のきずなによって教会の活動的な一員であることをしっかり銘記すべきである。

△諸君はまた勤労者である。人間としての条件の重荷―これは時として重苦しい変化に乏しいものでもあるが―をになわされている勤労者、しかし物をつくりこれを改造し、意識的にこれに高い目的を与え、神の光栄と兄弟たちの必要に役立たせる使命をもつ勤労者である。

諸君は、人間、勤労者、キリスト者として諸君の使命の完全円満な姿を、諸君自身と周りの人びとに現出するよう召されている。

議事日程きまる

公会議第四会期

第二バチカン公会議の調整委員会は、来る九月一四日から始まる公会議の最後の第四会期に上程される議事事項の修正ずみの諸議案を検討するため、五月一二日会合を開き、その結果がこのほどバチカン広報室から発表された。

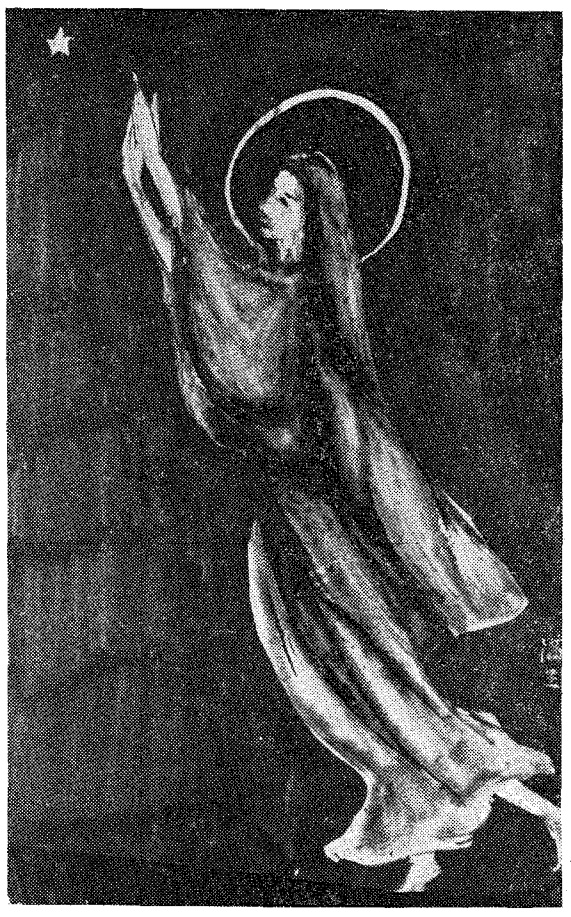
それによると「現代世界における教会」に関する議案と、「教会の宣教活動」に関する議案とは、とくに注意が払われた。

また調整委員会は、第四会期の議事日程に関する大綱をきめ、公会議プログラムの残部を成功裡に完了するため、手続上の諸問題を討議した。

第四会期の議事日録の中には、以前上程されたが表決の段階にまで達しなかった「宗教の自由」に関するものと、「司祭生活および聖役」に関するものの二議案の討議も含まれる。

「神の啓示」と「信徒使徒職」とに関する議案は、すでに討議されたが、第四会期中に一部分ずつ表決に付される。

その他の五議案、司教の牧職、修道生活、聖職者の養成、キリスト教教育、教会と非キリスト教諸宗教との関係に関するものは、すでに当初の表決の段階を通過していて、今では最終的表決を前に、それぞれ修正案の承認または拒否を待っているだけである。



聖母マリアの被昇天

日本JOCの発展祈る

カルデン枢機卿の返書

世界的にその活動を知られているカトリック青年労働者連盟（JOC）の創立者ヨゼフ・カルデン師の枢機卿親任（二月二二日）に際して、同連盟福岡地連の指導司祭バイヨー師と会員から祝辞と贈り物が送られたのに対し、つぎのようなお礼状が届いた。

カルデン枢機卿の返書

親愛なるバイヨー神父様および福岡地連のジョシストの皆様へ

三月二二日付のお手紙に対する返事をやっと今日書くことができました。それを受け取って、どんなにわたしはうれしかったでしょう。あなたのご厚意と、すばらしい贈り物に対して、心から感謝いたします。

それはアジアおよび親愛なるあなたの国へのわたしの想い出を、まざまざと思い出させます。

青年労働者の救いと奉仕のために、全身を献げている全リーダの非常に寛大な行為ゆえに、わたしはこの想い出を大事にしております。

わたしが枢機卿になったということは、それはあなた方ゆえであり、あなた方のためであります。教皇パウロ六世がおっしゃったのですが、このことはこの日がわれわれの使徒的アクションにおいて新しい出発点となるようにということです。この偉大な使命にあなた方が、共に参加されることを強く望みます。

自分の利益をはなれて―兄弟愛と寛大さを持って―いままでよりもっと完全にあなた方をささげて下さい。そうすれば、あなた方を通じてキリストの御言葉が日本のすべての青年労働者に通じるでしょう。

日本JOCがアジアおよび世界のJOCと力をあわせて、その深さおよび力をより大きく発展されることを心から願っております。

あなた方すべてに、わたしの心からの祝福を送っておわかれします。バンコックでお目にかかりましょう。

世の光

あきめくら

つい一月程前、新聞紙上でも騒がれた女子高校生の家出事件があった。某高校の一教室で現金七百円がなくなった。折悪しくもお金がなくなった時分、その教室には一人の女学生しかいなかったという理由で、彼女に嫌疑の矢が向けられた。彼女は学校で着せられた盗みのぬれぎぬに抗議して家出してしまった。ところが二、三日たって真犯人からの現金とわび状とが発見されて、その嫌疑はめでたく晴れた。

この事件は、人間の推測や判断がどんなにたよりなく、また軽卒な判断から生れる嫌疑が、どんなに重大な結果を生むものであるかを、如実に物語っている。

世の中には、他人の行動を一から十までとやかく批難したり、何事につけ嫌疑をかねばけ気がすまない人がいる。その上、もっと悪質なのは、自分の単なる憶測あるいは思いつきを絶対あやまりないもののようにいいふらす輩もいる。

「人を見たら泥棒と思え」とか「スイカ畑の傍で靴の紐を結び直すな」あるいは「ナシの木の下で帽子を正すな」とかいった諺があるように、思いがけない人から、思いがけない事柄について疑惑の目で見られるのが、古えから今にいたるまで絶えない人の世の哀れである。

こうした心ない輩の推測と軽卒な判断故に、毎日を泣きあかしている気の毒な人がどれ程いることであろうか。こうしたことはむしろ日常茶飯事となってしまっているとさえいえよう。妬みや悪意から好んでそのような嫌疑をかけたり、悪評を飛ばしたりする者には手の施しようがない。そのような特殊患者につける特効薬は知らない。だが、両眼あきめくらで、自分ではよく物事が見えているように思っていて、その実ほんの一部あるいは一面しか見えていない場合が多い。このような人々の推測ないし判断といったものは、寓話の中にあるあの三人の盲者の象判断にも似ている。

一度も象を見たことのない三人の盲者がいた。「これが象だよ、さわってごらん」といわれて、三人はそれぞれ異った所に手を触れた。

足にさわった一人が、「象って大きな丸太のようなものですね」と言うと、胴体に触れたもう一人が「いや、象は大きな石のようなものだよ」と叫んだ。すると尾をつかんだ第三の盲者が、「いやお前達はみな間違っている。象はなわのように細長いものだぞ」と絶叫した。

私達も何かにつけこの盲者達のような判断を下してはいないであろうか。物事の一部、あるいは一面だけを見て全体を判断するのは極めて危険である。物事を正しく、真実に判断するには物事の表面だけではなく、裏面をこそよく知らねばならない。表裏を捉えてこそ、物事の全体をつかむことが出来るのではあるまいか一部、あるいは一面しか捉えることが出来ない人は心の「あきめくら」と呼ばれても仕方あるまい。あきめくらの判断がどんなに危険なものであるかは、盗みのぬれぎぬを着せられた女学生の家出事件…」と。

とかく他人に矛先を向けようとする輩は、神の子が現行犯に対してさえ示された寛大な処置に、赤面しなければならないであろう。

心のあきめくらは推測し、判断する前に、物事は受けとる側の存在様式に従って受けとられるという原理を思い起すがよい。そしてこのような人に向って叫んでおられるイエスの御声に耳を傾け、心の目を開いていただかねばならない。「なぜ、兄弟の目にあるわらくずを見て、自分の目にある梁に気をとめないのか。自分の目にある梁を見ずにどうして兄弟に向って、〝兄弟よ、あなたの目のわらくずをとらせてくれ〟といえようか？偽善者よ、先ず自分の目から梁をとり去るがよい。そうすればはっきり見えるようになって兄弟の目のわらくずをも取り去れよう」。

（中浜一男）

ぬを着せられた女学生の家出事件…」と。

とかく他人に矛先を向けようとする輩は、神の子が現行犯に対してさえ示された寛大な処置に、赤面しなければならないであろう。

心のあきめくらは推測し、判断する前に、物事は受けとる側の存在様式に従って受けとられるという原理を思い起すがよい。そしてこのような人に向って叫んでおられるイエスの御声に耳を傾け、心の目を開いていただかねばならない。「なぜ、兄弟の目にあるわらくずを見て、自分の目にある梁に気をとめないのか。自分の目にある梁を見ずにどうして兄弟に向って、〝兄弟よ、あなたの目のわらくずをとらせてくれ〟といえようか？偽善者よ、先ず自分の目から梁をとり去るがよい。そうすればはっきり見えるようになって兄弟の目のわらくずをも取り去れよう」。

（中浜一男）

イエススは「あなたがはかったはかりであなたもはかられる」と軽卒な判断を戒めている。その上私達に立派な模範を示して下さった。律法学士とファリザイ人とがイエススを試みようとして、罪の最中に捕えた女を差出し「先生、モイゼはこういうものを石殺しにせよと律法で命じていますが、あなたはどう思いますか」と尋ねたイエススは権威に満ちた力強いお声で「あなたたちの中で、罪のない人が先ずこの女に石を投げなさい」と仰せられる。その時彼女を訴えた人々の心の眼は開かれ、無言の中に三三五五去って行った。最後に、二人きりになった時、イエススは罪の女に慈愛の眼を注ぎながら静かにいわれる。「私もあなたを罰しない。行きなさい…」。

祈禱の使徒会

（七月）

【一般意向】 現代マスコミによる真理正義愛の普及

【布教意向】 布教国における公会議諸決議の実行

（八月）

【一般意向】 世界における飢饉の克服

【布教意向】 布教地における神学校

聖体礼拝（七月）

第一日曜 ――

第二日曜 直方教会

第三日曜 水俣教会、福岡マリアの宣教者会

第四日曜 天使の聖母会

（八月）

第一日曜 新田原訪問会

第二日曜 飯塚教会

第三日曜 佐賀教会、三位一体会

第四日曜 煉獄援助会

第五日曜 ――

受洗率は高い

共産圏のチェコ

チェコスロバキヤでは昨一年間の新生児の九八パーセントがカトリック教会で洗礼をうけ、青年層の八〇パーセントが日曜日のミサに与かっていると、ドイツ・カトリック広報部は伝えている。

山野鉱の遺族に

上野少年会から

福岡県稲築町の山野鉱事故の被災者遺家族のためにと、三重県上野市のカトリック少年会一同から深堀司教あてに千円が寄托されたこのお金は田川教会のボンカズ師から遺族に渡された。

シスター・ヴェロニカ（田中ツツ代さん）六月一八日午前七時一五分幼きイエスス会福岡修道院（福岡大神隣り）で心臓まひで急逝。三三才。無期誓願二年目。鹿児島県名瀬市大熊出身。

七月

一日（木） わが主のいとも貴き御血の祝日

モイゼはシナイ山で祭壇の上で動物の血を流し、神とイスラエル人とのあいだに契約が成立したことを示した。キリストは十字架上でご自分の血を流し神と全人類とのあいだに愛の契約を成立させ給うた。

二日（金） 聖マリアのご訪問の祝日

四日（日） 聖霊降臨後第四の主日

少年ダヴィドは、神の助けにより、敵の巨人ゴリアドをたおした。いまこの世を重く圧している敵は罪そのものである。キリストは教会とその信者がこれに立向うことを命じておられる。

一一日（日） 聖霊降臨後第五の主日

サウル王は人民の心が自分から若いダヴィドにうつるのを見て憎しみに狂う。そのため王としてふさわしからぬ行動に出て神から捨てられた。憎しみの心をいだいては、愛の神のみ前に出ることはできない。

一八日（日） 聖霊降臨後第六の主日

神に聖油をそそがれて王になったダヴィドも、人間的よわさをさらけ出して罪のどれいになった。われらは聖体の秘跡に助けられて「主の道にわが歩みを堅固に」進んでゆきたい。

二五日（日） 聖霊降臨後第七の主日

ダヴィドは一度罪に屈したが、痛悔して神にゆるしを願い、神が与えられたあらゆる苦しみのつぐないとして忍んだ。かれは神のどれいとなって聖徳の実を結んだのである。

二六日（月） 聖女アナンの祝日

八月

一日（日） 聖霊降臨後第八の主日

ダヴィドの王位をついだサロモンは非凡な智恵をめぐまれ、善政をしいた。いま聖霊がめぐみ給うた智恵は、けんそんにもとづき、神の愛にみちびく智恵である。

四日（水） 聖ドミニコ証聖者

深堀司教ご霊名の祝日

教区司祭月例集会

六日（金） われわれの主イエスス・キリストの御変容の祝日

主は公生活のなかば、三人の弟子をつれてタボル山にゆかれご自分の神としてのお姿の一端をお見せになった。

八日（日） 聖霊降臨後第九の主日

智恵に秀いでたサロモン王も、晩年は神を忘れて、偶像崇拝にふけり、そのため、神の罰をこうむった。われらも神以上に名誉、財産、身の安楽を追い、掟をやぶるならば、偶像をおがむと同じである。キリストはこのような人のために泣き給う。

一〇日（火） 聖ラウレンチオ助祭殉教者

一五日（日） 聖マリア被昇天の大祝日

神の母という高い位にあげられ給うたマリアは、世の終りをまたず、霊肉共に天国に迎えられ給うた。

二二日（日） 聖マリアの汚れなきみ心の祝日

全日本の上に、聖母マリアの特別のご保護をねがい、福音の教えがひろまるよう祈ろう。

二九日（日） 聖霊降臨後第一二の主日

隣人を愛するのはわれらのつとめ。隣人とは私の助けを待っている人、私の努力次第で助けてあげられる人である。

福嶋氏にグレゴリオ騎士勲章

教育者としての功績たたえ

戸畑教会で伝達式挙行

北九州市戸畑教会所属信者の福嶋順三氏（霊名使徒ヨハネ、戸畑明治学園主事）に、この度パウロ六世教皇聖下より大聖グレゴリオ騎士勲章が贈られ、五月三〇日午前一一時からの深堀司教司式のミサ中、伝達式が挙行された。

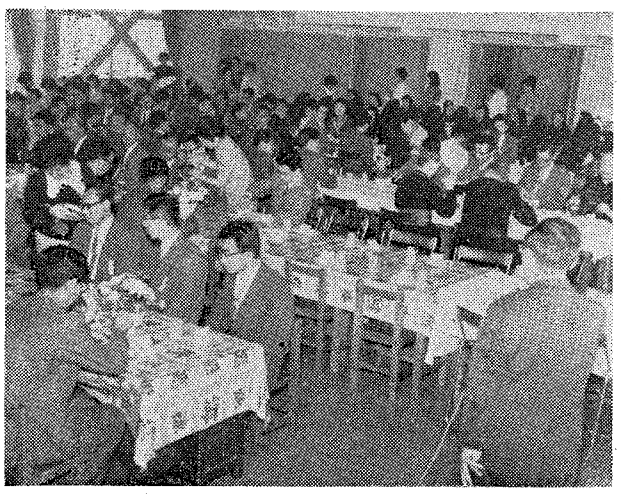
式には、とくにこの日のためノートル・ダム修道女会のカナダ本部から総長代理としてセン・アルフォンソ・ド・ヴァランス童貞ら二名が出席、同会日本管区長、学園全教諭、生徒多数福岡カトリック学士会を代表して会長の桑原万寿太郎教授らが、地元信者らと共に福嶋氏の栄誉をたたえた。

教会騎士に選ばれた福嶋氏は戸畑明治学園創設以来、主事およびすぐれた教育者、模範的信者として、広く大きな功績をつくされたことがローマ聖座に認められたもので、氏とその家族戸畑教会、学園、さらに福岡教区にとって大きな名誉である。

大聖グレゴリオ騎士勲章は、一八三一年グレゴリオ一六世教皇が制定したもので、はじめは当時の教皇領の防衛に甚大な功労をなした信者に授けられたものであったが、現在では教会のために特筆すべき功績をあげ、ふかい信仰を発揮した人々に授けられる。

教職員一七〇名が一堂に

八代でカトリック学校協議会



親睦のひとときを楽しむ先生たち

福岡教区カトリック学校協議会（小、中、高校）は深堀司教のご臨席のもと五月二七日わが主の御昇天の大祝日、熊本県八代白百合学園で開かれ、修道者をまじえて一七〇名が参加した。

この協議会は毎年春に一回当番校でひらかれ（昨年は本渡市でのアルメイダ四〇〇年祭に参加）、必要に応じて諸事項の協議、研究聴修、見学などを行なっているが八代では一〇年振りの開催であった。

八時半八代教会で司教ミサにあずかり、つづいて学園講堂で深堀司教が現代の教育の危機について訓話のあと、郷土史家永松豊三氏が八代地方のキリシタンについて紹介、講堂半分を仕切った広間で各校入りまじて中食をとり、午後は水波朗氏（九大法学部教授）が約一時間、最近のベルギー留学中の感想、とくにノーベル平和賞をうけたビール神父について語った。

今年の協議会は教職員相互の親睦が主な目的で、プログラム最後のお茶の時間に学校別に先生たちの紹介があり、三時教会で聖体降福式にあずかって散会した。

殉教公園で野外ミサ

アルメイダ神父しのび

日本の医学、社会福祉事業に大きな業績を残し、宣教師として日本各地に伝道して一五八三年天草で亡くなったルイス・デ・アルメイダをしのんで、五月一六日午後七時から熊本県本渡市の殉教公園の同神父記念碑前で野外ミサがささげられた。ミサは本渡教会主任ライル神父が司式し、市内信者のほかに横山市長、菅原本渡ロータリー・クラブ会長、中村郡市医師会長、松田同歯科医師会長ら来賓など約七〇名が出席した。

昨年五月一六、一七日にその四〇〇年祭が催され、殉教公園のキリスト平和像前に記念碑が建てられたが、今年から毎年五月の第三日曜日に野外ミサがささげられることになったもの。

糸永・伊東両師銀祝

糸永一師（今村主任）と伊東誠二師（新田原主任）は今年司祭叙階二五周年を迎え、全教区司祭および信者たちは両師に感謝とお祝いのことばをささげた。

両師略歴

ヨゼフ糸永師は昭和一五年三月二三日ローマ留学中フマゾニ・ビオンディ枢機卿から叙階、同年七月帰日、ボネ師のあとをついですぐ今村教会主任、一八年九月から四年間福岡小神学生の教育にあたり、二二年九月から再び今村主任になり今日に至っている。

フランシスコ伊東誠二師はカナダ・モントリオール市で昭和一五年六月二二日シャルボノー大司教から叙階、約五カ月間バンクーバー市の日本人の司牧にあたり、同年一一月二五日帰日、福岡小神学校付、太平洋戦争発勃直前の一六年一〇月軍属徴用、二年間フィリッピンで宣撫班として従軍、一八年九月今村主任、一年後に応召、終戦の翌年六月満州から復員後佐賀教会主任、二三年八月大名町主任、三四年一一月馬渡島主任、三八年六月から新田原主任となっている。

（写真は糸永師＝左＝と伊東師）

北九州若松で「司教の日」

北九州地区の今年度の「司教の日」は六月一三日若松教会に同地区の一二の教会から信者代表を集めて行なわれた。

信者一同でやまとのささげうたをうたうなかを司教はカッパ・マニヤの正装で入堂してミサをはじめ、主任のデシャンブー師がキリストの代理者であり教区の牧者であられる司教に対するまことの従順について説教、司教は信者に与えられた神の限りない愛のご配慮について語り、信者の自覚をうながされた。

式後も司教は信者たちとひざを交えて親しく歓談し、地区の司祭十数名も加わってなごやかに昼さん会がひらかれた。なお当日の同地区での教会献金はすべて司教にさげられた。

NRCの集い

NRC（国鉄に勤務するカトリック信者の団体）のメンバー一五名はさき程福岡市高宮教会で集会をひらいた。集ったのは長崎、北九州、福岡の国鉄マンで、これまでにも九州各地の教会で集っていたが、来る九月からは山東龍雄師のもとで毎月の常会をひらくことになった。なお六月二四日から三日間神戸市で第一〇回NRC全国大会がひらかれ、山東師も講師として出席した。

神への奉仕生活五〇年

八代市のシャルトルの聖パウロ修道女会で扶助者として五〇年間神への奉仕に一身をささげてきたセシリア竹内さん、ポリナ山口さん、アガタ吉田さん、アグネス内野さんら四名に対する感謝の式が五月九日（日）八代教会で行なわれた。この人たちはいずれも長崎出身で、修道女の仕事を助けたり司祭館で神父たちの世話につくしてきた。

移民の献金

（五月二日）

大名町	五、四〇〇
浄水通	二、九〇〇
地行	三、五〇〇
高宮	一、五〇〇
蓑島	一、八二一
西新	二、〇〇〇
吉塚	二、〇〇〇
箱崎	一、二四五
茶山	一、〇五〇
田島	六〇〇
大楠	二、〇三〇
那珂町	四、八七〇
二日市	一、三五五

ミサとアガペ

聖霊降臨のお祝い

聖霊降臨の大祝日、福岡市東田島教会で深堀司教司式の荘厳ミサがささげられた。ミサでは福岡大神学生が聖歌と式に奉仕、ラプラント校長が式長、高木善行師が説教し、ミサ後司教を中心に司祭、神学生、信者一同が教会で作ったおすしに舌づつみをうって、遠い昔のアガペ〝愛の食事〟を再現した。

佐賀とキリシタン（下）

禁教下の佐賀

慶長一一年（一六〇六）には嬉野の不動山に教会堂が建てられ、イエズス会の神父が布教に当った家康は政権獲得以来、教会を政治的に利用しようとする配慮からその布教活動を黙認していたが、慶長一二年禁教令を公布し、教会堂を破壊させ神父を追放するに至った。その頃武雄にも教会を建てる準備していたが断念する外はなかった。

当時不動山と田町に伝道所があって多くの者に洗礼を授け、また一人の神父は唐津に行って伝道した。唐津にはおびただしい亡命信者がいたからである。この頃佐賀岡下には浜町と鹿島そして佐賀に教会堂があり、塚崎町にも建てられるはずであった。

慶長一九年秀忠はきびしい禁教令を公布し、すべての教会堂をこわし神父らを追放した。元和元年オルファネル神父はひそかに長崎から佐賀の信者をたずねたが、翌年家康の死後、秀忠は更にきびしい禁教の高札を村々町々に立てさせた。まず佐賀のロザリオ会長コメスと弟のパウロも棄教を迫られひどい拷問をうけた。

元和五年長崎奉行所の前には信者を密告したものには、莫大な賞金を与える旨の高札が立った。翌年デ・メナ神父が棄教した信者に裏切られて捕えられた。その頃イエズス会の一人の神父は唐津に潜入し、困難と戦いながら信者の司牧に当った。諫早では佐賀生れのレオネ西田利兵衛が斬首され、胴は有明海に棄てられ、頭はさらされた。

元和七年相前後してイエズス会の三人の神父が来日した。一人はイタリア人カミロ・コンスタンチオ神父で、再度の入国である。同神父は上陸後直ちに不動山の教会堂に赴き、また唐津でも布教した。またロザリオ会を組織し洗礼を授け、唐津から伊万里をへて平戸に行ったが、遂に捕えられて、翌年九月田平で殉教した。（福者カミロ神父については、鮮血遺書第八篇参照）。

殉教から潜伏へ

またドミニコ会のペトロ・バスケ、ドミンゴ・カステル両神父もひそかに佐賀をおとずれた。その頃九州で最もきびしい禁教令の執行者は、佐賀の鍋島と唐津の寺沢であった。しかし神父らは信者を励まし告白をきき聖体をさずけたので、信仰はいよいよ強まるばかりであった。

長崎奉行は、神父たちが長崎、唐津、佐賀に隠れているのは、信者が隠すためだと考え、取締りを一層きびしくした。神父らは山の中や地下に掘った穴に隠れ、夜中ひそかに出て働いたが病死したり殉教して、一人の神父も居なくなった（最後の神父の殉教は一六四三年）。

三代将軍家光は禁教をさらに徹底させ、寛永元年には鍋島は禁教布告を出したが、信仰と愛徳に徹したおびただしい信者の数に驚き布告のみに終った。しかし不動山に番兵を送り、ここで多くの信者が殺された。寛永一四年島原の乱が起り、佐賀藩と唐津藩は速かに行動し、翌四月原城は陥落、籠城した信者は一人残らず殺りつくされた。この間よく生き残った信者は山や離島に身を隠し、偽装して信仰を守った。

佐賀の古い記録によれば承応二年から明暦三年（一六五三―一六五七）にかけ、八〇名の信者が殺され、佐賀県下には一人の神父も居なかった。これが江戸時代最後の佐賀キリシタンの記録で、それから明治五年（一八七二）信教の自由が許されるまで、二二〇年間の長い潜伏時代がつづくのである。

安政元年（一八五四）の開国後パリ外国宣教会の司祭が長崎にきて教会堂を建てたが、発見されたキリシタンら四一〇〇人が西日本各地に流された。わが国に信教の自由が認められたのは明治五年のことである。佐賀県にも神父たちが訪れるようになり、布教が進められて、現在信者数は二八九五名教会数九を数えている。

（ミラノ会編「佐賀県におけるキリシカンの歩み」から抜粋）。

久留米大牟田	八、六〇〇
吉野	二、〇〇〇
今村	八〇〇
本郷	六、五〇〇
小郡	二、一六四
古賀	三〇〇
	二、〇〇〇
佐賀	二、〇〇〇
唐津	一、〇〇〇
鳥栖	八六〇
伊万里	一、九〇〇
鹿島	三〇〇
武雄	六〇〇
多久	三〇〇
湯川	一、五〇〇
戸畑	一〇、八五〇
天神	三、六〇〇
黒崎	七、〇〇〇
若松	一、六〇〇
本城	二〇〇
八王寺	二、〇〇〇
門司	一、六〇〇
広石	一、二五〇
小倉	八、〇一五
水巻	一、六〇〇
直方	六〇〇
飯塚	八〇〇
新田原	六、〇〇〇
行橋	二、〇〇〇
田川	七〇〇
手取	八、〇〇〇
島崎	六、六〇〇
健軍	五、〇〇〇
帯山	二、〇〇〇
八代	九、〇〇〇
八吉	四、二〇〇
水俣	一、七〇〇
玉名	八五〇
隈府	五〇〇
崎津	二、五〇〇
大江	一、五〇〇
本渡	一、五五〇
荒尾	五〇〇
呼子	二、七〇〇
馬渡	一、六〇〇
久留米信愛女学院	八、七〇〇
熊本信愛女学院	一五、〇四九
合計	一五七、〇三八

福者カミロ神父ら殉教

迫害下いよいよ強まる信仰

聖心の使徒

（昭和四十年七・八月合併号）

七月の意向　現代マス・コミによる真理・正義・博愛……柏谷源蔵

教会の新しい姿（七月の布教の意向）……三木次郎

黙想　イエズスの聖心の連禱（九）

明治初年の東北紀行（二）――函館より秋田……J・M・マラン

写真特集　東北紀行のアルバムより……

八月の意向　一枚の紙も一粒の米も……七田和三郎

神学校の充実（八月の布教の意向）……柏谷源蔵

七月の聖人　聖イグナチオ……吉田淳

病める友へ　良識…十字架のイエズス修道女会

友への手紙（四）――インドの旅から――……谷口幸紀

自由への逃亡……W・ベルガー

新本めぐり……

ポスト……

購読会員費（〒共）一カ月　五七円　一カ年五七〇円

日本祈禱の使徒会発行

東京都千代田区紀尾町井七

真理のおしえ (6) 神の十戒

I、礼拝・聖人・祈り

1、神おひとりを礼拝する

真理のおしえ

(1) 神の前にへりくだる

しつけのよい子供は目上や敬うべき人の前で、礼儀正しくふるまう。われわれは神の前でどのような態度をとるべきであるか。東方からイエススを拝むに来た博士たちがその見本を示している。

マテオ聖福音書二章9－11の朗読

かれらは幼な子の前に平伏して最高の尊敬を表わし、天と地の主として礼拝し、「黄金と乳香と没薬とのみやげものを献上した」。

神を礼拝するとは、神がすべてのもの上に位する方、ただひとりの神、造物主、天地の支配者と認めることである。

(2) 教会は神を礼拝する

どの時代でも神を信じる者は、東方の博士のように神を礼拝する教会は、よるもひるも世界いたる所で神を礼拝している。

教会は態度をもって（平伏、おじぎ、ひざまずき、香をたく）、言葉（礼拝を表わす祈り、歌）、祝日の行事などをもって神を礼拝する。ミサ聖祭は、教会のもっとも完全な礼拝行為であって、「われらの主キリストによって聖霊と一致して全能の御父に」礼拝をささげる。

教会は三位一体の神、御父と御子と聖霊をひとしく礼拝し（栄誦の祈）、それ以外のものを礼拝しない。

われらの答え

われわれ信者にとって神はただおひとりで、この神以外のものを決して拝まない。これはわれわれの誇りである。神の前にへりくだり、体と心をもって礼拝しよう。

決心＝ふかい尊敬をこめて神の前に頭を下げる。

2、まことの礼拝者

真理のおしえ

(1) 神は人の心の底まで見通される

創世紀にアベルとカイン兄弟のことが記されている。神はアベルのいけにえはよろこばれたが、カインには顔をそむけられた。

創世紀四章2－8の朗読

神はカインの悪い心を見通しておられたので、かれのいけにえを退けになったのである。

(2) われらの礼拝

われわれは教会の公けの聖式に加って神を礼拝する。ミサや聖体降福式はそれである。その他家庭や学校や種々の集会で、団体的に礼拝することもあり、ただひとり静かに、祈りのなかで礼拝することもある。朝夕の祈りで、苦しいときうれしいとき、その他さまざまな生活の環境のなかで、御父のみむねにすなおに従いながら、神を礼拝する。

心のこもらぬ形式だけの礼拝はねうちがない。

祈りを怠り、祈りのあいだ、また神のみまえで不敬な態度をすることは、礼拝に反する。

まことの神以外のものを神とみなすこと（迷信）、神にささげられた人（司祭や修道者）、場所（聖別された教会）、物品（ミサのカリスなど）にひどい不敬をすること、とくにふさわしくない心で秘跡をさずかることは（とく聖）礼拝に反する。

(3) すべてにこえて神を愛する

われわれが礼拝する全能の神はわれわれを愛し、われわれから愛されることを望まれる父である。われわれは父母、兄弟、姉妹、友人、恩人を愛しているが、それ以上に神を愛さねばならない。なぜなら天の御父は、この人たちよりも限りなく偉大な方、最高の恩人であられるから。

礼拝するとは、なによりも誰よりも神を愛し、神のためにはなんでもぎせいにする覚悟をきめることである。神だけがこのような愛をわれわれに要求することがおできになる。

われらの答え

神は人の心の底まで知っておられるので、表面だけの礼拝をきらい給う。われわれの祈り、教会での態度が神の前にふさわしいものであるかを反省しよう。すべてにまさって神を愛する心でいるかも考えよう。

決心＝心をこめて祈ること。

3、神のみ名をたたえる

真理のおしえ

(1) 神を賛美する

ミサの祈りのなかには神を賛美する祈りが非常に多い。信者たちは、天使の群に声を合わせて神のご光栄をたたえる。

使徒ヨハネは晩年にパトモス島に流されたとき天国の姿をかいま見る特典を与えられた。

黙示録七章9－12の朗読

われわれもミサの叙唱の祈りで天使、聖人らと神をたたえ、口をそろえて「聖なるかな」をとなえる。これは神のみおしえに対する答えであり、神のみ名に対する尊敬の表現である。

(2) 神のみ名を賛美する

誰かに名前や肩書をつけることは、その人に対する愛と尊敬の表われである。私の名前は私のものであり、私の一部である。名をそりゃくに呼ぶことは、私に対する侮辱である。

まことの神はいろいろな呼び名をもっておられる。全能、永遠、至聖な方、万物の主、御父、御子聖霊など、われわれは神にふかいしたしみを感じているが、決してそのみ名をそりゃくに口にしてはならない。

聖人たちは神の友である。特別に神と親しい方であるから、そのお名前もうやうやしく口にすべきである。

われらの答え

神を知り、礼拝し、愛することができるのはわれわれの大きな幸福である。神に対する礼拝と愛をあらわすために、教会の公けの賛美にあずかり、聖なるみ名、聖なるものすべてに、ふかい尊敬を表明しよう。

決心＝祈りのあいだうやうやしい態度をすること。

4、聖人に対する尊敬

真理のおしえ

(1) 聖人とは

教会では毎日聖人のお祝いをする。聖人には教皇はじめ司教・司祭、平信者、修道者、子供・老人男女の別なく、あらゆる階層の人びとがいる。

ある聖人は全生涯を通じて神の信仰を実践・証明し（証聖者、童貞女）その信仰を守りぬくためにいのちを捨てた（殉教者）。

公けに聖人として尊敬するのは教会から正式に聖人として承認された方である。

諸聖人の祝日（一一月一日）に教会はすべての聖人を崇敬する。聖人らはこの地上で主イエススの教えられた通りの生活を行ない、今は神への完全な礼拝者として天国におられ、またこの地上を旅しているわれわれのために祈っておられる。

教会は主イエススとともに親しく、救いのみ業に協力された聖人たち（洗者ヨハネ、十二使徒、ヨゼフ）を、そしてそのなかでも格別に神の母、諸聖人の元后であられる聖マリアをあつく敬う。

(2) 神がすべての聖徳の源

聖人たちはどなたも、型にはまった生活をなさったのではない。その生き方はさまざまであったがただ一つ共通なのは、かれらが神のお召しに完全に答えたということである。

イエススはわれわれに模範を示すために御父からつかわされたただひとり完全な聖者であられるが、聖人たちはどんな苦労もぎせいもおそれず、主の道に従ったのである。

かれらはすべてにまさって神を愛し、礼拝し、お助けのもと必ず神のおぼしめしを実行する習慣を身につけられた。このような寛大な愛をそそがれたのは、超自然的なお恵みをもって働かれる聖霊である。「私たちに与えられる聖霊によって、この心に神の愛がそそがれた」（ローマ五の5）。

神おひとり聖であられるので、神だけが御子イエススをもって人を聖とすることがおできになる。その御子は神の生命と愛の霊（聖霊）をかれらに分け与え給うた。

だから聖人を尊敬することは、かれらに聖性を恵み給うた神に自身を賛えることになる。

(3) どのように聖人をうやまうか

聖人の祝日を祝う＝教会は、聖人をお与え下さったことを神に感謝するため祝日を制定した。かれらは教会と兄弟たちに奉仕し、模範と祈りをもっていつまでもわれわれを助けている。聖人をたたえることは、われわれの喜びでもある。「一つの肢体が尊ばれれば、すべての肢体が共によろこぶ」（コリント前一二の26）。

模範にならう＝聖人にみならうとは、かれらがなさったことを全部その通りにまねるのでなく、神への愛、奉仕の心構え、聖徳への熱情をならうことである。

お祈りを嘆願する＝かれらは神のおそばで強力な取次者である。聖画、聖像、聖遺物を大切にする。

われらの答え

聖人たちを尊敬しその徳にならうために、聖人伝をよむようにしたい。家の中のどこかに十字架はもちろん、聖母の御絵か御像をかざるようにする。

決心＝保護の聖人や守護の天使に毎日祈ること。

聖地で祈られるパウロ教皇

5、キリストのように祈る

真理のおしえ

(1) 祈りとは

われわれは祈るときひざまずきあるいは立ったままで、または正座して目をとじ手を合せて祈る。

祈りのことばやしぐさは、心に思っていることの表現である。声を出して他人と一緒に祈り、うたうことも多い。神のおことばを聞いたり、読んだりすることもある。

祈りとは神について、自分について、他人について、子供が父親にするように神と語ることである。

(2) 祈りについての主の教え

主は公生活のあいだ神殿で、山の中でお祈りになったし、弟子たちにどのように祈るべきかを教えになった。ファリザイ人のように口先だけで人に見られるためではなく、けんそんな、心のこもった祈りをするようにとさとされた。（マテオ五の23－24、ルカ一八の9－14）また忍耐ぶかく祈るようにと、喩をもって教えられた（ルカ一一の5－9）。

われらの答え

われわれはこみ入った祈りをしようとするので、非常にむつかしく感じる。御父に話しかけるのがむつかしいはずはない。

また御父の前にいることを忘れるので、祈りに退屈することもある。本当に愛しているなら御父と一緒にいて退屈するはずはない。

よく祈れるようになるためにはまず祈りの時間を惜しんではならぬ。気を散らさず祈れるよう神のお助けを願おう。

決心＝欠かさず毎日祈るようにつとめること。

6、キリストと共に祈る

真理のおしえ

(1) われらはキリストと一つ

われわれは洗礼によって親しくキリストと結ばれている。主はぶどうの樹で、われわれはその枝である（ヨハネ一五の1－8）。キリストが身体の頭であれば、われわれはその手足である。

その主は、御父のもとに帰えられ、天国でいつもわれわれのため祈っておられるが、また世の終りまでわれわれのそばにおられる。

主のみ名によって相集る所、そこにまた主もおられる。だからキリストと一緒に祈るよう心掛けねばならない。

(2) 教会は常にキリストによって祈る

主はまだご自分の名によって祈るよう教えられた。「あなたたちが私に留まり、私の言葉があなたたちに留まっているなら、望みのままにすべてを願いなさい。そうすればかなえられるだろう」（ヨハネ一五の7）。

教会はこのお勧めに従って祈っている。ミサの公けの祈願はどれも「われらの主イエスス・キリストによりて」となっている。実にミサ聖祭そのものが主イエススのみ名によってささげられる。教会の祈りはすべてキリストの祈りに他ならない。

(3) 祈りと生活を一つにする

イエススのみ名によって祈るとは、またイエススのみことばをもって祈ることでもある。

「主の祈り」はイエススが教えられたもっとも完全な祈りである。

この祈りは、神の子供らが御父に申上げるべき、願うべきことをすべてふくんでいる。どんな生活環境にあっても、喜びと悲しみ、欠乏と誘惑、罪のなかにあってもとなえることのできるものである。

われらの答え

われわれは祈っているとき、とくに神のみ前にあり、イエススと親しくなり、聖霊のよろこびを感じる。多く祈る人は、神を思い、その命令を愛する習慣がつく。

祈りは生活を高め、神の望まれるような人間に変える。神のお心のなかにひたり、生活全体が神への賛美になる。

決心＝朝晩イエススと共に祈る習慣をつけること。

7、キリストの教会と共に祈る

真理のおしえ

(1) 信者はひとりで祈らない

信者はひとり祈るときでも決して孤立することはない。教会とその信者の大家族の祈りに合わされる。三位一体の神を賛美する私の祈りは、夜となくひるとなくこの地上から天に昇る大きな祈りにとけ込んでいる。

信者の祈りはまた、自分ひとりのものであってはならない。神への愛があるならば祈りのなかで必ず、私の祈りを必要としている人びと、祈りを怠っている人びと、祈ることを知らない人びとのことも考えねばならない。

(2) 教会の祈りは絶えることがない

信者の共同的祈りのもっとも典型的なものは、ミサである。

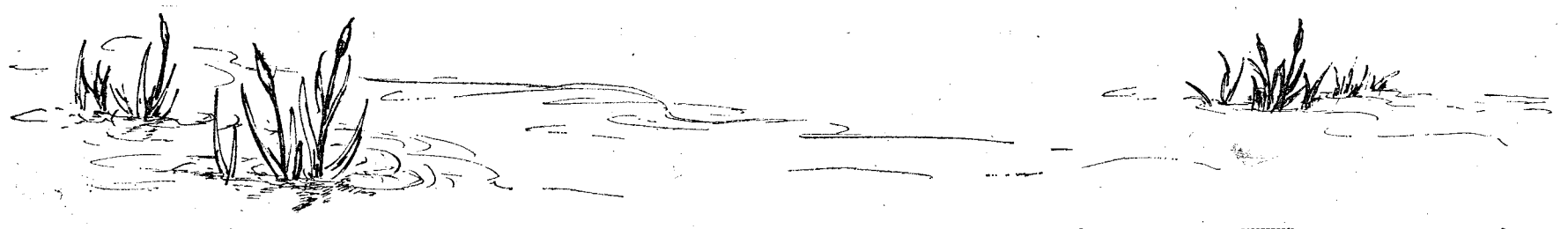
いまでは世界中のどこかで絶えることなくミサがささげられている。修道院では修道者たちが、また多くの信者がひとりまたは集って祈りをしている。

このように教会では、キリストの絶えることない祈りに合せて神を礼拝し、賛美し、感謝し、お助けを願っている。

われらの答え

私はひとり祈っているときでもその祈りは教会の祈りとなって、キリストの祈りに合わせられて御父のもとに達している。これを考えることは非常に大きな慰めである。

決心＝教会の信心の祈りに進んで参加する。



あなたたちは大いなる値いで買われたのであるだから、その体をもつて神に光栄を帰し神をその身にまとえ
コリント前6の20

性 の倫理
フランツ・ボッシュ著
神の計画にあずかるという人間の品位の上に立つた性問題の解明
¥八〇〇

な ぜ誘惑されるのか
デランジェラ・ムラー著
人生コースは、後ばかりふり返る人とつねに前進する人に分けられます。さてあなたは？
¥二〇〇〇

性 の問題とカトリック
モリッジャ・トレーシィ共著
藤並登訳代
あやまつた性教育がはんらんしている今日の世代にカトリックの永劫不変の信念を与える……。
¥六〇〇

息 子は息子・娘は娘
ハインリヒ・ウィレムス著
神の創造の神秘を背景に、なにげなくつかませる生命の秘義
¥二〇〇

性 における愛と自制
スーネンス・枢機卿著
紫藤房枝訳
「愛」と「自制」は、今日の人々には運命の分岐点である。いかに解答すべきか？
¥四〇〇

大名町・聖パウロ書院
岩田屋六階・セントポール コーナー

聖書の国 ㉔

平山高明

聖書を開くとわれわれは度々安息日という文字にぶつかる。福音書の中でも、ファリザイ人はキリストに向って激しい憎悪と攻撃の鋒先をむけているが、それは度々この安息日の禁についてであったキリストの弟子達が麦畑を通りながら穂をつんでは手でもんで食べているのを見たファリザイ人が、かれらを非難したのも食べた麦の穂が他人の畑のものだからではなく、安息日には脱穀という労働が禁ぜられているのに、弟子達は穂をもんで労働の禁を犯したというのがその理由であった。

▽ ▽ ▽

安息日の起原は、創世記に神が創造の業を終えられて第七日目に休まれたと記されていることにあるが、安息日というとき、それはわれわれのいう意味の単なる休日ではない。かれらにとって安息日とはもっと豊かな美しい意味をもつもので、神が与え給うた恵みを思い起させるものであり、神ヤーウエに固く結ばれていることの証拠とさえ考えていた。

だからモイゼはイスラエルの民にこの掟を与えながら、この掟を破った者は死刑に処すると、きびしく教えた。聖書には荒野に滞在中、あえてこの禁を破って、石殺しの刑にあった人のことを記している。

▽ ▽ ▽

では安息日とは何だろうか。それは神に捧げられ聖別された日であり、その日を神聖なものにするために労働を全く休むのである。そのことは選ばれた民イスラエルがヤーウェに属することの記しとみなされたし、また一週間の激しい労働ののち体にも心にも一息を入れるときでもあった。選ばれた民にしてもやはり、余り多忙に流れると目前のことに心を奪われ、神や永遠のことを忘れる危険はいつもあったのである。

安息日は第七日目であり、今日の土曜日に当るが、イスラエルでは一日は夕暮から始まるので金曜日の夕方からである。しかし夕暮といっても正確にはいつ始まるのだろうか。

あるラビは三つの星が夜空に見え始まるときとし、あるラビは一番星と三番星の現われる間といっている。それで時を告げる役を持った人は、村や町で一番高い屋根に上って三回大声に安息日の到来を告げたのである。

第一回目は、畑に働いている人に向って仕事をやめるようにと告げ、第二回目は、商人達に店を閉めることを命じ、第三回目は、灯をともす時がきたことを知らせるためであった。そのときユデヤ人の家々ではあかるい小さな燭がゆらめき祈りと沈黙が支配し始めるそれでユデヤには「安息日は輝きと共に始まる」という美しい言葉がある。

▽ ▽ ▽

安息日の前日は「用意日」とよばれ、人々は注意ぶかく家を掃除し、ととのえ、安息日の間にとる食べ物を準備した。この日には炊事をすることが禁ぜられたからである。安息日の食事は冷たいものときまっていた。これらは婦人の仕事であり、良い嫁であるためには安息日の灯火の油を満たすことや、パン、魚、いちじく、なつめ椰子の実を準備することを忘れないように心をくばっていた。

また用意日には水浴し、とくに皮なめしなどの汚ない仕方をしたときには水浴して身を潔めた。灯がともされると人々は、テーブルにつき食事した。ぶどう酒と香味を食卓に供え、その上三回特別の祝福を祈った。夕食がすむと、あくる日の安息日に会堂から帰るまで何も食べなかった。

イエズスの弟子らが安息日に麦穂をもんで食べたのは、前夜から何も食べなかったので、つい取って食べたのであろうか。

▽ ▽ ▽

安息日には人々は、会堂で聖書を幾節かとその説明をきき、それから家にもどって昼食をとった。昼食にもまた特別の祝福の祈りがあった。

律法学士のいるような町では、この聖なる日の午後「学問の家」とよばれる家に集って、学者達から神学的な問題についてくわしく教えをきいた。

五時頃に夕食をとるが、この頃安息日の終りを告げるトロンペットが鳴りひびいた。すると夕食の最中であっても立ち上り、手を洗ってぶどう酒の杯の上に感謝の言葉を唱えるのであった。日常生活中の敬けんなひと時、聖なる休息が終ったのである。

このように安息日は全く祈りの日であったが、決して悲しい日ではなかった。この日には香味やぶどう酒や準備された馳走を食べ晴着をきることもすすめられていた。神ご自身その創造を終り給うたとき喜ばれたように、一週の労働ののち人々が喜びたのしむことはふさわしいことだったのである。

子供のための黙想

夏休みは人それぞれに色々の意味をもっている。ある人にとっては遊びと骨休みであり、ある人にとっては楽しい旅行をし、新しい友をうるときであり、またある人にとっては過去のことを忘れて、新しいことに打ちこむときである。

これはどれもいいことである。しかし私達が夏休みにでも決して忘れてならないことがある。その一つ、これは私達がマリアの子供であるということである。

(一) 主イエズスが十字架にかかられたとき、主はご自分のそばに忠実な二人の方を見ておられた聖母マリアと聖ヨハネである。主はこのお二人がご自分に対しふかい愛情をいだいておられるのをごらんになり、その報いとしてお二人を母と子になされた。

"婦人よ、これがあなたの子である。"そしてヨハネにむかって「これがあなたの母です」と仰せられた。聖ヨハネはこの言葉を自分にだけでなく、私達の代表者として聞いた。イエズスはこの言葉を私達にかけて下さったのである。

あのとき主はご自分の母を私達の母、私達の霊的母として与え、私達をマリアの子供とされた。

夏休みの注意

(二) 私達がはじめて公教要理を学んだとき、マリアが私達の母であることを教えられた。この教えは私達の心に刻まれて、何ともいえぬよろこびを感じさせた。

このような感動は、私達がマリアに目をむけるとき必ず生れるものである。

しかしこの教えのふくむふかい意味は、いっぺんにつかめるものではない。

すべての聖寵と祝福は、マリアのみ手から私達の心にそそがれるマリアが私達イエズスを愛することを教え、マリアが自由とか責任愛とか勇気などという言葉のふかい内容を私達に理解させて下さる信仰のめぐみもマリアを通じて与えられ、教えきれないほどたびたび私達を保護して下さった。私達が危険な場所に近づくとき、心配そうに見守り、私達が罪を犯したと見ると、やさしく告白場に連れゆかれる。

マリアの最大のお望みは、私達がいつでも自分の子として生きることである。これは私達の理想であり、日々の努力であり、熱望でなければならない。

夏休みのあいだも、私達はマリアの子供である。私達は休み中でもマリアを忘れてはならない。あなたが夏休みのプランを立てるとき、旅行し遊び、新しい友をうるとき、また太陽にてらされて海岸で水とたわむれるとき、あるいは山のすがすがしい空気を胸一杯呼吸するとき、「このことをマリアさまはお許し下さるだろうか」と自分に尋ねて見なさい。もしお許し下さるなら、あなたはマリアの子である。マリアの子であるとはイエズスと結びついているということである。

夏休み中でも今まで通りたびたび聖体を拝領し、告白をしなさい休みの時にはとかく心がゆるみ、日曜日のミサをなまけたり、祈りを忘れたり、食べすぎたりするもの。あなたは子供らしくあらねばならないが、甘える心は捨てなければならない。マリアの子供だから。

(ムオナルド)

笑顔について

浦野洋司

私の友達の中で、他人から好かれていたのを、今思い出してみると、彼等彼女等が皆いつも笑顔でいたように思えます。笑顔のみでそれ以外の顔が思い出せないのです。そしてそれらの顔が懐しいと同時に、とても美しかったと感じます。

実際、人がニコッと笑うと本当に美しい顔になります。「写真をとるときに『チーズ』というと美しくとれる。」のも、その時が笑顔に似ているからです。誰でも、一人一人それなりに笑顔が一番美しいのです。でも笑顔が美しいのは何故でしょうか。またどんな美しさなのでしょうか。

人が笑うと目が細くなります。でも目は大きくパッチリした方が美しいでしょう。口も一般に大きく開きます。ある人は、出歯を隠そうとして、むやみに口を尖らせその結果「ハッハッ」となるのが「ホッホッ」となる。あれはみっともない。口も口もまた鼻でも笑うと皺が寄ります。鼻が出た所で鼻についていうと、これはおもしろい。笑わなくてもあぐらをかいてべしゃんこなのに、笑うと余計に足を外に広げる……のもあります。このように一つ一つの部分を見て行くと、笑顔はかえって滑稽のように思われます。それでも笑顔は美しいのでしょうか。

笑顔は必ずといえる程、嬉しいとか、懐しいとか、楽しい等という好ましい感情から出て来ます。だから今私のいっている笑顔の持つ美しさの中には、多分に精神的な面が入って来ます。例えば、演劇にしても、上手な俳優は、素晴しく見事に演技をするというよりむしろ素晴しく見事に台本の中に含まれている感情を自分の心の中に作り出し、それを表現する人なのでしょう。勿論専門家は、表情の研究をするでしょう。慣れというか、経験というかそういったものは、結局台本の感情にうまく自分を入れてしまう技術なのでありましょう。このように心と笑顔は本当に密接しているのです。

私達は他人の笑顔を見ると、何となく自分も頬笑んでしまいます他人の笑顔を見て、その心の中を知るからです。「我輩は猫である。」の中に、猫は他人、いや他猫と会った時、挨拶にしっぽを高く上げて左に廻わすとあった。本当かどうかは後で猫に会ったら聞いてもらう事にして、動物も自分の心の中を他のものに伝えるものを持っている事は確かのようです。

笑いは（時にはテレかくしやお世辞などにも使うが）大概好ましい情から出て来ます。私達が嬉しいとか、楽しいとかそんな経験をした時は、必ずといって良いくらい、常に笑顔をしていたし、また他人の顔も笑顔で見てきました。だから私達が嬉しい時に笑顔を作るのは本能でもありましょうが、笑顔の美しさを感じるのは、経験によって、心の中に感じるそういう美しさなのでありましょう。即ち笑顔は心のものなのです。

心から笑った時、始めて、真実に笑ったといえ、またその時に美しい顔となるのです。問題は心であって顔ではありません。常に笑顔で、美しい顔でありたいならば顔でなくて心を作れば良いのです。そして美しい心は、常に明るい、楽しい、愉快な心なのです。これは単に楽観的態度をとれというのではありません。努めて、不愉快な心、暗い心、窒いだ心を捨てる事です。他人との共同生活であるわれわれの一生に、この美しい心は、どうしても必要でありましょう。私達は、対人的関係に於いて、常に明るく、美しい顔でありたいものです。

（フランシスコ会神学生）

黙想会の感想

古賀伸子

五月はじめの黙想会に与る前私は実をいうと、来年の入試のことで頭がいっぱいで、霊的生活の方は、おろそかになりがちであった。大学に入ることよりも、イエズス様に仕えることの方が、もっと大切だということは、わかっていたが、なにしろ勉強のことで追われていた。それで、この二日間の連休が少し惜しいなあ、という気がしないでもなかった。けれども、黙想会の終った今になってみると、惜しいどころか、どんなお休みを犠牲にしてでも、もっと長く与りたいと熱望している。

心の整理のできていないままに、出かけてきたけど、神父様に招かれて、集会室に入った時には、さあ何もかも、隠さずに告白して、もう一度イエズス様のところへもどろうという決心がついた。幸い、神父様があまりお若くなかったので、告白もしやすかった。

告白を終えた時の気持よさ、心がスーツと軽くなってしまった。事の成り行きで二人部屋に入ったが、そのために、前よりもっと黙想会らしい黙想会になった。

最初のお説教が始まった。さて神父様は、何をお話しになるのだろう。「カトリックのおしえの根本原理は？」、答「キリストが神の子であること。」私はハッとした。まさかこんな質問をされるとは……。でも、その時私の頭脳がひらめいて何かがわかったような気がした。そして、今まで私が抱いていた、宗教に対するつまらない疑問など、みな崩れてしまった。そうだ、キリストは神なのだから、彼のおっしゃったことに、間違いなどない。私に納得の行かないことでも、みな正しいのだ。

「キリストが神である」ということの中には、ただ単に神であるということだけでなく、いろんなことが含まれているということ、つまり〝神である〟という言葉の意味の深さに気がついたのだ。そして〝キリストが神である〟ことを信じる。それが信仰なのだ。私は信者になって約三年になるが、洗礼を受けた頃には、まだ漠然としていた宗教的知識が、だんだんハッキリとしたものになって来るように感じる。ハッキリというより、その事の深い意味が、わかるようになるのだ。ちょうど、私が黙想会で気がついたように。

それから、私にとって必要なお話しだったのは、純潔の問題についてであった。この問題は今の私達にとって一番必要だと思う。今の日本の現状では、学校でも、また両親でさえも、純潔についての正しい考え方を教えてはくれない。その点カトリック信者は、ずいぶん恵まれていると思う。メールや、神父様は、真面目に教えて下さる。そろそろ私の友達の中にも、結婚を夢みる者がでてきたが、彼女達の純潔に対する考えは、世間一般的なものであり、純潔についての正しい考え、純潔の大切さなどについては、ほとんど知らない。そしてカトリックの考え方は、きびしくて、古い、禁欲的なものだという。私も今までは、時々そう考えることがあった。カトリックのおしえは、一見そのようにみえるが、もっと深く知れば、禁欲的などころか、その反対に、それを尊重しているのだということがわかる。神父様は〝純潔を、なにもしないで守れると思ってはならない。〟とおっしゃった。私もその言葉を実行し、マリア・ゴレッティに倣おう。

この黙想会は、私にとってみのり豊かなものであった。神父様が、お話しになったこと、〝毎日を、キリストを中心にして生きること〟また愛徳、純潔についてなど、次の黙想会まで、心をこめて実行しよう。途中で倒れるのが心配だが、倒れた時こそ、イエズスに信頼して、たち上らねばならないことを学ぼう。（明治学園高等部マリアの子供会）

ことばを刻んで84年
三省堂の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和辞典…二〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇
コンサイス英和辞典……革 五五〇
コンサイス和英辞典……革 七三〇
コンサイス英英辞典……五〇〇
コンサイス英英辞典……革 六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン
初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版 六八〇
新クラウン英和辞典縮刷版 五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…二〇〇
革 二〇〇
革 六五〇

明解三部作
明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！
広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD
三省堂 福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社 東京都千代田区神保町

カトリック

深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏

定価　一部　十五円

一致と従順の精神を！

公会議へ出発に当り　深堀司教

パウロ六世教皇のお招きに応じて全世界から相集る司教方のひとりとして、私もバチカン公会議に参加のため、九月八日夜羽田発のスカンヂナビア航空北極廻りでローマにむかいます。

四年前の一〇月、ヨハネ二三世教皇のもと感激につつまれて開かれたバチカン公会議も、来る九月一四日からの第四会期をもって終ることになっております。

教会はこの公会議を通じて聖霊のお助けをつよく感じつつ、世界中の人びとを永遠の救いにみちびくために何をなすべきかを真剣に黙想し、具体的な手段をすでにいくつか決定してまいりました。カトリック教会にとって今、もっとも緊急なことは、神の民である聖なる教会の全信者が、主キリストに対する真の信仰において、確固たる一致を固めふかめることであると考えます。この一致が欠けてきますと、教会の現代化も、外への働きかけや順応もすべて無意味なものとなるばかりか、非常に危険なものとなるからであります。

この教会内の一致は、キリストのこの地上での最高代理者であられる教皇の権威に対する聖なる従順によって生まれるものであります。教会を治めるために主キリストがお与えになった権威は、力でもって従わせるためのものでなく、よい牧者が羊に「生命を与えるため、しかも豊かに与えるため」に「仕えられるためでなく、仕えるため」に行使されるものであります。

私はいま公会議にむかうに当りみなさんが、この教会との一致、聖なる従順の心構えをいっそう深めて頂きたいと希望します。

お別れに際し、教区諸子の上に天主の御祝福をお祈り致ます。

世の光

「聖書をよむために」(1)

神のみことば

九月一四日から開かれる公会議の最終会期の皮切りに、司教たちは「啓示についての議案」の表決を行なうが、この議案は昨秋の会期中に徹底的に検討されたものでこれにはすべての信者にあてて、聖書を読み黙想するようにとの強い勧めが織込まれている。信者の聖書奉読は教会において新しいことではないが、約三〇〇年以来、信者の宗教的糧は神のみことばの源泉そのものからというよりも、色々の信心書から得られることが多かった。

わが国でも口語全聖書が新しく出版されたので、われわれは神のみことばに直接ふれるのが今までよりもたやすくなった。この飜訳は並々ならぬ労作の末でき上ったもので、われわれはこの事業に当った人々とその協力者に対し深い感謝をささげべきである。今では各信者家庭が聖書をもつべきはいうまでもないが、ただもっているだけでいいのではなく、これを座右の書、黙想の書としなければならない。はじめて聖書をひもとく者が、立ち所にそこから霊的糧を簡単に汲みとれはしない。そこに横たわる幾多の障碍、われわれはいまそれを研究しようというのではなく、ただ聖書を理解する上でもっとも大切な点を指摘してみたい。

(1) 聖書は神のみことばである、とはわれわれがよく聞いて知っていることであるが、考えねばならないのは、創世の書から黙示録の偉大な終末的見神（ヴィジョン）に至る全聖書が、神のみことばだということである。旧約聖書はある書にみられる長たらしい系図も人口調査も、旧約の犠牲の献げ方についてのくどい説明も、ユダヤ人のあまり芳しからぬ行状の描写も、また復讐と殺りくの叫びも神のみことばといえるのだろうか。そうである。これらもすべて神感をうけて書かれたものである。ある箇所については説明が困難ではあるが、教会は旧約聖書が神のみことばであると、変りなくはっきり断定的に教えている。

では神のみことばとはどういう意味であろうか。

(2) 神のみことば、それは神のみわざである。この定義には驚く人もいるだろう。しかし聖ヨハネがその福音書の冒頭（以前ミサの終りに朗読された部分）で、どのように神であるみことばを紹介しているかを眺めてみよう。この冒頭をよむと、どこにも神であるみことばがなにかの教えを伝えたとはなく、ただ専らなにかを行なうものとして示されている。

万物はかれによって造られ、一つとしてかれによらずに造られたものはない。かれは万物の生命、光であった。かれはご自分の家にこられた、とあるがここでは神であるみことばのみわざが、創造のなかで、または人々の間で、またはご自分の民、イスラエルの民の間でなされたことを示している。

聖ヨハネはさらにつづけて「世はかれを知らなかった」「ご自分の家の人々はかれを受けなかった」といっている。これはまさに人間が実生活において神にどのような態度をとるかをのべたものである。

人間は神のご計画に応じなかったというのである。前にあげた簡単な記述のなかに、人々の間における神のみことばの悲劇が表われている。

旧約聖書は神のみわざの歴史、還民の間における神のみことばの歴史である。新約聖書は人となられた神たるみことばのみわざの歴史、使徒時代に降臨された聖霊の賜物によるこのみわざの延長である。神のこのみわざをわれわれは神のみことばと呼ぶのである。

神のみことばは人間のことばと違って、必ず成就する。イザヤ預言者はこのみことばについて次のように言っている。「実に雨と雪とは天から下って地をうるおし、肥やし、め生させる。それは種まく人に種をまかせ、食べる者にパンを与えるためであり、そうするまでは天にもどらない。私（神）の口から出たことばは、私の望みを行なわずに、また私のおくったことを実現せずに、からで、私にもどってくることはない」（五五の10—11）、これは神のすべての偉大なご計画はそのみことばによって表わされ、必ず実現すること、世界の創造についても人間のたすかりについてもそうであるとの意味である。

この神のみわざが神のみことばであって、二千頁にわたって聖書がわれわれに示していることである。

(3) 神のみことばは神のみ教えである。神のみことばのダイナミックな面は聖書で重要なものであるが、旧約聖書はみことばとしての価値もふくんでいる。山上の説教は人となられた神のみことばであり、これは教えである。しかしこの教えも実生活にむけられていることに注意すべきである。即ちわれわれがいかに神のみわざとご意志に答えるべきかを教えているのである。

旧約ではモイゼは、神が還民からなにを期待しておられるかを伝え、預言者らは民の犯した罪をあばいて、神の下し給う救いまたは罰を告げ、智者達は民が神の英智にかなった生活をすべきを教えている。

(4) 聖書は、還民の宗教教育の歴史である。この神のみことば生活の教え、神のみわざは一、五〇〇年以上の歴史のなかに表われている。この歴史をみると、民の生活のなかで宗教的に進歩があったことがわかる。民は一足びにではなく、徐々に神のみわざとみ教えに忠実に答えるようになったのである。だから旧約聖書は新約聖書と同等の価値をもつとはいえない。イエススは旧約の不足をおぎない、これを完成するために来られた（マテオ五の17—19）。でもイエススがいわれたように、旧約は廃止されたのではなく今なお新約聖書がもたない非常に貴重な教えをわれわれに提供してくれる。イスラエル人の数々の罪悪を叙述した箇所でもわれわれには教訓となり、こうしてはならないということを教えてくれる。

× × ×

聖書は神のみことばの書である人間に対する神のみわざとみ教えを記していると同時に、神のご計画に対する人間の応答の長い歴史を物語っている。聖書奉読から利益をうるには、神が聖書をもって父親のようにわれわれに語りかけておられること、われわれは子供のようにこれに耳を傾けねばならぬことを心にいつも留めておこう。「父が私に話しているのだ。その足もとにうずくまり、感動と尊敬にひたって、私を造られたこの声が伝える説明を聴きとろう」（クローデル）。

（イエル）

暁の明星なるマリア

深堀司教ローマ滞在中の宿泊地

Instituto Dame Apostoliche
Via Mura Gianicolensi 107
Roma ITALIA

下級聖位叙階

六月二十九日福岡サン・スルピス大神学校聖堂で深堀司教司式で叙階式が行なわれ、左の諸氏が下級聖品をうけた。

抜魔師と侍祭＝フランシスコ川口清（長崎）守門と読師＝ヨゼフ牧山勝美、ミカエル西口邦洋（福岡）、パウロ浜崎靖彦、ヨハネ長谷功（長崎）ペトロ永山幸弘（鹿児島）

メール・カンテイ院長逝去

煉獄援助修道会黒崎修道院のメール・マリ・ド・セン・ジャン・ド・カンティ院長は、七月九日午後一一時脳血管支障のため逝去、六九才。葬儀は一二日行なわれ、ボア師がミサを、ドルエ師が追悼説教を述べ、深堀司教が赦祷式を司式したが、司祭二十数名のほか参会者多数が亡き院長とのわかれを惜しんだ。

カンティ童貞はフランスのランゲル市に生まれ、一九二五年終生誓願後パリなどで貧困病者のために働き、三三年マルセイユ修道院長、三六年渡日、当時ドルエ師が主任をしていた八幡教会のそばに修道院を設立し、四名の修道女でひそやかに愛の活動を開始したが終戦間際に修院は教会もろとも全焼した。しかし翌年現在の八幡区黒崎西山寺に修道院を移して施療所を開設。ついで同年広島修道院長と修練長を兼任し、同市楠木町に社会福祉施設をひらくとともに日本人修道女の養成につくした。六一年ふたたび黒崎修道院にもどり、幼稚園、老人ホームの施設を通じてひろく教会と社会のために貴重な働きをつづけた。修道生活四八年、日本在留二九年で、その間一九四六年から五一年まで同会日本管区長の任もつとめた。

聖ペトロの献金

（七月四日）

大名町	五、八九八
浄水通	三、七二〇
地行町	三、七〇〇
蓑島	一、五八〇
西茶屋	五、〇〇〇
大楠山	一、七〇〇
高宮	一、五〇〇
那珂町	三、一二〇
吉塚	六、八〇〇
箱崎	二、〇〇〇
田島	二、一四一
古賀	一、四八四
二日市	一、〇〇〇
小郡	二、〇〇〇
今村	三三〇
本留米	六、九〇〇
久郷	三、九〇五
大牟田	六、五五〇
吉野	二、三〇〇
呼子	一、二六〇
馬渡	二、三〇〇
佐賀	二、三五〇
唐津	二、〇〇〇
鳥栖	一、〇〇〇
伊万里	六二〇
武雄	七五〇
鹿島	四〇〇
多久	六五〇
広瀬	五〇〇
門司	九〇〇
小倉	二、七〇〇
湯川	二、二〇〇
戸畑	三、〇〇〇
若松	一四、一三八
天神町	二、〇〇〇
八幡	三、一〇〇
黒崎	二、五〇〇
本町	七、〇〇〇
水巻	—
直方	三、〇〇〇
飯塚	六五〇
田川	一、五〇〇
新田原	八〇〇
行橋	三、〇〇〇
田川	四、〇〇〇
手取	八、〇〇〇
島崎	九、六〇〇
健軍	五、〇〇〇
帯山	一、五〇〇
八代	六、〇〇〇
人吉	四、七五〇
水俣	一、八〇〇
玉名	一、四五五
菊池	四、二〇〇
荒尾	五四〇
本渡	一、三〇〇
大江	二、〇〇〇
崎津	二、四〇〇
合計	一八一、八四一円
昨年度	一五七、五五四円

× × ×

九月

三日（金） 聖ピオ一〇世教皇証聖署

今世紀最初の教皇で、典礼をさかんにし、ひんぱんな聖体拝領をすすめ、世界平和のために非常な努力をはらったが第一次大戦直前に帰天した。

五日（日） 聖霊降臨後第一三の主日

主日は主キリストのご復活とわれわれ自身の洗礼（神のいのちによみがえること）の記念の日である。今日福音によまれるように、主の奇跡によって清くなったライ病者は、われわれの霊魂のかたどりであるが、神から頂いたおめぐみを感謝することを忘れてならない。

今村教会で堅信

六日（月） 公会議ご出席のため深堀司教博多駅ご出発

八日（水） 聖母マリア誕生の祝日

この日はエルザレムの聖マリア大聖堂の祝聖式の記念日で、第九世紀以来、聖マリアの誕生を祝う日となった。

一〇日（金） 日本の二〇五殉教者

一六一七年（元和三年—徳川秀忠の時代）から一五年間の迫害で殉教した方々のうち、二〇五名が一八六七年（慶応三年）ピオ九世教皇によって福者にあげられた。

一二日（日） 聖霊降臨後第一四の主日

洗礼をうけたわれわれは、キリストと共に死んで、キリストと共に復活した。だから神のお望みに反する欲望をふりすて、神の国に入るにふさわしい生活をすべきである。信者であることはなによりもまず「神の国とその義を求めて」たたかいつづけること。

教区邦人司祭黙想会（第一回）

一四日（火） 聖十字架称賛の祝日

十字架はわれわれの軍旗であり、勝利の保証であり、心のほこりである。

今日からバチカン公会議第四会期がはじまる。

一五日（水） 聖母マリアの七つのお悲しみの祝日

昨日は十字架をたたえ、今日主キリストと共に人類のあがないに協力された聖母のお苦しみを黙想する。マリアは新しい人類の母であられる。

一九日（日） 聖霊降臨後第一五の主日

ひとり息子を失った母は、泣き悲しみつつ葬列に従う。母なる教会も、罪をおかして神のいのちを失った子らの悲しい運命を思って泣き、子供のよみがえりを全能の神に嘆願する。

教区邦人司祭黙想会（第二回）

二一日（火） 使徒福音史家聖マテオの祝日

マテオはもと税吏で、日常人々からいみきらわれた身分の者であった。主はかれを十二使徒のひとりに加えられた。

二三日（金） 秋分の日

二六日（日） 聖霊降臨後第一六の主日

今日の福音で、ごうまんな人がいかにおろかな考えにとりつかれるか、そしてけんそんな人がいかに神のあわれみをうけられるかが教えられる。

二九日（水） 日本の守護者大天使聖ミカエルの祝日

静寂と自然美のなかに 新しい祈りと労働の霊域

伊万里トラピスチヌ大修道院

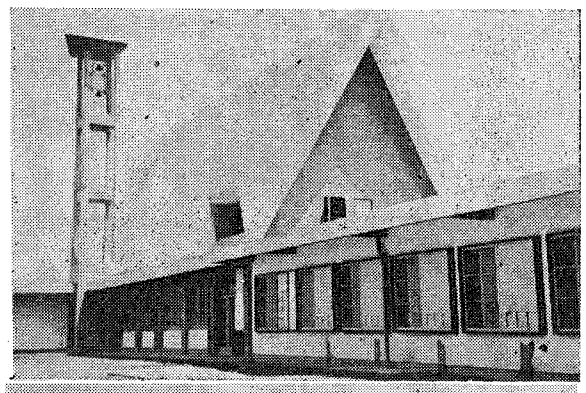
昨年六月七日定礎式をあげて以来、急ピッチで建築をすすめてきた佐賀県伊万里市腰岳の厳律シトー会・伊万里の聖母トラピスチヌ大修道院がこのほど出来上り、去る七月二五日（日）午前一〇時から深堀司教によって祝別された。

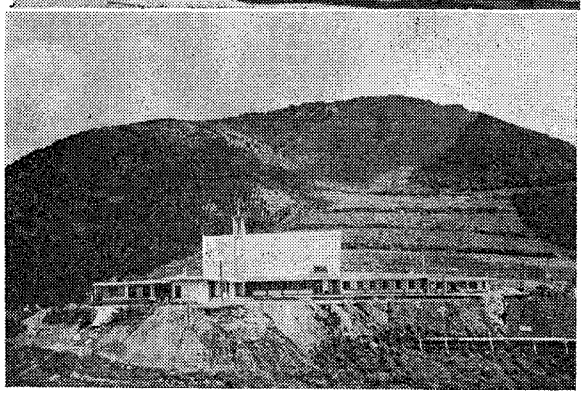
腰岳の中腹標高三〇〇メートルの地点に生れた新修道院は、鉄筋コンクリート一階建（将来二階を増築できる）で、山の緑を背景にそびえる高い聖堂の屋根は、唐津から伊万里にむかう国道からはるかに仰ぎみられる。また修道院からは伊万里全市と同湾を一望のもとに見下ろされる。

本館は八六〇坪、伊万里市当局の好意で購入された土地は四六町歩、三〇名の修道女が待機先の兵庫県西宮市の修道院から移転してきて、爆音になやまされた新田原の旧修院と違って静かな雰囲気で祈りと労働の生活を再開した。

祝別式にはアンドレ、ルカ両師（トラピスト司祭）、アヌイ、ツルデル、深堀師、設計者菅種雄氏施工に当った高山朝雄氏ら、少数の信者が参列した。聖別式と公式の落成式は来春トラピスト修道会総長の来日をまって挙行される予定である。

現在わが国のトラピスチヌ修道院は、函館市上湯ノ川、栃木県那須、兵庫県西宮市、そしてこの伊万里の四カ所である。





（写真上は聖堂外観、下は修道院全景）

一九六四年度 福岡教区教勢

この度発表された昭和三九年度福岡教区勢教（昨年七月一日より今年六月三〇日まで）、

（一）信者人口は二万三、六一九名で、昨年に比べ四五四名の増

受洗者総数は一、二〇五名。

他教区からの転入者は六九一名に対し、他教区への転出者は九八一名。婚姻は、信者同志が一一二組、未信者とは一三三組。

死亡者は一七五名。

（二）司祭総数一一六名、うち邦人司祭は四五名（教区付司祭三八名、修道司祭七名）、外人司祭七一名

小教区数は五八、巡回教会（司祭が定住しなもの）一〇。

教区大神学生数は一四名、同小神学生数は三二名。

修道士は一六名、修道女は邦人が三六四名、外人が六〇名、なお修練女と志願者は一五八名。

カテキスタは男子四名、女子一二名。

（三）学校

大神学校　一

小神学校　三

高等学校　九

中学校　七

小学校　三

各種学校　五

幼稚園・保育園　四八

日曜学校　二五

（四）社会施設

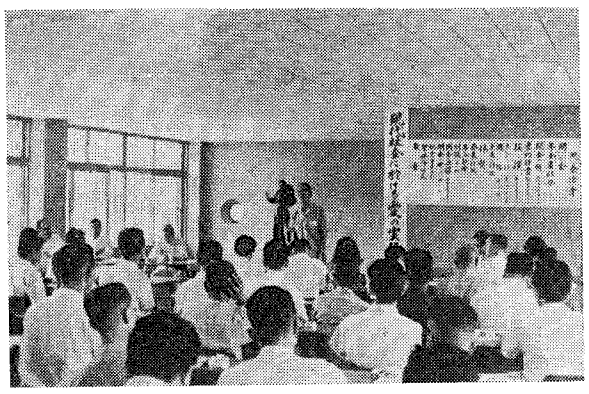
病院　三

診療所　二

養老院　四

育児院　一

SVP九州地区総会



SVPの九州地区ブロック第二回総会が八月一日、山口長崎大司教（SVP日本全国理事会の保護司教）ご臨席のもと長崎市西坂の日本二六聖人記念館でひらかれ会員六九名が出席したが、福岡中央理事会から平田正喜師（指導司祭）と会長の平田房刀氏ら二五名が参加した。

開会に先立ち一〇時から山口大司教司式のミサが記念館聖堂でささげられ、深堀長崎中央理事会長のあいさつ、大司教のおことばのあと、浜崎数雄師（浦上）が「現代社会における愛の実行」と題して講演を行なった。午後は現代社会情勢をみつめてというテーマのもとに、協議会の組織強化、訪問のありかた、資金の獲得ならびに運営方策、信者発見一〇〇周年にあたり新しい信者および教会から遊離している信者の発見など四点について発表と討議をおこない、四時散会した会がひらかれた、講師は教育心理学の第一人者小出哲夫神父で、父兄約二〇〇名、教師四〇名が聴講小出神父は「幸福を築く教育」と題して約二時間、幼年期、青少年期の心理を、身近かな実例と各種統計を駆使して解説、終了後教師との間に質疑応答も行なわれた。

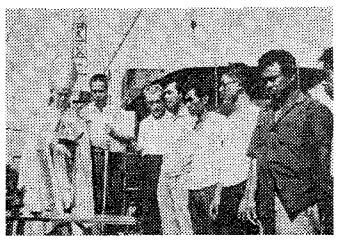
小出神父講演会

七月三日午後一時より大牟田明光学園で同園後援会主催教育講演

学生黙想会

福岡カトリック学生会会員男女二〇名は、八月一六日から一九日まで佐賀県馬渡島で牧山聡師の指導のもと大黙想会を行なった。最終日には深堀司教も来島され親しく説教された。

船の祝別



フィリッピンむけの日本の賠償源船ドン・サンチャゴ号（一六〇トン）が福岡市西公園下の福岡造船で完成したので、母国むけ出航の前日八月一〇日深堀司教の祝別をうけた。

聖体礼拝（九月）

第一日曜　西新教会

第二日曜　新田原教会

第三日曜　福音の光修道院

第四日曜　人吉修道院

祈祷の使徒会（九月）

【一般意向】信者間における聖書研究

【布教意向】現地人聖職者と外国人宣教師との協力

福岡教区信者状況

（昭和40年6月30日現在）

種類	教会	洗礼 臨終外 大人	洗礼 臨終外 子供	洗礼 臨終時 大人	洗礼 臨終時 子供	求道者	結婚 信者間	結婚 混宗	信者数 1965	信者数 1964
邦人司祭地区	名水行新町通町町	21	32	1	0	41	10	7	880	863
	大浄地西	1	2	1	0	95	0	1	356	367
	蓑茶大高島山楠宮	3	4	0	0	13	2	1	278	301
		12	10	1	0	25	2	2	374	377
		3	2	0	0	8	1	2	196	192
		0	14	1	0	5	1	2	422	381
		2	5	0	2	5	2	1	236	230
		5	7	1	0	30	3	0	365	345
	那吉箱東町塚崎島	5	5	0	0	11	0	7	316	295
		9	10	0	0	11	0	4	454	438
		0	2	1	0	5	0	0	182	176
		11	4	0	0	18	0	0	125	105
	古二今本賀市村郷	2	10	1	0	7	0	0	156	143
		2	2	1	0	7	0	2	119	104
		1	29	0	1	0	7	0	1,269	1,259
		1	14	0	0	0	5	1	684	679
	久大吉呼留牟米田野子渡郡	17	22	2	27	54	5	5	1,229	1,202
		5	4	1	0	14	0	5	234	228
		4	0	1	0	62	0	2	64	69
		2	13	0	0	0	6	0	483	513
	馬小	1	21	0	0	0	2	1	626	672
		0	0	0	0	4	0	1	109	109
ミラノ会地区	佐賀栖津里島雄久	10	11	2	0	20	3	3	388	376
	鳥唐伊万	4	7	1	0	5	3	1	123	106
		3	5	2	0	10	0	2	190	168
		2	3	1	0	6	1	2	218	173
	鹿武多	2	3	0	0	3	1	1	109	106
		7	0	0	0	15	0	2	82	86
		0	1	0	0	8	0	1	113	116
パリ会地区	門司石倉川	15	3	0	0	54	0	2	330	319
	広小湯	1	2	0	0	2	0	1	140	143
		20	43	1	0	15	10	8	1,803	1,718
		6	14	6	21	1	7	5	640	607
	戸若天畑松町崎神	110	20	0	0	100	5	10	1,200	1,134
		9	11	0	0	17	2	2	363	346
		5	9	0	0	15	1	3	468	477
	黒	25	23	2	0	50	1	5	960	970
	飯塚	1	3	0	0	11	0	0	309	294
	直方	3	1	0	0	5	0	0	173	169
	田川	3	1	0	0	2	0	1	145	155
	行橋	5	12	0	0	6	0	0	272	251
	新田原巻寺	1	41	3	0	3	10	1	1,361	1,365
	水王	2	8	0	0	5	0	2	409	401
	八城	2	8	1	1	5	0	2	250	252
	本	11	1	0	0	18	0	0	125	123
コロンバン会地区	手取軍崎山	32	16	16	1	21	4	8	760	700
	健代	7	7	3	0	15	3	3	359	342
	島吉	16	8	36	6	33	1	4	628	643
	帯侯	19	7	4	0	16	2	4	231	216
	八名	8	3	27	0	12	1	4	284	302
	人水	5	1	0	0	11	0	2	302	329
	水玉	10	9	0	0	10	1	1	160	141
		0	3	0	0	2	0	0	65	59
	菊池	20	17	6	0	21	1	3	315	298
	本渡	1	2	2	1	7	0	3	111	129
	大江	7	12	0	1	4	5	1	615	610
	崎津	7	6	0	0	0	3	1	382	410
	荒尾	1	0	0	0	3	1	1	79	83
合計		487	533	125	60	946	112	133	23,619	23,165
						増加数				454

祝

トラピスチヌ大修道院完成

昨年伊万里市腰岳にトラピスチヌ大修道院を建設すべく、御指名をうけ、工事に邁進してまいりましたところ、このほど無事完成することができました。長いあいだ御協力と御指導を賜わった各位に厚く御礼申し上げます。

株式会社　高山工務店

社長　高山朝雄

聖心の使徒

（昭和四十年九月号）

神の御言葉……

九月の意向　聖書――驚くべき書物……角田信三郎

協力に力あり（九月の布教の意向）……粕谷　源蔵

黙想　イエズスの聖心の連禱(十)……河野　義祐

福音の上にわれわれの生活を築く……粕谷　源蔵

写真特集　聖書に出会う動物……三木　次郎

聖書と動物……

典礼は生きている……千寿　利久

友への手紙（五）―インドの旅から……谷口　幸紀

オカワンゴ河の野獣……クリングラ

新本めぐり……

ポスト……

購読会員費（〒共）一カ月　五七円　一カ年五七〇円

日本祈禱の使徒会発行

東京都千代田区紀尾町井七

真理のおしえ
神の十戒
(6)
Ⅱ 神に仕える

出エジプトの書二〇章8―11の朗読

神は六日は人に与え、七日目はご自分のものとされた。この日は祝された聖なる日、安息の日、仕事を休んで神を祝う日である。

1、時間は神のもの

真理のおしえ

(1) 神は時間の支配者

神は永遠であられるので時間の支配者であられる。その神は、人間が多くの時間を自分の仕事にふり当てることをお許しになるが、一週のうち一日だけはご自分のためにとっておかれる。それは、人間が時間は神のおめぐみであり、神を賛美し神に仕えさせるために時間を用いねばならぬことを、忘れさせないためである。

神は、イスラエル人がエジプトから脱出して、シナイ山に達したとき、このお考えを明らかにされた。

(2) 主の日（日曜日）

旧約時代には週の七日目（土曜日）が安息日であったが、キリスト信者はつぎの日、すなわち週の第一日を神にささげることにしたこの日に主キリストがご復活の光栄をえられたからである。

日曜日は主のご復活を記念する日で、主日とよばれる。この日は主の大いなる最後の日、人々をきばくため、また神のみ国にえらばれた者をよび集めるために再臨される日を予告する日でもある。

だから毎日曜日、信者たちは主がおいでになる日まで、聖体のいけにえと拝領によって主のご死去とご復活を祝うために集る。

(3) 聖なる日と季節

教会は、信者がよくつとめを果すことができるように、毎日曜日と守るべき大祝日にミサ聖祭にあずかるように規定した。

日本で守るべき大祝日は、主のご降誕祭（一二月二五日）、昇天祭（ご復活の四〇日目）、聖母マリアの被昇天祭（八月一五日）、諸聖人祭（一一月一日）である。

教会はこのほか、待降節、四旬節、四季の聖節をきめている。これは祈りや犠牲にはげみ、宗教心をふかめる時である。

2、主日を聖とする

真理のおしえ

(1) 賛美と祈りの日

主日には祈りの時間をもつために労働をしない。主日にミサのいけにえをささげることは、信者の重大な義務である。ミサをもってわれわれは神に最上の礼拝と賛美をささげることができる。

信者各自が主日のミサをふさわしく神にささげる責任をもつ。わざと理由なしにミサを怠るならば重大な罪をおかすことになる。

しかし信者は義務づけられたことだけを果せばそれでよいのではない。ミサのほかに聖体降福式にあずかり、研究会や種々の集会にも出席し、愛徳の仕事にはげむようにすべきである。

(2) いこいの日

主日は天の御父にささげられた日であるが、同時に御父の子供、われわれの日でもある。だからわれわれは来る日も来る日も仕事に追いまくられるどれいのようにでなく、自由な人間としても生きなければならない。

仕事を休むのは、なにもしないでぼんやり一日を過すことではない。家中でだんらんし、友人と交わるとか、はりつめた精神をゆるめるためにスポーツや遠足をするとか、教養をたかめるために読書や芸術をたのしむようにする。

日曜日（守るべき大祝日も）はお祝いの日、聖なるよろこびの日である。この日に肉体労働をし、またはさせることは重大な罪である。もちろん日常生活に必要な炊事や掃除、公務に従事すること、あとにのばせない緊急な仕事をすることは許される。いずれにせよ特別の理由で労働をするときには主任司祭の許可をうけること。

われらの答え

主日は、信者が神のすらしく生きる日である。われわれは労働を休んで、一日を神と隣人とくに家族にささげるようにしたい。この日をもっとも美しい日とし、決して悪い、危険な快楽にふけって、けがすことのないようにしよう。

決心＝主日に決してミサを怠らないこと。

3、ご復活のつとめ

真理のおしえ

(1) ご復活の神秘

キリストのご復活祭は、主のご死去とご復活の神秘的な出来事を現在のこととしてお祝いすることである。われわれは主のこの神秘にあずかって、罪に死に、神の子としてよみがえるおめぐみを新たにする。だから教会は、信者が告白の秘跡をもってこの大祝日を準備し、聖体を拝領してキリストに一致するよう命じる。

(2) 年の告白

洗礼のとき、悪魔をすて、誘惑をふり切ってイエズスに従うことを約束したわれわれは、荘厳な約束にもかかわらず、たびたび罪をおかして神にそむいている。だから重大な罪をおかした者は、せめて年に一度は告白して（ご復活祭のころとは限らない）、主キリストによって神の子供のいのちによみがえるよう、教会は命じる。

熱心な信者は、年に一度告白するだけで満足せず、もっとたびたび告白の秘跡に近づく。

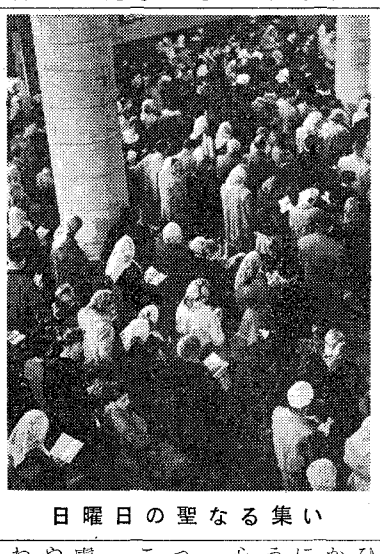
(3) ご復活祭のころの聖体拝領

告白によって洗礼のめぐみを新たにした信者は、ご復活の大祝日およびその前の三日間とも聖体拝領をして、キリストのご受難とご復活に一致するのが当然であるがだれでもそれができるわけでないだから教会は、ご復活祭の聖体拝領としてある期間中に（日本では七旬節の日曜日から三位一体の祝日まで）に、聖体をうければよいことにしている。これは教会の単なる勧めでなくて命令である。信者のなかには聖体のめぐみを十分に理解ないで、これに近づこうとしない者が少くないので教会はこう命令せざるをえなかったのである。

熱心な信者は年に一度の聖体拝領で満足しない。もっとひんぱんに、とくに日曜日に聖体をうけるようにつとめる。

われらの答え

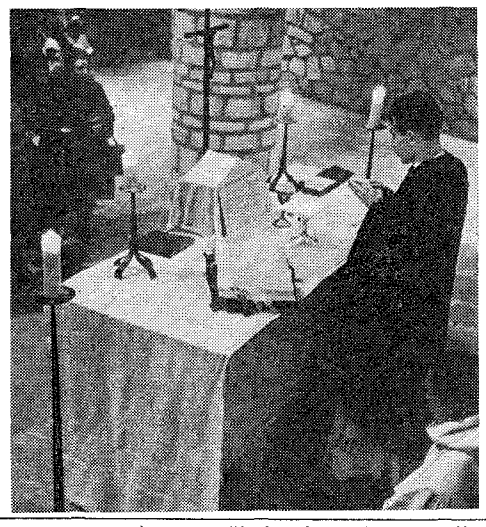
信者は教会に集り、ミサや秘跡にあずかってキリストのご受難とご復活に一致する。しかし教会の典礼の意味と力を理解せず、そのため自分たちがキリストのものであることを、年に一度の告白や聖体拝領によって示すことさえ、望まないものがいる。



日曜日の聖なる集い

このような人の改心を祈ろう。そしてわれわれも洗礼の約束を思い出して、忠実であるように努めたい。

決心＝たびたび告白し、聖体を拝領すること。



キリストに代って集会をつかさどる司祭が神にささげる祈りは、聖なる民全体と、会衆一同の名によってとなえられる。（典礼憲章三三条）

4、大斉・小斉の掟

真理のおしえ

(1) 痛悔の心

罪にとどまっている者はキリストと共によみがえることはできない。だから教会は痛悔をもって罪からはなれ、神のおそばにもどっておゆるしをうけるよう、われわれにしきりに勧めている。四旬節は痛悔を実行するのにもっともふさわしい時節である。

教会はまたとくに痛悔の日をきめている。大斉・小斉の日がそれである。ある特定の時期に限らず年中たびたび、罪に対して戦うべきことを思い出させ、自分と他人の罪をつぐなわせるためである。

(2) 大斉

大斉とは、一日でいえば食事の量をへらすこと、すなわち一日一回だけ十分たべて、あと二回は普通の半分ほどにすること。しかし仕事ができなくなるほど量をへらす必要はない。

日本では大斉は年に二回だけ。聖金曜日、一二月二四日または二三日である。大斉を命じられるのは満二一才から満五九才までの人しかし病人や重労働をする人は免除される。

(3) 小斉

小斉とは鳥獣の肉（肉汁をふくむ）を食べないこと。（鯨肉は許される）

日本では小斉は毎金曜日、灰の水曜日、一二月七日、ご降誕祭前の大斉の日。

小斉は満七才以上のすべての信者が守る。

(4) 掟に服従してけんそんを実行する

信者のなかには自分のつとめ（祈り、告白、聖体拝領）を怠って神が存在なされないかのように、あるいは神からゆるしていただく罪は一つもないかのように、生活している人がいる。かれらは自分の罪や過ちをみとめたくないわがままものである。

教会は天の御父に対して信者がわがままにならないために、掟をきめた。掟はよく神を尊敬し、神からはなれることがなく、また神にもどるようにするためのものである。

われらの答え

掟は、強いられてではなく、愛の心をもって、よろこんで、自発的に、理解をもって守るべきである。掟は最低限のことしか要求しない。もし愛の心があれば掟が命じる以上のことをするはずであるわれわれは、日曜日のミサ、告白、聖体拝領に進んで近づくよう努力し、大斉、小斉を神への愛のしるしとして実行しよう。

決心＝金曜日にきせいをする。

5、神のお招きに答える

真理のおしえ

(1) 神に召された人びと

聖書によるとアブラハムはじめモイゼ、預言者、とくに聖母マリア、聖パウロ、十二使徒が神のお召しをうけ、重大な役割を果し人類の救いに協力した。一方福音書は神のお招きに応じる勇気をもたなかった青年のことを記しているマルコ聖福音書一〇章17―22の朗読。

(2) 神のお招きがわかるために

聖書に記されている人々とは違って、われわれには普通、非常にひそかに地味なやり方で招き声がかけられる。すなわちなにかためになる、美しいことをしたいという望みやあこがれを、われわれの心に植えつけられる。

また神は、われわれの生涯に起ってくる出来事を通じて導かれることもある。

その他、各自の性質や才能も考慮に入れねばならない。また智力や記憶力、財産のあるなしもわれわれの将来を左右することがあるから、これらの事情を通じて神のご意志を判断すべきである。

人はだれでも神からさずかる使命を、この世で、また神の国で果さねばならない。神はある人をりっぱな家庭をいとなむよう召し出し、ある人を子供、病人、不幸な人のために献身するよう召し出しある人を技術家または政治家に、そしてある人を司祭、また修道者に召し出される。

(3) 神のお召きに従うために

神のお召きに従うとは、ふかく考えて本当に有益な生き方をえらび、本当の生きるよろこびを見出すことである。

だから自分は、どうすればよりよく神と人に奉仕できるかを考えて自分に対する神のご意志をさぐらねばならない。

これらのことは、各自の資質や才能による所が大きいのであるから、自分のもっている肉体的、精神的力をよく伸ばすよう努力すべきである（体育、衛生、勉学、性格陶冶、精神的教育の必要）。こうしてはじめて神のお招きに応じる準備がととのう。

しかし最終的に神にどう答えるべきかの決定は、非常にむつかしい場合もあるから、父母、司祭、教師に相談し、またとくに、進むべき道をたどることができるように神に光を祈り求めねばならない。

われらの答え

神に造られたわれわれは、神を愛するために、神のお望みのままに、お望みの場所でご意志を果すべきである。われわれは神のお召しによく応じることができるために、勉学にはげみ、性格をみがきよく神に祈ろう。そして進むべき道がわかったら、信頼と勇気と寛大な心をもって召し出しに答えよう。

決心＝勤勉な性格をみがくこと。

6、境遇の義務を果す

真理のおしえ

(1) 境遇の義務

われわれが生涯のどの時期にあろうとも、またどのような生活環境にあろうと、人間として、信者としていまの境遇で果すべき義務のあることを忘れてはならない。

われわれの境遇はひとりひとり違っており、神からまかせられた使命も同じではないのであるから境遇の義務もそれぞれに違っている。われわれは自分の義務をよく果すことによって、自分と自分の周りに神の国をうち立てることができる。

(2) 一例＝小学生の場合

ここにひとりの小学生の場合を例にあげて考えてみよう。

大きくなったらどのように神のご期待にそえるのか、いまはまだ不明であろうが、現在小学生として、いまなにをなすべきかを知るのはむつかしいことではない。

まずかれの境遇は家庭内に生きることにある。ここで両親に尊敬と服従をはらい、兄弟姉妹と仲よくし、だんらんを乱すことを注意してさけること。

つぎに学校生活もかれの境遇であるから、注意ぶかく、正直で、親切な生徒であること。授業にまじめにあずかり、愛徳にはげみ、受持たされた任務をよく果すこと。

自由時間には学友とよくまじわり、よい模範を示すようにする。一口にいってどこでも小学生らしい、信者らしい愛徳とよろこびを与えるよう努力すること。

われらの答え

境遇の義務とは、将来いつか果すというものでなく、また他の人と全く同じことをするのでもない私はいま、この境遇にあってどうすることが神のおぼしめであるかをよく考えて、それをまじめに実現するようにつとめたい。そうすることによって、いまから神の国の建設に協力することができる。

決心＝いま私のなすべきことはなんであるかを考えること。

新刊紹介

◆目で見る読唱ミサ
（対面ミサ）¥二二〇
徳川　泰国（文）
浅賀　正元（写真）
写真でとらえたミサ典礼!!
司祭と会衆が一しょに行なうミサをもっと理解するためにとても効果があります。
中央出版社

◆世の信ぜんために
¥三六〇
ハンスキユンク著
国嶋　一則訳
今日もっとも大切なことは世が信ずるために私たちが互いに一致することでしょう。「再合同のためのキリスト教革新」を青年への手紙の形式で分り易く解説したもの
エンデルレ

◆家庭を明るく育てよう
¥三〇〇
岡江　豊著
森田宗一
遠藤周作
横浜家裁主任調査官の岡江氏が公私の豊富な体験をもとにつづった「子どものしつけ」と家庭環境の問題点!
中央出版社

◆わが子の教育の秘訣
人づくり
¥三〇〇
荻原　晃著
本書はどうすれば本当に正しいそして実践的な教育ができるかを深く掘りさげて考えるようにいろいろな角度からかかれたもの。
信友社

大名町　聖パウロ書院
岩田屋六階
セント・ポール・コーナ

聖書の国 ㉕

平山高明

安息日（つづき）

ユダヤ人の安息日の起源について、バビロニアの満月の日をサバットウと呼び祝うことから説明しようとする者がいるが、少々無理である。しかしこの安息日の掟がユダヤ人の生活の中で重要な位置を占めてきたのは、かれらがバビロニヤに囚われて以後のことである、かれらは神殿で神に祈ることができなかったので、安息日毎に集り、聖書をよみ、エルザレムにむかって祈った。これは囚われの期間中かれらの慰めの泉となり、希望と力をはぐくんだのであっただから帰国後も大切にこの習慣を保ってゆこうと努めたが、やがて安息日の遵守はファリザイ派・律法学士たちによって極端にまで厳格化されてしまった。

△△△

では安息日の労働はなんでも禁ぜられていたのであろうか。必要最小限の許された労働は何で、またどの位であろうか、ユダヤ人は際限なく論じ合っていた。とくに安息日にしてはならぬ労働のうち、伝統的に一般に知られていたのは、マンナを拾うこと、火をたくこと、収穫をすること、酒ぶねでぶどう酒をふみつぶすこと、麦束をろばに負わせ運ぶこと、商売をすること、二千歩以上歩くことなど三九種があげられている。

△△△

所が掟があればその網をくぐろうとする者が出るのは、どこの世界でも同じである。ファリザイ派・律法学士らの熱狂は日常生活の細部にまでこの掟を適用し規定しようとして、様々の詭辯をほどこし人々の生活を身動きもできぬほどに、がんじがらめにしばり上げてしまった。例えば安息日に二字以上書いてはならないが、その字の種類はどれとどれか、針を使うことも、子供を抱くことも許されていなかったし、安息日に鶏が生んだ卵を食べてもよいかどうか。また安息日に羊が穴に落込んだとき、引き出してもよいかどうかについて激しい議論をくり返えしていた。ある者はしてもよいというし、ある者は穴の中に餌を投げ入れ生かしておいてもよいが、引き上げるのは翌日でなければならないと主張した。

△△△

極端論者は戦争における防禦さえも安息日には許されないと考えたが、事実マカベの時代多くのユダヤ人が安息日を守ろうとしてシリア人に虐殺されたし、ポンペイウスがエルザレムを包囲したときユダヤ人は、安息日の始まる三つ星が夜空にかがやき出すと同時に持場をすててしまい、ローマの軍靴の下に蹂みにじられてしまった。このことからやがて防禦は許されると、主張する者がではじめた。

主イエズスが「安息日は人のためにつくられ、人は安息日のためにつくられたのではない」（マルコ二の27）ときびしくとがめられたのは、このような背景があったからであり、決して安息日の遵守そのものを批難されたのではない。

△△△

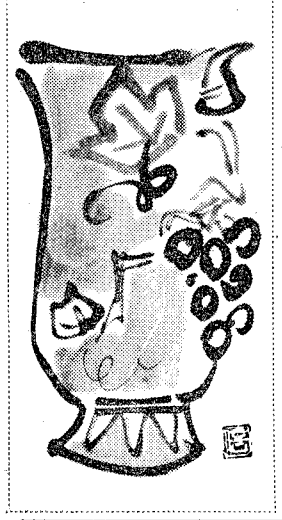
この一週に一度の義務的な安息日は、形式的な種々の行きすぎがあったとはいえ、日々の労働に追われ、ややもすれば地面に這いつくばって地上的な、過ぎゆく世界のことばかりに心を奪われがちの人間の心を神にむかわせ、永遠の国へと思いを高めさせる機会となったし、かれらに選びの民としての使命の自覚、神の約束への希望をふかめ、特別な感化をおよぼしたのである。

△△△

初代教会の信者たちも、週の第七日目に神殿に集って他のユダヤ人と共に神を礼拝し、その翌日まだ信者たちは特別に集り、パンをさき、祈った。

かれらは新しい神の民としての自覚から、出エジプト記の次のことば、「イスラエルの子らは安息日をまもり、世々代々いつまでも永遠の契約としてこれを祝わねばならない。この日は私とイスラエルの子らの間の永遠のしるしである。主は六日間天と地とをつくられ、七日目に休んで息をつかれたからである」（三一の17）を守っていた。

しかしこの安息日は、「週の第一日われらパンをさかんとて集まりしに…」と使徒行録に見えるように、週の終りの日から第一日（日曜日）に移ったのである。それは主イエズスが人類をあがなうために、金曜日に十字架上で亡くなられ、復活されたのが三日目の日曜日であったこと、また聖霊のご降臨が同じく日曜日の朝だったことから、初代の信者たちは日曜日を安息日として守るようになったのである。



九月の黙想

今月からバチカン公会議の第四会期が始まるので、私達の思いは当然ローマにむけられる。今会期はこれまでのものよりも興味ふかく、もっとも実際的な事柄を取上げるであろう。私達としては「新奇なことばかりを追っていた」（聖パウロ）昔のギリシヤ人の批評癖を捨てて、これまで公会議が達成した幾つかの事柄に注目したいものである。

（一）この公会議は過去二〇〇年間の最も特筆すべき出来事であるが私達の霊的生活のため、この公会議が指摘した最重要点は、一体何であったろうか。

公会議の諸結果のうち最も注目されるのは、祈りの生活の単純化である、祈りの心こそは、何はさておき先ず獲得すべきものであるが私達の霊的生活のため、この公会議が指摘した最重要点は、一体何であったろうか。

（一）この公会議は過去二〇〇年間の最も特筆すべき出来事であるが私達の霊的生活のため、この公会議が指摘した最重要点は、祈りの心なくては人間は、人間にではなく動物に似たものになるとは、教会史を通じて常にいわれたことである。祈るため聖堂に出入りするのに祈りの心が必要なのではなく、一日中神と語るためである。

祈りは、山の頂きを包み、松におおわれた谷間をその腕にいだく朝霧のようなもの。祈りの志はやさしい手を日常生活の行為の一つ一つの上にさしのべる。家庭においては祈りは、毎日朝から晩までこの家庭が神の家となるようにする。そこに住む者の間に愛と慈しみと思いやりが行きわたる、一人びとりが祈りにおいて一致しているからである。

職業上の仕事も祈りの心によってうるおされる。困難が起り、人間関係がまずくなり、自分の徳がためされる機会が出てきたとき、私達に勝利を保証するのは、この祈りの心である。なぜか。私達は心と目を神にとめて、これらに立ち向うからである。祈りの心をもち、神の子として行動するからである。私達が実際に神の家族の一員だからである。もし神の子たることを常に意識下に持ちつづけているなら、自覚的な信者として生きるのがもっと容易になるだろう。

（二）私達が習った教理のうち最もわかりにくいのは、キリストの神秘体の教えであった。なぜ私達は神の家族の一員なのであるか、公会議は「教会憲章」のなかでそれに答えている。

洗礼によって私達は神の家族の一員、神の民となった。このことを決して忘れ、見逃してはならない天の御父は私達の父、主キリストは兄、そのキリストの御母は私達の母であられる。この相互のつながりをよく黙想して、それが祈りの生活のなかに滲透するならその時あなたの心は祈りの心となる、これこそ真の信者の特徴である。

（三）ミサ聖祭で私達は素直な物わかりのいい子供のように、天の御父に心を一実際には両腕を広げる。心のせまい、他人からとることしかしない子供っぽさが残っていれば、祈りの心は生じないミサは自分を与える時であり、聖体を拝領したとき、主キリストから祈りの心を豊かにして頂く。

実生活にもミサの精神が生かされねばならない。神の家族に対する養発心をもって司祭と教会に協力しよう。愛と従順、正直と思いやり、自己節制は祈りの心をもつ者の徳である。思いと行ないと言葉をもって神の民となろう。

（レオナルド）

× × ×

今世紀の最重要事

▽▽コント▽▽

かたきうち

信者は信者と結婚した方がよいというのは、私のたえず確信している所です。しかし未信者との結婚も悪いとは決して考えてはいません。もし信仰ある妻、または夫によって相手が聖化されるなら、それだけでもすばらしいことです。その上、二人の間に生れてくる子供達が皆洗礼をうけるならば、神の子がそれだけ殖えることですから、これもよいことです。

だがそれも信者である側がほんとうに強い信仰をもっている場合にいえることであって、自分にしっかりした確信がなければ、そううまくはいかないものであります。結婚後一年二年は波一つたてずにいっておりますが、そのうち倦怠という波がおしよせて参りますとつい「それほどまでして信仰を守らねばならぬのか」などという疑問が気づかぬうちに発生えてこぬとも限りません。

熱心な信者たる妻あるいは夫に恵まれたものは幸いであります。かれらはいつも信仰にはげまされ沈みそうになってもすぐ引き上げられて、危機を脱することも簡単です。でもそのためには信者の方の努力は並たいていではありません。

かってある教会に新婚夫婦がおりました。妻は信者で夫は未信者でした。そもそもかれらは熱烈な愛で結ばれたもので、その点申し分なかったのでしたが、かれは将来の妻がカトリックだと打ち明けられ、尚かつ結婚式をあげるため手続きなどを聞かされて、少々つむじをまげてしまいました。式の準備のため公教要理、妻の信仰と子供の信仰を保証するという約束証書をとられること、信者は毎日曜日ミサに参らねばならぬこと、「何の因果でこんなみじめな姿に…」などと考えたのも無理からぬことでありました。

しかしさすがに愛の方が強かったとみえて、かれもこれを承諾してしまったのであります。おまけに結婚式のとき余りの幸福に胸がはずみ、主任神父様に「もっと勉強をつづけてきっと信者になります」といってしまいました。これを聞いて新妻の喜びようはひと方ならず、「さあ、あの方を信者にするには何よりも模範を示すことだ」と日常の細かな出来事、会話のなかにも神のみ旨を求めながら一生懸命努力し始めました。

驚いたのは夫君の方であります降っても照っても毎週求道者の公教要理においやられる、行くふりをして、そっと逃げ出し要理が終ったころ帰ってすましていても、すぐばれる。妻君と神父様の間の連絡は密だからとてものがれられません。朝夕の祈りも「あなたもご一緒にどう」といって十字架の前に坐らせられる。何ともいやはや、式の時、神父様の前で「自分も頑張って信者になります」といった手前、男の一言守らねば妻に対し面目がない。

さすがにかれも逃れられぬ運命とあきらめました。それに妻のやさしさ、尽してくれる忠実もかの女の信仰からくるのだと、心ひそかに頭下がる思いはするもの、どうも素直に信仰を認めるのもいやだ……と思っている矢先ー、

かれが夜勤を終えて帰ると、いつもなら表の玄関が音をたてるとすぐにとんで迎えにくる最愛の妻が一向出てこない。部屋に入ってみるとよっぽど疲れているとみえ机にもたれて白河夜舟、かれは一瞬いいことを思いつきました「おいどうしたんだ、そんなことしたら風邪をひくよ」「あ、あなた、帰っていらしたの」「お前祈りはしたかい」「う、うーん、まだなんですけど」。かれは内心しめたッと手をうち、積年の仇をうつのはこの時とばかり「さあ祈りだ、祈りだ、今日は金曜だから十字架の道行もすんだっけな」

「十字架の道行もするの」「するのッてあたり前ぢゃないか」。

いつもやられてばかりいた夫君はこの時はじめて気がせいせいしました。その後夫君が洗礼をうけてりっぱな信者になったことは、いうまでもありません。

（きりぎりす）

ある人生

なでしこ

テレビの番組みに、ある人生というのがある。

ある時は、熊を追って、一生東北の山の中に暮した狩人の話しもあった。いろいろの人生記録を紹介してくれるので、楽しみにしてよく見る。この前の週は、佐藤神父様の人生記録が紹介された。

一般の視聴者の目には、どの様に、映った事だろうと、ひそかに考えて見たが、私はどの人生も、どの人生もそのために選ばれた生涯である事には間違いないが、佐藤神父様の場合は一人、原爆という日本にしか経験のない事態の中で、沢山の神父様もお亡くなりになった事だろうけど、原爆の経験を経て今日その原爆病とたたかい乍らたくさんの同じ経験に苦しむ人達の救霊のためにつくしていらっしゃる御姿に接し、原爆病に苦しむ人、肉身を失って悲しむ人達の如何に力づよい慰め主であり、また励まし手でいらっしゃる事かと、天主様からそのために選ばれていらっしゃる事を切実に思った。

同じ経験を経た人の慰め、励まし位、身にしむ物はない。

それをよく知っていら乍ら、いつも遠くにおき忘れている事はないかしら、そう、イエズス様も庶民の中に生れて、私共と同じように両親に仕え、労働の苦しさも知っていらっしゃった。養父に仕える義理の味も知っていらっしゃった。人間でいらっしゃったが故に人間の経験するあらゆる苦しみを極度に味われたと同時によろこびも知っていらっしゃった事だろう。

聖書を拝読していると、その頃、どの様にしてイエズス様が、民衆の中に生活していらしたかよく分って一入親近感を増し天主様がイエズス様をおつかわし下さった有難さがよく分ってうれしい、と、

なまけ者の私は目前の事に追われて中々聖書の勉強をしない天主様はそれにも不拘次から次へといろいろの示唆を与えて下さる。

私もブラウン管を通して紹介される様な特異な人生ではないけれども、私は私なりに、私にのみ与えられた使命のある事を感じる。

天主様から頂いた尊いこの生命を大切にし乍ら、私の持つ有形無形のあらゆる物を、フルに活用して少しでも御恩に報いたい。

× × ×

有賀氏が日基代表

第二バチカン公会議に

第二バチカン公会議には第一会期からプロテスタント諸派の代表がオブザーヴァーとして多数出席しているが、九月一四日からの第四会期には日本からは唯一の合同教会である日基教団を代表して、日本キリスト教協議会の宗教研究所長である有賀鉄太郎博士が参加する。

第一・第三会期には、同志社大学神学部士屋真後教授が出席していたが、同大学の都合で出席不可能となったため、有賀氏が出席することになった。

ことばを刻んで84年
三省堂の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和辞典…二〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇
コンサイス英和辞典……五五〇
革七三〇
コンサイス和英辞典……五〇〇
革六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン
初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版六八〇
縮刷版五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…
…二、二〇〇
革二、六五〇

明解三部作
明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！
広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

バチカン公会議　第四会期開幕

全教父が償いと祈願の行列

第二バチカン公会議の第四会期は九月一四日、パウロ六世教皇司式のもと三千名以上の司教が出席して聖ペトロ大聖堂で開会式が行なわれた。

教皇は枢機卿らと共同執行ミサをささげ、開会の演説をなされたが、その日の午後、教皇と司教らはローマ市のエルザレムの聖十字架大聖堂からラテラノの聖ヨハネ大聖堂まで約二キロの間を、聖十字架の遺物を奉持して償いと公会議成功を祈願する行列を行なった。

教皇は開会演説のなかで「公会議は聖霊とわれわれの働きであるがわれわれは神の協力者にすぎず黙示録に、耳ある者は霊が諸教会に告げる所を聞けとあるように、聖霊のお指図に従うことがわれわれの第一の義務であろう。公会議は愛の働き、神に対し、教会に対し、人類に対する愛の働きでなければならない」と言明され、終りに自分の国連本部ゆきを告げられた。（教皇はアメリカご滞在中にジョンソン大統領のほか全米のすべての宗教の代表者とお会いになる）。

公会議は翌二五日から総会を開始し、二一日には信教の自由に関する議案を採決した（一一九七票対二三四票の圧倒的多数）。

これから討議される議案はつぎの三つ、即ち教会と現代世界、布教活動、司祭生活とその職務。

賛否の表決を待つばかりになっているものはつぎの七議案。即ち啓示について、信徒使徒職について、教会における司教の司教的任務について、修道生活について、キリスト教的教育について、司祭養成について、非キリスト教諸宗教について。

なお第四会期がいつ終了するかについては何の言明もなされていない。

聖体に関する回勅

教皇は九月三日付で「信仰の奥義」と題する（副題は聖体の教義と礼拝について）新回勅を発布して、聖体の秘跡に関して最近流布している危険な解釈を非難し教会の伝統的な教理を擁護された。

日本信者総数

このほどまとめた全国教勢によると、六月三〇日現在のわが国信者総数は三二万三、八八〇名昨年から一万四二九名の増になっている。

天国への旅路の伴侶

▽福岡教区聖歌隊の集い△

福岡教区では浮く聖歌隊の集いを行なうことになりました。

全教会をあげての典礼運動の発展にともない、教会音楽はそうごんな典礼の一部としてますます重要視されております。各教会の聖歌隊はたえず進歩向上して、信者の典礼参加に寄与する役目をもっています。従って本教区としましても教会音楽に対する関心をたかめ、よりよくその任務をはたすことができるため、深堀司教さまの御替同のもと、左記の通り「聖歌隊の集い」を開くことになりましたので、みなさまそろって御参加なさいますよう御招待申し上げます。

記

日時　一二月二六日（日）
午前一一時　ミサ（横浜教区典礼委員会発行のミサ曲を参加者全員でうたう）
午後一時半　聖歌隊員親睦と各聖歌隊による発表（第一部＝典礼聖歌と宗教曲、第二部＝一般歌曲）
場所　福岡双葉学園

参加御希望の聖歌隊は、所属教会名、おおよその人員、代表者名記入のうえ福岡司教館（責任者鵜野泰年神父）あて、一〇月末日までに御通知下さい。申し込みグループに詳細説明書をお送りします。

また聖歌隊が組織されていない教会でも、参加希望者を集めて聖歌隊の名でご遠慮なくお申し込み下さい。

司祭異動

（カッコ内前任地）

佐賀主任代理兼任テンペリニ師（鳥栖主任）帰国ガッツアルディ師（佐賀主任）佐賀助任マネルバ師（日本語学校）帰国ディヴァイン師（人吉主任）人吉主任ハンター師（帰国）大江助任ケーリー師（日本語学校）聖パウロ福岡修道院付長富久雄師（ローマ留学）聖パウロ赤羽修道院付永谷計師（福岡修道院付）帰国シーギスベルト師（高宮フランシスコ会神学院院長）

教会一致促進委員会発足

去る五月の全国司教会議でエクメニズム司教委員会の設置が決定されたが（委員長伊藤新潟司教）その下で働く教会一致促進委員会がこのたび発足し、各教区における委員が任命された。福岡教区の委員は司教館付の深堀敏師。

各教区委員に一致促進委員会に送られた通告によると、来年一月一八日から二五日までの教会一致祈禱週間でプロテスタントと共同で全国で使う祈禱文とリーフレットが新たに作成されたので、各教会、修道会、学校毎に希望数を深堀師に申込めば、無料で配布される。

聖体礼拝（一〇月）

第一日曜　呼子教会
第二日曜　崎津教会
第三日曜　カルメル会
第四日曜　高宮教会
第五日曜　新田原訪問会
手取教会
隈府教会

祈禱の使徒会（一〇月）

【一般意向】　現代におけるカトリック・アクションの使命
【布教意向】　児童福祉会による布教精神の鼓舞

世の光

「聖書をよむために」(2)

使徒行録

全世界の司教がローマに集って公会議第四会期をひらき、教会の刷新をはかっておられる今、使徒行録を再読することは、益多いことであろう。聖ルカはそのなかで主のご昇天につづく最初の三〇年間の教会の活動を描写している。

この書の内容全体は、ご昇天直前のイエズスの最後のおことば、「聖霊が、あなたたちの上に下り力をお与え下さる。あなたたちはイエルザレム、全ユダヤ、全サマリア、地の果てまで私の証人となるであろう」（使一の8）に基いている。はじめの五つの章は、使徒たちの証言、実際にはイエルザレムでのペトロの証言を収録している。そのあとの章はユダヤ、サマリア、シリアおよび小アジアでなされた証言を簡略に述べている以上第一部は、イエルザレムでの最初の公会議で終っているが（一五の5—35）、この会議は、聖霊のお照らしのもと新しい回宗者になにを命ずべきか、使徒および長老が集って協議したものである。

第二部では異邦人の使徒とよばれるパウロの活躍が述べられ、小アジア（現在のトルコ）、ギリシヤ、そして世界（地中海沿岸の国々）の大首都ローマにおけるかれの福音伝道を記している。神のみことばはかれによって地の果てまで運ばれ、イエズスの命令はすでに実現の第一歩をふみ出したのである。

使徒行録はキリスト教初期の歴史であるが、詳細、完璧な歴史ではない。十二使徒の名前は第一章にあがっているけれども、ルカは第二章以下の叙述をペトロひとりに集中し、他の使徒たちのことはどこにもとり上げていない。それだけでなくペトロとパウロの伝道活動にしても、とくに意義ふかいいくつかの事件だけを記すにとどめている。

実際ルカはその歴史編さんに当って、まず簡単にある重要な事柄をのべ、そのあとにその事柄のふかいキリスト教的な意味を説明する説教を加えるという方法をとっている。キリスト教初期の歴史を記すことをもって、キリストがわれわれに示された信仰生活とは一体どんなものであったかを教えようとしたのである。使徒行録をよむとき、われわれはルカのこの意図を頭に入れておくことが大切である。そしてその故にこそ、この書はわれわれの信者生活に今なおきわめて大きな価値をもっている。

イエルザレムでのペトロの証言

教会が聖霊降臨の日に誕生したことは衆知の通りである。しかしルカの記したことを読み返して、まず聖霊のお働きが強調されていることに気付く。今や聖霊の時が始まったのである。この四つの章のなかにルカは九回聖霊という言葉を使っている。でも聖霊のお働きと考えられる事柄は、この九カ所に限らず、それよりはるかに多い。

この四章では、聖霊の賜物はキリストのため証言する能力を伝える力の賜物である。ルカ福音書の終りをみると、イエズスは弟子たちに「上よりの能力を着せられるまで」（二四の49）イエルレザムに留まるよう命じられた（ご昇天のときにも「聖霊があなたたちの上に下り、力をお与え下さるであろう」と約束しておられる＝使一の8）。

聖霊降臨のあと霊の力を着せられたペトロは、恐れることなく群衆の前に進み出て、十字架につけられたあのイエズスが約束のメシアであること、キリストは復活して主とされたと証言したし、衆議所に引かれたときも、救霊は主以外の者によっては得られないと公言してはばからなかった（四の12）。ガリラヤの名もない漁師にすぎなかったペトロは、ユダヤの最高権威、学者らの前でさえ信仰を告白するほど強くなっていた。イエズスの裁判のとき下女のことばに恐れおののいたあの態度とはなんと大きな違いであろう（ルカ二二の54—62）。これこそ聖霊のみわざのなせるものである。これはペトロにだけ例外的に与えられたのでなく、聖霊を祈り求める者だれにでも与えられている（使二の29—31）。聖霊の注入は旧約以来予告されていたメシア時代が到来したことの徴だったのである。

旧約聖書に基くペトロの説教

イエルザレムの教団に属する最初の信者らは全部ユダヤ人で、ペトロはかれらユダヤ人とその指導者にむかって教えを説いた。かれの説教はどれも旧約聖書＝ユダヤ人にとって神のみことば＝をキリストの教えに照らして説きあかすものであった。イエズスが創立された教会は、神のご計画のなかに準備されずに生れた団体ではない。それはたすかりの偉大な奥義の新しい展開、数世紀以来約束されてきたものがついに与えられ、約束が現実となったものである。ペトロはイエズスの全生涯、その業も教えも旧約聖書の実現であることはっきり理解してもらおうと努めた。

だからイエズスの奥義であるそのご死去、ご復活、主としての地位を預言者と詩篇のテキストをもって説明している。かれは主の証人として、ご昇天前に主ご自身から教わった通りを教えたわけである（ルカ二四の44—48参照）。同じ方法に従ってかれはまたヨエル預言者の言葉をかりて（使二の17—21）、聖霊降臨の事実を説明している。二章から五章にかけては旧約聖書の引用が実に多く、それを暗示している箇所はさらに多い。イエズスの奥義、教会の奥義を本当に理解できるには、旧約聖書がわれわれに啓示している神のご計画を洞察することが必要である。われわれも主やペトロの手本になって旧約聖書を尊重すべきである。

ペトロの説教はどれも改心と受洗への招きをもって終っている。（二の38—40、三の19、ユダヤの指導者に対してはやや遠まわしな表現、四の12）。たすかりをうるための絶対条件は、生活を改めることと、神に立返ることである。以前に洗者ヨハネはイエズスの教えに道をととのえるために、同じよびかけをしている（ルカ三の1—18）。ではユダヤ人はペトロの招きにどのように応じたであろうかユダヤの指導者らはこれに抵抗して迫害をはじめ、一方多くのユダヤ人はこの招きをうけて、模範的な生活に入った。ルカは不誠実なアナニアの例も隠さず記している（五の1—11）。

キリストを信ずる者らの生活

ルカは、三カ所で理想的なキリスト信者の生活ぶりをのべている（二の42—41、四の32—35、五の12—16）。まず信者らは受洗してから使徒たちの教えを熱心にふかめていった。本当の教理勉強は改心と受洗のあとで行なわれたのである。使徒たちは自身もかって主から公生活中とご復活後に教えをふかめたのである。

信者らはまたすべてのもち物を共有にしたが、これは教団に属する貧困者に愛徳が実行できるためであった。愛の実践こそはイエズスのまことの弟子の特徴の一つである。「私があなたたちを愛したように、あなたたちも互いに愛し会え」（ヨハネ一三の34）とはイエズスのご遺言である。

信者はまたイエズスのもう一つの教え、「私の記念としてこれを行え」（ルカ二二の19、コリント前一〇の16、一一の23—27参照）を忠実に守って、主を賛美し、パンを割くこと即ち聖体をささげていた。（この項つづく）

（イエル）

一〇月　ロザリオの月

二日（土）　守護の天使の祝日

天使も神からつくられ、人間よりすぐれた存在である。感覚にふれることはできないが、天使は人間にとって親しいものである。「天使たちは、救いの世つぎとなろうとする人々に奉仕するために、おくられた霊」である。

三日（日）　幼きイエズスの聖女テレジア童貞

聖女テレジアは二四才で世を去ったカルメル会の修道女。布教の保護者とあがめられている、かの女の福音の生き方は「幼な子のように」神に近づくにある。幼な子の心とは、けんそん、単純、信頼、勇気をもって、キリストのあとに従う心構えである。

四日（月）　アシジの聖フランシスコ証聖者

アシジのフランシスコの生き方は、福音にいわれる「心の貧しさ」の実践であろう。これは昨日のテレジアの幼な子の心と全く同じの精神である。それは自我心をすてて、キリストと同じ心になること。そしてカルワリオの頂上まで主と一緒に歩むこと。

七日（木）　ロザリオの童貞マリアの祝日

ロザリオは、教会がもっとも大切にしている信心業である。もっともやさしい祈りであるが、教会にとってもっとも強力なお助けの源である。信仰の敵からわれらを守る武器である。

一〇日（日）　聖霊降臨後第一八の主日

ユダヤ人らはたびたびエルザレムの神殿に巡礼にのぼった。この聖なる都はかれらの心のふるさとであり、国民的一致のシンボルであった。いま新しい神の民である教会は、御父の住われる天の家、新しいエルザレムさして旅している。それは心はずむ、よろこびの旅である。

一一日（月）　神の御母なるマリアの祝日

マリアがこの世に生をお与えになったイエズスは、人であると同時にまことの神であられる。だからわれらはあたりまえのこととして、マリアを神の御母とよぶ。

一七日（日）　聖霊降臨後第一九の主日

旧約の女傑エディットは、美服をまとって敵陣にのりこみ、大将をたおして、イスラエルの危急を救った。われらも、洗礼のときにさずかった白衣＝純潔の心＝をまとっている限り、悪にうちかつことができ、えらまれた者として、天国の婚宴に出ることができよう。

今村教会で聖体行列（後二時）

一八日（月）　福音史家聖ルカの祝日

二四日（日）　聖霊降臨後第二〇の主日　布教の日

バビロニアに流されていたイスラエル人の運命があやういとみたエステル皇后は、ただちに一身をとして王にこん願した。われらの永遠の救いは「いまの時」にかかっている。一刻もゆるがせにできない、神のお助けを切願しよう。

三〇日（土）　天草殉教祭第一日

三一日（日）　王たるキリストの祝日

キリストは神の民の王であり、われらは民である、洗礼によってわれらはキリストの王としてのお力をうけている、悪と戦うのはわれらの義務である。

天草殉教祭第二日

教皇聖下に祈りと犠牲の花束

公会議の成功のため

パウロ六世教皇は八月二八日付の使徒的勧告を発表されて、全世界の信者がひとり残らず、九月一四日にはじまる第二バチカン公会議第四会期の成功のため祈るよう要請されたが、福岡教区でもこれに答えて全教区民による祈りとぎせいの花束が作成された。

この霊的花束は公会議に出席中の深堀司教に郵送され、司教が教皇拝謁のさいに教会に対する教区民一同の愛情と熱意のしるしとして教皇に捧呈される。

深堀司教は九月六日午後四時半特急あさかぜで上京されたが、それに先立ち午後三時から大名町教会で聖体降福式が行われ、列席者一同で公会議のための祈りをとなえた。われわれは深堀司教がお元気で聖なる任務をお果しなさるようお祈り申し上げたい。

霊的花束の集計は左の通り

ミサ聖祭	41,005
聖体拝領	34,900
告白	7,212
ロザリオ	45,077
十字架の道行	10,486
公会議のための祈	46,745
ぎせい	64,463

幸せな結婚のために

熊本で結婚準備講座

熊本市上通り町のカトリック教会（主任ノーリス師）では、八月四日から七日までの四日間はじめての試みとして同市水道町の福祉会館ホールで、結婚準備講座を公開した。

講師は上智大学教育心理学助教授のフォンテス師（イエズス会司祭）、防衛庁調査部の及川雅道氏と東京星美学園高校英語教師の及川千代氏両夫妻、熊本労災病院の医学博士橋本広氏（八代教会所属）らで、高木弘氏が司会をつとめた。

閉会第一日には同講座を後援した石坂繁熊本市長が自ら講壇に立って、結婚は神聖なもので離婚は許さるべきものでなく、当事者のしっかりした同意と届け出が必要であり、今はやりの中絶はおそるべき罪悪であると述べた。

つづいて四日間（毎日七時―九時）次のようなプログラムが組まれ、六日の台風の日をのぞき毎回二〇〇名前後の若い男女が顔をみせて、活発な意見を交わしたが、各講演内容は全部あらかじめテキストにして入場者に三〇〇円で配布された。

四日、愛とは何ですか（フォンテス）、愛は創造的な力である（橋本広）。

五日、愛をささげるもの（及川夫妻）、家庭を作るための条件（合同討論）。

六日、クェッションボックス（講師一同）、皆で歌おう―アコーディオン（宮田氏伴奏）。

七日、明日への喜び（フォンテス）、心の若さと幸福（合同討論）熊本教会ではこの講座を成功にみちびくため、レジオ会員を通じて家庭訪問して参加を勧誘したりチラシ数千枚を新聞にはさんでくばり、電車にも広告を出して、布教をかねて広く結婚前の若い人々に訴えた。

ラジオによる各宗教の布教活動

ラジオによる各宗教の布教活動は、最近益々盛んになって参りました。どんな地方都市の放送局でも三や三の宗教番組を扱って居ります、その内容や形式などに至っては千差万別で有りますが、ラジオによる効果が非常に高率で有るからこそ、どの宗教も競って力をそそぐ次第で有ります。

カトリックに於ては、ラジオ放送に二〇年の経験をもち、このために心魂を傾けておられるハヤット神父が製作し責任をもつ「心のともしび」「太陽のほほえみ」が全国的に毎日放送されて、一日六百万人以上の聴取者が居ります。

この二つの番組について回を重ね、特に福岡教区に於ける実情など評しと説明して、皆様の協力を得、さらにカトリックのラジオ放送が布教に役立つよう希望致します。

一、現在放送されている地区

福岡教区　九州朝日放送

「心のともしび」

毎日PM11・50

「太陽のほほえみ」

日曜AM6・20

（熊本放送は都合により本年春から一時中止）

東京教区	ニッポン放送	東京	
長崎 〃	長崎 〃	長崎	
広島 〃	ラジオ中国	広島	
山口	放送	徳山	
山陰 〃	米子	高松 〃	
南日本 〃	鹿児島	西日本 〃	高松放送は一時中止の予定
鹿児島 〃	南日本 〃	松山 〃	六月より一時中止
京都 〃	近畿 〃	福島 〃	東北放送（仙台）は
	ラジオ大阪	盛岡 〃	
	奈良	岩手 〃	
		青森 〃	
		仙台 〃	
		浦和 〃	
		横浜 〃	
		ニッポン放送	東京
		静岡 〃	静岡
名古屋 〃	中部日本 〃	名古屋	
北日本 〃	富山	福井 〃	
福井 〃	新潟	新潟 〃	
新潟 〃	秋田 〃	秋田 〃	
大分 〃	ラジオ宮崎	宮崎	
大阪 〃	〃 大阪	大阪 〃	
札幌 〃	和歌山放送	和歌山	
〃	北海道放送	全道	

カトリックのラジオ放送について（上）

川隅邦雄

この二つの目的をはたすために番組はできるだけ広い層の聴取者に親しみやすい内容のものを用意します。したがって話題は、カトリック教会の個々の教えを云々するようなものでなく、むしろ根本的な人生教訓を主として取り扱うのであります。これは聴取者が宗教宣伝を好まず、説教を聞かされることを嫌うからです。「心のともしび」は日常生活の中にある教信講座を終った聴取者は最寄りの教会へ紹介します、教会の司祭はこの人たちに洗礼のための準備を指導をなさいます。

さてもう一つの番組「太陽のほほえみ」はスタートして一月余りで有りますが、全国的に爆発的な人気を呼んでいる教養番組のスターで、「心のともしび」の優雅さに比較して、もっと、もっと行動的で有ります。キリストの愛の精神をバックボーンにして、積極的に社会のためにみんなで尽そうとするもので有ります。即ちこの番組に流れるテーマ音楽は明るく溌剌として居り、最初の言葉

〝暗いと不平を言うよりも
進んであかりを
つけましょう〟

に総てが表現される如く、聴取者の一人一人が、自分のうちに持っている長所美点を生かして、他人に奉仕することをすすめます。

このためにハヤット神父は、多忙な時間と労力をさいて毎日この原稿を一人で書き下しておられます、その努力は誠に涙ぐましきものであり、日本人の誇りをうもれているなかから掘り出して、自然とキリストの精神を知らしめたる半より六五名受堅。

信越 〃　長野　多い問題点を通じて、カトリック
山梨 〃　甲府　的な生活態度を、除々に描き出そ
別に沖縄　琉球放送　うとするものであります。そのた
二、放送の目的　ナハ　めにカトリックの諸作家や、その
カトリック教会がラジオ放送を　作家が推せんする有名作家が、こ
行う目的は　のために特別に執筆して、それを
A、「心のともしび」について　河内桃子のナレーターで放送して
（イ）カトリック教会の精神　います。作家のことにつきまして
が、日本の一般人の間によ　は次回の委員会のところで詳しく
り広く知られ、尊敬される　申します。
ようにしむけること　次に第二の目的のために、通信
（ロ）信仰生活を希望する聴　講座「キリストの御教え」を申込
取者を洗礼に導くこと　んだ方々に無料で配布します。通

福岡に保育園

大濠訪問童貞会

福岡市大濠町の聖母愛児園（養護施設＝訪問童貞会経営）では、市当局のつよい要望に応じて一〇月一日から同施設の一部を利用して定員六〇名の保育園を開設する。聖母愛児園は終戦直後からつづけられているが収容児が漸減している。訪問童貞会は福岡教区では熊本県天草の崎津でも保育園をひらいている。

学園バザー

福岡双葉学園では、一〇月二日（土）三日（日）の両日文化祭とバザーをひらく。

福岡海星女子学院でも一〇月一七日（日）バザーを行う。同学院へは天神町から海星学院前ゆきバスがあるが、天神町から桧原ゆきバスを利用し屋形原で下車もある

堅信のよろこび

【今村教会】九月五日午前八時

H・ロビヤール師急逝

元福岡サンスルピス大神学校校長アンリー・ロビヤール師は、九月一五日ローマのカナダ学院で急逝、六五才、葬儀はレゼ枢機師（カナダ・モントリオール大司教、福岡大神学校創立者）司式で一八日挙行され、公会議でローマ滞在中の深堀、平田両司教も出席された。

ロビヤール師は一九二三年司祭叙階、三七年一〇月来日して福岡教区でラテン語と哲学を専攻中の神学生のため教鞭をとり、戦争中は他の宣教師らと収容所生活を送り、戦後新設の福岡大神学校長として校舎の建設にあたり、五五年夏からローマのカナダ学院の会計の任にあった。

要理教授法講座

九月二一日再開

第六回要理教授法講座（第三年目の第二回）が九月二一日から福岡双葉学園で再開されている。講座は毎週火曜日午後一時一五分から二時間（二講義）で、講師はラベル師（福岡大神学校教授）と平山高明師（小倉助任）。

講義内容はラベル師が「聖書と教会の教えによる勤労観、聖書による人間観」、平山師が「神の愛に対する人間の応答、守るべきこと」。閉講は一二月中旬の予定。

教皇に忠誠表明

要理教授法講座を聴講している六五名の修道・在俗伝道者と一一五名の修道女は、教皇聖下に対する忠誠を表明するため、去る六月一三日ラベル師のローマ訪問を機会に、霊的花束二通を奉献した。これに対し七月六日付デラックワ大司教の署名で、一同とその布教活動とのため教皇祝福が伝えられた。

天草殉教祭ご案内

毎年天草本渡市において行われる天草殉教祭は、今年も左記の通り、主たるわが主イエズス・キリストの祝日を中心に行われます。

この祭典は司教区のみなさまのご協力によって、年々盛大に挙行され、神に光栄を帰すと共に、キリストを知らない人にキリストを示し、キリスト教への関心をよびさますことができることを喜び、みなさまのおはげましにふかく感謝しております。

バチカン公会議以来ますます典礼の精神がたかまっている折柄、今年はとくにこの殉教祭を通じて、共に祈り、賛美し、そしてキリストの一つの家族、一つの神秘体としての一致をふかめ合うことができますなら幸いです。

本渡カトリック教会
ライル神父

記

一、行事

一〇月三〇日（土）　前夜祭
午後五時半ミサ聖祭（教会洞つく前）
六時半　聖母ローソク行列（市内を通って殉教公園キリシタン墓地まで）
七時半　抽選会（キリシタン墓地）
○教会で行事開始前に全員に抽選券とちょうちん

一〇月三一日（日）　王たるわが主イエズス・キリストの祝日
午前一〇時　ミサ聖祭（殉教公園十人塚）
一一時半　聖体行列（十人塚より市内一週して教会まで）
一二時一五分　聖体降福式（ルルド洞くつ前）
雨天決行

二、遠隔地参加者の宿泊・旅費の件

宿泊　一泊二食付　千円の予定
船割引（個人・団体）　二割引の予定

この式典に参加希望者は一〇月一五日まで、本渡市西浜カトリック教会あてお申込み下さい。

イルデガルダ修道女逝去

伊万里の聖母トラピスチヌ大修道院の前修院長（福岡県京都郡豊津町の修道院当時）マリア・イルデガルダ修道女（鈴木喜美さん）は、八月二九日函館市の病院で逝去。五二才。同市上湯ノ川の修道院（天使園）で葬儀が行われたが伊万里の修道院では同月三〇日深堀司教司式の追悼ミサがさきげられた。

イルデガルダ修道女は札幌市出身で昭和二三年初誓願、二六年終生誓願を立て、一一年間大修道院長の任にあった。

聖心の使徒

（昭和四十年十月号）

ロザリオについて……荻原　晃
十月の意向　すべての信者はキリストの使徒……下山正義
児童福祉の問題（十月の布教の意向）……粕谷源蔵
黙想　イエズスの聖心の連禱（十一）……河野義祐
主に新しき歌を（上）――典礼と音楽――……品川勝郎
写真特集　神への賛美……
ロザリオの祈りと正坐法について……粕谷源蔵
現代が求める宗教……石崎保子
友への手紙（六）――インドの旅から――……谷口幸紀
明治初年の東北紀行（三）――函館より秋田――……J・M・マラン
病める友へ　タダで出来る転地…十字架……のイエズス修道女会
新本めぐり……
ポスト……
聖心の使徒購読会員費　〒共
一部　一カ月　五七円
一年　五七〇円

高山右近列福運動に協力しましょう

純心短大教授　片岡弥吉著

高山右近

新書版　一〇〇頁
定価　九〇〇円　〒二〇円

高山右近列福運動本部刊行

エッセイストクラブ賞をうけた片岡教授の最近著―著者が多年の研究に基づき、右近によってデウスのみ名が高められるようにと熱情をこめて書き下ろしたもの、万人必読の書、信者は勿論すべての人に深い感銘を与えずにおきません

割引

一〇部以上　五分引　〒別
五〇部以上　一割引
一〇〇部以上　二割引
五〇〇部以上　三割引

堂本印象画伯筆　一枚　五円

割引

一〇枚以上　一割引
一〇〇枚以上　二割引
五〇〇枚以上　二割五分引
一〇〇〇枚以上　三割引

御注文は
尼崎市若王寺苗田十ノ一　英知大学内
声社　振替大阪一〇七五八
大阪市東区岡山町三四〇ノ一
聖心書房　振替大阪五九一一四

真理のおしえ (6)
神の十戒
Ⅲ ひとを愛する

1、すべての人を愛する

真理のおしえ

(1) 神のご命令＝人を愛せよ

神はモイゼに十戒をおさずけになったとき、ご自分に対する人間の義務だけでなく、人間同志どのように生活すべきかも教えられた神は人間がお互いに愛し合うようにお命じになったのであるが、この愛のおきてをさらにはっきりと教えられたのは、主イエズスである。主はなにごとにまさって神を愛すべきこと、また神を愛するならば他人をも自分のように愛せねばならぬとお命じになった。

愛するとは、神の栄光をのぞみ他人の幸福をねがって、それを与えるようにつとめることである。他人の幸福のためにつくすのが、神の栄光をあげることになる。

愛するのは信者のつとめである信者は天の御父の子供であるから子供としての愛によって、神の慈父的な愛に答えるべきである。また信者は主キリストの兄弟姉妹であるから、愛し合うのが当然である。信者はまた聖霊のお住いの家になっているのであるから、全生活が聖霊の愛によって生かされねばならない。

神を愛するのと、ひとを愛するのとは一つのことである。ひとを愛しているとき、われわれは神をも愛している。

(2) 例外なくすべての人を

神の十戒のうち最初の三つと教会のおきては、神への愛のおきてである。あと七つのおきては近い人(隣人)に対する愛を命じている。では近い人とはだれのことであろうか、主イエズスはこの問に答えておられる。

ルカ聖福音書一〇章25－37の朗読

傷き倒れているユダヤ人を助け看護したのはサマリア人で、サマリア人とユダヤ人は非常の仲のわるい間柄であった。

苦しんでいる人を助けなかった司祭やレヴィ人は、神に仕えるものであったから、ひとに親切をほどこさなくてよかったのであろうか。困っている人を助けるのが、神に仕えることになることを知らなかったのであろうか。

近い人とは、例外なくすべての人のことである。「あなたたちは敵を愛し、迫害する人のために祈りなさい」(マテオ五の44)。あなたがある人を愛したら、それはイエズスを愛したのである(マテオ二五の40)。世の終りにわれわれは、愛をどのように実行したかについてさばかれる(マテオ二五の31－45)。

「目で見ている兄弟を愛さない者には、見えない神を愛することができない」(ヨハネ第一、四の20)。

(3) 自分のようにひとを愛する

どのように、どのくらいひとを愛さねばならないのであろうか。神は民に教えられた「あなたに近い者を自分と同じく愛せよ」(レヴィの書九の18)。

人間はだれでも自分を愛して、自分の幸福を求め、幸福になろうとつとめる。

主は山上の説教で、愛のおきてに従って近い人をどう愛すべきかその簡単な実際的な規則をおみせになった。即ち「他人からしてほしいと思うことを、あなたたちも他人に行ないなさい」(マテオ七の12)。これはキリスト信者にとってまさに黄金の法則である。

われらの答え

ひとを自分と同じように愛することは、天の御父のお望みを行なうことになる。ひとに仕えることは神に仕えることである。

天の御父にとって一番のおよろこびは、子供たちがお互いに愛することである。隣人愛によって神の国が世界にひろまるから。

神の愛は、例外なくすべての人にむけられる。われわれもすべての人を愛すべきではなかろうか。このような愛は神のおめぐみである。神の愛に生かされている人がまことの愛をもつことができる。

決心＝すべての人をつつむまことの愛を祈り求めよう。

2、行いと真実をもって

真理のおしえ

(1) まことの愛のあり方

イエズスの最愛の弟子であった使徒ヨハネは、愛のおきてについての主のみ教えを福音書のなかに記し、また信者にあてた手紙のなかでは、愛の実行についてくり返えし説明している。

ヨハネ第一書簡三章10－11、16－18の朗読

ヨハネが主からの教えとしてわれわれに伝えるのは、互いに愛し合うということである。神の子と悪魔の子のちがいは、人を愛するかどうかという一点にある。この愛の実行がキリスト信者のしるしになる。口先だけでなく行ないと真実をもって愛し、いのちをささげるほどでなければならない(ヨハネ一三の35参照)。

(2) 人間に対する神の愛の証明

神は、ご自分がお造りになったもの、とくに人間を愛し、人間の幸福をのぞんでおられる。うわべだけでなく、行ないと真実をもって愛をお示しになった。神は世界をつくり、これをつかさどり、人となってこの世に下り、人々の罪をあがない、たえずおめぐみを分けておられる。神の愛の最大の証明は、神の御子が十字架の上でいのちを人々のためにささげられたことである。

「友人のためにいのちを与える以上に大きな愛はない」(ヨハネ一五の13)。

(3) 行いと真実をもって

主イエズスのご生涯とご死去は完全な隣人愛の模範である。われわれはこのお手本にならって愛を実行しなければならない。

例えば、食物や衣服のない人に援助する。客をもてなす。病人を看護し、はげます。刑務所の囚人を力づける。葬式の手伝いをする。

また信者の務めを守らぬ人を補導する。相談相手になる。教理をおしえる。力をおとした者をはげます。ひとのあやまちをゆるす、ひとのために祈るなど。

愛を実行するには、自分をすてる覚悟、時としては非常に苦しいぎせいをしのぶ勇気がいる。

キリスト信者は、まずひとのことを考え、ひとの幸福をよろこび利己主義、ねたみ、憎しみに勝たなければならない(コリント前書一三の4－7参照)。

われらの答え

主のご苦難を黙想して、われわれに対する神の愛を生々と感じるようにつとめよう。ひとをよろこばせ、ひとのためにつくし、ひとをゆるすように努力しよう。やさしい言葉をかけるだけでなく、ひとが望んでいることをしてあげるようにしよう。

決心＝毎日少くとも一回、神の愛のためにひとにつくすこと。

身よりのない人への愛の実践

3、人類愛

真理のおしえ

(1) とくに近い人に

われわれの近い人とほすべての人を例外なく愛するように主は命じておられる。しかしわれわれが自分に一番近い人をまず愛するようにするのが順当である。

主もすべての人を愛されたが、やはり使徒たちをとくに愛されたし、御母マリアには特別の愛情を示された。またユダヤ民族、エルザレムの町のことを格別心にかけておられた。

われわれも、家族、友人、同じ教会の信者、同国人に対しまず愛を表明すべきである。祖国を愛し国を治める人を尊敬し、その正しい命令にしたがい、市民としての義務を果さねばならない。国全体の利益のために個人がある程度のぎせいをはらわねばならぬこともある。

(2) われらみな兄弟

われわれはとくに自分に近い人を愛するのが自然であるが、ほかの国の人々を憎んだり、軽べつしてはいけない。

神は万民の父であり、イエズスは全人類のあがない主であられる国や民族や皮膚の色の区別なく、すべての人が神の国に入るよう招かれているのだから、外国の人達をも兄弟とみなすべきであろう。

「もうユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴れいも自由人もなく、男も女もない。あなたたちはみな、キリスト・イエズスにおいて一つである」(ガラツイア書三の28)。

われらの答え

キリストの愛のみわざをつづける教会は、すべての人に主キリストの真理と愛のおきてを知らせようとつとめている。

常に平和のために祈り、人々がゆるし合い、尊敬し合って手を結ぶように、色々の手段を用いている。われわれも祖国のため、人類の平和のために祈ると共に、争いのもとになることをさけ、理解し合うようにつとめよう。

4、従う、それは愛すること

真理のおしえ

(1) イエズスの従順

イエズスのご生涯は、従順の連続であった。主は御父のみむねに従ってこの世に下り、人となり、人間であるマリアとヨゼフに従い御父の望まれたことだけを行ない自分をすてて十字架の上にいけにえとなられた。

主がこれほどまでに御父に従われたのは、人間全体のために御父がおきめになった秩序を尊重し、人間を救うというご計画に協力するためであった。もし主が御父に従いにならなかったら、人類に対する御父の愛は証明されなかったであろう。

フィリッピ書二章5－11の朗読

(2) 従順の実行

神は人間を社会的に生きるものとしてお造りになった。両親は子供にいのちをさずける使命を与えられ、一人前の人間、りっぱな信者に育てあげる義務と権利をもっている。

子供を育てみちびくのが両親の義務であれば、その両親に対する子供の義務はなんであろうか。神が両親にゆずられた権威をみとめこれに従い、そのすすめを受けいれることである。

従うとは、どんな命令でも盲目的に実行することでなく、よく理解して行動すること、目上の考えをよくわきまえて、これに自発的に協力することである。あやつり人形のようにではなく、愛と知恵をもって働くことである。

従順は境遇の義務をはたし、神と同じ考えをもち、神の愛にとどまるためのもっとも確かな道である。

(3) 尊敬と愛のしるし

決心＝世界平和のため祈ること。

5、命令する、それは仕えること

真理のおしえ

(1) すべての権威は神から

宇宙の秩序は神の創造の傑作である。天体の動き、四季のうつり変り、生命の働き、どれをとってみてもそこに全能の神のみ手のあとがうかがわれる。秩序こそは宇宙構造の本質である。

人間の生活にも秩序がある。ある者は命令し、ある者は従う。家庭、学校、国家、職場からこの命令と服従の秩序が失なわれたら、生活の安定、平和のよろこびはなくなり、人間らしく生きてゆけなくなる。

では命令する権利をもつのはだれであろうか。家庭で命令するのは両親とくに父である。両親は子供を養育する義務をおわせられている、ということは子供を養育する権利を与えられているということである。

すべて人々を指導する地位にある者は、命令する権利も同時に与えられている。正しい権利、神のご意志にかなった権威であるならば、それは神からきている、最高の権威者であられる神が、ご自分に代って人々を指導するようにある人に権威をおあずけになったのである。

(2) 全体の利益のために

人々が秩序ある共同生活をしている所では、各人が自分に属するものを受けることができ、また他の者を助けることができなければならない。即ち人間としての権利を守り、同時に愛も実行できるような生活にしなければならない。

例えば親が正しく愛をもって子供を大事に指導し、子供がこれにすなおに、自発的に従ってゆく家庭であれば、これこそ幸福な家庭である。

人の上に立つ者は、その権利を個人的な利益のために使ってはならない。権威は人々を善にみちびくための神の代理者である(ローマ書一三の4参照)。全体の利益のために命令するのである。

主イエズスは「仕えられるためでなく、仕えるために」この世にこられた。主は上に立つ者のモデルである。

(3) 人によりも神に従う

われわれは長上を尊敬し、われわれに命令する権利のあることについては、この長上に従うべきである。キリスト信者としては、長上のもつ権威が神からきていることを考え「心から神のみむねを果すキリストのどれいとして」(エフェソ書六の6)長上に従うようにする。

しかし従うことを拒絶せねばならぬ場合もある。だれかがひとの権威をうばって命令したり、神のおきてに反することを命じたり、全体の利害に害のあることをさせようとする場合である。このようなとき「人間よりも、神に従うべき」(使徒行録五の29)は当然である。

われらの答え

この世界に神がお立てになった秩序は、罪によって乱された。イエズスがこの世にこられたのは、従順のみわざをもって罪をほろぼし、秩序を立てなおすためであった。十字架こそはまことの従順と命令の手本である。従うのと命令するのとは、神のご計画に協力して、神の国を拡張し、秩序を回復する偉大なるわざであることを忘れてならない。

決心＝十字架にならって従順を実行しよう。

不従順な子供は、親の心配や愛情をありがたく思わず、なんでも自分でできるかのようにふるまい命令されるとうるさがる。

従順な子供は、口先だけでなく行ないと真実をもって親を尊敬し親に対する態度や言葉づかいをていねいにする、感謝の心にあふれている。

従順は愛と尊敬のしるしである

われらの答え

目上の正しい命令に従うのは、神のご意志を行なうもっとも確実な道である。従順であることによって、われわれは実に多くの罪をさけることができる。

従順の実行がむづかしいのは、ごうまんの心があるからである。主が十字架上の死さえもけんそんにおうけになったのは、われわれ人間のごうまんを打ちくだくためであった、けんそんな者だけが従順であり、神の前に偉大なものである。

決心＝親のいいつけを守る。

読書でみがこう知性の美

新刊紹介

聖女マリア・ミカエラ　聖体礼拝会編　¥300
神に愛され、またひたすらに神を愛した生涯の美しさに感嘆させられる。信者には必読の伝記、また一般学生、万人にすすめたい。

3日 幼きイエズスの聖テレーズの手紙　福岡女子カルメル会訳　¥980
ほとんど絶えまなく、肉体と霊魂の苦しみにさいなまれながらもいつも愛されている子供のように平穏に神に自分をゆだねていた聖テレジアの手紙集、

4日 アッシジの聖フランシスコ　永井明著　¥300
聖寵と愛徳の精神を人々に理解してもらうために、なめらかな文体でやさしく書かれた楽しい読みもの、

福音の道を歩んだ人々にならおう

10月

15日 イエズスの聖テレジア　自叙伝　カルメル会訳　¥550
真理に渇いている多くの霊魂はこの書を読んで満たされる。

17日 聖心の使徒　聖女マルグリット・マリー　田代安子著　¥320
聖心を信ずる(初金の信者)人々のためにイエズスは聖女マルグリット・マリーを通じて約束されたことは……

ロザリオの祈りによって

大名町　聖パウロ書院
岩田屋6階
セント・ポール・コーナー

一〇月の黙想

「王たる主は永遠の王座に坐し御民に平和と祝福とを与え給う」（詩篇二八）。これは王たるキリストの祝日のミサの聖体拝領唱で祝日の思想を凝約している。キリストは私達の王。十字架の王座に万民をひきよせ、私達の生活の上に光と力とをお放ちになる。王のよき民として生きるならば、私達は主の勝利にあずかり、天来の平和を楽しむことができる。

（一）　一九二五年教皇ピオ一世は王たるキリストについて回勅を発布し、その祝日を制定された。年毎のお祝いは文字による教えよりも力強い。キリストを王として尊ぶことは教会の古からの伝統であって、これは聖書と典礼に明示され、キリスト教的生活のなかに守られてきたことである。

旧約聖書は、神を偉大なる王とよんでいる（エレミア三一章をみよ）。キリストは天の王国を建てるためにこの世にこられている（マテオ四の17）。この王国の支配は霊的なものである（マテオ五の3―12）。典礼でも例えばキリストにむけられるキリエは、普遍王または皇帝に奉られる呼称であり私達が大君とよぶときの君と同じようなものである。信者の実践からみても例えばベネディクトは修道者の生活は王たるキリストへの奉仕であるとのべており、イグナチオはイエズス会を王たるキリストの軍隊として創立している。

（二）　キリストはいまもいつも王であって「私には天と地との一切の権力が与えられている」と申されている。ヨハネはピラトの前で王権を主張されたときのことをはっきり記しているが、他の福音史家はイエズスがこのとき沈黙しておられたことの方を強調している。イザヤのいう黙々と苦しみに耐える羊の姿である。ヨハネによると主とピラトのやりとりは大体次のようである。

「あなたはユダヤ人の王か」「私の国はこの世のものではない。もしそうだったら私の兵士は私をわたすまいとして戦ったろう」「するとあなたは王か」「あなたのいう通り、私は王である。私は真理を証明するために生れ、そのためにこの世に来た。真理につく者は私の声をきく」

この主の断言は十字架上で実現した。キリストは新しい被造物に対する支配権をおん血をもって獲得された。十字架は勝利をえた王の玉座なのである。お苦しみの主をみて同情をよせるのはよい。しかし私達がヨハネと同じ深い観察眼をもつなら、そのお顔にすでにご復活のときと同じ力と光と光栄が輝いているのを見つるであろう

キリストはこの十字架の上で勝利者であられたのである。この上から私達の上に支配の手をのばし万民の心を自分に引きよせておられる。十字架が私達の勝利のしるしであり、主の聖髄をうける者は皆、この勝利にあずかる。

（三）　主の王的勝利を祝うのがこの大祝日の目的である。私達はミサ中キリエを唱えるとき、生命と平和の与え主たるキリストを称賛しよう。聖体拝領にあたっては、本当に信者らしい生活をもって、主の王国を証言することを約束しよう。十字架上に苦しみ給うキリストを仰ぐのもよいが、今日は王的勝利の輝やきを放ち給うキリストをここに眺めるようにつとめよう。王たるキリストであられる「主が、みなさんと共に」。

（レオナルド）

聖書の国 ㉖

平山高明

王たるキリスト

幕屋祭

敬虔なユダヤ人は日に何度も祈った。一二才以上の男子は少くとも日に三度有名なシエマの祈りを唱え、その日を聖なるものとして神にささげることが命ぜられた。同様に一週は安息日によって聖化され、各月にもまた大小の祝日がそれぞれ心配されていた。その祭の中でもとくに重要だったのは、三大祝祭とよばれた過越祭、五〇日祭、そして幕屋祭である。

△　△　△

ユダヤの暦では、新年はチシリの月（一〇月）をもって始まったが、幕屋祭はその月の一五日、贖罪祭に引きつづいて行なわれた。この祭にあずかるためにエルザレムの神殿に上る巡礼者の数は、過越祭ほどでないにしても非常な数であったろう。フラビウス・ヨゼフは過越祭にあずかった巡礼者を二五〇万としているが、これは大げさとしても少くとも五〇万は下らなかったものと思われる。

ユダヤ人は、エフライムの山地の百姓にせよ、ガリラヤの漁師にせよ、どんなに貧しい者であろうと、片時も自分らがアブラハムの子孫、ヤーウェの神によって選ばれた民の一員であるとの誇りを忘れることはなかった。この自覚こそはユダヤ人の生活をつらぬいている特色であり、かれらの共同体としての性格を浮きぼりにするものである。従って信心ぶかいユダヤ人たちにとって、個人的な信心が尊ばれる以上に民としての共同の祭に参加することは、重要なことであった。

△　△　△

巡礼に加わりながらかれらは、たがいに選ばれた民としての使命感、同胞意識がたかめられるのであった。「主の家にいこう、といわれて私は喜びおどった」（詩篇一二二）。かれらはエルザレムの城門に入ると、この聖なる地に接吻した。巡礼者は途々出会う同胞と心からの熱い挨拶を交わし、賛美の歌をうたいながらユダヤの村や町、あるいは遠い外国からはるばるエルザレムに上って来たのである。

△　△　△

過越祭が春、五〇日祭が夏の祭であったのに対して、幕屋祭は秋の祭であった。

元来この祭は、イスラエルの民がエジプトから救い出されて後、約束の地に入るまでの四〇年間砂漠をさまよっていた時代の、天幕の生活を思い出させ、記念する祝いであり、また一方、ユダヤの多くの祭が農業の行事に結びついていたように、この祭はぶどうや他の果実の収穫を感謝する祭でもあり、収穫祭ともよばれていた（出エジプト二三の16、第二の法二六の13）。

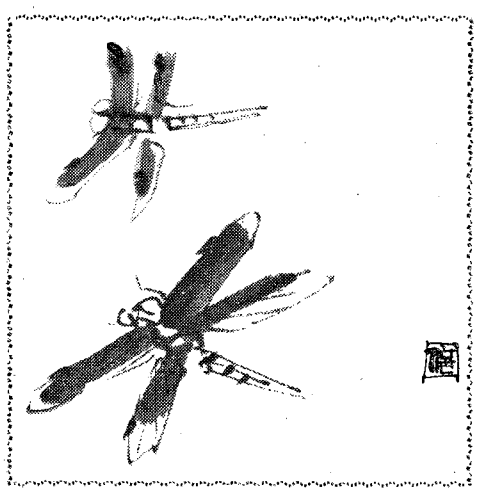
祭のはじめと終りの日は安息日として仕事を休んだが、他の日には禁ぜられていなかった。

レヴィ記によれば、過去の砂漠での天幕生活を記念するため、ユダヤ人は一週間のあいだ家を出て天幕か木の枝で作った小屋の中で生活せねばならなかった。幕屋は青天井の下に張ることにきまっていたので、家の露台や中庭、街の広場、城外の岡や谷にはにわか作りの小屋がいっぱいに広がり、エルザレムはその姿を一変してしまった。

△　△　△

さいわい夏の暑い季節は終っていたし、雨をふくんだ涼しい風が海の方から吹いてくる快的な季節であったから、いくらかしのぎよかったであろう。ぶどうや果物の取り入れを終った百姓たちは、つらかった労働のあとの一息をいれる楽しい時でもあった。さらに贖罪祭のきびしい断食のあとであって収穫後の安緒感も手伝って人々の心は浮き立っていた。それに旅先の天幕生活はややもすると解放感を生んだであろう。神の御子キリストの愛とあわれみにあふれ出る機会となったあの有名な姦婦の事件（ヨハネ八の1―11）は、このような環境において起ったのである。

（つづく）



▽▽コント▽▽

言わぬが花

「ものいえば蓋寒し秋の風」とは何とまあ心細いことわざでしょう。かみしめればかみしめるほどなおさらひしひしと秋風の吹く思いがするようです。よけいなことはいわぬが花の枯すすき、とでもいいましょうか。ものいうことさえおっくうになったり、よそ目をはばかるようになったのでは、まさに人生の秋といわねばなりません。

「環言は神であった」といわれていますが、御父のお心がそのまま素直に御言葉として表わされていればこそ、永遠の御子が生まれ給うというのに、何なれば私たちに限って、自分の心を素直に発表することをはばからなければならないのでしょうか。神の生命力のあふれが御言葉を生み給うたのだとすれば、私たちも生きている限り絶えず、生命力のほとばしりとしての言葉を生んで行って差しつかえないはずだと思うのです。かりに私たちの言葉が、外に発露する余地もないほどにおさえられたり、とじこめられたりするようでは、私たちの心そのものがすでに生命力を失ったからだといっても過言ではないと思うのであります。

もし私たちの考えていることがそのままなおに表現出来るようなふんいきがそこにあるとすれば何とすばらしいことでしょう。色あせたすきのようなわびしさではなく、青青とした新芽の中にこそ生命力は感じとられるというものです。

私の家は、話し合い一家とあだなされる位に何でもよく話し合います。それでも一時は、弟がむっつり屋をきめこんで、何をいってもだまっている時がありました。それも今にして思えば、私たちのやり方がまずかったからだとわかったのですが、当時はほんとうに困りました。何かといえば「余けいなことはいわぬことにきめているんだ」「みんなのきめたことには賛成するからいいじゃないか」「僕はひとの事には一切干渉しないつもりだ。だから僕のことにも干渉してもらいたくないな」とかいうんです。

そんな風にいわれると、どうしていいかわかりません。一家は面白くいかないし、父も心配してあれこれ手をつくしてはみるものの本人は一向に平然として「こうしたらいいなと思うことは色々あるよ。しかし、そんなことをいって他人をしげきしてまで、一家の平和をみだすよりも、いいたいことはおさえている方がけんめいだと思うよ。忍耐とけんそんの徳だってつめるもの」といいます。まるで自分が発言すれば必ず争でも起るようないい方なんです。私たちはよっぽど信用されていなかったんですね。弟は一家の平和のためというけれど、かえってそのためにどれだけみんなが苦しんだことか、

私たちは、なぜ弟がこのようにものいえば蓋寒というような気になったのか、まじめに反省してみました。父は「あの子のわがままもあるんだが、やはりもっと意見を尊重してやるべきだったんだな。なるほど、あの子のいう通りやっていたんでは年も若いし、失敗があったかも知れないが、その失敗をあまりにおそれすぎたんではないだろうか。もし失敗の中から自分で何かを学びとったとすれば、それでいいと思うんだ。どうかね」というのです。私はほんとうにはずかしくなりました。いわれる通りだったんです。

でも今はもう違います。自分のいう事が、頭ごなしにおさえつけられる心配もないし、浅知恵を笑われることもない。安心してものいえるふんいきになっています。お互いが、言葉は人の心の表現であることも、言葉を尊重することが、ひいては人格そのものを尊重するのだということも、みんながわかっているからだと思います。むっつり屋だった弟も、今は全く生き返ったようにはしゃぎます。父からオッチョコチョイとからかわれても、それでも平気でしゃべるようになりました。それをニコニコしながら眺めている父の、美しい姿をとりかこむ家庭の、生き生きした平和を心ゆくまでかみしめながら、私はあらためて、秋風にゆらめくすすきの穂を見なおしております。

（きりぎりす）

山行きまでの話

鬼木保之

春になると、緑のもえ始める山に行きたいと思い、夏になると、汗は一ぱいであるが、入道雲と蝉のなきしきる森と、清水のある山に行きたいと思い、秋になると、濃い紺色のすみわたり、木々の緑も紅葉する山を思う。

そんな気持で九州の地図をひろげて、未だ行かぬ所を求めてみた。山ナミハイウェーが出来て、六年位前一日中あるいて、わずか二人位しか人に出会わなかった瀬の本、赤水の附近が、オーナードライバーなどのたまりとなり、その上、黒川―竹田間もバスがかようようになり、九重の南側は、人が多いというので、山行きの候補から、まず脱落。しかし、このハイウェーと、阿蘇―小国の道の間の高原は両側に人が通るため、かえってブランクの地帯となり、まず行くのには良い所と思われた。

事実この方面の地図を見ると、等高線はゆるやかで、補助曲線や間曲線が一ぱい書いてある。起伏はあっても、高度差が小さいことは、あるくのに良い。それで候補となる。

次に、この附近で何か良い所はないかと考えた。すると、今より二十年位まえに眺めた根子岳の東の高原を思い出した。

ここは波野高原といわれる所。根子岳からながめると、まさにその名の如く、さざなみのように小さな起伏を見せて、はるか祖母山の方につづいていた。たしかにあるくに値する所のうよである。

ここも地図をしらべると起伏はあっても、高低の度合は少い。そして九重の南と同じく間曲線、補助曲線が入りみだれており、その間に部落があってもバスが通る形跡はない。そうなると、道をあるいていても、いやなバスのほこり、自動車、バイクの騒音などにえん遠い所と見えた。

それで百米の高度差を地図に書き入れてみる。約四キロで百米位の差である。小さい起伏はあってもあるくにはつかれぬ高度差である。

しかし海水浴の時、波がひくくても三十センチの高さがあれば、もうひくみにおちた時は、水平線が見えぬように、ここも人の高さを一メートル六〇としても、3メートルの高さが、道ぞいにあると見はらしはきかぬ。しかしその高さを足どり軽くこえて行けば、未だ見ぬものが、つぎつぎに現れて来そうな所であった。

地図を見、道のりをはかり、高さを考える時が、山行きの先の醍醐味であるかも知れない。そしてまた我が歩きし道を、朱線で地図の上でたどる時が、あとの醍醐味であろう。

私たちが天国に行く道を考える時、本当はこれ以上の醍醐味があり、また正にこれ以上の用意と、期待とたのしみがあって良い筈である。

凡人のあさましさ。現実に身にふれるのでなければ、楽しみが具体的にならぬとは、何とも情けなき次第である。

しかし、とにかく山行きは楽しいことである。

ことばを刻んで84年
三省堂の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和辞典…二〇〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇〇
コンサイス英和辞典……五五〇
革七三〇
コンサイス和英辞典……五〇〇〇
革六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン
初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版六八〇
縮刷版五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…
…二、二〇〇
革二、六五〇

明解三部作
明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！
広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

武器をすてて相互援助せよ
教皇、国連で歴史的発言

全世界に平和のメッセージ

パウロ六世教皇は一〇月四日土井辰雄枢機卿をふくむ八名の枢機卿と一緒にニューヨークを訪れ、第二〇回国連総会で全世界にむけ平和のメッセージを伝えられた。教皇はこの中で世界平和の維持と強化のために国連が果す役割を強調された。

教皇はこの演説のはじめにウ・タント総長の招待に感謝するとともに「われわれはあらゆる力をこめて、人道を愛をこめて世界中の国民と協力したい」とのべ、「先任教皇ら、全カトリック司教団、そして私自身は国連という機関が現代文明と世界の平和に不可欠の道であることを確信している。」として国連に対する期待をつぎのように述べた。

一、国連はまず国々の共存をみつめ、「ある国にも他の国にも」独立性を尊重するという重大な機能を果した。

一、国連はさらに国々をつなぐこと「ある国が他の国と共に」あるように、諸国民をつなぐ橋の役割を果した。特定の国民だけでなくすべての国民を兄弟のように繋させることが国連の使命である。

一、第三の願いは諸国間の平等の原則である。「ある国は他の国より優越しない」。けん虚さが欠けていては兄弟愛は生れず、ごう慢な優越感が支配欲や植民地主義を生むのである。

一、私が国連に伝えるメッセージの頂点は「ある国はもう決して他の国と対抗しない」ということである。戦争に反対し平和を造り出すことこそ、国連の第一目的である。ジョン・ケネディ米大統領の「人類は戦争に終止符を打たねばならない。さもなければ、戦争が人類に終止符を打つであろう」ということばに耳を傾けよう。

一、平和への第一の道は、まず手から武器をすてることである。そしてさらに積極的な手段は「ある国が他の国のために」互いに助け合うことである。諸国間の相互援助こそ国連の最高目標であり、全人類の理想である。武器をすてることによって生れる新たな資源を、低開発国の開発にむけるべきである。

一、諸君はここで人間の基本的権利と義務、その尊厳と自由（とくに信教の自由）を宣言している。人間の生命は神聖であって誰も敢てこれを害してはならない。生命の尊重―出産という大きな問題に関しても―諸君はもっとも合理的に擁護されねばならない。

一、国連という組織は専ら物質的な基礎の上にでなく、われわれの良心の上に築かるべきである今は各自が内的刷新を果すべきである。現代ほど人間の良心への立ち返りが必要な時はない。

一、人間の危険は進歩や科学からではなく、恐ろしい武器を手にしている人間そのものなかにひそんでいる。現代文明は精神的な原理の上に建てられるべきであり、そしてその原理は神への信仰からのみ生れてくるのである。

ペトロ・カスイ岐部神父

愛徳の実践は万事に優先
国際カリタス会総会

九月八日からローマで国際カリタス会の第七回総会が開かれたが教皇はこれに参加した四八カ国の百名近い代表者に謁見を賜い、キリスト教的愛徳の〝緊急な三つの面〟についてのべられた。

❶ 愛徳の実践は万事に優先し自づと心からほとばしるものでなければないが、そのためにすべての信者が、一新された信念と物惜しみしない広い度量をもたねばならぬ

❷ 迅速かつ効果的に現代の必要に応じうるために、現代技術を利用して愛徳事業をもっと組織化する必要がある。

❸ 清貧と苦行と断食の精神を持つこと。それによって貧民援助額を増加すること。

教会一致に大きく前進

プロテスタントの世界教会協議会の事務総長ビサトーフト博士はストックホルムで「同協議会の諸会議に出席したローマ・カトリック教会のオブザーバーは、単なるオブザーバーではない。彼らの影響力は協議会の多くの決定事項の中に顕著に出ている」と語った。同博士はさらに次のようにのべている。

（1）最近世界教会協議会とバチカンのキリスト教一致推進事務局との両方を代表する共同委員会が設立されたことは、教会一致運動に向けての一大巨歩である。

（2）ローマ教会との関係について協議会の内部には、あらゆる接触を恐れる一翼と、何でも大急ぎで事物の中に入って行こうとする一翼がある。しかし必要なのは、落ち着いた接近方法である。我々はローマ・カトリック教会との交わりに向けての道を相当歩いて来ている。

（3）すべての教会がより深い教会一致のためには相当高い代価を払う心構えでいなければならない。

お知らせ

カトリック中央協議会教学部では、日曜学校参考資料として幼児、低学年向き「クリスマスのうた百曲集」を無料配布いたします。（一部あて）

日曜学校を開設している教会、修道院は希望部数を福岡司教館の深堀敏神父あて大至急お知らせ下さい。

聖体礼拝（一一月）

第一日曜　那珂町教会
第二日曜
第三日曜　荒尾教会
第四日曜　玉名教会

祈禱の使徒会（一一月）

【一般意向】　合法的権威に対する尊敬と服従
【布教意向】　回教国におけるキリスト教的社会観の認識

世の光
「聖書をよむために」(3)
イエルザレムの信者の教会

Ⅰ　使徒行録の最初の五章にあらわれてくるイエルザレムの熱心なキリスト信者の団体に所属しているのは、ユダヤ教からきた者ばかりである。異教から直接にキリスト教に改宗した人のあったことは、どこにも見当らない。しかしユダヤ教からきたこれら改宗者のあいだには、幾つもの違ったグループがあった。

第一に挙げられるのは、おそらくイエズスを知っており、その説教も聞いたことのあるパレスチナのユダヤ人。ルカはこの人々を〝エウラベス〟という特別の言葉で呼んでいる。全新約聖書でルカ以外誰もこの語を使っていない。（使二の5、八の2、二二の12、ルカ二の25）。この言葉は律法に忠実で熱心なユダヤ人、しかもイエズスを約束の救主とみとめた者だけを指している。

第二のグループは、パレスチナ外で生れたが生活したユダヤ人。かれらはギリシヤ語を話し、七十人訳のギリシヤ語で旧約聖書を読んでいる。パレスチナのユダヤ人よりも考えが広く、使徒行録によると、布教上の働きで積極的にリードしたのはこのグループのもので、ヘレニストと呼ばれている（六の1、九の29）。これらユダヤ人の出身地は第二章の聖霊降臨の場面に列挙されている。

第三のグループはいわゆる改宗者で（使二の11、六の5）、もともと異教徒であったがユダヤ教に改宗して割礼もうけ、律法のすべての規定に従っていた者。かれらのうちから教会のはじめキリスト信者になるものが出たのである。

Ⅱ　だから最初のキリスト教団はかなり色とりどりであった。はじめは特定の集会場所をもたなかったので、他の一般のユダヤ人と混って神殿で祈り会堂の聖務にもあずかっていた。最も有力なヘレニストのグループは、自分らだけの会堂をイエルザレムに持っていた。自宅に集って〝パンをさく〟こともあった。このような具合であったので、十二使徒に課せられた用務が日に日にふえていったことは理解するに難くない。

使徒たちは新改宗者の教理勉強をつづけなければならない。神殿の東側、サロモンの廻廊のかげ（三の11、五の12）、主イエズスがイエルザレムに来られたときよくそこに立っておられた。（ヨハネ一〇の23）そこが教えの場所であった。もちろん家から家へ廻って教えを説きパンをさく式をとり行ったはずである。これだけでなく信者たちが持ちよった寄付の品物を整理して、教団のなかの貧困者に公平に分配してやらねばならない（五の2、六の1）。所が教団は急激に増大したので、使徒らは仕事に忙殺されて何んでも自分でするわけにゆかなくなってしまった。

第六章から第八章にかけて十二使徒の助手が設けられたこと、そしてこの助手が果したすぐれた業績がのべられている。

Ⅲ　使徒行録の新しい区切りになるこの第六章の冒頭に、ルカはこの助手制度設定のきっかけが何であったかを記している。「その頃、弟子たちの数がふえてきて、ヘレニストからヘブライ人に対して不平がでた。それは日々の施しの分配から、かれらの寡婦たちがのけものにされているということからである」。教団に属するグループのうち、アラマイ語を話すパレスチナのユダヤ人と、ギリシヤ語を話す他国からのユダヤ人の間には、心と精神の結びつきがあったにも拘らず、スムースにいかない点が生じ、そしてそれは次のようにして解決された。

使徒たちは教団の人々に、聖霊と知恵にみちて評判のよい七人を自分たちで選出するように求めた（六の3）。かれらの仕事は〝食卓に仕えること〟である。もちろん貧者への食物の分配を指しているが、イエズスの最後の晩さんの記念であるパンをさくことが、共同の食事の間に喜びのうちに行われていたことも忘れてならない。

使徒たちの提案にはヘブライ人もヘレニストも賛成した。選ばれた七人の助手はみなギリシヤ語の名前をもち、そのうちの一人は異教出身者で、おそらく全員ヘレニストのグループの者である。このような選出がなされたことはイエルザレムのヘブライ人の信者が、イエズスの教えられた愛徳によかなった広い心をもっていたことを証するものである。

使徒たちはまず祈ってから、選ばれた七名に按手した。この聖なる式を通じて七名の者にさらに豊かな聖霊の賜物が下された。

これら七名は世俗的な要務に任ぜられたのではない。かれらに要求された資格、全教団から選ばれたこと、祈りと按手がなされたこと、食事に奉仕するという仕事自体を考え合せると、あきらかにこの制度が本質的に宗教的性格をもっていたことが解る。この制度をわれわれは助祭職とよぶ。

Ⅳ　これら助祭のうち二人の活動ぶりをルカは記述している。もちろん二人のしたことは全部をのべているのでなく、ステファノが如何にユダヤ教を信奉するヘレニスト達に向って、主キリストのめざましい証人となったかである。「かれは人民のなかで不思議といちじるしい奇跡を行っていた」（六の8）。神の働きがとくに明白になるようないちじるしい奇跡のことである。

ユダヤ人はすでにイエズスが生きておられたときにも、天にしるしを見せてくれるように要求している（マテオ一二の38―39、一六の1）。そのしるしとは、イエズスが神から遣わされた者であることを立証するに足る程のものであった。しるしは教会のはじめにもなお同じ意味を持っていたので、使徒および助祭らは人間に対する神のご意志を伝達する正統な証人として奇跡を行ったのである。

聖ペトロは聖霊降臨後の説教のなかでヨエル預言者の言葉を引用して、これら数々の奇跡はメシア時代のはじめに人々に示される聖霊の働きであると説明した。使徒たち、更にはステファノによって行われた奇跡が、メシア時代到来の告知である。

ステファノの言葉には、聖霊がかれを通じて語っておられたので誰も抵抗できない程の力がこもっていた（六の01）。この力ある言葉の故にイエルザレムのヘレニストらは、ステファノを抹殺しようと図った。かれの劇的最後の一つの場面がイエズスの裁判を思い出させる。偽りの告発もイエズスの場合と同じように進められている。神殿に対する冒瀆の言葉、偽証人の出頭、煽動された民衆、長老、律法学士など（六の12）。そしてステファノは息絶える瞬間に、あの十字架上のイエズスと同じ赦しの言葉を発する。かれは全生涯をかけて主イエズスの正統証人となった。

これにつづいてイエルザレムに激しい迫害が起り、信者たちは地方に分散した。しかしそのため教会はイエルザレムの外にひろまっていったのである。（この項つづく）　（イエル）

一月（煉獄の霊魂の月）

一日（月）　諸聖人の大祝日
キリストのお約束にだけ希望をかけて、人生の小道をあえぎつつたどっているわれらにとって、天国の聖人たちの幸福を仰ぎみることは、この上ないなぐさめであり、励ましである。この世の労苦は決して永遠につづくものではない。キリストと共によろこんで十字架をになう者には、必ず、期待しうる以上の大きな報いがある。この確信こそわれらの勇気の泉である。

二日（火）　諸死者の記念日
昨日天国でかがやかしい神の光栄にあずかっている聖人たちを祝ったわれらは、今日、煉獄で最後のきよめをしている霊魂たちの上に同情の目をそそぐ、死者のための教会の祈りは、悲痛ななげきの声でなく、信頼と平和にみちている。

三日（水）　文化の日
少年侍者の集り（福岡大神学校で）

七日（日）　聖霊降臨後第二二の主日
われら信者は、神の国の民であると同時に、この世の社会の一員である。聖職者でない信徒は、この世俗の生活のなかにしっかり足をふまえて、信望愛の実行をもって世界を聖化する使命をもっている。（教会憲章）。この貴い使命をよく果さない信者は、決して神の国のよき民ということはできない。

九日（火）　ローマ救世主大聖堂の記念日

一四日（日）　聖霊降臨後第二三の主日
神のおきてにそむいた罰としてバビロニアに流されたユダヤ人にむかって、エレミア預言者は神のおゆるしがやがて与えられ故国に帰れることを告げた。しかしわれらは日々の快楽におぼれて天のふるさとを忘れ、この世のことしか味合わず、恥づべきことを誇りとしているのではないか。

一七日（水）　福岡大神学校で司祭の集い

二一日（日）　聖霊降臨後最後の主日
初代教会の人々は、キリストの再臨の日を待ちあこがれた。一日も早く天国のよろこびに入ることを望んだのである。所が現代人はどうであろう。われらは主キリストが御威光にあふれてお出でになる日をおそれているのではないか。
信者らしい生活をせず、キリストを心の外に追出しているので、終りの日にキリストから捨てられることを予感しているからではなかろうか。

二二日（月）　熊本信愛女学院新校舎落成式

二三日（火）　勤労感謝の日
福岡教区幼児教育連盟大会（双葉学園で）

二八日（日）　待降節第一の主日
旧約のユダヤ人たちは、救い主のおいでを待望しながら、かろうじて信仰を保ってきた。しかし神の御子が姿をお現わしになったとき、心のかたくなさため、救い主として歓迎しなかった。今のわれらも神の御子がもう一度来臨されることを知っている。もしユダヤ人のように主を歓迎していなかったら、祝された人々の群に加わることができようか、待降節はにぎやかなクリスマスの準備の時ではなく、むしろ主を心のうちに迎え入れる準備と反省のときである。

三〇日（火）　使徒聖アンドレアの祝日

崇高な人格と偉大な業績

岐部神父の銅像除幕

大分県国東半島の北端、姫島と指呼の間にある岐部（現在は国見町に合併）に生れ、三代将軍家光のとき最後の日本人司祭として江戸で殉教をとげたペドロ・カスイ・岐部神父の銅像除幕式が、去る九月二四日その生誕の地で地元関係者、チースリク師（岐部神父の最初の紹介者）、上田前大分市長ら出席のもと盛大に挙行され、福岡から棚町正力・平田勇両師が参列した。

銅像は、長崎の二六聖殉教者の像、天草本渡のアルメイダ神父の像を製作した東京の彫刻家舟越保武氏の苦心の作。像の高さ一・九〇メートルのブロンズ像。海が近いので潮風を考慮してブロンズの上に漆（うるし）を塗り、金箔を置いて、さらにその上を漆と金泥でおさえるという、最も耐久力のある方法をとっている。

銅像建設のため、昨年夏から地元（ひとりも信者はいない）で岐部神父偉徳顕彰会が結成され、広く日本全国から募金をし、国見町民あげての協力が実を結んで、ようやくこの頃除幕式にこぎつけることができた。銅像は岐部城趾のふもとの台地をひろげた地点に建てられ、大分教会主任の村岡久義師が祝別した。

ペトロ・カスイ岐部神父は、天正一五年（一五八七年）信者の武士の子として生れ、一六才から三年間、有馬のセミナリオ（学校）で勉学、一生をキリシタンの布教にささげることを決意したが、徳川幕府の禁令にかかったのでマカオに赴き、さらに印度から陸路ペルシャの沙漠を横切り、パレスチナをへて一六二〇年頃ローマに着いたここで正規の学問と修練をうけてイエズス会司祭になり、ポルトガルを出帆して喜望岬を廻ってマカオに渡り、シャム・フィリッピンをへてルバング島から自製の船で日本に向ったが暴風にあいかろうじて薩摩の坊の津に上陸。早速長崎から東北まで迫害に苦しむ信者らのために働き、ついに捕縛され江戸に送られ、一六三九年七月四日穴吊しの刑のあと首をはねられて殉教をとげた。

今村教会で聖体行列

公会議の成功と収穫の感謝

福岡県三井郡の今村教会では、今年も公会議の成功祈願と収穫の感謝をこめて、一〇月一七日午後二時から聖体行列を挙行した。久留米、福岡地方からも司祭一〇名、信者多数、福岡小神学生らが参加、川口康顕師が奉持する聖体は各部落をめぐり清心慈愛園の仮祭壇をへて一時間後に聖堂にもどった。鵜野泰年師が「神さまの折角の贈物をただうやうやしく飾っておかないでありがたく拝領し神さまのお気持にそうように」と説教、聖体降福式をもって聖式を終った。

各地で講演会

ヘルベック師

九州地方を講演旅行中ヘルベック師（中央協議会教学部長）は、一〇月一七日長崎での講演につづいて一九日午後一時半から双葉学園で要理教授法講座の聴講者一同に、「倫理指導上の諸問題」について一時間半講演、翌二八日午前中に同学園全生徒に午後には戸畑明治学園教職員一同に講演を行なった。

塚本伊和男師

ヘルベック師と同じく中央協議会教学部の塚本伊和男師は、九月三〇日戸畑天使園の天使まつりで父兄一同に文化ホールで「園児の心と母親」と題して講演、そのあと同師は福岡市の西新カトリック幼稚園でも父兄に講演した。

松田毅一氏

キリシタン史研究家として有名な松田毅一氏（清泉女子大教授）は、去る一〇月三日本渡市カトリック教会で八〇名余の聴衆を前に「青少年の教育」について講演した。

グタニ師

パリ外国宣教会北九州地区司祭の黙想会指導のため来福中のA・グタニ師は、一〇月五日邦人司祭一同にACO（勤労者のカトリック運動）の組織と活動と精神について講演した。師はACOのフランス総指導司祭のひとり。

平和の使徒

― 教皇、国連御訪問にちなんで ―

教皇パウロ六世は一〇月四日アシジの聖フランシスコの祝日に、国連で全世界の代表に平和のアッピールを行なって、大きな反響を呼び起した。

これにつけて思い出されるのは聖フランシスコ（一一八一―一二二六）がホノリウ教皇の平和使節として一二一九年エジプトのサルタンのもとに赴いたことである。

かれはピエトロ・ディ・カッターニを伴って十字軍遠征の艦隊に乗り込み、アンコーナの港をあとにシリアに向い、さらにエジプトのダミエッタにゆき、敵陣内に姿をあらわし、サルタンの御前で国連にお出かけになり、平和の呼びかけを全世界にむかってなさったことは、非常に意味深いことである。世界は多くの苦難の道をたどって、とにかく平和を造り上げてゆくのは剣ではなくて十字架の愛であることを、徐々に理解してきたのである。剣をもっていた時代には、平和の使徒フランシスコも一人のサルタンにしか話しかけ得なかったが。剣を捨てた今日、教皇さまは、国連でおそらく一番多数を占めている回教徒の国々の代表に平和を訴えることができたのである。

一体、平和とは何か。平和とは秩序の静けさであると聖アウグスチノは定義している。そして秩序とは目的に向って整理されている状態のことである。だから平和とは、人間が神への秩序、隣人への秩序、そして自分自身への秩序をきちんと守っているかどうかということになる。戦争がないだけでは、真の平和とはいえない。専制政治の下では戦争がなくても平和が楽しめるはずはない。

はっきりいって国連の今の機能が六〇％マヒしているのも、人々が真の平和の意味を知らず、神と人と自分に対して正しい態度をとるよう十分の努力をしていない所に原因がある。他のどんなこそくな手段も、この大原則を忘れては砂上の楼閣にすぎない。ただ夢想的な人道主義だけで平和を築き上げることは不可能である。

まず世界の造り主である神に対して完全な服従の心をもつこと。各自の心に植えつけられている良心＝神の声＝に従って日常生活を秩序づけてゆくことが、平和実現の根本である。

次に隣人に対する秩序は、すべての人の権利を尊重し、愛徳を実践することである。愛は常に具体化されねばならない。教皇さまは国連での演説で「われわれカトリックは、たとえ資力、手段方法が僅少で実際の莫大な必要に応じるには不適当ではあるが、この面で模範を示したい。われわれは世界的な飢えと戦い、世界の必要を満すためわれわれの慈善施設の発達を強めるつもりである」とのべておられる。

最後に、私にとってこの世で一番大切なのは自分自身である。自分の肉体と霊魂を大切にし、その力を大いに伸展させ、これを人のため社会のために役立たせねばならない。

この意味で教会の各世紀を通じて輩出した聖人たちはみな、偉大な平和の使徒であった。われわれは教皇さまのように大きな影響を与える程のことはできなくても、自分の住んでいる環境で平和の使徒になりたいものである。

（山東龍雄）

カトリックのラジオ放送について（中）

川隅邦雄

東京ニッポン放送のスタジオで一カ月分を二回に分けて録音します。ハヤット神父が立ちあうことは申すまでもなく、ナレーターの河内桃子、局のデレクターなど関係者が集って、原稿についての間違い、読み方などについて最後の調査と打合せがなされます。録音が終りますと、ニッポン放送から各地の放送局へテープが送られ、各放送局はそのテープに後粋（その土地の教会の紹介やバザーなどのPR）をつけて放送します。

D、有名人ゲストの協力と意義

ゲストとして御願いする方々は大変多忙な方ばかりですが、書面で申込むかまたは、知人からの紹介をもらって連絡します。この方々はほとんどキリスト信者ではありませんが、また大部分の方が外国へ行っておられた体験から、カトリックの良さをよく知っておられ、放送の主旨が社会に貢献することなので喜んで協力して下さいます。

家庭で録音することもあれば、会社、劇場のなかの忙しい一刻をとらえてやることもありますが、取材には必ずハヤット神父と川隅が伺います。このことは、良いお話を録音するだけでなく、訪問することによって、少しでもカトリック教会と録音した方が近ずくためであり、有名人が教会を理解して下さることは、大変教会にプラスになります。この方々の支持を得ることは、時には万人の理解をはやめることにもなります。

現在まで約三〇〇人が協力し、今後もますます増加します。

E、応募原稿をなさる方のための参考に―

応募原稿のなかには、信者さんミッション、スクールの学生さんとわかるものが沢山ありますが、大体次のような点をお気づけ下さいますと結講です。

（イ）この番組の主旨を理解してもらうこと。

具体的に申しますと、神父様方がなさる説教もしくは要理の受け売りをしないこと、

（ロ）抽象的なものより、具体的なもの

（ハ）一般に送られる素材は、人混みの乗物のなかの出来事が多い、また受験生の話なども多い方ですが、素材を選ぶこと。

（ニ）人選しようとして無理に背のびしないこと、自分の身近な問題で、人の心をうつお話があると思います。

以上のような点について留意して下さってどしどし応募して下さい、楽しみにしております。

次回は聴取率や、作家の原稿発表などのべます。

（京都・善き牧者の運動本部員）

三、番組の製作および内容

A、ラジオ編成委員会

番組の内容をよりよくするために、ラジオ編成委員会を設け、この決定に従って製作・放送します。委員会は毎常二カ月に一回東京で開催され、出席者は次の通りです。

常任委員

教会　ハヤット神父　川隅邦雄

作家　遠藤周作、田中澄江、三浦朱門、曽野綾子、田中千木夫

ナレーター　河内桃子

委員

作家　山本健吉、中里恒子、戸川エマ　幸田文

他に　各教区のラジオ担当の神父様をゲストに招いたり、放送関係者の出席を求めます。

会議は家族的雰囲気のうちに進められ、委員のなかから次回執筆者を決め、また委員が推せんする作家に原稿を依頼します。

放送局から通報されるモニター集や、聴取者からの投書なども重要資料で、これらをくわしく検討して、一層優秀な番組にする努力が払われます。

B、放送の内容

1、「心のともしび」

委員会で決定したものを大別次のように放送します。即ち一週間のうち

（イ）作家の作品発表　三回

御承知の如く、遠藤、田中澄江、曽野、三浦、中里、戸川の各氏は信者であり、他の田中千家夫、山本健吉氏などは、全く信者と同等の考えを持っておられ、カトリック精神はその文芸的作品のなかに巧く包含されております。

（ロ）応募原稿の発表　一回

各地のいろいろな方々から毎月多数送られてきます。そのなかから心あふれる、聴く人に感動を与える作品を選びます。

（ハ）有名人ゲストの意見発表　一回

誰もが良く知っており、尊敬されている人にお願して「どうすれば社会は良くなるか」について意見を求めます。そして本人の声そのままを電波にのせています（くわしくは後述）

（ニ）ハヤット神父の話

土曜日に放送します。丁度一週間の締めくくりといった意味もふくめるもので、朗読は河内桃子がやっています。

2、「太陽のほほえみ」

既に前回にも申しましたが、この番組はハヤット神父が全部一人で原稿を書き、河内桃子が朗読しております。

内容が非常に優れ、ゆたかな社会教養をもりこんであって、しかも宗教の押売りをしないために、現在二六局の放送局が、この主旨に賛同し協力しております。またこの番組が如何に大衆に受けているかを実証するものに

○放送を聴いた人々が、この話を知人にも聴かせたい、

○東京の月刊誌、大阪の大会社の日報などに転載されております。

○最近はハワイ、ペルーなどで放送され人気を呼んでいます。

C、録音製作

聖心の使徒

（昭和四十年十一月号）

十一月の意向　すべての権威は神から……深堀　敏

回教国における布教（十一月の布教の意向）……粕谷　源蔵

黙想　イエズスの聖心の連禱（十二）……河野　義祐

世俗の詩人～永遠の詩人――ダンテ七百年記念祭に――ちなんで――……H・ホルスト

写真特集　神曲の詩人――ダンテ……

十一月の聖人　フランスの使徒・聖マルチノ……吉田　淳

聖マルチノの日をめぐる習慣……

明治初年の東北紀行（五）――函館より江戸へ……J・M・マラン

友への手紙――インドの旅から――谷口　幸紀

病める友へ　諸聖人……十字架のイエズス修道女会

主に新しき歌を（下）――典礼と音楽――……品川　勝郎

ポスト……

日本祈禱の使徒会発行

聖心の使徒購読会員費（〒共）

一カ月　五七円

一カ年　五七〇円

善き牧者運動本部からのお知らせ

ラジオ放送『太陽のほほえみ』のテープを希望者にお分けします

原作：ハヤット神父　**朗読**：河内桃子

時間：1時間（五号テープ）　**回転速度**：9.5

製作：善き牧者の運動本部

内容：12話（身近かな例をとった心の奥まで暖かくなるお話し）

価格：1巻1,000円（不要になったテープは、400円にてお引きとりします）

申込み：京都市中京区河原町三条上ル

善き牧者の運動本部

真理のおしえ (6) 神の十戒

Ⅳ いのちのお恵み

1、人のいのちの尊さ

真理のおしえ

(1) いろいろな生きもの

生物、すなわち生きているものは、自分で動くことができ、繁殖(はんしょく)し、生れ、そして必ず死んでゆく。

石や土、金・銀・ダイヤモンド月や太陽、磁石や自動車や飛行機は生きものでなく、無生物とよばれる。

広い野原のまん中やふかい谷間に咲いている小さな草花は生きもので、目にとまらないほど小さな虫も、百獣の王ライオンも生きものである。そしてわれわれ人間はもちろん生物である。

生物は大きく植物、動物、人間に分けられる。

しかし体をもたない霊だけの天使も、すぐれたいのちをもっている。そして最後に、世界を全能のお力をもってつくられた神は、すべてのいのちの源、いのちにみちあふれたお方である。

(2) 神・すべてのいのちの造り主

この地球上に生きているものには、すべてはじめがある。植物はたねから、そのたねは植物の実から出る。小鳥は卵から、その卵は親鳥が生んだもの。このようにすべての生きものは、その前の生きものから来ている。これが生命の伝達ということである。

では一番はじめ、生きものにいのちを与えたのはだれであろうか聖書には「はじめに、神は天と地をつくられた」とのべてあるが、その天と地がつくられる前はどうだったのであろうか。同じく聖書によると「神の霊が水の上をただよっていた」と教えている。(創世記一の1—2)。

神は、生きものがこの地上にあらわれる前から生きておられる。だれか別の方からいのちをおうけになったのではなく、いのちそのもの、すべてのいのちの第一の源であられる。神はいのちを与える方、いのちの造り主である。いのちは神のおめぐみであり、聖なるものである。

人間はこれまですばらしい発見をした。いろいろな伝染病の病源菌、宇宙の法則などそうである。でも発見するというのは、神から助けられて、この世界の秘密をあきらかにし、それをもっと人間に役立たせるようにすることである。しかしどんな学者もいのちを造りだすことはできなかった。たとい、それが可能になっても、神がお与えになったものを使って造るだけのことである。いずれにせよいのちの源は神おひとりである。

(3) いのちを大切にする

人間のいのちは、天の御父からいただいたもっとも貴重なたまものである。もしいのちを失なったらわれわれはいま持っているものを全部失なうことになる。だからいのちを守りつづけるためにはできるだけの努力をはらわねばならない。

人間には二つのいのちがある。体のいのちと霊魂のいのちである体のいのちを発達させるためには健康に注意し、体育を重んじ、衛生に気をつけるべきである。また霊魂のいのちを保ってゆくには、学習や勉強で知的はたらきを伸ばし、意志や性格をまっすぐに育てるべきである。

いのちは神のたまものであり、聖なるものであるからこれを大いに尊重せねばならない。だから神はシナイ山で「殺すべからず」という掟をお与えになった。

われわれは自分のいのちばかりでなく、他人のいのちも尊重すべきである。

また動物を理由なしに殺したりいじめたり、木や花を荒らすのもよくない。動植物について勉強し観察し、かわいがってやるようにすべきである。

われらの答

すべての生きものについてふかい観察を加えるならば、天の御父のみわざのすばらしさをますます強く感じるようになる。いのちはつくられたもののうちの最高傑作である。いのちの神秘をさぐることは、神の神秘にもわけ入ることになるのではなかろうか。

いのちを観察する者は、神を賛美する。そしていのちあるものをその程度に応じて大切にする。いのちを尊重することは、その与え主である神を礼拝し、たたえる一つの道でもある。それはまたすべての被造物、なかでもとくに人々を兄弟として愛する本当の道でもある。

決心＝いのちの尊さをよくわきまえること。

すこやかなからだをつくる

2、自分の体を大切にする

真理のおしえ

(1) われら神の子供のからだ

ご復活のあと主イエズスは、光栄に光りかがやく美しいお体をもって使徒たちの前に、お現われになった。そしてその同じお体をもって、ご昇天の日御父のもとにお帰りになった。復活されたキリストのお体は、本当の人間のお体である。(主は使徒たちと食事をなされたし、聖トマに手でふれるようにもいわれた)。しかしそのお体は、もう苦しむことも死ぬこともないお体である。

われわれは洗礼によって主イエズスにかたく結ばれたものであるから、主と共に、主のように復活したら、われわれの体も主キリストのお体のようになるだろう。

しかし今でもわれわれ信者の体は、主イエズスのものであり、聖霊の神殿となっている。聖パウロはいっている。

「あなたたちの体は、その内にある神から受けた聖霊の神殿であって、自分のものでないと知らないのか。あなたたちは高値で買われたものである。だから、その体をもって神に光栄を帰せよ」(コリント前六の19—20)。

私の体は私の霊魂の家であり、私の精神のはたらきのために使われる道具のようなものである。だからこの家をきちんとしておくこと、またすぐ役に立つ道具にしておく必要がある。

病気になったり、体が疲れていると、知的なはたらきがにぶり、ひとのために積極的につくす心構えがよわまりがちになる。霊魂は体の影響をうけやすいものであることを忘れてはいけない。

また秘跡を通じて聖寵をいただく場合にも、体の協力が求められる。神の子供になるとき(洗礼)ひたいに水がそそがれるし、キリストと一致するために(聖体)、聖別されたパンを食べる。

(2) 健康なからだ

神の第五戒には、体を健康にするという義務もふくまれている。体は神と人とに仕えるため、また神の子らが一緒に生きてゆくために、ある期間、神から預ったものである。体を健康に保ってゆくためには一般的な衛生、睡眠、食事に気をつけ、病気に際して適切な処置をすべきである。健康に少しも気をつかわず、体を傷つけたり理由しに危険に近づいたり、まして自殺をはかることは、第五戒を破ることになる。

(3) からだを制御する

「体をもって神に光栄を帰するため」、即ち神のご意志のままに霊魂のよい道具となるために、われわれは、騎手が自分の馬をうまく制御するように、自分の体をきたえねばならない。そのために不自由に慣れ、苦しみに負けず、飲食の欲をおさえ、しまりのない生活態度をさけるべきである。

例えば、朝きまった時刻に必ず起きる。冷水まさつをする。毎日体操をする。暴飲暴食しない。テレビを夜おそくまで見ない……。

われらの答え

われわれは、体が天の御父からの預りものであり、この体をもって神のお望みを果すべきことを知っているし、またいつか主キリストのように光りかがやく体に復活できることを信じている。

体をよくとりしまるために、よろこんできせいをしのぶようにしよう。それはまた神のために生き体をもって光栄を帰することにもなるのだから。

決心＝食べすぎをしないこと。

3、他人のいのちも大切にする

真理のおしえ

(1) なぜ他人のいのちを大切にすべきか

「あなたの隣人を、あなた自身のように愛しなさい」とは、われわれにとって重大な神の掟である。主キリストはこれについて、実際的な法則をお与えになった。「だから、他人からしてほしいと思うことを、あなたたちも他人に行ないなさい」(マテオ七の12)。愛するとは、ひとにいいことを望み、それを与えるようにつとめることである。

主キリストは、よいサマリア人のたとえや、迷った羊のたとえなどをもって愛の実行をおすすめになり、多くの病人をいやし、悲しむ者をなぐさめ、食べものをほどこすなどして、愛の手本をお示しになった。

自分の体や健康と同じく、ひとの体や健康も、貴重な神のおめぐみである。自分の体をいたわり、かわいがるように、他人の体や健康を大事にしなければならない。これも神の第五戒に命じられたことである。この点イエズスのお手本にならわねばならない。「私があなたたちを愛したように、あなたたちも愛し合いなさい」。

(2) 愛に反すること

他人からしてもらいたくないことを、われわれもしてはいけないし、してやらねばならないことをわざと怠ることも、愛に反する。例えば、ひとをいじめたり、たたいたり、傷つけたり、まして殺害すること、車を運転しているときよく注意しないで、ひとにけがさせたり、子供が危険な場所に近づいたときに、つれもどさないことなど、第五戒に反する。

人を殺すのはもちろん重大な罪であるが、正当防衛や正しい戦争の場合、また正しい裁判にもとずく死刑の執行の場合は、殺人罪に問われることはない。ひとのいのちに害を加えるのは愛に反するばかりでなく、正義に反する罪である。

ひとのいのちはひとのものであって、私のものでない。だから理由なく人を殺し、または傷つけたときには、できる限りのつぐないをする義務(責任)がある。

(3) いかりは多くの罪のもとになる

われわれはひとにおよぼした害について、必ず一〇〇パーセントの責任があるとは限らない。自分の意志に反して、全く悪意がなかったのに、人間にありがちな、ちょっとした不注意のために、ひとの体を害することも起りうる。

しかし許しがたいくせのために分別を失なってひとに暴力をふるうこともある。おこりっぽい人がそうである。感情をおさえることができなくて、悪口雑言をはき、刃物をもってけんかをし、取り返えしのつかないことをしでかす。いかりは多くの罪の原因である。このような欠点をもつ者は、よく反省して、自己制御の訓練をつまねばならない。

われらの答え

われわれはキリスト信者としてひとの体や健康に心をくばるべきである。ひとを愛することは主キリストを愛することである。

ひとにいいことを望み、それをするようにつとめ、自分よりもひとのことを考え、尊敬の心をあらわそう。いかりをおさえ、荒々しい言葉や態度をつつしみ、主キリストの柔和と忍耐をお手本として生きよう。

決心＝おこってものをいわないこと。

4、霊魂はからだ以上のもの

真理のおしえ

(1) 霊魂とからだ

上に述べたように、われわれの霊魂とからだは密接につながっている。からだは霊魂の家、道具のようなもの。そしてからだは霊魂によって生かされるものであるから、霊魂がはなれたら肉体の機能はとまる。

所がからだが霊魂のはたらきを邪魔することもある。例えば病気や疲れ・睡眠不足や寒さのため、勉強ができなくなったり、記憶力が低下し、意志の力がにぶり、思いやりの心がうすくなるのも稀でない。

霊魂は予想以上にひろい範囲でからだから影響をうける。しかし霊魂はからだに対して無力だというのではない。知恵と意志の訓練をよくすれば、病気や疲れにも打勝って、実に英雄的な力を発揮することもできる。

(2) 霊魂はからだ以上のもの

霊魂は死んでなくなるものでなく(不滅なもの)、反対に肉体は死ぬとくさってしまう。「神はご自分に似せて人をつくられた」(創世紀一の27)のであるが、人間が神に似ているのは、からだがあるからでなく、知恵と意志と愛をそなえた霊魂(精神)があるからである。

キリストが世の終りに再び降臨され、すべての人の肉体が復活するとき、からだも永遠の幸福か罰のいずれかをうける。

このような理由で、人間にとって霊魂はからだ以上に大切なものであることがわかる。

(3) 霊魂のいのちを育てる

からだのいのちを大切にし、調和のとれた発育をはかるのがわれわれの義務であるならば、まして霊魂のいのちを育てるのは、さらに重大なつとめであろう。ではそのためにどうすればよいか。

まず知恵、意志、心という霊魂の三つの能力を発達させること、いいかえると、神の教えやこの世の知識をふかめ、正しいことを実行し悪をきける意志をかため、神と人とに対する愛を高めることである。

とくに神の子供としてのいのち—洗礼のときにいただいた聖寵のいのち—を保ち守るべきである。大きな罪をおかすと、この聖なるいのちが失なわれ、小罪をかさねるとその力がよわまる。

われわれは他人の超自然的ないのちを尊重し、いい模範をもって助け合うべきである。悪い手本を示して他人をつまずかせないよう注意することが大切である。「つまずきを与える人は、のろわれるべし」

われらの答え

十字架の苦しみをしのび、死から復活された主は、いま天国において御父のおそばで光栄をうけておられる。

われわれも神の子供としてのいのちを保ち、誘惑とたたかい、罪をすて、ひとによい模範を示して生きるならば、必ず永遠の国において主イエズスの光栄にあずかることができる。自分と他人の霊魂のいのちを大切にすればするほど天国での幸福は大きい。

われわれがいまよい手本を与え合い、励まし合い、罪のない生活をするよう助け合うならば、天国のよろこびは始まっているのである。

決心＝ことばと行ないをもってよい手本を示すこと。

クリスマス・セットでご家庭にベトレヘムの馬小屋の雰囲気をつくりましょう！

クリスマス・セット
屋根付各種
日本的クリスマス・セット　¥300
〃　¥400
〃　¥1,500
〃　¥2,200
幼きイエズス（クリスターロ　30cm　¥4,000～
目入り）　40cm　¥8,000
¥4,500
¥3,500

クリスマス・カード
外国的なもの　¥30～¥150
日本的なもの　¥15～¥25

クリスマス・ご絵
プレゼントは良書で愛の交換を!!
¥7～¥20

新刊書

★きのう　きょう　井手雄太郎著　¥180
身近に触れあう愛
生きる喜びをつづる！

★わたしをだれと思うか　I・トラヴアース・ポール著　¥200
—遠藤周作氏すいせんのことば—
この本は、さりげない毎日の中から、のどをうるおす清冽な水のようなものである。だれもが手がるに飲めて、だれもが、その渇いたのどをうるおすことができる。一見ささやかなことに人間の真理がふくまれていることを読者はかみしめることができるだろう。
自分を神だといった人間は多くいた。そのある者は多くの追随者を得、敬まわれ、畏れられたかもしれない。だが、だれもキリストのように、愛されはしなかった。二千年の才月を越えて、今も無数の人間、男も女も学者も無学者もよろこんで生涯をかれにささげていく。いったいかれは何者だったのか。

★カトリック生活の知恵　スーネン枢機卿著　山下房三郎訳　¥600
キリストのセンス、超自然のセンスをとりもどす今がそのチャンスです！そしてあなたは日常生活へのアプローチを変えるのです。本書は現代の信者が待望していた日常生活をキリスト教化する手引きです！

万人必読の書

開院時間　A.M9.00～P.M6.30
大名町　聖パウロ書院
開店時間　A.M10.00～P.M6.00
岩田屋6階　セント・ポール・コーナー

聖書の国

平山高明　㉗

幕屋祭（つづき）

幕屋祭の中心であるいけにえの煙は、朝の九時から午後三時までたえず上りつづけていた。収穫の感謝祭であるだけに、いけにえの数はどの祭よりも多かった。

そしてこのいけにえに参列する人々は、右手に水やなぎの枝やぎづたの枝、しゆろの枝を持ち、左手にはシトロンを持って行列を組み、燔祭の祭壇のまわりをホザンナ、ホザンナとくり返えし、くり返えしうたい、詩篇一二七番をとなえながら廻ったのである。

イエズスの親戚の不信なる人々が、主にむかって、イエルザレムにゆき人民の前にメシアの姿をあらわすように強いたのは、この祭の折であった。

△　△　△

さて七日間毎日、朝のいけにえの時間になると水汲みの式が行なわれた。巡礼者の先頭に司祭は華麗な祭服をつけて、黄金の壺をもって立ち、イエルザレム城外東南の谷にあるシロエの池まで水を汲みに行った。

やがて水を満たした壺が神殿の前庭に運んで来られる。司祭と巡礼者たちは声をあげて「汝ら、よろこびの声をあげよ、救いの井戸より水を汲むべし」（イザヤ一二の3）と合唱をくり返えす。それから壺には祭壇上に供えられていたぶどう酒がまぜられ、同じく祭壇上の銀の器にそそがれる。

そのときラッパと笛が奏され、打楽器が打ちならされ、人々は歓喜の声をとどろかせた。熱狂した民の姿について、あるユダヤ人は次のようにいっている。「汲水式のよろこびを見たことのない人は歓喜の何物かをまだ知らないものだ」と。

△　△　△

この水を汲む儀式には、美しいシンボルが表わされていた。即ちかれらの先祖イスラエル人たちが四〇年間沙漠をさまよい、飲み水に欠乏したとき、かれらは騒動を起しそうになった。これを見たモイゼは神に祈り、岩を打った。そして岩からほとばしり出た水を民は飲んで渇きを医した。汲水式はこのときの歓喜を記念する式であった。しかしそれはまた来るべき新約の前表でもあり、巡礼者は口々に「救いの井戸より水を汲むべし」とうたっていた。

△　△　△

主イエズスは祭式のすべての行事をとらえては、そこに表われているものの底にある真の意味を、集ってきた人々にむかって説き明かそうとなされた、主イエズスを信じる者だけが、神のお言葉を知り、尽きることのない永遠の生命をうけることができるのである。

「渇ける人あらば、わがもとに来りて飲め、我を信ずる人は、聖書にいえるごとく、活ける水の川その腹より流れ出すべし」（ヨハネ七の37）

主イエズスはまた幕屋祭の夜のかがり火の式にもあずかられたはずである。五〇尺もある四基の燭台には黄金の大皿がのせられ、その上にはかがり火が炎々ともえ上っては闇の夜空に映え、巡礼者を照らし出していた。

その闇を照らす光、かがり火を前にしながら、その機会に主は人々をさらに高いものへと引きあげ給うた。

「われは世の光なり、われに従う人は暗黒を歩まず、かえって生命の光を得べし」。（ヨハネ八の12）

一一月の黙想

待降節ときくと色々なことが連想されてくる。キリストのご降誕を祝う晴やかなお祝い。待降節はその準備のときであり、祈りと待望のときである。待降節はその四つの日曜に使用される紫色の祭服を思い出させる。この色は悲しみと痛悔の色である。過去の生活を反省し、犯した罪と過ちをつぐなうときであり、よい告白をするときである。しかし待降節のふかい意味は、待降節のよき信者になるということである。一体それはどういうことか。

（一）　教会のはじめ主のご降誕は単なる年毎の記念日であったが、第五世紀頃から、神の御子はすでに二度この世にお下りになったが、いまも神秘的に民を訪問なされるし、世の終りには栄光のうちに再臨なさる、だから待降節はご降誕のお祝いの準備とだけ見なすのは間違いであると考えられるようになった。「待降節の典礼は、主のお出でに対する待望と願と叫びをくり返えす。しかしただ主の歴史的誕生を待望するのであろうか。そうではない。ご託身はもう起ったことである。過去にもどって主のご降臨をあこがれることはできない」。主は今は天にあって教会の奥義と秘跡を通じて私達のもとにおいでになる。今は神秘的に、世の終りには栄光をおびてお出でになる。このご来臨を願するのが待降節の根本精神である。「主よ来り給え」。

（二）　主が来られるから道を準備する。これが待降節の実践目標である。四つの日曜日を通じてその準備が進められる。

第一日曜は、私達もキリストの来臨を広く人々に証明する使命に召されていることを思い出させる。そのため私達がキリストらしいものとなり、各自の環境にキリストを輝やかすべきである。だが実際に私達はキリストの来臨を固く希望していることを、生活をもって証明しているだろうか。待降節の信者になっているだろうか。

第二日曜では、心の貧しい者になるべきことが教えられる。主はご自分のお出でを必要と感じ、強く望んでいる者の所にお出でになる。

第三日曜は回心を勧める。道を真直ぐにすること、私はどの道で主をお待ちすればよいのか。主の道でか、私の道でか。「わが思いは汝らの道と異り、わが道は汝らの道にあらず」。道が違っていては主に出会うことはできない。待降節は私の道をすてて主の道に返る時である。

第四日曜は万民のすくいを宣言する。私達はもう自分の小さな世界に閉ぢこもって、隣人の霊的すくいを忘れてはいけない。主はすべての平和とよろこびを与えるために来られる。しかも私達の手を通じて、また生活と言葉、待降節のよき信者としての模範的生活を通じて、この平和とよろこびを分配しようと望んでおられる。

（三）　キリストはお出でになる、私達は待降節の信者として、明らかに指示された道を知っている。イエズスのように考え、語り、公私の生活で主のように行動することである。即ちキリストの道をたどる以外の何物でもない。「主よ来り給え」の射祷を唱えよう。これは初代教会の信者が愛好した祈りである。主は来り給う。私達は静かに、忍耐と平和と祈りのうちに主をお待ちしたい。

（レオナルド）

待降節のよき信者

○○・忘却・○○

なでしこ

ガサゴソ、ガサゴソ、ハンドバックの底をかきまわし、机の引出しをあけたりしめたりしはじめると、みんなから「まためがね？そんなに忘れるなら、首からつるしておきなさいよ」とからかわれる。おメダイ位の物ならいわれなくても首からつるしておくけど、何分足が二本ついてる、ああいう代物では首からつるすわけに行かない。後藤新平さんの様に鼻めがねにしようかなどと思っても見るが、それには鼻が低くすぎる。仕方がない忘れたらさがすことにして笑われっ放しをあきらめる。

それ程良く忘れる私、めがねばかりぢゃない、一事が万事、そんな私が三十年前に絶対に忘れることが出来ない或事に執着してしまって明けても暮れても、寝ても醒めても全く忘れ去ることが出来なかった。気は確かなんだけれどもその事が頭の中をぐるぐるまいまいしていて夢でもそれでうなされる。食慾も全然なくなって一杯のごはんを食べるのが苦になる。とうとう神経衰弱という物になったらしい。今式にいうとノイローゼというのだろうか。神経衰弱というものは、頭の弱いものがなるんだろうか、わがままからなるんだろうか、そんな事を考えるんだから狂っているわけではない。そうハッキリ考え乍ら、それをどうする事も出来なかった。ああなったらどうしよう、こうなったらどうしよう、そんなことで頭の中を困乱さしてしまっている。

謡を習って見ても、お茶を習って見ても一向効き目がない。物に不自由するわけでもなし、人手に不自由するわけでもない。何にも取りつかれ苦脳する必要もないのに、どうしてもそのなやみから抜け出せないところが人間の弱さなんだろうか。

丁度その頃雲仙で雲仙焼きと銘打って雲仙の火山土で焼き物をしていた、波佐見の陶工に親しくなった。主人は専門の仕事に多少縁のある関係から非常に興味を感じたらしい。毎日毎日散歩の時間にはそこへ寄って焼き物について色々な知識を得ている。私は焼き物の知識よりもその老人に興味をひかれた。淡々としたその生き方、その上燗々と光る人を射る様なそのするどい目、人の心の底までも見通しそうなするどさ、そのするどさの間からチラチラとのぞく人間味あふれる温かさ、私はその人の作りあげる焼物の、何ともいえないムードにほのぼのとした物を感じ、あれがいい、これがいいとほめた。「分りますか、奥さんこの品に共感を感じてもらった事を大変喜んでくれたらしい。

その陶工はシーズンには雲仙で雲仙焼を作製する。それがすむと下山して波佐見で茶わんをひねりまた上絵を描く。疲れると東京近くの自宅に帰って休養する。自宅に帰る途中上り下りの度に、私の家によって主人と色々陶芸について話し合っていた。或日主人が外出しなくてはならない時暮れて来られた。私は頭の中一ぱいかけまわっている問題について一寸質問して見た。持って来た土で香炉をひねり乍ら、ハン、ハンと話しを聞いていてくれた。そしてふと返事が、絶えたので、ひょっと顔を見ると、じっと考え込んでいる。私もだまって返事を待った。

「奥さん忘却という事を知って居られますか」「ハ？」

「忘却という賜物を神は私達人間に与えて下さっているんです。イヤな事はサッサと忘れるんですな。きれいさっぱりと。今のそのお話し忘れてしまっても奥さんの御損にはなりませんよ。むしろスカッとしますよ。やってごらんなさい。」淡々としたその人の生活態度の底にこうした徹底した人生哲学があったのか。これがさとりという物かと目からうつばりの取れた思いだった。その後いつの間にごはんがおいしくなったのか、良く眠る様になったのか自分にも覚えていない。この老人も亡くなってもう十年になる、今、信仰を得て省ると天主様はその老人をつかわして私を救って下さったのだった。ノイローゼという物を味ったことも大きなお恵みだったんだ。

一九六五、十月

神様への便り

やまなし

神様、あなたにお便りをしたくてたまらなくなりました。お返事は今すぐいただけないことは解っていても、どうしても聞いていただきたいのです。私の祈りはつまらないものかもしれないけど、あなたの子供のねがいを、どうかほほえみと、あわれみをもって聞いて下さい。

神様とのお話は毎日朝に夕に、仕事の合間にしているし、またそうしなくてもあなたは私の心のすみずみまでよく御存知なので、今更書く必要もないのですけど、私の心は忘れっぽいので、後の日にああこんなこともあったのかと思い出すために書きだしました。

九月八日、聖マリア御誕生の祝日、「マリア様お守り下さい。心の底からのお祈りをお受けになって下さい」今日は記念すべき日です。

去年の今日、何ものかにひかれる様にて教会の門をたたいて、始めての公教要理を受けるために旧聖堂の小さな部屋でまっていました。暫らくして、にこやかにはいってこられたのはH神父様でした。思えばこの日から私の人生は大きく転換したのですね。それから毎週二回の公教要理の時間の楽しかったこと、忙しい仕事の連続だったけど、不思議にも教会に行く時間はどうにか出来たのです。

今まで疑問に思っていたことが一枚一枚薄紙をはぐ様に解いていかれる人間のあり方、信仰の喜び、宗教の存在価値、救主であるイエズス様とそのお母様、私は、多くの聖人方の祈りと守護の天使に導かれて少しづつ信仰の道を歩いて来ました。

今夜この一年間をふり返って見た時、輝やかしい御復活の大祝日に洗礼のお恵みをうけたのをさかいに、表面は変らなくても内部に大きな変革がおこったのです。

超自然の世界、即ち神の愛が、この小さなつまらない一個の人間の中に、わざわざ来て下さったのです。

今は確かな「道」真理の道を通っていることを確信出来るのです。以前のまがりくねった道を道草をくいながら、目くらめっぽうに歩いていた苦しい頃をくらべ、今日の喜びを、どのようにして感謝してよいかわかりません。

天国での喜びが現在ではおぼろげにしかわかりませんが、イエズス様、私は信じます。あなたが愛の神様であることを、あなたからいただいた愛がいかに楽しく美しいものであるかを、それは此頃の一般的風潮になっている刹那的な感覚的なものではありません。それらの自然を越えた、真の人間しかもつことの出来ない、心の底まで充実感を感じさせる永遠に通じる超自然の愛なのです。絶対に裏切られることのない、絶対に信頼出来る愛こそほんとうの愛だと思います。それをうけるためには、まず自分がその様な愛の心をもたなければなりませんね。私も原罪の遺伝を受けて生れた者であれば、悪魔のささやきにひかれそうになる時もあります。そしてその時はそれが正しいことのように思える時もあります。その時です。「イエズス様、マリア様」と一心に求めるのは。

「イエズス様、マリア様、どうか私を守って下さい。私一人だけでは、どうしても罪におちいりやすい傾きがあるのです。あなた方のお助けがあると信じていればこそ私は生きていけるのです」と。

神様、今私はあまり利己的に自分のことばかり祈っていますことを、お許し下さい。

夜も更けました。虫の音もかすかになりました。あなたは私が書いたお便りをもつお読みになりましたね。切手がいらない手紙はなんて便利でしょう。でもお返事が…まあ待ちましょう。いつか必ず下さることを信じていますから。明日？一年後？五年後？十年後？いつでも結構です。あなたのお気に召した時にお返事を下さい「早く私の中にはいれ」と。それまでどうかお守り下さい。

イエズス様、マリア様、守護の天使、おやすみなさい。

ことばを刻んで84年
三省堂の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和辞典…二〇〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇〇
コンサイス英和辞典……五五〇
革七三〇
コンサイス和英辞典……五〇〇
革六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン
初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版六八〇
縮刷版五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…
…二、二〇〇
革二、六五〇

明解三部作
明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！
広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一—三
本社　東京都千代田区神保町

カトリック
深堀司教認可
発行所　福岡市浄水通
福岡司教館
発行兼編集人　深堀　敏
定価　一部　十五円

第二バチカン公会議の終了に際して
日本司教団共同教書

第二バチカン公会議に出席中の日本司教団は、このたび共同教書を発布して四年にわたる公会議の成果をまとめると共に、教皇のご意向に従って神に感謝の祈をささげるよう要請した。以下は教書の抜粋で、分類標題は編集部による。

× × ×

日本全国の司祭、修道者ならびに一般信徒の皆様

一九六二年九月以来三年有余、聖霊のおん導きのもとに続けられてまいりました第二バチカン公会議も、いよいよあと数日のうちに最後の幕を閉じようとしております。この時に当たり日本司教団は全国の皆様とともにその喜びを分ち合い、かつは将来への決意をともにしたいとこいねがい、ここに共同教書をもって一言私たちの思うところを披瀝する次第です。

皆様も既によくおわかりの通り第二バチカン公会議は、そこに働きたもう聖霊の御導きのもとに、所期の予想をはるかに上廻る立派な成果をおさめることができました。しかしこれは決してローマの使徒の座に参集した教父たちの努力のみによってなされたことではなく、実に全世界の教会、即ちすべての神の民が一体となってなしとげられたキリストの神秘体の功績であり、その成長であったといわねばなりません。

ここに日本司教団は日本全国の信徒の皆様に対し、皆様が私たちとともに果された偉大な貢献を思って心からなる感謝と慶賀の意を表明します。

（公会議の成果）さて今回の第二バチカン公会議の成果は、実に一六の課題にわたる広汎な諸問題をあるいは教令、あるいは宣言として公表発表することによって、全世界に示されました。この一六の課題を分類しますと二つは教会自身がその中に宿してきたさまざまな問題に対して、その姿勢を正し、教会のかくあるべき姿を決定しかつ宣言したものと他は教会の外の世界に向っての教会の態度を決定し、また長い将来にわたって教会が果すべき任務を表明したものの、二つに大別することができましょう。

（二つの強調点）その一つは……教会というものが神の民、即ちキリストの神秘体という面から特に理解されたということです。そのために将来ともすれば見失われ勝ちであった一般信徒の、教会内に占める地位と役割とが強く浮び出てまいりました。そのことは「教会憲章」のなかにはっきりと定義され、「典礼憲章」に大きく姿を現わし、そして「信徒使徒職」において肉付けされております……

第二の点は、教会が教会外の世界にも話しかける「対話」の姿勢をかためたということです。カトリック教会のみが天啓のすべての真理をもつ唯一の宗教であるとの信仰は不変で、いささかもゆらいではおりません。しかしこの確信の喜びを現代世界に分ち合うためには、教会は現代世界のあらゆる面において、人々と語り合わねばならないのです。

語り合うことが相互理解の最良の道であるという信念の上に立って、教会はカトリック教会外のすべてのキリスト教徒、またキリスト教以外のあらゆる宗教の信奉者更に信仰をもたない人々をも含めてすべての現代人に、自ら語りかけることを教会の態度として決定したということも、また今回の公会議を大きく特色づけるものの一つであります……。

（聖霊のおん導き）第二バチカン公会議が収めたその他の成果について、一々お話しすればきりがありませんので、本共同教書においては特に上述の二点について、皆様の理解を得たいと望んだ次第です。以上のことは、カトリック教会というものについての従来の一般的な考え方を、ある意味で大きく変革したものともいえますので公会議がこれらの諸決定を産み出すための道は、決して平易な道であったとはいえません。しかし聖霊のおん導きは教会に欠けることはないのであります。

（新しい出発点）この公会議開催を決意された偉大な教皇故ヨハネ二三世は、この公会議が新たな聖霊降臨となるであろうといわれましたが、まさしく真理と愛の霊なる聖霊は強く教会に働きかけられそして教会はそのおん導きに従うことによって、二千年後の今日新たな聖霊降臨をむかえたのです。しかしかつての聖霊降臨が教会の出発点であったように、この公会議も現代における教会にとって、新たな出発点であることを忘れてはなりません。そして公会議が意図する教会の姿が実現するか否かは、実に神の民たる私たちの今後の努力如何にかかっていることを悟らねばなりません。

（三日間祈禱の実行）…教皇パウロ六世聖下は、この公会議の成功を神に感謝しあわせて教会の上に神の新たな慈みを願うために、ローマの使徒座と心をあわせ公会議終了に時を同じうして三日間の祈をするようにお望みになりました。

公会議は来る一二月八日の日本時間午後七時に終了することが予定されておりますので、それに先立つ一二月六日、七日、八日の三日間すべての教会、すべての修道院において各教区長様の指示に従い「三日間祈禱（トリドウム）」を実施されますよう、そして信徒の皆様もこぞってそれに参加されますようお願いいたします。

教書を終るに当たりもう一度全信徒の皆様の公会議によせられました協力を感謝し、司教団の祝福を皆様の上にお送りします。

一九六五年一二月五日
カトリック教会
日本司教団

（註、本教書の中に用いられた憲章、宣言等の標題はすべて仮称であることを御承知ありたし）

福岡教区の三日間祈禱

福岡教区総代理棚町正刀師は、ローマご滞在中の深堀司教よりのご指示に従い、教区内のすべての教会・修道院において三日間祈禱を、第二バチカン公会議の成功を神に感謝し、新たなおめぐみを教会の上に祈り求める意向で実施するように通達した。これによると一二月六日、七日、八日の三日間適当な時間にミサあるいは聖体降福式がささげられ、公会議について説教がなされる。

聖体礼拝（一二月）

第一日曜　二日市教会
八代パウロ会
第二日曜　本渡教会
久留米信愛幼きイエス会
第三日曜
第四日曜　本城教会

祈禱の使徒会（一二月）

【一般意向】勤労の評価と尊重
【布教意向】韓国における布教事業

世の光
「聖書をよむために」(4)
助祭フィリッポの宣教

ステファノの殉教を機に、イエルザレムの教会にはげしい迫害の嵐が吹きまくった。信者らはユダヤとサマリア地方に難をさけた。イエルザレムからの離散がこの地方への福音宣布の因となった。ご昇天前にイエズスが示されたプログラムの第二段階が始まったのである（使一の8）。生れたばかりの教会のこの進展をのべるに当って、ルカは七名の助祭のひとりフィリッポの（六の5）布教活動をとり上げている。恐らくフィリッポ自身がこの新しい展開の詳細をルカに伝えたのであろう。というのは、ルカはずっとあとでパウロのイエルザレムへの最後の旅行に同行したとき、数日間カイザリアのフィリッポの家にパウロと一緒に宿泊しているからである（二一の8―10）。

（一）

イエルザレムの信者と同じときにフィリッポもイエルザレムを去って、サマリアのある町に移っていった。それはサマリア地方の中心地で、紀元前二七年ヘロデがローマ皇帝アウグストの栄誉のために再建して、以後セバステとよばれていた町のことであろう。

ここは全住民が異教徒で、その大部分がローマの兵士とその指揮官で占められていた。フィリッポ（48）。ユダヤ人から見ればサマリアはサマリアでこれら異教徒にでなく、原住民に働きかけた。かれはイエズスご自身が前に数日滞在されたことのあるヤコボの井戸の周辺を、廻ったのではないかと考えられるふしがある。

当時のサマリア人は、ユダヤ地方のユダヤ人と同じ神を礼拝し、モイゼの律法を遵守し、メシアを待望していた。またガリジム山頂にイエルザレムの神殿と拮抗する神殿を建立していた。福音によまれる通り、ユダヤ人とサマリア人はきわめて仲がわるく、イエズスと弟子たちがイエルザレムに上るのをみて、サマリアの村は一行を受けいれようとしなかったこともある（ルカ九の52―53）。

イエルザレムのユダヤ人も、イエズスの教えを軽蔑するため、イエズスをサマリア人だ、悪魔つきだとののしっている（ヨハネ八のア人は離教者なのである（サマリア人の祖先については列王の書下一七の24―41参照）。しかしイエズスはサマリア人に対しては、決して当時のユダヤ人のようには振舞われなかったし、かえってユダヤ人の模範としてあげておられる（ルカ一〇の25―37、一七の11―19）。

（二）

フィリッポはサマリア人にかって、イエズスがキリスト、即ちサマリア人も同じように待望しているメシア（ヨハネ四の25）であると教えた。もしフィリッポがサマリア在住のギリシャ人かローマ人に布教していたら、かれと同じ時にイエルザレムを離れたヘレニストの信者が、ギリシャ人に布教したときのように、イエズスはメシアであるとはいわず、主であるとだけいったに違いない（使一一の19―21）。

ルカは、福音の教えが聞き手によく理解できるように伝えられた状況を書き記してくれている（エチオピア人に対する語りかけについては使・八の35参照）。

フィリッポは教えるだけでなく病人をいやし、悪魔をはらった。これを見て町中大よろこびであった。新しい信者団体の指導者であり、教会進展の責任者である使徒たちは、フィリッポの活動成果をきいてペトロとヨハネをこの地方に派遣した（八の14）。

サマリヤ人らはフィリッポが教えた福音を信じ、主イエズスの御名によって洗礼をうけていたので使徒たちはイエズスの新しい弟子たち全員の上に接手して、救いのわざを補った。聖霊をさずけることの徴手が、堅信の秘跡のはじめである。

この聖式は、上にのべた所からも明らかなように、洗礼とは区別される。使・一九の6を見ても、この式は洗礼の直後にさずけられている。使徒らがペンテコステの日に聖霊をうけたように、信者はこの式によって聖霊をうける。

メシア時代についてのペトロの説明によると、聖霊はすべての人に与えられる。このたまものの効果は、教会初期においては異常な現象を伴うことが多かった。諸国の言語を語るなどそうであるが（使二の4、一九の6）、それは主要効果ではない。このたまものによって信者は、丁度ペンテコステのあとのペトロ、またイエルザレムを去った信者がそうであったように、少しのおそれもなく、福音をどこでもべ伝える力をうけていた（使八の4、一一の19―21）。

この式は使徒がさずけたのであるが、アナニアも使徒でなかったのに接手をもってパウロに聖霊を与え、同時にパウロの失明もいやしている（九の12、17）。

（三）

フィリッポの行なったふしぎを見て、シモンという魔術師がフィリッポの弟子になり洗礼をうけたこのシモンは神通力の持主と称されていた。かれが信者になった動機は、フィリッポと使徒たちの奇跡の力に感嘆し、自分もこのめずらしい力を会得したいと望んだからである。かれは奇跡の力も魔術の一種と考えていたのである。

ペトロは旧約の預言者を思わせるきびしい口調でシモンを難詰し真正の改心をせまった。このエピソードは、アナニアと妻サフィラの虚偽を記している第五章と同じく、神が真実の心を望んでおられることを教えている。

このあとフィリッポは聖霊にみちびかれてガザへの道にゆき、エチオピア人にイエズスについての福音を教えた。このエピソードはペトロの権威によって異教徒が直接に教会に迎えられることを示すもので、次の第一〇章（百夫長コルネリオの改宗）につながる。

それからフィリッポは道をつづけて地中海沿岸の町々で福音を告げ、カイザリアに移った。紀元五八年パウロとルカは旅行の途中、かれのうちに逗留した。

以上のべたフィリッポの布教活動は、イエズスが使徒たちにきめられた宣教計画の諸段階が、どのように成就されてゆき、福音がユダヤ世界外にまで告げられていったかを示すものである。

（イエル）

一二月

三日（金）　聖フランシスコ・サベリオ証聖者

スペインの貴族、パリ大学の新進教授、さくさくたる名誉と地位を約束されていたフランシスコは、神と人とに対する愛にかられてすべてをあとに残し、福音を手に極東の地にむかった。まことに雄大な精神の持ち主。一五五二年広東近くで病に倒れた。四六才。

五日（日）　待降節第二の主日

われわれのクリスマス準備は、まず第一に心の準備でなければならない。主は王宮にお生れになるのでなく、貧しい心におくだりになる。せいたくを好み、つらさをいとう心には、貧しいキリストをお迎えできない。

邦人司祭の養成日（今日の献金は神学校のため）

七日（火）　小　斉

八日（水）　童貞マリアの無原罪の御やどりの祝日

神の母となるべきマリアが、原罪のけがれをひと時もおうけにならず、もっとも聖なる生涯をすごされたことをお祝いする。聖マリアをたたえることは、その美しいお心にならうことである。

一二日（日）　待降節第三の主日

主は、ご自分の道を通って私の心のなかにお入りになる。しかし私は自分の気に入った道で歩もうとする。主のご降誕の大祝日を準備している私は、今日からすぐに自分の道をすてて、主の道に入っていこう。

一五日（水）　四季の水曜日

教会で四季の聖節とは、一年の各季節を神にささげて、自然のおめぐみと同時に超自然のおめぐみをこん願し、そのためになんらかのぎせいを実行する時で、水、金、土の三日間がこれにあてられる。この冬の時期においては、神のおめぐみのうち最大のもの、神の御子、救主キリストがわれわれに与えられようとしている。

一九日（日）　待降節第四の主日

神の御子は万人の救主としておいでになる。天は万物の上に露をしたたらせる。われわれはひとりでも多くの人をキリストのおそばにつれてゆくようにしたい。

二一日（火）　使徒聖トマの祝日

二四日（金）　ご降誕の大祝日の前日　大斉

（但し各人の都合により、二三日に果してもよい）

二五日（土）　わが主イエズス・キリストのご降誕の大祝日

ひとりの赤子が新婚の家庭に生れた。これはよろこばしいことであるが、事件というほどのことではない。しかしベトナムにひっそりとお生れになったお方は、天地の造り主、神の御子であられる。人間の歴史のなかで、このイエズスの誕生ほどに祝われ、心によろこびを与えているものが他にあろうか。

大名町教会で司教壮厳ミサ

二六日（日）　ご降誕八日間中の主日

今日は大祝日のよろこびのつづき。神の御子のご来臨の奥義を默想する。

福岡教区聖歌隊のつどい（双葉学園で）

二七日（月）　福音史家聖ヨハネの祝日。

「より一層の祈を要望」

教皇、全世界の信者に訴え

パウロ六世教皇は、一一月四日付で閉幕近い第二バチカン公会議に関し教皇勧告を発表し、教会と現代世界を刷新する「新しい聖霊のご降臨」を神に祈り求めるよう全信者につよく呼びかけられた。概要つぎの通り。

一、公会議教父たちは、長いあいだの実りゆたかな仕事を終えていまそれぞれの教区にもどろうとしている。かれらは教会のまことの若返りとキリスト者の一致、人間社会の和解と精神的向上を推進する充分な手段をととのえたのであるから、かれらの喜びは当然のことである。

一、信者は公会議の上にめぐまれた神の援助を感謝しなければならない。私は公会議中ずっとみなの祈を要望したが、いまそれが終りを告げようとする時にあたり、祈の熱がさめるどころかますます強まり、キリストの花嫁（教会）と人間社会が、聖霊のお助けによって若返えるよう新しいペンテコステを祈り求めていただきたい。

一、公会議の成果は、決定された事柄の多少にではなく、きめられたことをこれから実践にうつしてゆくその熱意と努力にかかっている。

一、だから私は全世界の司教区、小教区、修道院において、公会議閉幕前に、荘厳に三日間祈禱をなすよう命令する。聖母無原罪のおやどりの祝日を準備するノヴェナ（九日間修行）の期間の一部をそれに当てていただきたい。

一、その目的はただ神に感謝し、天よりの新しい恵みを願うというだけでなく、公会議できめられたことを信者が公私の生活でよろこんで実行する義務があることを一同によく知らせ、努力をうながすためである。

幼児教育研修会ひらく

教育者としての自覚高揚めざし

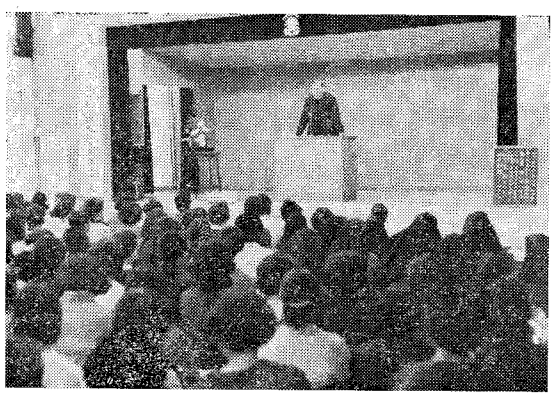
第一回福岡教区幼児教育連盟研修会が一一月三日勤労感謝の日福岡双葉学園でひらかれ、教区内の四一の幼稚園、保育園から二二五名の関係者（うち司祭二五名）が出席した。

九時一五分畑原師の開会の辞のあとラファチマの聖母の賛美歌斉唱連盟会長平田勇師（西新園長）と司教代理柳町正刀師（茶山園長）のあいさつに引きつづき、二時間にわたり二つの講演がなされた。

小出哲夫師（広島エリザベード音楽大教授）は「教育心理学よりみたカトリック幼児教育者のあり方」と題して、中江藤樹の聖胎純熟の思想を中心に幼児教育の重要性、日本の教育の欠陥、人格的教育の具体的な方法について語った。

ついでバスチ師（戸畑天使園園長）は「カトリック幼児教育の使命にいかにこたえるか」について意見をのべ、先生各自が園児と父兄に対する責任をつよく自覚しながらも、園が父兄のもつ教育義務と権利の肩代りをしないように注意し、また園長は父兄との接触に特別の努力を払い、カトリック幼稚園のよき先生であるためにまずキリストに対するふかい信仰を身につけ、人格と技術を高めて子供と父兄に無言の影響を与えるようにすべきであるとのべた。

午後はみじかいアットラクションのあと三つの分科会にわかれ、「廃物利用の製作と指導」（西新の柴田キミエ氏）「リズム楽器から施律楽器への過程」（戸畑天使園の池田ミキ氏）「カトリック幼稚園のカリキュラム作成」（光の園シスター・アンゼラ）について一時間、説明と質疑応答をおこない、三時浄水通教会で聖体降福式にあずかって散会した。



（写真は研修会での講演）

クリスマス募金

福岡地区布教委で決定

福岡地区布教委員会は一一月一七日午後七時から司教館で例会をひらき、クリスマス街頭募金の件を中心に討議した。

まず指導司祭平田勇師から「この度の公会議において信徒使徒職が強調され、信者による布教が重要視されているので信者各位の一層の努力を望む」とのあいさつがあり、青木栄雄会長は「どのようにして司祭を助けるかは大変困難な問題であるが、各員のはたらきをまつ所が大である」と語った。

ついで議題審議に入り本年度も例年通り、クリスマス・歳末街頭募金をつぎの要領で実施することを決定した。

(1)期間、一二月四日（土）より一二月二二日（水）まで。

(2)目標額、二〇万円。

(3)各委員は信者に募金運動への積極的参加をよびかける。

(4)一二月一〇日までに、各教会において救済を必要する人たちの氏名、年令、子供数、性別、希望品名をヴィンセンシオ会の平田房刀会長（市内飛島町四一一四）に知らせる。

(5)集った金は二二日に司教館にとどける。

(6)ヴィンセンシオ会はこの金をもって必需品を購入する。

(7)古賀教会も本年度から本運動に参加する。

(8)また例年通り各教会で「あなたとクリスマス」のパンフレットを配布する。クリスマス・ポスターも一括注文する。

(9)来年度は行事を確実に実行するため、実行委員をきめる。

(10)布教委員会次回集会は一月二二日（日）午後七時司教館で。

聖歌隊のつどいのお知らせ

既報の通り、来る一二月二六日（日）福岡双葉学園において、福岡教区聖歌隊のつどいを行ないますから、みなさまこぞってお集り下さい。

午前一一時より日本語による歌ミサ。午後一時半より聖歌隊員親睦と各聖歌隊による発表

責任者　鵜野泰年神父

福岡セナートスに天羽新会長

レジオ・マリエ福岡セナートスは一一月集会で、会長ブラーテル鬼木任期満了にともなって新会長の選挙をおこない、ブラーテル天羽（浄水通）を万場一致で選出した。なお宮崎の新しいクリア（宮崎の支部）についてダブリン本部から承認があった旨報告された。

V・ナーゲル神父

ヴィルジリウス・ナーゲル神父（札幌市北十一条、聖フランシスコ修道院長）は一一月二一日逝去六一才、昭和四年ドイツで司祭叙階後来日、戦時中はブラジルで在留邦人司牧にあたり、昭和二六年四月から三〇年八月まで福岡市高宮の聖フランシスコ会小神学校長をつとめた。

本渡で天草殉教祭

熊本県天草島の年中行事として知られる天草殉教祭（第一回は昭和三一年）が今年も一〇月三〇日と三一日の両日本渡市で挙行された。

折りあしく雨のため地元で準備されたスケジュール通りに式を進めることができなかったが熊本マリスト学園生徒百数十名はじめ、熊本、福岡、長崎県下からの信者、地元の人々を合せて約六〇〇名が参加し、典礼刷新の精神にそったミサがささげられ、殉教者を通して主たるキリストをたたえる祭典にふさわしいふんいきが盛り上った。

第一日土曜の夜は五時半から教会のルルド洞屬前での野外ミサをとりやめて、建設中の幼稚園ホールの仮祭壇で鵜野泰年師（福岡司教館）が対面ミサと説教を行ない熊本市の幼きイエズス会のシスターたちのリードで全信者が聖歌を歌った。その後、殉教公園キリシタン墓地までの聖母ローソク行列に代えて、ろうそくを手に殉教者の元后を賛美してロザリオをとなえ、平和を祈願した。

第二日王たるキリストの大祝日には殉教公園千人塚前でのミサを予定していたが、天気がぐつつきこれも昨夜と同じ場所に会場をうつし、午前一一時から市長の慰霊文朗読のあと、深堀（司教館）、グリツフィン（菊池助任）、中浜（福岡小神）、ヨンキャンプ（健軍助任）、ケーリー（大江助任）の五司祭による共同執行ミサがささげられ、深堀師が説教した。

ミサ後天気が回復したので聖体行列が挙行され、千人塚までの往復二キロ半の道に聖体賛歌が美しくこだました。

天草殉教祭の模様は毎年のように新聞・ラジオ・テレビを通して紹介されてきたが、今年は日本紹介番組としてはじめてNHKラジオが、アジア大陸と東南アジア（一一月二四日支那語で）と朝鮮（一一月二五日朝鮮語で）向け放送また国内にNHK総合テレビ新日本紀行（一二月一三日午後七時半）の中で紹介される。

（写真上、天草殉教祭での聖体行列）

少年侍者ら三〇〇名

福岡大神学校に

一一月三日文化の日に福岡サンスルピス大神学校で少年侍者の集りが催された。この日小・中学生約三〇〇名が教区内の各地の教会から司祭に引率されて参集、大神学生に案内されて校内を見学ののち、広い運動場で遊技をたのしみ三時聖体降福式にあずかって帰路についた。この集りは少年たちに司祭職への目をひらかせるために毎年に行なわれるもの。

＝熊本信愛女学院＝

校舎完成と創立記念祭

熊本市上林町の熊本信愛女学院（幼きイエズス修道会＝マリ・クロチルド童貞校長）では、一一月二二日（月）午前一〇時から学校創立六五周年と校舎増改築落成記念式を挙行し、棚町正刀師（深堀司教代理）熊本県知事、市長、全国私学振興会理事長らが祝辞をのべて、明治、大正、昭和の三代にわたる長い伝統と女子教育への貢献、将来の発展を祝福した。

記念式に先立ち八時半から新聖堂で棚町師司式の感謝ミサがささげられ式後は来賓一同、生徒らの手になる諸作品、研究成果の展示を参観した。

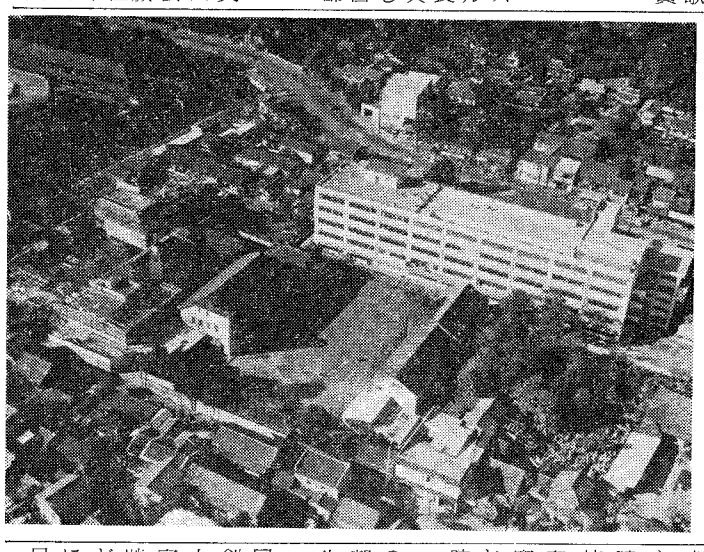
同女学院は明治三三年五月、幼きイエズス会のド・ボルジア童貞（昭和八年帰天）により、熊本玫瑰（まいかい）女学校として創立され、今年が六五年目にあたる。大正九年実科高等女学校さらに二一年に上林高等女学校と改称、戦後の学制改革に伴い熊本信愛女学院として中学校、高等学校を設置、つづいて幼稚園、小学校を併設して完全な綜合学園となり、現在では普通科のほかに商業科と保育科もおかれている。

昭和三五年創立六〇周年記念事業として鉄筋五階建校舎八二六坪を新築（普通教室一六など）、このたび六五周年を機会に同じく五階建校舎一五一七坪を増改築して全校舎を完成した。これには普通教室九、特別教室一四とその準備併究室、生徒食堂、図書室、給品部および聖堂をふくみ、五階が修道院。藤木工務店が施工した。

聖堂は八月一九日熊本手取教会のノーリス師が祝別、旧校舎の一部はこわして運動場が拡張された生徒数一七〇〇名。

なお当日の細川ガラシヤ展では同夫人のうちかけ、書面二通、懐剣、結婚の調度品のほか、当時の大名の奥方の化粧道具一式、信長家康、清正の書面、紙に画かれた絵、その他戦国武将の鐵数点など豪華でめずらしい品物が二教室にずらりと展示されて、参観者の目をひいた。

（写真は熊本信愛女学院全景）



善き牧者運動本部からのお知らせ

ラジオ放送『太陽のほほえみ』のテープを希望者にお分けします

原作：ハヤット神父　　朗読：河内桃子

時間：1時間（五号テープ）　回転速度：9.5

製作：善き牧者の運動本部

内容：12話（身近かな例をとった心の奥まで暖かくなるお話し）

価格：1巻1,000円（不要になったテープは、400円にてお引きとりします）

申込み：京都市中京区河原町三条上ル

善き牧者の運動本部

聖心の使徒

（昭和四十年十二月号）

彼の名は平和の君と呼ばれん……河野　義祐

十二月の意向　勤労の評価と尊重……松村　菅和

韓国の布教（十二月の布教の意向）……粕谷　源蔵

黙想　イエズスの聖心の……

連禱（十三）……河野　義祐

聖フランシスコ・ザベリオの墓を

たずねて……H・チースリク

写真特集　ゴアの巡礼……

案外知られていない公会議の裏表……谷口　幸紀

彼はかの職工にあらずや……三木　次郎

聖書の時間　おとめ……J・モンステルレ

馬小屋の奇跡……ルーティスハウゼル

明治初年の東北紀行（五）

——函館より江戸へ——……J・M・マラン

新本めぐり……

ポスト……

日本祈禱の使徒会発行

聖心の使徒購読会員費

一部　一カ月　五七円

（〒共）　一カ年　五七〇円

主日典礼へのまねき

待降節第3の主日

―神にむかう改心の道―

朗読

福音　ヨハネ一・19―28

ユダヤの指導者は洗者ヨハネのもとに人を送り、かれの洗礼について説明を求める。洗者は答える。「私はメシアでもなく預言者でもない。私はイザヤがのべた〝沙漠のなかの道〟を告げる者である」。この道は改心の道、かれの洗礼は痛悔と改心のしるしである。

第一朗読　フィリッピ四・4―7

とらわれの身であったパウロはフィリッピの信者に「主においてよろこべ」とすすめる。かれは教会のために働き、パウロの心は信者たちから離れていない。主ご近くにおられる。

聖書を通して

神はご自分の道を通って進んでくるよう、民にすすめておられる。この道はキリストご自身である。

その意味

われわれ罪びとにとって、この道は神への帰り道、改心の道である。そして強いられず自由意志をもって、秘跡を通ってわれわれはこの道に入る。

教会において

われわれは聖体の秘跡においてキリストと共に、キリストによって神に帰ってゆく。

実生活において

よろこんでキリストのあとについてゆくために、勝手な行動をやめよう。

❶ 神はイスラエル人に特殊の道をたどらせられた

エジプトを出たイスラエルの民は、神のお導きのまま、沙漠の道を通って危険の多い未知の国に進んでゆく。この道はどれい状態から約束の国に通じている。これは神が先頭に立って切開いて下さった道である（出エジプト一三・17・22）。民は神のご指示に従い、信頼をもって歩みつづければよかった。

❷ 民は神の道を歩まなかった

沙漠の旅は終ってかれらはやがて約束の国に入った。しかし神はそのあとでも民がご自分についてくるように、ご自分のおきてに従うようお命じになった。

これははるかにむつかしいことであった。だから民は神に従わなくなり、偶像の道、異教の民の道につくようになった。

◇み民は私を忘れ、むなしいものに香をささげる。私はその道でかれを倒そう。こうしてかれらは、ろじ道を、でこぼこ道をあるくことになる。（エレミア一八・15）

かれらは預言者が示すおきてに対してつぶやき、偶像を求め、悪い心のかたむきに従って歩いた。

だから神は預言者の口をかりて民に改心をよびかけられる。

◇ああ、イスラエルの民よ、かって、そむき去ったもののみもとに、かえれ。（イザヤ三一・7）

しかし民はこのよびかけに耳をかさず、神からはなれる道を選んだ。これは自由からどれい状態に逆もどりする道であった。神は民を罰し、バビロンへの追放がはじまった。民はここで悪夢からさめ、後悔の涙をながす。この時預言者がおくられ「絶望してはならない。救いの道はたたれていない。まことの道は必ずくる」と告げる。

❸ 神は沙漠にふたたび道をひらき、改心した民の先頭に立たれるであろう

◇主は、おおせられる。かれは海のなかに道を、とどのえられた。すぎ去ったことをもう思い出すな。私は新しいことをおこなう、荒れ地に道をひらこう。（イザヤ四三・16、18―21）。

あたらしい救いの道とは、追放の地から帰ることだけでなく、神のみもとに帰ること、神に従う改心の道である。

民は自分の力だけでは改心の道をたどりえないとわかっていたので、神が力を与えるっておいで下さるよう祈る。

◇おん力をふるい、われらを助けよ。主よわれらを力づけ、み顔を輝かせよ。（詩篇七九、今日の朗読後のうた）

洗者ヨハネは、新しい救いの日が到来したことを告げるため、沙漠に退き、やって来た群衆に改心を説いた。

◇あなたたちの中に、見知らぬ人が一人立っている。（今日の福音・26）

ヨハネは改心の意志のしるしとして洗礼をうけさせた。神がおもどりになって民の先頭にお立ちになるのは今である。準備せよ。ではわれわれの間に立っておられる方はどなたであろうか。

❹ 神の御子が民の先頭に立って進まれる。

われわれの歩みを導くために神の御子が近よってこられる。昔は沙漠で雲の柱（神の現存のしるし）が民の天幕の上に現われたが（出エジプト四〇・38）今はキリストが「われわれの間に天幕を張るために」（ヨハネ一・14）おいでになる。神が姿をあらわしになって約束の地に導いて下さる。

◇私は道である。私によらずには、だれ一人父のみもとにはいけない。（ヨハネ一四・2―7参照）

キリストには洗礼の必要はない。しかし迷った民の先頭に立つためヨハネの洗礼をおうけになり、御父のお望みのままにまっすぐに歩み苦しみと死をおそれず、みなに先立って約束の地天国に入られた。

❺ 教会のなかの神の道

(1) 改心の秘跡＝洗礼と告白

洗礼は御父にむかう道の起点である。

ヨハネの洗礼は改心へのよびかけ、主の来臨の準備にすぎない。教会の洗礼の秘跡は、われわれの改心をとげさせ、主は現実に力をもっておいでになり、霊魂を一新して下さる。

改心は自由意志にもとずくべきである。これは告白の秘跡にはっきりあらわれる。

(2) 聖体の秘跡

ミサはキリストが死から復活に移り変られた（すぎこし）の事実の記念である。だからわれわれも主と共に、主によって御父のみもとに移ってゆくことができる。

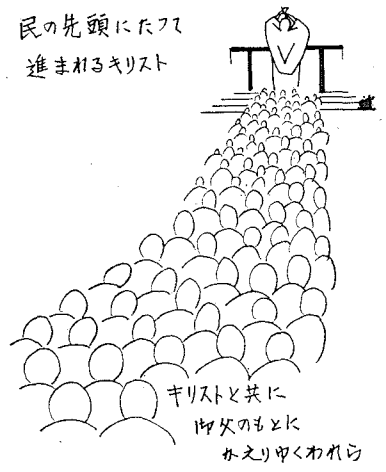
聖体拝領は、キリストにつき従うために自分の道をすてることを決意することである。聖体はまことのパン、旅路のかてである。

ミサの行列（入堂と拝領のときの）は、ミサがキリストのすぎこしであり、われわれが主のあとを進むことを示している。

(3) 日常生活のなかの神の道―神の新しい民の道

われわれははっきり決意して神の道をたどりはじめた。しかしいつもまっすぐに歩んでいるとは限らない。神の道から完全にはずれてしまったわけではないが、不平をいったり、わがままな態度をしたり、不従順であったり……。

待降節と降誕節は「われわれの小道をまっすぐにする」時である。主は近くにおられる。主はわれわれと共におられる。よろこびさんで前進しよう。



わが主御降誕の大祝日

キリストは御父のおすがた

朗読

福音　第一・第二ミサ、ルカ二・1―20

ベトレヘムでキリストご降誕のできごと

第三ミサ、ヨハネ一・1―14

御父とともに世界を創造された御言が人となってこの世に降り、われわれをも神の子とされた。

第一朗読　第三ミサ、ヘブライ一・1―12

神の永遠の御子はこの世に降り、いまは天にあって光栄をうけておられる。

第一、第二ミサ、チト二・11―15、三・4―7

御子をもって神は人間の救いのご計画を明示された。われわれは世俗のものをすてて、霊によって生きねばならない。

聖書を通して

御父の完全なすがたであられる神の御子が、人間世界にお生れになった。

その意味

キリストは目に見えない神のすがたであって、多くの兄弟たちの長子としてお生れになった。

教会において

聖体の秘跡によって、御子のいのちがわれわれのうちに深まってゆく

実生活において

御子がこの世にお生れになったこと、そしてわれわれが神の御子のいのちに生れえたことをお祝いしよう。

❶ 御子は神のおすがた、そのみことば、その光栄の輝きであられる

むかしむかしの人は、神を祭るのに、像を作って拝んでいた。イスラエルの民も神の全能と力をあらわすために、金の仔牛を作ったことがあるが、神はそれをかたくお禁じになった（出エジプト二〇・4）。

それは神のすがたとして民に示される方がすでにきまっていたからである。

当像画は本人の外観を表わす。しかし本人の内心まで示すものでない。この人と話しを交わすとき考えや性格を知りうる。しかし行動はことば以上に本人のすべてを反映する。

所が御子は神のすがたであると同時にことば、そして反映であられる。神とはどんな方であるかを示し知らせて下さる。御子も神であられるから、御父のおすがたをそのままに映し出しておられる。

❷ 人間は、この完全なおすがた（御子）を再現すべき者である

◇われらにかたどらせ、似せて人間をつくろう。（創世一・26―27）

神は、完全ではないがご自分に似たものをおつくりになった。人間は神に似せてつくられたものである。人間は知恵と自由をそなえ、この世を支配し、神のすがたである子孫を生み、滅びることのない霊魂をもっている。しかし人間は決して神と同等のものではない。

所が不幸にも人間は「神のようなもの」になろうとした（創世三・4、悪魔のいざない）。自分で勝手に行動し、善悪を決定したいと望んだ。これが罪である。

◇人の子よ、お前の心はおごり高ぶり、私は神なのだ、神の座にいるという。（エゼキエル二八・2）

人間は、神のおめぐみによって神に似たものにされたのに、自分の力だけで、神のようになろうとした。

◇お前は神ではなく、人間にすぎないのに、神だと思いこんでいる。（同上）

罪のため神のすがたには無残な傷がつけられてしまった。

❸ 御子は神の完全なすがたを見せるため人となられた

だから神は、ご自分の永遠の御子、ご自分の完全なおすがたであられる方を、人間にお与えになった。

ベトレヘムにイエズスのご誕生（今日の福音）

この幼な児はどなたであろう。

(1) ヨハネ一・14

御言葉は肉体となって、われわれの中で住われた。われわれはその栄光を見た。

キリストのなされることを見、おことばを聞くと、神がどんな方であるかを知ることができる。キリストは人となられた神の御子であるから。

◇この終りの日々には、神は御子を通じて語られた。（ヘブライ一・2）

(2) 御父の完全なおすがた。イエズスを見るものは、御父を見ることができる。使徒フィリッポにおおせられる。

◇私を見た人は、父を見たのである。（ヨハネ一四・8）

(3) 、人となられたあとでもキリストは、永遠に神の御子であられる御父はいつもこうおおせられる。

◇あなたは私の子である。私は今日あなたを生んだ。（詩篇二・7、第一ミサ入祭誦）

❹ 御子は人々が神の子のいのちに生れ変るため人となられた

われわれが神のすがたになるために

◇神の子となれる能力をさずけられた。（ヨハネ一・12）

キリストは「多くの兄弟たちの長子」となるためお生れになったのである。兄弟たちとは、御子のおすがたに似るはずのわれわれのことである。

そしてキリストはこの権能を実際にさずけるために、十字架の上で死に、復活された。

❺ 教会のなかで神の子となる

(1) 、ご降誕の大祝日

今日われわれは主のご降誕を祝ってうたう「私たちのために、ひとりのみどり児が生れた。ひとり児が与えられた」（第三ミサ入祭誦）。

今日は神の御子が人となってお生れになったことをたたえる大きなお祝いの日である。なぜならキリストのお生れによって「主のみいずより発する新しい光明が、われらの霊魂の目の前にかがやき出て、見えるものとなり給うた神を見ることができるからである」（今日の序誦）

今日はまたわれわれが、神の子として生れるよろこびの日でもある。

キリストがお生れになったのはわれわれを御父の子どもとしてのいのちに生れさせるため、ご自分のすがたを与し出させるためである。今日はわれわれの新しい誕生の日である。

(2) 、聖体によってこの新しいいのちが日毎に成長してゆく。

われわれは神のいのちをいただいても、毎日の罪やあやまちがさまたげになって、順調に成長できない。だから神のいのちを生々としたものにするために、キリストのご死去とご復活に、聖体を通じて一致しなければならない。

◇私たちはみな、ますます光栄を増すその同じすがたに変る。（コリント前三・18）

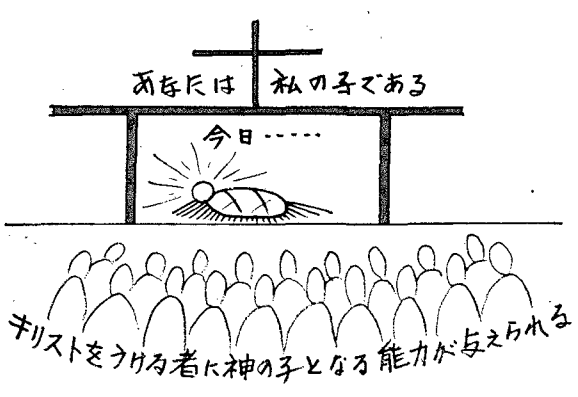
聖体によってわれわれはこのすがたに変えられる。聖体拝領は御子をうけ、神の子となる能力をうけることである。それは「恩寵と真理とにみちておられる、神のおん独子の栄光」（ヨハネ一・14）をいただくことである。

今、御父は聖体拝領のさいにわれわれをご自分の子供として生んで下さる。

◇聖霊のかがやきにおいて、あけの明星の前に、私は、私のふところからあなたを生んだ。（第一ミサ聖体拝領誦）

(3) 、今日この日に

御父のまことの子どもとして、主のご降誕をお祝いしよう。主のご光栄がわれわれの上にも反映するように。



神の御子は、後になって〝あなたが子どもの状態にたちかえらないなら天国にはいれないだろう〟と教えるために幼児として生まれることを望まれた。（マテオ19・3）
―ヤコボ・アルベリオーネ―

この新刊書を!!

クリスマス・プレゼントに

ばらの園　トマスアケンピス著　荘田康子訳　¥160

〝キリストにならいて〟の姉妹編

前半、人は他人にとって、かぐわしいかおりを放つばらの花にも他人を刺すとげにもなりうるから、霊魂の〝ばら〟からとげを取り去ることをすすめている。

後半は、霊的幼児の道を示し、どのように、けんそんにこの世を過ごし天国に至るかをのべる。

ポケットにはいる便利なもの、司牧者にも、信者にもぜひ!

孤独を越えるもの　粕谷甲一著　¥250

〝出会いまで〟の続編

人生の途上においてだれもが感じる孤独感を越えることのできる力は、ただひとつ愛だけである。

キリスト教的信仰生活こそすべての人が心の底から求めているものを完全にみたしてくれることをのべている。

イエズスは聖なる小ささ、すべての人がもつことのできる小ささ、けんそんと卒直、正直と神に信頼をおく小ささを、私たちに教えてくださいます。
―ヤコボ・アルベルオーネ―

☆★クリスマス・プレゼントに★☆

★☆★この本を!!★☆★

新刊

三つの家庭　ファーラー　パウロ文庫著　¥320

親子の間に理解と尊敬と愛情とが必要なことを描き出している。ここで強調されているのは、親に対する子どもの義務についてである。親の責任とか義務ばかり呼ばれる現代には対照的なもの。

小学校五・六年から中学一・二年のために。

ちいさないえずす　幼小年　島静子文庫著　¥200

小学校低学年のために。

ちいさいいえずすさま　絵　牧村慶子　本著　¥280

幼稚園々児のために。

開院時間　A.M 9.00～P.M 6.30

開店時間　A.M 10.00～P.M 6.00

大名町　聖パウロ書院

岩田屋デパート　セント・ポール・コーナー

聖書の国 ㉘

平山高明

過越祭（すぎこしさい）

イスラエル人の最大の祝日は、なんと言っても過越の祭である。春分後の満月に祝われるこの祭は古くは家族的な祝いであったが、遊牧の民であるかれらは家畜を神に捧げ、それによって神の祝福が家畜の群の上にあるようにと願ったのである。

供えられるのは傷のない雄の仔羊や山羊で、一本の骨も折らないようにして捧げねばならない。犠牲の血は、神の保護のしるしとして家の門口に塗られ、人々は旅の服装のまま急いでその肉を食べたのである。その行為に決定的な意味を与えたのは、エジプトからの脱出の出来事である。

△　△　△

紀元前一三世紀頃（ツタンカーメン王よりも約一〇〇年後のラムセス二世の頃か）イスラエルの民は、エジプトの国でみじめな奴れいの状態に苦しんでいた。神の命をうけたモイゼはエジプト王ファラオに民の解放を求めたが、王はきき入れない。すると次々に罰がエジプトを打ち、その度毎に王は民の解放を約束するが、災が去ると再び前言を取り消してしまう。九回に及ぶ王の背信の後に神はイスラエルの民が仔羊を磨ってその血を家の入口の柱と鴨居に塗るよう命ぜられた。

民はまず仔羊の肉を煮ないで火で焼いて、家族共々旅に出る服装のまま杖をもって食べ、またパンに酵母を入れる時間がないので、パン種を入れないで焼いたものを苦菜と一緒に食べ、食べ残しを火に投げ入れて焼きつくした。

△　△　△

その夜エジプト人の家では長子と家畜の初子が死亡し、全エジプトは恐怖に包まれた。ただ神の命によって仔羊の血を門に塗ったイスラエル人の家だけは、天使達が「過ぎ越して」行ったので無事であった。これを見て遂にファラオは奴れいの民が荒野に向って出発するのを許した。これは選びの民の歴史の最も重要な出来事の一つであり、約束の国「乳と蜜の流れる国」カナアンへの一歩をふみ出した日であった。その時以来この日の偉大な出来事を代々に記念することが、過越の祝日の重要な意味となった（出エジプト一二の14―18）。丁度種なしパンの祝日もこの月の一五日から二一日にわたって祝われたが、これもまた同じようにエジプト脱出の事件と密接に結びついていたので、両者は共に祝われた。

△　△　△

この過越の祭は忠実に守られ、イスラエル人は外国生れでも奴れいでも、割礼をうけた者にとっては義務とされた。その祝い方は時代と共に少しづつ変化した。前に家庭で仔羊を殺して捧げていたのが後では神殿で共同で捧げるようになったし、血も家の門に塗らず祭壇の下に流すようになった。

民がバビロンの捕われから帰国した頃から、過越しは最高の祝日となり、守らない者は社会から除名された。

△　△　△

各家族で家長を中心に過越の食事をするその会食の儀式は、細目まで規定されており、主イエスもこれに従われたであろうが、全く新しい生命と意味をお与えになった。

まず一同は手を洗って着席すると、家長はぶどう酒の杯を祝しそれを皆に廻して飲ませる。次にぶどう酒といちじくとりんご等で作った甘い赤いソースの中に種なしパンをひたして食べる。またエジプトでの先祖らの苦しい生活と涙を思い出すため塩水を少し飲む。それから家長は聖書をとって民のエジプト脱出の場面を読み、一同は静かに聴き入る。それがすむと再びぶどう酒の杯を廻す。その間にひとりがこの儀式の由来を質問し、家長は民が過越の仔羊の血によって死を免れ、奴れいの鎖から解放されたことを説明する。

人々は儀式により、説明をきくことによって神の民としての共同意識を新たにし、神の契約を思い出し、自分らも罪から解放されて神の国に招かれることを、心の奥ふかく銘じたことであろう。

△　△　△

主キリストが最後の夜、過越の食事で伝統的な儀式に従ってパンとぶどう酒を用い、「これは私の体である、これは多くの人々のために、罪のゆるしのために流す契約の私の血である」と仰せられたとき、使徒達は、主が人々を罪と死の奴れいから解放する新約の真の過越の仔羊であることをよく悟ったことであろう。

次に人々は感謝の歌、詩篇一一三番をうたい、食事にうつったがバビロンでの捕われの生活の頃から、人々は横臥して食事する習慣を身につけていたので、主キリストの時代の人々はもう旅の姿で、立ったままで食べることはなくなっていた。

家長はパンを祝してさき同席の人々に分け与えた。このパンは甘いソースにひたして苦菜と一緒に食べ、また神殿から貰ってきた仔羊の肉も食べた。

次に「祝聖の杯」とよばれる三回目のぶどう酒の杯が廻される。聖体の秘跡が制定されたのはこの時でなかったかと考えられる。

第四回目の杯の時に、詩篇一一五から一一八番までを唱えたが、それはまさに歓喜にあふれるお祭であった。

タルムッドは過越祭の楽しさについて「それはオリーブのように滋味ゆたかに、ハレルヤの賞歌は家々の屋根をつらぬく」と言っている。とくに詩篇一一八の最後の句はメシア（救主）待望の言葉であり、その夜主をかこんでうたった使徒たちの胸中には、どのような感動がわき起ったことであろうか。

ローマの思い出

今村茂

さる十月十八日から約一週間、私は公会議開催中のローマに滞在した。テルミニ駅に着いてすぐ深堀司教様のお元気な姿に接することができてひと安心した（昨年はひどくお疲れだったと聞いていたので、いささか心配していたのだが）。私の宿はヴァチカンの城壁に沿った通りにある修道会経営のホテルだったが、御馳走は出るし（イタリア人はみな美食家らしい）童貞さんたちは親切な上にとても明らかなので、まったく快適だった。イタリア人のうちには教会と観光客を喰いものにしているようなこすっからい連中もいるけれども、一般の人々は身体つきも小柄で人なつこく明朗で、何となく親しみを覚えた。さてローマ滞在中の圧巻は何といっても教皇様の祝福を受けたことと、公会議のミサにあずかれたこととであった。毎水曜日の午後五時から聖ペトロ聖堂で教皇様の一般謁見が行なわれる。聖堂内は世界各地からの信者たちで身動きもできぬくらいだ。純白の服の教皇様はイタリア語で説教をなさった後、各国からの巡礼団に向ってそれぞれの国語で短い挨拶を送られる。人々は拍手と歓声でもってそれに応える。教皇様の前では皆静かにしているものと想像していた私はこの光景にいささか度肝をぬかれた。そして最後にラテン語でクレドを歌い、体格や皮膚の色が違っていても信仰は一つであることの喜びを実感させられた。十月二十五日朝の公会議のミサは、デンマークの司教様の司式でとり行なわれ（全部ラテン語）、南独レーゲンスブルクの聖歌隊がこれに一そうの光彩を加えた。今年の春以来ヨーロッパの各国を転々として、各国語によるミサにばかりあずかって来た私は、ローマに着いてからはじめてラテン語のミサにあずかり、また教皇様とご一緒にクレドを歌う機会に恵まれ、ようやく気持が落ち着いたというわけだ。というのは各国語によるミサもいろいろの長所はあろうが、キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、アニュス・ディなどという耳なれた発音を聞くことができないのは、何といっても淋しいことだからである。聖ペトロ聖堂を埋めた数千の信者が教皇様とともに、同じ言葉で、しかも同じメロディーで聖歌をうたう時、信者の胸に熱いものがこみ上げて来るのは確かな事実であり、私はここで一生の善き思い出を持つことができたのである。最後にローマにいらっしゃる深堀司教様の御健康を心からお祈りして、この短文を終わりたい。

（写真は左から日置師、深堀司教様、私、野口司教様です。）

きわめがたいこと

サンタのおじいさん
シャンシャンシャン
とそりの音お空にひびかせ
みんなに涙山プレゼント上げようと
もうじきやって来る。
泣く子には上げない
と言いながら
おお　私はだいじ
ようぶ
ママ見てね
よい子でお祈りしているのよと
子供たちは歌いながら楽しそう。

―　―　―　―

「わたし去年はね、バビーちゃん人形がほしいと言ったら、ちゃんと枕もとにおいてあったので嬉しかった。今年はお人形のドレスをたのもうかな」

「僕はレーシングカーセットと組木、でもサンタのおじいさんが持ってくるってほんとう、あれお話しなんだね」

「そうね、昔々ニコラとか言うお偉い司教さまが貧しい人々にプレゼントしていらしたことが、はじまりらしいけど」

「煙突からはいってくるそうだけど、プレゼントがつかえて困るんじゃないかな」

「やけどするぞ」

「僕、クリスマスが一番うれしい。サンタのおじいさん今頃どこまで来ているかな。去年はねているうちにかえったし、会えなかったんだ」

―　―　―　―

万民の救主であるイエズス様がお生れになった。うまごやでお生れになった、と子供の頃聞いたとき、とても疑問だったし、眼に見えない神様が存在すると言うこともふしぎだった。

きわめつくせない天体の神秘、四季のうつりかわりにともなう自然の変化、人体は言うにおよばず昆虫一つ見ても、人間の力ではとても作れない程の精巧さに驚くばかりで、すべてを支配し給う神の存在が分るような気がする。

イタリアの宮殿に不滅の作品を残したミケランジェロ。

一四米もあるという最後の審判の絵は、宇宙全体に響く感じで、その声がきこえてくるような絵であるとか。

美と善を求めたミケランジェロも、自分自身からは美を求めることはできなかった。

最後の詩に

絵筆は我に滋養きを与えず
それを与えるは、十字架に広げられたキリストの御手のみ、と

キリストにひかれ、最後にラザルの復活の絵をかいた。

社会の改造も各自の改造も、人間の力だけでできるとは考えられない。

自分の努力が、どれ程キリストの十字架の手の広がりにお世話になっているか。

敬い感謝し、仕えつつ、社会において、よき使命を果したい。

（H・I）

心の誓いを新たに

福岡大神で司祭の集い

福岡サンスルピス大神学校で一月一七日（水）保護者「御奉献の聖母マリア」のお祝いが盛大に行われた。午前一〇時半からのミサは、長崎の山口大司教を中心に叙階一〇年を迎えた草山七郎（福岡）伊藤淑雄（横浜）岩永薫（福岡）村上真理雄（京都）および大神学校長ラプラントの五師が共同執行荘厳ミサをささげ、福岡、長崎、大分、鹿児島、高松の各教区から参集した約八〇名の司祭が思い出ぶかい神学校のふるいきにひたり、伊藤淑雄師が説教を行なったり。ミサ後祭壇に着座された山口大司教の前に全司祭、トンスラ以上の神学生が二名づつ進み出て、司祭的奉仕の誓いを新たにした。

このお祝いは例年一一月二一日御奉献の聖母の祝日当日に行われるものであるが、今年はこの日が日曜日に当ったので、一七日にくり上げ祝われたもの。

戸畑司祭館完成

北九州市戸畑教会の司祭館は六月中旬から新築工事にかかっていたが一〇月下旬完工した。新司祭館は三階建一階が集会場、事務室など、二階三階が司祭の居間になっている。主任はバスチ師。

布教献金

（一〇月二四日）

大名町教会	六、四〇〇	吉野〃	一、九〇〇
浄水通〃	二、八〇〇	呼子〃	三、四〇〇
地行〃	三、五〇〇	馬渡島〃	二、三〇〇
菱島〃	二、〇〇六	佐賀〃	三、七〇五
西新〃	三、〇一〇	唐津〃	一、〇〇〇
茶山〃	一、五五〇	鳥栖〃	
大楠〃	一、四三八	伊万里〃	三、二〇〇
高宮〃	三、七〇〇	武雄〃	六〇〇
那珂町〃	四、七七七	鹿島〃	四五〇
吉塚〃	二、〇〇〇	多久〃	七〇〇
箱崎〃	一、四五一	広石〃	
田島〃	一、一七〇	門司〃	九〇〇
古賀〃	一、四〇〇	小倉〃	一、九四五
二日市〃	三、五七六	湯川〃	一、五〇〇
小郡〃	三六五	戸畑〃	二、〇〇〇
今村〃	一六、一一〇	若松〃	二、〇〇〇
本郷〃	四、〇〇〇	天神町〃	四、五〇〇
久留米〃	八、〇〇〇	八王寺〃	二、二〇〇
大牟田〃	二、〇〇〇	本城〃	一三、〇〇〇
		黒崎〃	
		水巻〃	一、六〇〇
		直方〃	八〇〇
		飯塚〃	一、〇〇〇
		田川〃	七五〇
		行橋〃	三、〇〇〇
		新田原〃	六、六五〇
		手取〃	
		島崎〃	一〇、〇〇〇
		健軍〃	一五、二〇〇
		帯山〃	四、〇〇〇
		八代〃	二、〇〇〇
		人吉〃	五、九〇〇
		水俣〃	四、四五〇
		玉名〃	一、一〇〇
		菊池〃	九二〇
		荒尾〃	四、七九五
		本渡〃	一、〇〇〇
		大江〃	二、一五〇
		崎津〃	二、〇〇〇
		合計	三、五五〇
		昨年度	二〇五、九一八
			一八六、五七二

ことばを刻んで84年
三省堂の辞書

コンサイス
初級コンサイス英和辞典…二〇〇
初級コンサイス和英辞典…二〇〇
コンサイス英和辞典……五五〇
革七三〇
コンサイス和英辞典……五〇〇
革六八〇
コンサイス英英辞典……六五〇

クラウン
初級クラウン英和辞典……二五〇
新クラウン英和辞典改訂版六八〇
縮刷版五八〇
新クラウン和英辞典……五六〇
カレッジクラウン英和辞典…
…二、二〇〇
革二、六五〇

明解三部作
明解国語辞典……四八〇
明解漢和辞典……四五〇
明解古語辞典……六〇〇
三省堂国語辞典……四五〇

贈ってよろこばれる！
広辞林……一、五〇〇
辞海……一、四〇〇
新英文法辞典……一、八〇〇
英語慣用法辞典……二、〇〇〇
最新コンサイス独和辞典…六五〇
コンサイス仏和辞典……七〇〇

SSD
三省堂福岡出張所
福岡市白金一丁目三街区一号
TEL(53)一五三一―三
本社　東京都千代田区神保町